

海外果樹農業情報 No. 150
2021-2

海外の果樹産業ニュース 2021 年度上期版

2021 年 9 月

公益財団法人 中央果実協会
[JAPAN FRUIT ASSOCIATION]

本書の内容について、ご質問やお気づきの点がありましたら、
下記あてにご連絡下さるようお願いいたします。

公益財団法人 中央果実協会 情報部

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-13 三会堂ビル

【電 話】 03-3586-1381 (代)

【F A X】 03-5570-1852

は し が き

果樹農業を取り巻く国際化の進展に伴い、我が国の果樹産業は外国産果実及びその加工品等との競争が激化しており、一方で果実の輸出促進の努力が行われています。このような我が国の果樹産業を取り巻く環境の変化に対応して、当協会では関係機関・団体等からの海外果樹関係の情報ニーズを踏まえ、農林水産省補助事業「果樹農業生産力増強総合対策」における調査研究等事業の一環として、海外における果実及びその加工品等の生産・流通事情等に関する情報の収集・提供を行うことにより、我が国果樹産業の活性化・振興、果実の需給・価格の安定及び輸出の振興に資することとしております。

具体的には、特定のテーマを対象とした調査報告書および果樹全般についてのFAO（国連食糧農業機関）の生産貿易統計データ等を元とした報告書を取りまとめて刊行するほか、海外の果樹産業を扱う雑誌、新聞、ウェブサイトから我が国果樹産業に密接に関係する記事や公表資料を翻訳し関係者に提供しています。

この度は2021年度上期に翻訳・提供したニュースを取りまとめ刊行することといたしました。また、本書は当協会ウェブサイトにもカラー版を掲載しています。

本書が最近の世界の果樹産業事情を理解する上で少しでもお役に立てば幸いです。

なお、本書の翻訳責任は当協会にあることを申し添えます。

2021年9月

公益財団法人 中央果実協会

理事長 村 上 秀 徳

目 次

1. 世界のパイナップル市場	1
2. 中国 台湾の日本向けマンゴー輸出に対抗か	4
3. 台湾の日本向けパイナップル輸出 貨物船座礁の影響なし	4
4. コンテナ不足が日本の果実輸入に影響	5
5. 日本から来た相撲オレンジ(デコボン)が米国で人気	5
6. 南半球産マンダリン 米国市場の見通しは良好	6
7. ゼスプリ 違法なサンゴールドにステッカーの貼付を検討	7
8. 米国北西部のサクランボ 昨年よりは増収の徴候	7
9. 日本 模倣果実に不満を募らす	8
10. オーストラリア カンキツかいよう病からの解放を宣言	8
11. ペルー バナナ農園でTR4検出を確認	9
12. 台湾 バナナの殺虫剤残留物は近隣からの污染か	9
13. ヨーロッパ各地の果樹に甚大な降霜被害	10
14. 南アフリカ グレープフルーツの出荷始まる	12
15. 世界のベリー類市場	13
16. エジプト産オレンジ 日本への輸出/座礁事故の影響	15
17. 欧州の青果物団体 経済連携協定の成果実現を求める	16
18. 米国農務省 大統領命令でサプライチェーンを見直し	17
19. 世界のアボカド市場	18
20. 南米 バナナのTR4を厳重警戒、封じ込め、一方新規感染の疑いも	21
21. オーストラリア ロボットが7秒に1個リンゴを収穫	23
22. コロンビア産冷凍アボカド 日本の外食とコンビニに登場	24
23. EU 遺伝子編集に関する規則を再検討	25
24. 第1四半期のリーファーコンテナ運賃が26%上昇	27
25. 世界のブルーベリー市場	28
26. ニュージーランド ゴールドキウイ面積がグリーンキウイを上回る	32
27. オーストラリア 柑橘類産業を炭疽病から守る	32
28. 米国西海岸 サクランボの豊作を予測	33
29. ニュージーランドの落葉果実事情(リンゴ、ナシ 概要と図表)	34
30. オーストラリア 果物と野菜の豊富な食事がストレスを軽減	39
31. 世界のマンゴー市場	40
32. エクアドル バナナがフザリウムに襲われるのは時間の問題	43
33. 南半球 2021年の柑橘類輸出は増加の見込み	44
34. ブラジル 水不足がオレンジの供給に影響か	44
35. チリの落葉果実事情(生食用ブドウ)	45
36. 台湾 今年のパイナップル輸出は日本が6割	49
37. ジョージア国 キウイフルーツの主な輸出先は日本とドイツ	49
38. 米国産サクランボ 北西部は下方修正、加州は豊作か	50
39. ニュージーランド ゼスプリのキウイが記録的な高収益	51
40. ベトナムの対日果実輸出	52
41. 米国 米日貿易協定における果実の取り扱いと展望	53
42. EUの柑橘類事情	54
43. カンボジア、チリ、パキスタン 日本向け果実輸出	63
44. 世界の核果類市場	64
45. 果実・野菜の消費拡大の世界的な取組み	67
46. メキシコ 米国向けアボカド輸出が百万トン突破	67
47. ベトナム 世界有数のリンゴ輸入国に	68
48. 世界のライム市場	69
49. 世界の落葉果実市場と貿易動向(リンゴ、ブドウ、ナシ)	71
50. 英国人の3分の1が果実と野菜の摂取を増やす	78

51. 豪州 果物の摂取量増加は糖尿病のリスクを下げる模様	78
52. 世界のマンダリン市場.....	79
53. 中国沖で南アフリカ産柑橘類を止めているものは何か	82
54. 世界のサクランボ市場	83
55. ゼスプリ 北半球の記録的生産量で収益が急増	86
56. 米国北西部 熱波の影響（サクランボ、ブルーベリー）	87
57. 日本向け果実輸出の動き（ペルー、豪州、チリ、ベトナム）	88
58. 世界のブドウ市場.....	90
59. 海上コンテナ運賃が1年で3倍以上に上昇	93
60. ニュージーランド 史上最高の園芸作物出荷・輸出額	94
61. チリ 生食用ブドウの輸出が11%減少	95
62. メキシコ産アボカド 日欧等米国以外でも需要が増大	96
63. 世界のブルーベリー市場	97
64. 米国の柑橘類最終予測 オレンジは増加、レモンは減少	100
65. 南アフリカ 抗議行動で柑橘類輸出が中断	101
66. 世界のアボカド市場	102
67. フランスの脱プラ法が米国産青果物の輸出を脅かす	105
68. 世界の柑橘類市場と貿易動向.....	106
69. ニュージーランド産アボカド アジアのプレミアム市場で需要.....	113
70. フィリピン バナナの苦戦は続く	113
71. 南アフリカ サイバー攻撃で輸出が混乱	114
72. 米国 ブルーベリー園で自動運転トラクターを試験	115
73. ヨーロッパ 2021年産のリンゴとナシは明暗が分かれる.....	116
74. 米国ワシントン州 リンゴの作柄は熱波に関わらず前年並み	116
75. 台湾の核果類事情(モモ、サクランボ)	117
76. 米国の果実生産予測 リンゴは3%増、ナシは減少、その他.....	123
77. 世界のレモン市場	126
78. 米国環境保護庁 論争の末に農薬クロルピリホスの使用を禁止	128
79. フィリピンのバナナ輸出 今年上半期は47%減.....	128
80. 日本がカリフォルニア州産スモモに門戸を開く.....	129
81. VOG(イタリア)のリンゴ 今年はやや減収するもクラブ品種と有機は増加	130
82. チリ 果実産地4州に農業緊急事態を発令	131
83. 世界のアボカド市場	132
(令和2年度3月分)	135
177. 台湾 輸入果実が消費者に大人気.....	135
178. 国連食料システムサミットはボイコットの脅威に直面	136
179. ニュージーランド キウイフルーツの収穫量をこれまで最大と予測	137
180. 台湾のパイナップル 過去最高の6千トン以上を日本から受注.....	138
181. 米国 デコボンが消費者に人気	139
182. 世界のオレンジ市場.....	140
183. 米国 リンゴの樹木が枯れる症状に研究者が取り組む	143
184. 台湾産バナナから日本で殺菌剤を検出	144
185. 台湾産パイナップルが東京オリンピックの調達基準を満たす	144
186. ベトナム 「ルックガン ライチ」が日本の地理的表示に登録.....	145
187. ニュージーランド ゼスプリ サンゴールドキウイの初荷が日本と韓国に	146
188. ニュージーランド リンゴ輸出量が予測を下回る見込み.....	147
189. 世界のグレープフルーツ市場	148
190. フィリピン 1月のバナナ輸出が51%減少	151
191. カリフォルニア州のサクランボ 今シーズンは控えめながら楽観視.....	151
192. 南半球の果実輸出 2020年は輸出量が減少するも輸出額は増加.....	152
193. 世界の生食用ブドウ市場.....	153

1. 世界のパイナップル市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月2日)

欧州諸国ではパイナップルの販売が順調に進んでいる。多くの国では依然としてホテル、レストラン等のホスピタリティ部門の需要を失っているが、供給量も限られているため市場の需給バランスは保たれている。南アフリカと米国のパイナップル市場でも前向きな空気が漂う。コスタリカは一年中パイナップルを出荷しているが、復活祭(今年は4月4日)を前に需要が増加している。オーストラリアでは、市場の状況はそれほど良くない。人手不足のため、一部のパイナップルは収穫できず、畑に放置されている。台湾も困難な状況にある。中国が台湾産パイナップルを輸入禁止としたため、台湾は代替となる買い手を探している。



オランダ：供給が限られ市況は堅調

パイナップルの販売は現在順調である。オランダのある輸入業者は、「年明け以降、入荷量はあまり多くない。着荷の遅延が当たり前になっており、入荷のペースは通常に比べて非常に遅い。結果的に価格は妥当な水準にある。もし入荷量をもっと多かったら、値付けが難しかっただろう。今の価格は約9ユーロである。スーパーマーケットは大量に購入しているが、これはホテルやケータリング業界へ販売の減少を埋め合わせるものではない。さらに、EUの自由貿易市場の状況は非常に不安定だ。ドイツやフランスの政府指導者が新しい規則を発表すると、学校給食やケータリングなどの売り上げに直接影響が出る。さらに、5月になるとパイナップルの入荷量が増えるだろう」と語る。

ベルギー：パイナップル市場は需給が均衡

ベルギーのパイナップルの販売は、現時点で順調である。市場は需給バランスが取れており、価格は高い水準にある。これは主に供給がかなり限られていることが原因である。レストランが閉鎖されていることが市場に影響を与えているが、スーパーマーケットはこの影響の一部を吸収している。現在入荷しているものは、ほとんどがコスタリカ産である。

ドイツ：航空貨物便の不足により市場は困難な状況

海外産の他の熱帯果実と同様、パイナップル市場は航空便の不足の影響を強く受ける。輸入業者は、航空貨物の輸送能力は依然として非常に低く、この状況が長引いていることが供給と価格に影響を与えていると報告している。現在の入荷の大部分はコスタリカ産である。西アフリカ産のパイナップルは量が少なく、平均

的なサイズのもののは価格がやや高くなっている。

パイナップルは次第に手頃な食材として認識されてきている。フルーツサラダ用にパイナップルの皮を剥き加工する機械は、現在、ドイツの小売業者に大きな需要がある。特に高級小売部門は、ドイツの機械メーカー(Hepro社)のこの比較的新しい処理方法に期待している。

イタリア：ケータリング業界の閉鎖にもかかわらず需要は旺盛

イタリアでは、ケータリング業界の閉鎖にもかかわらずパイナップルの需要は旺盛である。需要の減少分は主に小売業者が埋めている。北イタリアのある輸入業者によると、昨年の今頃は販売がほぼ停止していたが、今年は様子が異なる。ケータリングやクルーズ船はもちろんないが、卸売価格は平均的な水準で推移している。価格は、果皮が緑色のパイナップルの0.70ユーロから、色付きの良いもので1.00～1.20ユーロの範囲である。世界的な輸送に影響を与えている問題がある。冷蔵コンテナを確保するのが難しく、コストが劇的に上がり、最終的な小売り価格にも影響を与えている。上記の輸入業者からの情報によれば、極東、特に中国がこれらのコンテナをひとり占めしていると言われている。

スペイン：量が回復し価格は安定

スペインは現在、コスタリカ、ドミニカ共和国及びケニアからパイナップルを輸入している。以前は、復活祭の期間中、特に色付きの良いパイナップルの需要の増加がわずかに見られた。しかし、今年はコロナ禍のために課せられた制約がケータリング向けの販売に直接影響を与え、消費は実質的に全く増加していない。

売り上げの改善は入荷量に関係している。今年これまでのところ、特にトップブランドの緑色のパイナップルの需要はおおむね横ばいである。ここ数週間、色付きの良いパイナップルの方が需要が多く、価格が高めで安定しており、1箱あたりの販売価格は最大15～16ユーロに達している。この価格は、ある面では年初からの入荷量の少なさのおかげでもある。入荷量は徐々に回復しており、価格も落ち着いてきている。空輸のパイナップルに関しては、需要は引き続き増えてきているが、価格の高さと数量の少なさが足を引っ張っている。入荷量は、今後数週間のうちに回復し始めると見られる。今のところ品質上の問題は報告されていない。

南アフリカ：需給バランスは良好

パイナップルの需要と供給のバランスは現在良好である。ある生産者によると、パイナップルの売り上げの大幅な増加は、昨年コロナ禍によるロックダウンのためにアルコールが禁止され、人々がパイナップルビールを醸造し始めた結果である。これによって、パイナップルの認知度が高まり、新しい消費者が生まれた。

パイナップルの産地がある東ケープ州では降雨量がまだ少ないが、クワズール・ナタール州では6週間で約600ミリの降雨を記録した。11月には一部で果実の日焼けが発生し、11月と12月の出荷量が減少したが、現在は生産者は良い収穫を期待している。パイナップルは一年中収穫される。

航空貨物便の不足と不規則さは、米国などの市場へのパイナップル輸出に悪影響を及ぼした。また、ケータリング及びホテル、レストラン等の需要も大幅に減少しており、パイナップルの出荷に影響を与える可能性がある。ヨハネスブルグの市営市場でのパイナップルの平均価格は、1キログラム当たり約7ランド(0.4ユーロ)である。

米国：復活祭がパイナップルの需要を押し上げる

パイナップルの供給量は現時点では少ない。カリフォルニア州のある業者は「これは復活祭シーズンのためだ。出荷業者も復活祭の期間中はフルタイムで働いていないので、出荷量が少ない」と言う。全体として、入荷量は昨年と同じ水準にあり、サイズ5、6、7が最も多く、サイズ8も見られる。ほとんどがメキシコ産とコスタリカ産である。コスタリカからは一年中、メキシコからもほぼ一年中パイナップルが入荷しており、エクアドルからもある程度の入荷量がある。

復活祭シーズンのために需要は通常よりも大きく、卸売価格は12～13ドル程度である。今後の市況について上記の業者は、同程度の水準が続くと予想しているが、「4月中旬から下旬には今より需要が減るため、価格は少し下がるだろう」としている。

コスタリカ：需要と価格は上昇

コスタリカは一年中パイナップルを出荷しており、現在は出荷量が多く、品質も良い。ここ数ヶ月天候がよかったので、生産者は良い収穫を確保するために必要な作業をすべて行うことができた。1月と2月には、パイナップルの輸出量は前年同期と比較して9%増加したが、この増加分を吸収するのに十分な需要がある。復活祭を前に需要と価格はわずかに上昇しており、これは母の日にも当てはまると見込まれる。中国政府が台湾からのパイナップル輸入を停止することを決定した結果、中国からの需要が増加しているが、中国は距離が遠いためコスタリカにとっては依然として小さな市場である。

中国：台湾産パイナップルの輸入を一時停止

中国の税関総局(GACC)は2月26日、数ロットの台湾産パイナップルにGACCの基準に違反する有害な昆虫が付着していることが判明したため、台湾からのパイナップルの輸入を一時的に停止すると発表した。この禁止は3月1日に発効した。台湾が輸出するパイナップルの97%以上が中国市場向けであるため、台湾のパイナップル産業への影響は大きい。台湾のパイナップル業者はすでに代替となる輸出先を探し始めており、多くの業者が日本市場に切り替えた。台湾当局はまた、地元の人々に対し、パイナップルをたくさん食べて生産者を支援するよう求めている。

台湾産パイナップルの一時的な輸入禁止は、中国市場での入荷量の減少と他の輸出国からのパイナップルの需要の増加につながっている。広東省と海南省からのパイナップルの出荷が始まっており、価格が急上昇した。フィリピン、コスタリカ、パナマはいずれも大量のパイナップルを中国に輸出している。台湾産パイナップルを販売していた業者の一部は、現在、これらの国から輸入している。

オーストラリア：人手不足に見舞われたパイナップル業界

オーストラリアのパイナップル産業は、園芸業界全体に影響を与えている人手不足に見舞われている。ある生産者は、12月には十分な収穫労働者がいなかったために、400～500トンのパイナップルを畑に残さざるを得なかったと語った。オーストラリアのパイナップル業界を代表する団体は今月初め、6トンの台湾産生鮮パイナップルが5月にオーストラリアに輸入されるとの報告に懸念を表明した。これは台湾が中国市場にパイナップルを出荷できなくなったためである。園芸関係団体のGrowcomは、品質の劣る輸入パイナップルがオーストラリアの生産者とそのブランドの評判を損なう可能性があることを恐れ、消費者に対してパイナップルの産地を確認するように助言している。

ホートイノベーション社の最新の統計によると、2020年6月にオーストラリアで出荷されたパイナップルは、5,220万ドル(前年より5%多い)に相当する66,069トン(前年より6%少ない)で、ほとんどは一年中出荷可能なクイーンズランド州産であった。総生産量の36%が加工用に仕向けられた。輸出の記録はなく、出荷はすべて国内市場に限られている。消費に関しては、オーストラリアの世帯の40%が生鮮パイナップルを購入している。

2. 中国 台湾の日本向けマンゴー輸出に対抗か

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月2日)

中国は、台湾からのパイナップル輸入を禁止した後、日本へのマンゴーの輸出を開始しようとしており、これは台湾にもう一つの課題をもたらすことになる。3月1日からのパイナップル輸入禁止について、中国政府は台湾産パイナップルに「有害な生物」が付着していたためと主張しているが、政治的な動機によるものと見られている。(中国向けだった)パイナップルはすぐに「フリーダムパイナップル」とラベルを変えて台湾の消費者に人気があるほか、日本などに輸出された。

今、中国は、台湾に対抗するとも解釈しうる自国の果物輸出を計画している。中国産マンゴーは安価なことで知られているが、果実業者らは、より高価な台湾のマンゴーの成功を損なうために、日本で価格競争を仕掛けるかどうかはわからないとしている。

台湾英字新聞電子版(taiwannews.com.tw)によると、中国産マンゴーの起源にも疑問があり、台湾人実業家が海南島(中国)に植えたマンゴー品種と同じであることを示唆する説もある。

台湾の農業委員会(農業省に相当)は、中国産マンゴーに関して日本政府に連絡を取ったが、日本と中国の貿易協議に関する問題だとして回答がなかったと伝えられている。農業委員会の関係者は、中国産マンゴーが6月に日本市場に参入した場合、台湾産果実に脅威を与えるかどうか判断するのはまだ早いとしている。

(訳注: 現状の植物防疫上の規制では、台湾産マンゴーは条件を満たせば日本に輸入できますが、中国産はできません。)

3. 台湾の日本向けパイナップル輸出 貨物船座礁の影響なし

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月6日)

台湾のパイナップル輸出業者は、中国税関総局(GACC)が台湾産パイナップルの輸入を一時的に禁止すると発表して以来、日本市場に目を向けている。一方、スエズ運河で最近起こったエバー GIVEN 号座礁事故とそれが多くのグローバル企業に引き起こした財政的損失の責任の所在に関する調査は、オンライン上で激しい議論を引き起こした。

エバー GIVEN 号は、日本の正栄汽船が所有しているが、台湾の長栄海運が運航している。メディアは、台湾産パイナップルの日本への輸入量の減少を報じた。台湾のパイナップルブランド「ストーンアース」の広報担当である Lin 氏が、日本市場における台湾産パイナップルの現状について語った。

日本への輸出は通常どおり

「日本は台湾産パイナップルの第2位の輸出市場だ。日本への輸出量は中国への輸出量ほど多くないが、台湾産は日本的高级パイナップル市場で依然として高い存在感を示しており、市場の需要は毎年伸びている。日本への輸出は、中国への輸出とは異なり、商工会を通す必要がある。しかし、中国へのパイナップル輸出が突然中断されたため、多くの輸出業者はそれに代わる販売経路を整える時間がなかった。それでも、市場は日本向けにシフトしている。また、地元の業者やスーパーマーケットは、もともと中国に輸出するはずであったパイナップルの一部を吸収する力がある。」

最近のエバー GIVEN 号の事故は、その責任に関するオンライン上の議論を引き起こした。「一部のオンラインメディアは、台湾産パイナップルの日本への輸入の減少を報じたが、我々が見る限り、これらの報道は根拠がない。台湾産パイナップルに対する日本の市場の需要は依然として強く、通常どおり発送している。」

「しかし、日本向けとシンガポール向けの一部のパイナップルの品質が、悪天候のために低下した。果皮が通常より長い間緑色で、風味は酸味が強かった。一部の果実業者は在庫の一部を廃棄せざるを得なかった。このため、日本とシンガポールで信頼を失い、輸入量がやや減少した。しかし、業界の誰からも、座礁事故が台湾と日本の間のパイナップル取引に影響を与えたとは聞いていない。」(以下、中国向け輸出等について省略)

4. コンテナ不足が日本の果実輸入に影響

ASIAFRUIT電子版(2021年4月6日)

日本の2021年2月の生鮮果実輸入量は11万2,100トンで前年同期に比べて8%減少し、特に米国からの輸出は大きな影響を受けた。

東京の青果会社の関係者によると、輸入量の減少は、世界中で発生している冷蔵コンテナの不足によるものであると説明できる。(以下、カッコ内は同関係者の話)

「米国から日本へのルートが最も影響を受けた。前年同月比でレモンの輸入は56%、グレープフルーツは32%、オレンジは50%減少し、タンジェリンも半分以下、キウイフルーツは38%減少した。輸送能力の一層の不足、特に冷蔵コンテナの不足はさらに半年ほど続き、フィリピン、ニュージーランド、南米諸国などにも拡大すると予想される。」

アボカドは冷蔵コンテナの問題を回避

「2021年1月と2月に合計11,868トンのアボカドが輸入され、前年同期比8%の増加を示した。これまでのところ、日本向けのアボカド輸出に関しては冷蔵コンテナの不足は悪影響を与えていない。2020年半ばからの輸入単価の下落は、小売業でのアボカドの売れ行きを促進したが、メキシコが2021年3月に輸出価格を引き上げることを選んだため、輸入業者はペルー等の代替となる輸入先を探している。」

豪州産生食用ブドウの出荷が早まる

2021年1月と2月の生食用ブドウの輸入は、前年同期に比べて5%減少した。4,442トンあまりが輸入され、チリのシェアは87%であった。「これでもチリからの輸入は悪天候のために13%減少した。このためオーストラリアからの出荷は通常より早まる。」

5. 日本から来た相撲オレンジ(デコポン)が米国で人気

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月6日)

日本の果実栽培は依然として労働集約的であり、果実の価格の高さにつながっている。しかし、現在では日本で育成された果実品種が海外で栽培されており、今注目を集めている果実は「相撲オレンジ」である。日本ではデコポンや不知火と呼ばれている。この果実の外観はでこぼこしており、伝統的な力士の髪型を連想させる小さな突起が付いていることが特徴である。

この柑橘は70年代に日本で育成された、清美とポンカンの交雑種である。味は甘く、日本の冬に当たる12月から2月の間だけ収穫される。簡単に皮がむける、大きくて、甘みが強いマンダリン品種を想像してみて欲しい。非常に香りが良く、通常種なしである。

最近では海外でも人気があり、特に北米では、インスタグラムのインフルエンサー、著名人の愛好者、オンライン広告等によって相撲シトラスブランドが取り上げられ、注目を集めている。以前はあまり見かけなかったが、現在では米国やオーストラリアのスーパーマーケットの棚に並ぶ一般的な商品となっている。

米国カリフォルニア州産の相撲オレンジは、1月から4月まで出荷される。

出典: timeout.com (最後の文は出展から加筆しました。)

6. 南半球産マンダリン 米国市場の見通しは良好

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年4月7日)

南半球産マンダリンの出荷シーズンが始まり、北米市場での見通しは良好である。その期待の背景には大きな需要、良好な価格、パンデミックへの対応の経験など、いくつかの要因がある。シーズンの初めには入荷量が少なくと予想されるが、出荷ペースを低く見積もるべきではない。

米国の需要の増加

昨年3月のコロナ禍関連の規制開始以来、マンダリンの需要はその前の年と比較して金額ベースで平均7～8%(週によって5～10%)増加した。今年に入ってから需要は、金額ベースで対前年比3.2%増、数量ベースで同1.7%増(昨年と本年の概ね1月同士の比較)と幅は小さいものの依然として増加している。小売価格に関しては、クレメンタインとタンジェリンの包装単位の現在の価格は、ほとんどの場合昨年よりも高い。

過去10年間に、南半球のマンダリン市場は、特に出荷量が3倍になった晩生品種を中心に成長し、この傾向は今後も続く。

現在の米国の高価格

米国市場における北半球産マンダリンの出荷シーズン終盤の主な価格指標の1つは、晩生のモロッコ産である。今年1月のモロッコ産クレメンタインの価格は昨年と同程度またはわずかに低かったが、2月には市況が好転し、現在の価格は昨年をはるかに上回っている。3月最終週のモロッコ産ナドルコット品種の価格は、昨年同時期よりも最大30%高く、一昨年3月よりも最大45%高かった。近年使用されている10ポンド(約4.5 kg)×3の箱詰め包装は、この販売促進に貢献しており、特にコロナ禍が起きてからは果物に直接触れることを避ける点で役立っている。

ペルー：今シーズンはウンシュウミカンが少ない

収穫と包装に関係するコロナ対策の手順は、昨年のようにペルー産ウンシュウミカンの出荷遅延の主要因とはならないと見られる。一方、今年のペルー産ウンシュウミカンの生産量は - 筆者らの私見であるが - 天候の問題や着花数の不足等のために、昨シーズンよりも15～20%少なくなると見込まれる。しかし、出荷量の減少は主に国内市場にしわ寄せされ、輸出可能な数量はおそらく昨年よりもわずかに少ない程度と見込まれる。

筆者らは、ウンシュウミカンをはじめとする南半球産マンダリンの初期の出荷量が少ないことは、市場を引き締め、より長期間にわたって高価格を維持し、出荷シーズン後半の利益につながるものと見ている。現在、ペルー産ウンシュウミカンは、夜間の気温が平年よりも高いため、着色が遅れている。最初の入荷はおそらく4月中旬と遅くなるが、5月には出荷のピークに達すると見られる。この記事の執筆時点では、北ヨーロッパ・英国向けのウンシュウミカンは出荷されたが、米国向けの出荷はまだ無い。

チリ：通常の生育状況

チリのクレメンタインは肥大型にある。現時点での同国からの情報では、ほとんどの産地で通常の生育状況を示している。国の北部では水不足が見られるが、中部では水の供給は通常どおりである。今年は昨年と比較してやや多い生産量が見込まれている。

週ごとの適切な入荷パターンが重要

特に南半球の出荷シーズンの初めには、毎週の入荷状況が重要である。週ごとの入荷の流れが変われば、すべての楽観的な予測や見積もりは役に立たない。入荷量が過剰になれば、販売チャンネルが飽和して価格は下落し、回復が困難または不可能になり、出荷シーズンの後半が台無しになる。

7. ゼスプリ 違法なサンゴールドにステッカーの貼付を検討

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月8日)

ゼスプリは、独占的販売事業者としてサンゴールド品種の権利を有しており、すべての生産者は販売、輸出する果実を同社に売却する必要がある。サンゴールドは現在、54カ国以上で販売されている。

しかし、中国の不正な生産者は、すでに約10億ニュージーランド(NZ)ドル相当のサンゴールドを許可なく生産している。一部の情報筋は、これはゼスプリが知的財産を失っただけでなく、中国におけるこの品種のコントロールを失い、違法な果実の増加が同社最大の市場における利益を脅かしていることを意味すると言う。

中国人カップルがNZで植物の一部を盗み、中国に持ち帰ったため、ゼスプリは知的財産を失った。NZの高等裁判所はゼスプリに約1500万NZドルの損害賠償を認めたが、この決定は控訴されている。そうこうするうちに、現在少なくとも5,500ヘクタールのサンゴールドが中国で違法に栽培されており、これはNZにおける栽培面積6,500ヘクタールに迫るものである。

ゼスプリの解決策は、違法な果実を生産している中国の生産者に技術とアドバイスを与え、商業的な管理のもとに違法果実にステッカーを貼るというものである。NZのサンゴールド生産者は6月にこの計画に投票することになっているが、一部の生産者はこの計画に対して不満を持っている。

ゼスプリの栽培部門の責任者であるキャロル・ウォード氏は、この戦略は品種の拡散を管理することを目的としているとし、中国の業界や政府と協力することが最良のアプローチであり、ゼスプリに最大の成功のチャンスを与えると述べている。

出展: stuff.co.nz 1NZドル = 77~78円

8. 米国北西部のサクランボ 昨年よりは増収の徴候

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月9日)

全体の生産量予測: 一部の地域では開花が始まっているが、2020年産の生産量を見通すのはまだ早い。ほぼすべての徴候は、昨年よりも生産量が多いことを示しているが、昨年はそれ以前の4年間よりも生産量が少なかった。一部の生産者は一芽に4花の着花を報告しているが、大半は標準的な2~3花の範囲にあるようだ。樹木によって決まる要素とは別に、リトルチェリー病の影響、冬の間の冷害、この春の降霜の影響がある。これまでのところ、北西部では暖かい天候から霜が降りるほどの低温に大きく変化している。果樹園が5つの州に広がり、標高差が2,000フィート(600メートル)あるため、正確な予測を行うのは時期尚早である。

生産量予測の公表時期: 北西部全体で開花が進めば、ボランティアの調査チームが包括的な作柄予想のために必要なデータを報告し始める。調査は広範な生産者や産地を対象としているが、昨年の1回目の予測は、最終的な出荷量とわずか3%しか違わなかった。現代の小売業界は長期間の計画を立てるようになったが、生産者の作業日程は依然として自然に依存している。非常に正確であることが過去に証明されたデータなくしては、予測は結局誰の役にも立たない。現時点では、4月26日の週末には1回目の予測を公表できる程度に開花が進むものと見込んでいる。

収穫時期: 積算気温データによると、現時点では、6月上旬の収穫開始に向かって生育が進んでいるようだ。一部の早生地帯では、5月28日に収穫が始まった昨年に比べて、1日か2日の遅れが見られる。

販売: 生産出荷団体は収穫を見越して世界中の小売業者に接触を始めている。北米では、オンラインでの購入が増えており、デジタルでの販売促進が引き続き重要である。しかし、オンラインか店舗かにかかわらず、消費者はより健康的な食生活に一層の関心を寄せており、業界も同様である。

9. 日本 模倣果実に不満を募らす

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月12日)

日本のシャインマスカットは、最終的に新しい品種としてリリースされるまでに、試験と選抜に15年以上を費やした。腹立たしいことに、このブドウ品種は現在、韓国と中国のブドウ園でますます多く見られるようになっており、低価格で販売されている。中国では、この品種はサンシャインローズ、シャインジェイド、サニーキングという名称で一般に出回っており、日本産の本物の3分の1以下の価格で販売されている。

秋田県のイチゴ農家の息子である菅義偉首相率いる日本政府は、そのような模倣者の動きを封じる動きを見せている。先週の金曜日(9日)、日本の農林水産省は、日本で開発され、その種子や苗を国外に持ち出すことが禁止される1,975種類の果物や野菜のリストを発表した。

この措置は、改正された種苗法の4月1日の一部施行に続くものである。この法律は、新しい種子の開発に関する知的財産をより一層保護することを目的としている。

金曜日に公表されたリストには、イチゴのあまおう、ブドウのシャインマスカット、米のゆめぴりか、サツマイモのべにはるか、レタスのシナノホープ、ナシの新甘泉など、日本のプレミアム果実、野菜、穀物が多く含まれている。日本は高級果実や野菜の品種を開発することで知られており、価値の高い種子種苗を保護するために幅広い行動を起こすのは当然である。

出典: asia.nikkei.com

10. オーストラリア カンキツかいよう病からの解放を宣言

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年4月12日)

オーストラリアは、ノーザンテリトリー(NT)の残りの制限区域が指定解除されたことから、カンキツかいよう病から解放されたと正式に宣言した。デビッド・リトルブラウド農業・干ばつ・危機管理大臣は、ノーザンテリトリーと西オーストラリア州(WA)がカンキツかいよう病に対する国家的な取り組みを主導した膨大な努力を認め、感謝した。

「カンキツかいよう病は、葉、枝、果実に影響を与え、落葉や成熟前の落果を引き起こすなど、柑橘類の深刻な細菌病である」と同大臣は述べた。(以下「」内は同大臣の発言)

この病気は、2018年4月にダーウィン地域(ノーザンテリトリー)の鉢植えの柑橘類で初めて検出され、同年5月にはクヌヌラ地域とウィンダム地域(西オーストラリア州)で、ノーザンテリトリー産の鉢植えを含む少数の植物から検出された。

「治療せずに放置すれば、8億ドルの柑橘類産業に悪影響を及ぼす可能性がある。西オーストラリア州は、クヌヌラ地域とウィンダム地域で根絶活動が完了し、2019年11月にカンキツかいよう病から解放されたと宣言された。ノーザンテリトリーのカンキツかいよう病の痕跡をすべて見つけて取り除く国主導の対応は成功しており、ノーザンテリトリーの団体や人々の支援のおかげですべての根絶活動が完了した。」

「この進展は、これまで制限されていた地域の住民や企業が柑橘類の植物を再び導入し、栽培することを可能にする点で、ダーウィン地域、ひいてはオーストラリアにとって素晴らしいニュースだ。また、オーストラリア国内ではこれまで制限されていた地域からの柑橘類の果実や葉の搬出・搬入と取引が可能になる。」

「これは、オーストラリアが直面する植物検疫上の重大なリスクの例であり、植物の導入に関する我が国の検疫条件に従うことがなぜ重要なのかを示す貴重な例である。」

11. ペルー バナナ農園でTR4検出を確認

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年4月13日)

ペルー国立農業検疫局(Senasa)は、ペルー北西部のピウラ地域の農地一区画で、新パナマ病(TR4)の発生を確認した。病原体のPCR検査とシーケンシング検査の両方で陽性であった。

Senasaは先週、ペルー国内でTR4感染の可能性のあるケースについて様々な通報があったしており、0.5ヘクタールの農地を疑わしいと特定した。バナナとプランティン(調理用バナナ)の主産地を重点に、病原体の監視、制御及び根絶のための国の植物衛生緊急処置が発動された。

TR4は、土壌を介して伝染し、植物の根や茎の維管束組織に損傷を与え、萎れや枯死を生じる真菌性の病気である。病原体は人間の健康に影響を与えないので、当局はバナナやプランティンを食べても安全だとしている。

また、病原体はバナナやプランティンの果実を介して運ばれることはないので、果実の輸出に悪影響を及ぼすことはないはずだ。プレスリリースによると、Senasaは、この病気に効果的かつ効率的に対処できる十分な監視制度、診断設備と診断能力及び管理計画を有している。

また、バナナとプランティンの生産者は、苗やサッカー(地下から出る茎)など植物の一部を農地に持ち込むことを避けるほか、植物衛生措置を実施し、バイオセキュリティを強化することが推奨されている。

ペルーは、2019年7月にTR4が検出されたコロンビアに次いで、中南米で2番目のTR4陽性国となった。このことは、世界最大のバナナ輸出地帯にトラブルを招くことになる。ペルーとコロンビアの間に位置するエクアドルと(コロンビアより北に位置する)中米諸国では、この病気はまだ検出されていない。

12. 台湾 バナナの殺虫剤残留物は近隣からの汚染か

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月16日)

台湾農業委員会(COA)(農業省に相当)は昨日、今月初めに日本で輸入が拒否されたバナナは、近隣の畑の農薬残留物によって汚染された可能性があると発表した。

COAの陳駿季(チェン・ジュンジー)副大臣は記者会見で、日本の税関は、検査の結果0.02ppmの殺虫剤Decisが検出されたバナナ450箱を破棄したと述べた。(原文のまま)

同副大臣はまた、Decisの台湾の残留基準は0.2ppmであるため、農業委員会としては日本に出荷された果実は近隣の畑からの殺虫剤残留物にさらされたのではないかと考えていると述べ、さらに、検査で検出された物質の量が少なかったため、日本が台湾産バナナの輸入に関する検査を強化しないと確信しているとして、農民に心配しないように促した。

台湾産バナナについては、先月750箱から基準の6倍の0.12ppmのピラクロストロビン(殺菌剤)が検出されたため、日本ではすでに検査が強化されている。

出典: taipeitimes.com

13. ヨーロッパ各地の果樹に甚大な降霜被害

イタリア 霜が南イタリアを襲う(抜粋)

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月13日)

季節外れの降霜は、イタリアの北部だけでなく、他の地域でも大きな被害を引き起こした。4月8日から9日にかけて繰り返し起こった気温の厳しい低下は、バジリカータ、カンパニア、プーリア、カラブリアの各州(すべてイタリア半島南部)にも影響し、核果類、キウイフルーツ、野菜が被害を受けた。

バジリカータ州

アルカディア生産者団体連合会の営農技術者フランコ・リッロ氏の話

「寒冷前線が来ることは分かっていたが、こんなことが再び起こるとは想像もしなかった。気温は-2℃まで下がり、作物が被害を受けることは避けられなかった。核果類が最も影響を受けた。被害の程度はまだ分からないが、園地の様子は春の光景には見えない。」

「何カ所かのアプリコット園は壊滅した。気温が、低下したわずか数時間後に急激に上昇したこともあり、果実は黒くなった。内陸の平坦地が最も影響を受けたのに対し、沿岸部や風通しの良い地域では生き残った果実も多かったようだ。一部の生産者にとっては「天然の間引き」と言うよりもはるかに厳しいものだった。モモやネクタリンの被害をより正確に評価するには数日待たなければならない。キウイフルーツ、スイカ、メロンも影響を受けたが、イチゴは被害を受けていない。」

プーリア州

プーリア州フォッジャ県では気温が-5℃まで下がり、州内でかなりの被害が報告された。アーモンドとサクランボが最も影響を受けているが、生食用ブドウ、アスパラガス、ナス、ジャガイモも心配されている。

同県オルサラ・ディ・プーリア地区にある園芸農業協同組合の集約的なアーモンド園は大きな打撃を受けた。園地は約100ヘクタールあり、すでに3月中旬に連続3回の降霜に対処しなければならなかった。今回は、開花期の真っ最中に影響を受けた。

同県リニャーノ・ガルガニコ町の農業カウンセラーで、ザクロとアーモンドを生産する農園のオーナーでもあるジョスエ・デル・ヴェッキオ氏は、「協同組合農園のアーモンド生産量の約90%が失われた。別の地域の400ヘクタールの園地の被害も同様と思われる。直近の気温の低下は、何千ヘクタールもの果樹園、アスパラガス、ブドウ畑、その他の作物に影響を与えた。この地域の小麦にも影響があると思う。自然災害事態を宣言する根拠があるかどうかを確認するために、被害を評価する必要がある」と述べた。

カンパニア州

4月8日の降霜が十分でなかったと言わんばかりに、翌9日の降霜がモモ、ナシ、野菜等に影響を与えた。ナシとモモの10ヘクタールの果樹園を所有しているジュゼッペ・セパラーノ氏は、「主に被害を受けた地域は、ナポリ県のアチェッラ地域とその北のカゼルタ県だ。4月9日の夜、南カゼルタ地域では気温が-4℃まで下がった。私の果樹園があるサンタンマロ地域(カゼルタ県)では、霜が降りた。コシア品種のナシが最も影響を受け、モモも悲惨な状況だ。被害を評価するのはまだ早いだが、今季のイタリア産核果類の出荷は落ち込むと思う。農産物が被害を受け、労働力を雇用することが困難であるため、我々は、当局に介入を求めている」と説明する。

カラブリア州

3月中旬に記録された異常な天候に続いて、カラブリア州に冬が戻ってきた。コゼンツァ県とクロトーネ県の標高 500m強の地域でも強風と雪が記録されている。

柑橘類や核果類の生産に特化したシバリ平野の一部では、気温が-3℃まで下がった。アプリコットとザクロが被害を受けたが、被害の評価には数日かかる。

ドイツ 異常気象で果実や野菜の産地に被害(抜粋)

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月14日)

降霜、降雹、大きな温度変化は、ドイツの現在の気象状況の特徴付けている。変化の大きい天候は農業にも大きな影響を与えている。

ボーデン湖地域(ドイツ南部)では、10日から11日にかけて、気温が日中の最高20℃から2℃以下に急落した。同地域のある果樹生産者は「私たちはすでにアプリコットの畑を3晩加温しており、うまくいっている。開花し始めたプラムにも今のところ霜の被害はない。もし開花が昨年のように2〜3週間早ければ、かなりの被害が出ただろう。一方、キウイベリーとクセニア種のナシについては状況が良くない。キウイベリーの最大80%を失い、これは3年連続の失敗となった。クセニア種のナシでは約70%が褐変した」と語った。同人によると、フィルム、灌水、ろうそくによる加温など、単一で最適な対策はなく、「第一にどんな対策も作物の種類に大きく依存する。第二に、微気象が大きく異なることも考慮に入れる必要がある」と言う。

フランス 最近の降霜は21世紀最大の農業大惨事

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年4月16日)

先週フランスを襲った霜は、最近の記憶の中で農業に最も深刻な影響を与えたとされている。稀有な低温によってフランス全土で多くのブドウや果樹が被害を受け、今年のワイン生産量は全体の少なくとも3分の1、約20億ユーロ(2,600億円)相当が失われると見られる。

被害は、ボルドー、ブルゴーニュ、ローヌ渓谷、プロヴァンスを含む国内の広い地域に及び、ブドウだけでなく、キウイフルーツ、アプリコット、リンゴや他の果実、さらにビートやナタネなどの作物も被害を受けた。暖かい天候の後で、季節外れの降霜と凍結に突然襲われたことが被害を悪化させた。暖かさによって、ブドウや果樹は通常より早く生育していたが、突然の寒さによって枯れた。

ジュリアン・デノルマンディー農業大臣は今週、政府が「農業災害」を宣言し、緊急財政措置の準備を開始したことを受け、「これはおそらく21世紀初頭最大の農業大惨事だ。数十万ヘクタールが影響を受けた」と述べた。ワイン部門と核果類、特にアプリコットとサクランボは最も影響を受けた。

全国果実生産者連盟(FNPF)のフランソワーズ・ロック会長によると、すでに開花と着果の時期を過ぎた果実の多くは、今年は収穫できない。同氏は、ローヌ渓谷やプロヴァンス=アルプ=コート・ダジュール地域圏(フランス南東部)などは、「この時期にこのような寒さを経験したことがない地域であり、作物を守ることができた農家だけがなんとか切り抜けられるだろう」と述べた。

全国リンゴ・ナシ協会(ANPP)のダニエル・ソヴェール会長はAFP通信に対し、「モモ、ネクタリン、アプリコットは今年は出荷が難しいだろう。問題は、収穫を期待できる枯死していない花が十分に残っているかどうかだ。まだ4月中旬であり、5月上旬までは霜が降りる可能性がある」と語った。

同会長は自身のブログで、「3夜連続の降霜は、フランスのほぼすべてのリンゴとナシの産地に影響を与えた。今年は着花数が多かったため、まだ収穫への期待が持てるが、それは品種、生育段階、受粉のための条件によって異なってくる。しかし、着果数等を確認し収穫量の最初の予測を行うのは、通常どおり5月中旬まで待つ必要がある。降雹と干ばつに対する対策に加えて、降霜対策はもはや自由参加の選択肢ではなく、果樹園が農業的、経済的に成功するためのもう一つの必須の取組となった」と述べた。

エマニュエル・マクロン大統領は、(加温のための)ろうそくで照らされたブドウ畑の写真をツイートし、大統領が言うところの作物を守るために「夜に次ぐ夜」を戦っている農民への支持を表明した。

14. 南アフリカ グレープフルーツの出荷始まる

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月15日)

南アフリカの北部地域では、グレープフルーツの収穫が始まった。コマチフルーツグループでは、3月下旬に(熟した果実だけを収穫する)選択収穫を開始した。

同グループに属するリバーサイド農園のジャック・ボルチャーズ氏は、「今季初頭の市場に出荷するため、品質の良い果実の選択収穫を始めた。樹冠の内側の果実は、外側よりも早く色づく傾向があるので、すべての果実を一斉収穫する前に2回、果樹園を回って選択的な収穫を行う」と説明する。(以下「」内は同氏の発言)

「見たところ全体的に品質が優れており、果肉の品質は最低出荷基準をはるかに上回っている。出荷量は南アフリカの北部地域と南部地域の両方できっと増加する。」

果実の生育期間を通して適度の雨が降り、果実の肥大と品質の向上を助けたので、雨の多い夏は南アフリカの柑橘類生産者にとっては良いことだった。また、雨は長い干ばつの後の貯水池を満たした。「ここ北部では柑橘類の栽培が盛んなのでこれは重要なことだ。生産者は、冬の間雨が降らなくても果樹園に灌漑することができ、今年の収穫が増えることを期待している。」

柑橘類生産者協会(CGA)はグレープフルーツの輸出をモニターしているが、生産者は輸出用果実の品質が基準を満たせばすぐに市場に出荷することができる。ほとんどの生産者は、出荷量が少ない時期にヨーロッパと中国の市場に参入するために、できるだけ早く輸出したが、一部の生産者は果実が着色し内部が熟す4月上旬から下旬まで待たなければならない。

「日本で人気の高い白系のグレープフルーツがかなりあるので、日本へ向かう1隻目と2隻目の船に載せることが重要だ。このためできるだけ早く収穫を開始したい。我々が最も重要視する市場は、中国、日本、韓国、ヨーロッパだ。」



「今季最初のグレープフルーツは梱包され、ヨーロッパ向けの最初の船は5月1日までに出発し、5月中旬に到着する。現時点では、ヨーロッパ市場は特に南アフリカ産の出始めのグレープフルーツにとって非常に有望なようだ。」

訳注: 南アフリカは日本のグレープフルーツ輸入先第1位(輸入量)ないし第2位(輸入額)であり、日本は南アフリカのグレープフルーツ輸出先第3位(数量、金額とも)です。

15. 世界のベリー類市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月16日)

ラズベリー市場は、この数週間難しい状況にある。高水準に達していた価格は、復活祭の後の入荷量の増加により下落した。その間に、オランダ産とベルギー産の初物のラズベリーが市場に入荷した。また、ブラックベリーの状況も難しく、スペイン産の大幅な不足のためにメキシコ産で補わなければならなかった。メキシコ中部からの供給は順調に進んだ。オランダ産のレッドカランツの出荷シーズンは終了したが、サプライチェーンが円滑に機能し良いシーズンであった。現在市場に出回っているレッドカランツはチリ産だが、品質が低下して来ており、出荷シーズンは間もなく終了すると見られる。

オランダ：ラズベリーの価格低下とブラックベリーの不足

ベリー類を扱うオランダのある業者は、「ラズベリー市場はこの数週間難しい状況で、復活祭の次の週から入荷量が増えている。復活祭までは、価格は非常に高かったが、その後入荷量が増加し、価格が下落した。モロッコ産とポルトガル産のラズベリーはスペイン産よりも品質が良い。

ブラックベリーは大きく不足している。スペインの出荷量が減少したため、供給はメキシコ産で補完されている。価格は非常に安定している。オランダ産レッドカランツの生産者にとっては妥当なシーズンであったが、(出荷期間の終わりのため)量が減少してきている。現在市場に出回っているチリ産ベリー類は品質が低下し始めており、長い出荷シーズンが終わりつつある」と述べた。



ベルギー：ラズベリーとブラックベリーの人気は引き続き上昇

ベルギー産ベリー類の出荷シーズンは、4月上旬にラズベリーで、4月中旬にブラックベリーで始まった。近年、ラズベリーの人気が大幅に高まった。このことは、ベルギー最大の農業協同組合の作付面積の拡大にも反映されている。主な品種は引き続きKwanzaである。この品種は、味が良いだけでなく、その赤く引き締まった果実、長い出荷期間と棚持ちの良さによって特徴付けられる。この特徴はまた、輸出に適している。

ブラックベリーの人気も近年大幅に高まっている。GFK調査会社の最近のデータによると、ベルギーのブラックベリー消費量は過去5年間で59%増加した。

ドイツ：一定の需要で価格は高め

ある輸入業者は、ドイツのベリー類市場は行き詰まっていると言う。復活祭に向けて、ラズベリーとブラックベリーの需要は高まっていたが、この1週間で大幅に低下した。ある人は「天候が悪く寒いので、人々はベリー類に対する食欲があまりわからない」と言う。出荷シーズン最後のチリ産が少し残っているが、ベリー類の大部分は現在スペイン、ポルトガル、モロッコから入荷している。同人は「ラズベリーを中心に供給はしっかりしている。価格は全体的に高めだ。通常、復活祭の直後に価格が下がり始めるが、今年はまだそうならない」と言う。

イタリア：ブラックベリーの価格は高め

冬のように気温が低い、イタリア人はブラックベリー、ラズベリー、レッドカランツを消費している。北イタリアの業者は、レッドカランツは現在主にチリ産で、一部はオランダ産だと言う。レッドカランツの平均卸売価格は約19～20ユーロ/kgである。ブラックベリーについては、現在メキシコから入荷しているが、需要が供給を上回っているため、約20ユーロ/kgと価格は高い水準にある。ラズベリーに関しては、現在モロッコ、スペイン、ポルトガルから入荷しており、価格は約15ユーロ/kgである。

シチリアのある生産者は、「シチリア産の出荷シーズンは、質と量の両方の面で良いスタートを切った。販売も順調だ。当地の緯度では、ほぼ一年中ベリー類を栽培することができる」と言う。南イタリアでは、ラズベリーの出荷シーズンは5月上旬に始まり、ブラックベリーの最初の出荷は5月中旬と見込まれている。ドイツ、スイス、オーストリア及び東欧諸国がイタリア産ベリー類の重要な出荷先である。

スペイン：ラズベリーは25%減収

ラズベリーは今年の数ヶ月悪天候の影響を受けた。これまでのところ、スペインでは収穫量が約25%減少した。それにもかかわらず、需要が安定しているため、価格は妥当で大きな変動はない。先週のラズベリーの生産者価格は平均5.81ユーロ/kgであった。

ポーランド：人手不足、競争の激化、価格の低下によりラズベリーの輸出量が長期的に減少

ポーランドでは、2020年の最初の9ヶ月間で、生鮮ラズベリーと生鮮ブラックベリーが最大の売上増加を記録した。ベリー類の輸出額は2019年に比べて42%増加し、2,340万ドルに達した。しかし、この伸びは、主に2020年産ラズベリーの輸出価格の上昇によるものであり、輸出量の増加は14%に過ぎなかった。ポーランドはかつて非常に多くの生鮮ラズベリーを輸出していたが、近年は、労働力不足、競争の激化、世界のラズベリー市場での価格の下落により、輸出量が減少している。新しいシーズンに出荷量が増えるかを言うのは時期尚早であるが、寒い天候で一部の果実が被害を受けている可能性がある。

米国：ブラックベリーの供給はタイト

米国のブラックベリー市場で品物が不足している。カリフォルニア州に拠点を置くある業者によると、涼しい天候によって収穫が遅れており、今後出荷量の増加は予想されるものの、それは最大2週間遅れとなるものと見られる。イリノイ州のある業者は、様々な品種への切り替えもブラックベリーの供給に影響しているとして、「Tupy品種のブラックベリーの収穫量は数年前から低く、作付面積が減少した。一部の地域では、この品種の栽培は早く終了した。他の品種の一部も、本来の収穫量を達成していない」と言う。メキシコ産に加えて、グアテマラ産のブラックベリーも入荷している。

ラズベリーについては、メキシコ中部からの供給が順調に進んでいる。ある業者は、「多く人が出荷量が増えるにつれて価格が下がっていると思っていたが、需要が堅調だ」と言う。メキシコ産のほか、カリフォルニア州のオックスナード地域からの出荷もあるが、まだ本格化していない。ラズベリーの価格は約20ドルで非常に安定している。入荷量は増えているが、価格は20ドル程度にとどまると予想される。しかし、メキシコ中部と南カリフォルニアからの出荷可能量によっては価格が下落する可能性がある。供給のピークは今週と予想されるが、遅れる可能性もある。

レッドカレントに関しては、チリが1月から2月に北米に出荷する。その後、2月から6月までの間は市場に回るレッドカレントは少ない。季節的な商品であり、夏には米国の北西部からの入荷がいくつかある。

オーストラリア：ラズベリーは近年大幅に成長

ベリーズ・オーストラリア(複数のベリー類生産者団体によるジョイントベンチャー)によると、ルブス類(ラズベリー、ブラックベリー、その他のベリー類)は、イチゴやブルーベリーに比べれば依然として一番小さいカテゴリーであるが、オーストラリアで最も成長していることは間違いない。同協会の役員は、「ラズベリーは驚異的な成長を達成した。生産額は過去3年間で2倍以上になった。ブラックベリーは市場の新顔であり、最初は非常に小規模であったが、近年は急激な成長を示している」と言う。

園芸統計ハンドブックによると、ベリー類(イチゴ及びブルーベリーを含む)の2020年の生産額は前年から11%増加し、10億4,000万豪ドルに達した。そのうちラズベリー、ブラックベリー等のルブス類は生産額では4%増加して2億1,600万豪ドルとなり、生産量も5%増加して9,932トンとなった。輸出は13トンと非常に少ない。ルブス類の種類別には、ラズベリーが生産量の75%、ブラックベリーが25%、その他のベリー類は1%未満で、夏の期間に出荷量がピークに達する。

16. エジプト産オレンジ 日本への輸出/座礁事故の影響

はじめて日本市場への参入に成功

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月21日)

ダルテックス社のサミール・エルナガー会長は、日本のオレンジ市場に参入したエジプトの成功について語り、日本の厳格な農産物規格を適用し、多くの企業との競争に打ち勝って、日本市場に参入できたことを明らかにした。

同会長は、エジプトのエルサイド・エルコサイエ農業土地開拓大臣が果たした役割を称賛した。また、農業検疫局の人々を、交渉段階での貢献がエジプト産オレンジを日本に輸出するために不可欠であったとして褒め称えた。同社のヘシャム・エルナガー最高経営責任者(CEO)も、この成功に満足していると表明した。

同会長は、エジプト産オレンジの日本への出荷は個人的な成功ではないことを強調したかった。閣僚レベルであれ、規制当局であれ、税関組織であれ、この前例のない成功を達成することを熱望していた国内のすべての関係機関の全面的な協力なしには達成できなかった。

地元紙電子版が伝えるところによると、農業検疫局は、コンテナが日本に到着するまでの6週間、昼夜を問わず貨物(の温度)を監視した。

アフメド・エルアター農業検疫局長は、エジプト産オレンジが日本市場に参入することができた理由はいくつもあるが、日本に柑橘類を輸出するための植物検疫条件をエジプト側が適用し実践したこともその一つだとして、日本側の検疫条件と交渉の難しさにより、日本市場の開放は農業検疫局にとって近年最大の課題であったと述べた。

出典: dailynewsegypt.com (最後の段落は原典から補足しました。)

エジプト産オレンジ 運河事故の影響で5月末まで出荷延長

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月22日)

エジプト産バレンシアオレンジの出荷はまだ続いている。スエズ運河の座礁事故は貿易に影響を与え、一部の輸出業者は収穫物の30%をまだ在庫として抱えている。これは、運河の封鎖が解除され貿易が再開したが、出荷シーズンは5月末まで延長されることを意味する。

ピラミッドアグロ社のビジネス開発マネージャーであるアブドゥラー・タルワット氏は、スエズ運河の封鎖は間違いなくエジプト産オレンジの貿易に影響を与えたとして、「この事故が世界中に与えた衝撃と、毎週の出荷量、市場の在庫量、果実の棚持ち、運送料金等に与えた影響を想像できるだろう。いつもと同様、このビジネスで発生する問題に対処する最善の方法は、柔軟性をもって新しい状況に迅速に適応することだ」と語った。

輸送が止まっていたので、今でもオレンジの在庫は昨年より多い。これは、出荷シーズンが5月末まで延長されることを意味する。同氏は、「スエズ運河の問題によって生じた出荷の課題は、輸出の余地があまりなかったということだ。その結果、大量のオレンジが収穫できなかった。昨年の今頃は全出荷量に対する未出荷量は15%だったが、現在は30%残っている。これは、今シーズンのお荷が5月末まで続く予想されるということだ」と説明する。

同氏は、「運河が再開され貿易は持ち直した。バレンシアオレンジの輸出量と需要の状況は良好だが、小玉を好む市場の一部は飽和している。収穫前のバレンシアオレンジの価格は0.24~0.26ドル/kgだが、一部では運賃が前シーズンと比較して150%値上がりしたため、出荷コストは大幅に増加した」と言う。

(記事の一部を省略しました。)

17. 欧州の青果物団体 経済連携協定の成果実現を求める

EUROFRUIT電子版(2021年4月22日)

欧州青果物協会(フレッシュフェル・ヨーロッパ)は、EUと日本の当局に対し、新しい日EU経済連携協定の交渉結果に基づく青果物貿易を構築するよう要請した。

(訳注: 欧州青果物協会(the European Fresh Produce Association、略称Freshfel Europe)は、欧州を中心とする果実・野菜のサプライチェーン(生産、貿易、物流、小売り等)に関心を有する団体、企業が組織する非営利活動法人です。)

4月19日と20日、欧州委員会が主催し、EU農産品の日本市場向け貿易を促進する方策についての議論を進めるEUと日本の間のオンラインセミナーが開催された。

同協会は、新しい日EU経済連携協定が完全に発効したので、合意の現状と将来の見通しを評価する適切な時期であるとして、保留されている多くの申請書類と、新しい協定内でビジネスを成長させるはずの機会が実現していないことについて、欧州の生鮮果実・野菜セクターの見解と期待を表明した。

進展なし

新しい日EU経済連携協定が発効し、2019年5月にホーガン欧州委員(大臣に相当)が東京を訪問した際の前向きな見通しにもかかわらず、同協会は、日本とその1億2千7百万人の国民への青果物の新たな市場アクセスの獲得に関して「大きな進展は何もない」と主張した。

これは、「EUは如何にして農産品輸出で最高品質を保証するか」と題したEUと日本のセミナーにおける、同協会のフィリップ・ビナー総代表の主たるメッセージであった。

同総代表は、「EU側の努力と10年以上にわたる交渉、さらに日本の輸入業者の高品質で安全で持続可能な青果物のEUからの輸入に対する明確な関心にもかかわらず、市場アクセスのための日本当局への申請でまだ結論の出していないものがあまりにも多い」と説明した。

現在、EUの(果実・野菜の)対日輸出量は1万トン未満で、第三国から日本への輸入量240万トンに対する割合はほんのわずかである。

同総代表はさらに、「イタリア産とギリシャ産のキウイフルーツ、ベルギー産のナシとトマト、ポルトガル産とハンガリー産のサクランボ、スペイン産のカキ等、多くの市場アクセス申請が未決のまま。既存の手続きに関する多くの規定も、事前クリアランスを廃止したり、対象範囲をより多くの品種に広げたり、臭化メチル処理を環境にやさしいシステムアプローチで代替したりするなど、改訂する必要がある」と述べた。

実現の時

同協会は「今こそ日EU経済連携協定を具現化し、交渉を加速して新たな市場機会を開く時だ。EU産青果物は、日本の消費者にとって品質、信頼性、多様性の証だ。国連の国際果実野菜年である今年、当局は市場アクセス交渉で青果物を優先し、保留中の障害を緊急に解消するべきだ」と主張した。

また、EUの生産者と輸出業者は、競争力を有し、最も洗練された市場にアクセスするための物流スキルを習得するなど、高品質で安全な農産物を扱う専門性を実証しており、EUの果実・野菜部門は、国際規格と厳格なEUの規制に基づいて世界中の140カ国に輸出しているとした。

ビナー総代表は、「新しい協定の下で、今日の勢いを失ってはならない。EUと日本は、協定の新しいビジネス環境に基づいて貿易を構築し、日本の貿易業者と消費者が、毎日の健康的な食事の中で欧州産青果物の品質の高さと安全性を確実に享受できるよう、今後数ヶ月の間、懸命に努力すべきである」と締めくくった。

18. 米国農務省 大統領命令でサプライチェーンを見直し

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年4月22日)

農務省は、農産物や食品の生産、加工、流通にかかるサプライチェーンを改善し、再考するために、同省全体の取り組みに関するコメントを求めている。

これは、2月24日にバイデン大統領が署名した大統領令14017号「アメリカのサプライチェーン」を受けたものである。^{*1}

受領したコメントは、回復力^{*2}があり多様で確かな米国のサプライチェーンを支援するために、農務省が重要な要因、リスク、戦略を評価する際に役立てられる。

トム・ヴィルサック農務長官は、「我々は、COVID-19パンデミックから教訓を学び、サプライチェーンを含む我が国の食料システムを全面的に変革するためにそれらの教訓を適用する機会を得た。農務省は、このサプライチェーン評価について、リスクとチャンスの全体を見据えて総合的に取り組む予定である。この徹底的な評価により、農務省は経済安全保障、国家安全保障、食料安全保障のための長期的な改革に取り組む」と述べた。

農務省は、農業サプライチェーンについて尋ねるだけでなく、パンデミック関連の救済策や、食物サプライチェーンの回復力をもたらす長期的で全体的な変化に向けた対策の対象をどのように絞るかについてのコメントにも関心を持っている。

特に、地域や地方の食料システムの強化、より公平で競争的な市場の創出、農業労働力ニーズへの対応などに関するインプットである。

これらの取り組みは、農場経営者、牧場主、生産者、食品加工業者、その他の食品サプライチェーンにおける重要な関係者に留意しつつ、米国の競争力を強化することを目標に行われている。

プレスリリースによると、この変革は、より公平かつより競争的で、透明性の高いシステムを達成し、人々の全体的な健康と幸福を増進し、米国の土地と水を守り、米国の経済を促進し強化するシステムを達成することを目指している。

コメントの締め切りは2021年5月21日である。

訳注

*1. この大統領令では、(i) 商務長官、(ii) エネルギー長官、(iii) 国防長官及び(iv) 保健福祉長官は、適切な機関の長と協議して、この命令の日から100日以内に、指定された所管物資のサプライチェーンのリスク評価に関する報告書(100日評価報告書)を大統領に提出し、また(i) 国防長官、(ii) 保健福祉長官、(iii) 商務長官及び国土安全保障長官、(iv) エネルギー長官、(v) 運輸長官並びに(vi) **農務長官**は、この命令の日から1年以内に、適切な機関の長と協議して、所掌する業界のサプライチェーンの評価に関する報告書(セクター別サプライチェーン評価報告書)を大統領に提出しなければならないとされています。

*2. この大統領令における「回復力」とは、パンデミックやその他の生物学的脅威、サイバー攻撃、気象災害や極端な気象現象、テロ攻撃、地政学的及び経済的競争等による打撃から回復する能力を言います。

19. 世界のアボカド市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月23日)

アボカド市場は現在行き詰まっている。主要な供給国であるペルーで品不足が報告されており、価格に影響を与えている。ヨーロッパの多くの国で進行中のコロナ危機とフードサービス施設の閉鎖は依然として課題である。



ベルギー：アボカド市場は大幅な品不足

アボカドが大幅に不足している。ベルギーのある輸入業者によると、供給量が非常に少なく、着荷がかなり遅れている。現在入手できるアボカドはペルー産で、南アフリカ産の入荷が始まろうとしている。価格はかなり高いが、極端に高いとは言えない。この輸入業者によると、これはケータリング業界の閉鎖によるものである。「来週には供給量が増えると予想しているが、ペルー産の熟成ペースが緩やかなため、当面供給過剰は見られないだろう」と言う。

英国：ホスピタリティ部門の初の制限緩和の影響が顕著

年初、イスラエルとスペインからの入荷が少なく、記録的な価格をもたらした。ペルー産は入荷が早く始まったが、報告によると入荷量は昨年と同程度であり、この品不足を十分に埋めることができていない。南アフリカ産の最初のまとまった量の入荷は、5月の半ば過ぎになる見込みである。ケニア産は、品質が劣るため、市場での役割は限定的である。

パーセンテージで見ると、ペルー産は夏の間最も重要な役割を果たし、市場シェア70%と南アフリカ産(16%)を大きく引き離している。ケニア産とコロンビア産の役割は控えめで、ブラジル産やメキシコ産も同様である。

ホテルやケータリング業界等、ホスピタリティ部門の初めての制限緩和は、需要の増加によって、文字どおりにも比喩的にも実を結んでいるようだ。晴れた天候と一層の緩和の期待を考慮すると、この傾向は5月も続くはずである。一方、この部門の仕入れが増加し始めると、小売の販売はわずかに減少すると見込まれる。

モロッコ：イスラエル人がモロッコのアボカド栽培に投資

イスラエルの投資家グループが、モロッコでアボカド栽培プロジェクトを開始しようとしている。まだ政府の承

認を得ていないが、このプロジェクトはヨーロッパへの輸出向けに年間1万トンのアボカドを生産する予定だと報じられている。イスラエルの新聞グローブス紙によると、この投資家グループは、過去に取引があった地元の会社とすでに合意に達しており、合計455ヘクタールのアボカドを植える計画である。

スペイン：出荷シーズンは早く終了

スペインの出荷シーズンは終わりに近づいている。スペインの総収穫量の約90%を占める南部からの出荷はすでに3週間前に終了し、バレンシア州(東部)でも少量のラムハス種の収穫が残っているだけだ。例年は、出荷シーズンは通常4月末または5月中旬まで続く。比較的需要が高い中での出荷シーズンの早い終了は、春の寒い天候によって収穫量が減少したためである。

スペイン産が早く終了したため、ペルー産のシーズンが早く始まった。脂肪分の少ない果実だけが適切に出荷、熟成できるため、品不足で価格の高騰を招いている。専門家によると、現在行われているラマダン(イスラム教の行事)もこれに影響している。価格が良く消費も着実に伸びたことから、スペインのアボカド関係者にとっては総合的に見て良い年であった。

オランダ：アボカド市場は高値の後に価格下落か

アボカドのシーズンは現在最盛期である。コロンビア産に加えて、ペルー産とケニア産の出荷もピークに達している。しかし、オランダのある輸入業者は、「需要は減り始めている。市場の状況は今のところ良好だが、価格の大幅な下落が予想される。主にペルーから大量の入荷が続いている。中国の需要が高いこともあり価格はこの数カ月高止まりだが、今は値崩れし始めている」と言う。

現在、ペルー産(4kg箱)の手頃なサイズの価格はまだ11~13ユーロの範囲である。ケニア産の価格は従来どおりもう少し安い。前出の業者は、「小玉を中心に、しばらくの間値崩れすると予想されているので、今は皆余分な取り扱いを控えている。シーズンの初めにはいつもこの価格変動が起こるが、2~3週間で市場が回復することを願っている。価格を8~9ユーロで維持できればよいのだが」と語った。

ドイツ：卸売価格は過去最高

ドイツの卸売市場では、アボカドの価格はゆっくりと、しかし確実に記録的なレベルに迫っている。ある業者は「夏の果物(一般的にはモモ、メロン等)の供給増加によるアボカドの需要減少にもかかわらず、パッケージ当たりの価格は高騰しており、すぐに食べられる完熟のハスアボカドで20~23ユーロで、昨年の今頃より2ユーロ高い」と報告している。これはペルー産の深刻な品不足と関係がある。ハスアボカドに加えて、緑色種(フエルテ種)も出回っている。これも供給量が限られているが、空輸で輸入されるハスアボカドよりもわずかに多い。

イタリア：コロナ危機の間にアボカドの消費が増加

ペルー産ハスアボカドは今は最盛期である。北イタリアのある業者は、「最初に入荷するものは比較的小さく(サイズ18、20、22)、東欧および北部ヨーロッパ市場向けに最適である。国内市場では、最も人気のあるサイズは10、12、14、16で、これらの供給は限られている。この状況は5月中旬まで続くと予想される」と言う。イスラエル産、モロッコ産、メキシコ産の入荷はほぼ完全に終了し、南アフリカ産アボカドは現在、緑色種とハス種の両方が入荷している。

ある業者は、振り返ってみると、コロナ危機の初めと2019年を比較して消費の面での違いはなかったと報告するが、「しかし、今年3月には消費が次第に持ち直し、500%も伸びた。人々は結局、アボカドをスーパーフードと見なしており、ハス種はこの点で最高峰だ」と言う。

南アフリカ：アボカド輸出の「裏年」

南アフリカは「裏年」で、総輸出量は1,650万箱(4kg/箱)である。スペイン産とチリ産が比較的早く市場から無くなり、ヨーロッパ市場はほぼ空っぽの状態が予想されるため、3月半ばから5月半ばの早生品種はスムーズな販売が見込まれる。

4月末以降、欧州のアボカド市場に大きなプレッシャーが予想される。これまでもペルーが輸出量を増やす

と価格が下落してきたが、今年もそうなのとの噂がある。これは、英国を含む欧州市場を主要な出荷先とする南アフリカ産の輸出にも影響を与える。

南アフリカでは柑橘類の出荷も始まるので、輸送コンテナの調達が難しくなる可能性がある。

国内の卸売価格は現在13.33ランド(0.77ユーロ)/1kgで、国内需要は順当である。

オーストラリア：シェパード種からハス種へ移行

シェパード種のアボカドは、主に2月から4月の間に販売されるため、ほぼ終わりに近づいている。その後、ハス種のアボカドの収穫が始まる。専門家は、天候や季節労働者の問題を考慮して、今年のシェパード種の国内生産量を290万パッケージと見積もっている。シェパード種はアボカドの栽培面積全体の約18%を占めており、ハス種は依然として75%を占め最多である。

オーストラリアのアボカド消費量は著しく増加しており、一人当たりの年間消費量は3.88kgである。専門家は、今後の一層の成長を期待している。

米国：メキシコ産と国内産の需要が高い

現在、入荷量の大部分はメキシコ産である。ある業者は、「一時、総入荷量について意見の相違があり、一部の人は125万6千トンと言い、他の情報源はそれよりも多い見積もりを示した。メキシコは週に2万7千〜3万2千トンを出荷できており、米国の需要を概ね満たすだろう」と報告している。

カリフォルニア州からの国内産も市場に出回っており、総供給量の約15%を占める見込みである。総収穫量は13万2千トンと見込まれ、約20%はすでに収穫されたと伝えられている。

現在の需要は昨年より8〜10%増と比較的高い。パッケージ当たりの価格は3月(約37〜38ドル)よりも低く、カリフォルニア州産はわずかに高い値を付けている。

中国：現在の市場は価格が下落

メキシコ産のシーズンが終わりに近づいており、中国市場では価格の下落が見られる。ペルー産はまだ出始めの段階にあり、収穫量が少なく、小規模な農園から出荷されているため品質が安定していない。出荷の最盛期は、5月中旬以降となる可能性が高い。

また、中国にはフィリピン産アボカドも少量入荷しているが、果皮に斑点があるなど通常品質が良くない。中国当局は3月、航空輸送のカリフォルニア州産の輸入を初めて許可した。市場への本格的な入荷は6月中旬に予定されている。カリフォルニア州産アボカドの品質は非常に高く、市場の需要は今のところ極めて良好だ。業者らによると、カリフォルニア州産はメキシコ産とペルー産の端境期を埋める可能性がある。さらに、輸送距離も南米に比べて短く、このことはかなり有利である。

最近まで、中国市場のアボカドの価格は比較的高かった。入荷量が増えたため、価格は徐々に下落し始めている。今週、メキシコ産アボカドの卸売価格はパッケージ(10kg)当たり260元(約4,400円)に下がった。

20. 南米 バナナのTR4を嚴重警戒、封じ込め、一方新規感染の疑いも

エクアドル フザリウム菌TR4に嚴重な警戒

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月26日)

世界最大のバナナ輸出国であるエクアドルは、隣国ペルーがバナナに致命的な害を与える真菌(カビの仲間)の発生への対応に追われていることから、嚴重な警戒態勢を敷いている。バナナに不治の病を引き起こすこの真菌は、2019年に南米で初めてコロンビアに到達しており、エクアドルは、南米における2つの発生国に挟まれている。エクアドル国内の一部のバナナ農園は、4月12日にこの真菌が確認されたペルー北部地域から300キロ未満の距離にある。

壊滅的なバナナの萎れを引き起こすフザリウム菌TR4がエクアドル南部との国境近くで発生したことをペルー政府に確認した後、エクアドルのザビエル・ラゾ農業大臣は緊急措置を講じたと述べた。

自身もバナナ生産者であるラゾ大臣は、主要道路沿いにコンテナの消毒所を設置し、職員訓練用の4つのシミュレーションを立ち上げるなど、国境沿いの措置を指揮した。また、ペルーのカウンターパートであるフェデリコ・テリオ農業大臣と頻繁に連絡を取り合い、取り組みを調整している。

エクアドルはまた、脅威を迅速に特定できるよう、ペルーからの貿易品のほとんどが入ってくる主要な州境施設にインターネット接続の顕微鏡を設置した。さらに、病気の蔓延を食い止めるため、バナナ農園に対し無料の検体検査と適切な衛生手順の訓練を提供している。

出典: bloomberg.com

コロンビア 2019年に検出して以来フザリウム菌を封じ込め

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月28日)

コロンビアでは、ラ・グアヒーラ県で2019年にフザリウム菌を検出して以来、その封じ込めを維持している。

フザリウム菌TR4(*Fusarium oxysporum* f. sp. *Cubense* Tropical Race 4)は、コロンビアを含む約20カ国にすでに影響を与えている病気で、まだ治療方法がなく、バナナとプランテイン産業全体に脅威を与える。

この病気はコロンビアでは2019年に検出され、現在はラ・グアヒーラ県の10農園に封じ込まれている。これらの農場には合計2,410ヘクタールの輸出用バナナが植えられているが、最大2,300ヘクタールがTR4の影響を受けているため、全面的な閉鎖と病気の拡散を防ぐための抜本的な措置を余儀なくされている。

コロンビア農業研究所(ICA)のホルヘ・エルナン・パラチーノ植物防疫部長は、「この真菌は、最大20～30年間土壤中で生存し、再び活性化することができるクラミドスポア(chlamydospore)型なので、何十年にもわたり高いリスクがある。我々は2019年7月にコロンビアでの病気の発生を疑ったが、その2ヶ月後の8月8日に、コロンビアの複数の研究所と外国の大学が、病気の存在を確認した」と述べた。

病気の発生がコロンビア北西部のマグダレナ地域やウラバ地域に到達した場合、リスクは特に高い。コロンビア・バナナ生産者協会(Augura)のエメルソン・アギーレ会長は、「コロンビアでは約51,454ヘクタールに輸出用のバナナが植えられており、15万家族がこの作物で生計を立てている。ウラバ地域(地名詳細省略)のバナナ地帯など、国の一部の地域ではバナナ産業が経済の75%を占めており、TR4は我が国にとって本当に脅威である」と言う。

輸出は減少せず

バナナは、コロンビアの農業部門第3位の輸出品目であり、同国から欧州連合(EU)への主要な輸出品である。真菌の拡大の脅威は、コロンビア産果実の国際貿易に影響を与えていないが、封じ込め措置を講じな

なければならない地元の生産者には900万ドル(約10億円)近い余分なコストが発生している。

前出のパラチーノ部長は、「ラ・グアヒーラ県の10農場を隔離したので、輸出を維持することができた。この措置により、国内の他の地域のバナナとプランテインを保護することができた。実際、2019年以降、この病気にもかかわらず、バナナ輸出の貿易収支はプラスであり、中国などの国々との貿易関係は改善している」と述べた。

出典: americaeconomica.com

ベネズエラ 疑いのあるケースが見つかる

AMERICA FRUIT電子版(2021年4月28日)

エクスプレソ紙によると、ベネズエラのバナナ農場でフザリウム菌TR4の疑いのある症例が報告された。

このニュースは、ペルー北部の農場で致命的な真菌が確認されてからわずか数週間後に届き、2019年にこの病気がコロンビアで確認されて以来の封じ込めの取組みが機能していないのではないかと懸念が生じた。

ベネズエラ当局はTR4の存在を確認していないが、影響を受けた農園のものとして出回っている写真やビデオは、それがTR4の事例であることを強く示唆している。映像を見たアルフレド・サルトス元エクアドル農業大臣は同紙に対し、「明らかにフザリウム菌の事例だ」と語った。

しかし、この病気を封じ込める地域の取組みを先導しているコロンビアの植物衛生当局ICAは、ベネズエラの複雑な政治状況のために調査結果を確認することは困難であるとしている。

ICAのホルヘ・エルナン・パラチーノ部長によると、同研究所は他の輸出国と植物防疫に関する会議を数多く開催しているが、ベネズエラはそれらに一度も出席しておらず、また、ベネズエラ当局は一貫して植物衛生に関するデータを地域の他の国と共有していない。

エクアドルの植物衛生当局であるAgrocalidadのパトリシオ・アルメイダ氏は、ベネズエラ当局関係者からの協力の欠如が「危機的状況」につながったとして、「情報が全くない。ベネズエラは地域の取組への参加を停止しており、農業だけでなく、コロナウイルスなどの健康に関する問題まで情報があまり入手できない」と述べた。

2019年にTR4がコロンビアに侵入したルートは解明されていないが、複数の非公式の報告は、それがある多国籍企業によって輸入された植物材料を介して入ったことを示唆している。

しかし、別の複数の報告は、TR4が南米で最初に報告された地域であり、ベネズエラと国境を接するコロンビアのラ・グアヒーラ県に、ベネズエラの労働者や移民がいたと指摘している。

21. オーストラリア ロボットが7秒に1個リンゴを収穫

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月28日)

労働力不足によって引き起こされるオーストラリア果樹業界のストレスを一部でも和らげるため、研究者らはこの問題に対する創造的な一助として、果樹園のリンゴを高速で収穫できるロボットを開発した。

オーストラリアのモナシュ大学機械航空宇宙工学科の研究者らは、カメラとディープラーニングアルゴリズム(人工知能の学習方法)を組み合わせ、果樹園の木をスキャンして果実を検出し、果実や周辺の葉をできるだけ傷つけないために、幹と枝分かれの形、位置、向きに関する情報を処理するロボットを制作した。



モナシュ大学の研究者らによって制作されたリンゴ収穫ロボットのほ場での運転速度試験

画像提供: モナシュ大学 動画のリンク先: <https://www.youtube.com/watch?v=BfbdGOGHhYw&t=2s>

研究を主導したチャオ・チェン博士は、「ロボットは、特別に設計された、空気圧を動力源とし、4本の指が独立して動く柔らかいグリップパー(掴み手)と吸引システムを備えており、果実や樹体への損傷を最小限に抑えながら、リンゴを効率的に掴んでもぎ取ります。また、吸引システムは、樹冠からグリップパーにリンゴを吸い込み、グリップパーが樹冠の中に入り込む必要性と、それに伴い周囲に損傷を与える可能性を減らします。グリップパーは、収穫予定のリンゴの85%以上を樹冠からもぎ取ることができます」と語る。

newatlas.com(情報サイト)の記事によると、ロボットは、カメラの視界内で約1.2m以内の距離にあるリンゴの90%以上を識別する。また、いかなる照明の状況や気象条件でも動作することができ、リンゴ1個の画像処理に要する時間は0.2秒未満である。

研究者らは今年、リンゴ収穫ロボットのほ場試験を行っており、誤って果軸が取れてしまったものは収穫物の6%未満であったと報告している(果軸の取れたリンゴも一部の小売業者は販売する可能性がある)。ロボットを半分の速度で動かすと、リンゴを識別、もぎ取り、収納するのに12.6秒を要したが、もぎ取りから落下までのプロセスを調整すると、約9秒に短縮した。最終的には、最大能力で稼働させることにより、この収穫時間をリンゴ1個当たり7秒に短縮した。

22. コロンビア産冷凍アボカド 日本の外食とコンビニに登場

FreshPlazaウェブサイト(2021年4月29日)

コロンビア貿易投資観光促進機構(ProColombia)によると、4月27日、バーガーキングとセブンイレブンの顧客にすぐにも提供できるコロンビア産冷凍アボカドを積んだ3つのコンテナが日本に到着した。

バーガーキングは、アボカドビーフとアボカドプラントという2つの新メニューにアボカドを使用している。セブンイレブンは3月から東京都、埼玉県、神奈川県のお店で販売を行っている。数ヶ月以内に、日本のすべての店でコロンビア産アボカドが販売されることとなっている。

出荷された果実はコルフrost社が加工し、様々な形式の冷凍真空パックで販売され、風味や特性を失うことなく最大2年間貯蔵できる。

コルフrost社のアンドレス・オロスコ社長は、「5月には、日本のセブンイレブン20,881店舗に届けることになっている。これは、同社のコロンビア産品に対する信頼の明確な現れであり、そのことは、大小97の生産者と品質の高さを約束した133の協力会社のおかげで可能になった」と述べた。

日本は2019年7月にコロンビア産アボカドに市場を開いた。昨年、コロンビアは日本に43万7,737ドル相当の生鮮アボカドを輸出することができた。コルフrost社は、今年の日本市場へのアボカド輸出額を400万ドルと見込んでいる。

同機構のフラビア・サントロ代表は、「これは、輸出を増やし、地域の雇用と発展を促すCO-Nectados計画の一環として、在日本コロンビア大使館が取り仕切った政府主導の健康外交戦略の枠組みの中で実現したものであり、この成果を祝福する。さらにこのことは、コロンビアが、その耕作面積(拡大)の潜在的な可能性、輸出可能な産品の多様性、及びほぼ一年中農産物を出荷できるなどの競争要因のおかげで、FAOによってそう分類されたように『世界の食料倉庫』となる途上にあることを示している。我々は、コロンビアのアボカドセクターが主要な国際市場で強くあり続けるために、引き続き支援する」と述べた。

出典: procolombia.co/infobae.com

(関連記事)

コロンビア産ハスアボカド 日本のバーガー店へ

ASIAFRUIT電子版(2021年4月30日)

日本のバーガーキングは、新しいアボカドハンバーガーにコロンビア産のハスアボカドを使用している。

このハンバーガーは食肉ベースと植物ベースの2種類のパテで販売され、前者は100パーセント牛肉から作られ、後者はバーガーキング特有の直火焼のスモーキーな大豆ベースのパテだ。

アボカドは、コロンビアのコーヒー産地であるクンディナマルカ県とアンティオキア県の農場で栽培され、コルフrost社によって冷凍、輸出されている。

同社は、繊維質と味を保持するため、果実を液体窒素に5分間浸して凍結する。製品は、真空パックの角切り、輪切り、半切りで出荷され、貯蔵期間は最大2年間である。

コロンビア産アボカドは2019年に日本への市場アクセスを獲得し、昨年はこの市場に43万7,737米ドル相当のアボカドを出荷した。コルフrost社は、今年400万米ドルの冷凍アボカドを日本に輸出する見込みであるとしている。

23. EU 遺伝子編集に関する規則を再検討

FRESH PRODUCE JOURNAL 電子版(2021年4月30日)

遺伝子編集などの技術に関する欧州委員会(EC)の調査は、懸念があることを認識しつつも、持続可能な食料システムに貢献する可能性がある」と結論

欧州委員会(EC)は、現在の規制が緩和される可能性も含め、遺伝子組換え生物に関するEU規則の見直しを開始した。

欧州司法裁判所は2018年、遺伝子編集技術は遺伝子組換え生物と同じ規則に従うべきだとの判決を下したが、ECの新しい調査では、遺伝子組換え生物に関する2001年の法律は「目的に合わない」と結論づけている。

4月29日に発表されたECの117ページに及ぶ調査報告書は、新しいゲノム技術(NGTs)は、「欧州グリーンディール」(EUの気候変動対策)及びEUの「農場から食卓まで戦略」(持続可能な食料システムを構築する戦略)に沿った、持続可能な食料(システムの構築)に貢献する可能性があることを明らかにした。

調査は、遺伝子編集は、病気、環境条件、気候変動に対する植物の耐性を高め、より栄養価の高い食品を生産し、殺虫剤などの資材投入の必要性を減らす可能性を有していると結論づけた。

一方、同報告書は、安全性、環境への影響、遺伝子工学(GE)と有機農業やGMフリー農業(遺伝子組換え生物を使わない農業)との共存、並びに表示に関する事柄及び消費者の情報に対する権利と選択の自由に関して懸念があることを認めた。

報告書の執筆者らは、「利害関係者は、これらの側面について様々な、しばしば対立する見解を持っている」と記している。

欧州委員会は、影響評価と一般からの意見聴取を行うために、加盟国政府などと協議するとしている。

相反する見解

遺伝子組換えがある種類の生物から別の種類の生物に遺伝子を導入することを意味するのに対し、遺伝子編集は、ゲノム内の特定の場所で遺伝物質を追加、除去、または変更することによって、ある生物のDNAに対する的を絞った調整を行う。

現状では、EUでは遺伝子組換え食品の販売は禁止されている。環境団体や有機生産者を中心に、環境への影響と、大規模な多国籍種子会社の力が強まる可能性について、長年の懸念がある。これらの人々は、遺伝子編集も同様のリスクをもたらすと言う。

対照的に、農業技術業界は、遺伝子編集は従来の育種方法で起こる遺伝子の突然変異を模倣するだけだと主張している。

英国の植物研究機関NIABは、この報告書を歓迎し、所長のティナ・バースビー博士は、「遺伝子革命とそれがもたらす食料安全保障、気候変動、持続可能な開発といった緊急の世界的課題への貢献にとって節目となるかも知れない。2018年の判決は科学的な意味がなく、世界中のほとんどの国の規制スタンスと食い違っていた」と述べた。

ドイツとフランスを含む加盟国政府の多くは、規制変更への意欲を示している。ドイツのユリア・クレックナー農業相は、農業者が十分な食料を持続的に生産する助けとなる可能性があるとして、遺伝子編集に関する規則の「遅すぎる近代化」を支持すると述べた。

ロイター通信によると、フランスはすでに、遺伝子編集技術を遺伝子組換え作物とは異なる方法で扱うことを支持すると表明している。

業界団体Euroseedsは、遺伝子編集を規制する現在の規則を変更する「緊急行動」を求めた。

英国での意見聴取

いまやEU外となった英国は、最近独自に、遺伝子編集技術に関する将来の規制について国民からの意見聴取を完了した。

英国政府は、遺伝子編集された生物は、従来の技術によっても育種できるものであれば、別の方法で規制されるべきであると主張している。

環境・食料・農村省は、意見聴取の結果によっては、そのように法律を改正する可能性があるとしている。これは全国農民連合(NFU)が歓迎する動きである。

この意見聴取に答えて、NFUのトム・ブラッドショー副会長は、「遺伝子編集は、作物や家畜の病虫害の危険に対処し、気象災害からの回復力を高め、資源をより効率的に使用することで環境への影響を減らすのに役立つと考えている。このことは、2040年までに(温室効果ガスの排出を)実質ゼロにするという我々の意欲的な取り組みを支え、生産者が持続可能で収益性の高い農業を行うことを可能にする」と述べた。

遺伝子組換えへの扉を開くか

対照的に、環境団体「フレンズ・オブ・アース」は、ECの調査は、新世代の遺伝子組換え作物を安全性チェックから除外する道を開くものだとの懸念を表明した。

英国の有機栽培面積の半分以上を認証し、種子から小売りまでの食品事業にライセンスを与える「有機フーマーズ・アンド・グロアーズ」も、同様の見解を打ちだした。

同団体の最高責任者であるロジャー・カー氏は「農業生産が向かう方向性について重大な懸念がある。遺伝子組換え作物についてこの25年間で明らかになったことは、それらの能力が従来の作物を大幅に上回るものではないということであり、農薬の繰り返し散布に耐えるように設計された作物への農薬使用の増加などの懸念が生じている。

遺伝子を編集した新しい遺伝子組換え作物が従来の方法で育種された品種よりも優れた能力を発揮するという主張を支持したり、これらの遺伝子の環境への放出の影響を評価したりするための、独立のしっかりした研究が欠如している。最近EUに提出された遺伝子編集作物に関する初めての申請は、農薬耐性トウモロコシに関するものだ」と述べた。

24. 第1四半期のリーファーコンテナ運賃が26%上昇

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年5月6日)

海事調査コンサルタントのドリュエリー社によると、リーファーコンテナ(冷蔵・冷凍コンテナ)の貨物料金は今年急激に値上がりしたが、高騰が止まらないドライコンテナ(冷蔵・冷凍でない普通のコンテナ)ほどには上昇していない。

ドリュエリー社のリーファーコンテナ貨物料金指数は、リーファーコンテナが多い上位15路線のリーファー貨物料金の加重平均で、今年の第1四半期に貨物需要の季節的な増加と燃費サーチャージの高騰で26%上昇した。

これは2017年にこの指数を発表するようになって以来最高の水準であり、第2四半期にはさらに上昇すると予想されている。しかし、上昇が続くドライコンテナ運賃(第1四半期で対前年比150%以上、グラフ省略)に比べれば控えめである。

ドリュエリー社のリーファー輸送調査主幹であるフィリップ・グレイ氏は、「回復基調にあるリーファーコンテナ貿易は、価格が高くなっているドライコンテナと輸送スペースの取り合いで苦戦しており、コンテナ機材の不足と輸送スペースの不足が、貨物料金を押し上げる重要な要因となっている。2021年第1四半期のリーファーコンテナの生産台数は記録的なレベルにあるが、当社としては今後数年間はリーファーコンテナの需給が引き続きタイトであると予想している」と語る。

一方、コンテナによるサプライチェーンの混乱のため、特殊な冷蔵船の需要が大幅に増加し、期間貸しのチャーター料金が1立方フィート当たり30日間で100セントの台を超え、過去10年間で最高となっている。確かに、これらの冷蔵船による貿易は増加しており、ドリュエリー社は、今年は船舶数が過去20年間の減少傾向を打ち破って増加すると見込んでいるが、その後は再び縮小が続くと予想している。

また、海上輸送による生鮮貨物の貿易の回復は、バナナ生産国を悩ましているフザリウム菌TR4によって今年は減速すると見込まれる。世界の出荷数量の増加は2020年第4四半期にはわずか1.8%であり、その後もさらに伸びが鈍化している。

バナナ輸出世界第2位のフィリピンは、過去12ヶ月間この病気の影響を特に受けており、2020年の輸出は18%も縮小した。最近では、ペルーでフザリウム菌の発生が報告されており、同国のほか世界最大のバナナ輸出国である隣国エクアドルでも厳重な警戒態勢がとられている。

ドリュエリー社によると、2020年に0.4%縮小して1億3千万トンとなった海上リーファー輸送は、いずれ年間平均成長率4%に加速するものの、今年の回復率は2.7%にとどまるものと予想される。

中期的には、特殊な冷蔵船の船舶数の減少により、コンテナによる生鮮食品の輸送がドライコンテナによる貿易に匹敵する速いペースで増加するものと見られる。

グレイ氏は最後に、「今年は貨物の伸びが緩やかであるものの、リーファーコンテナの輸送料金はこの分野のピークシーズンを通じて上昇を続けており、コンテナ輸送全体の混乱が続く中、年間の大部分で高い水準を維持すると予想される。同じ要因により、特殊な冷蔵船のチャーター料金も引き続き上昇するものと見込まれる」と述べた。

25. 世界のブルーベリー市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年5月7日)

ヨーロッパ産ブルーベリーは寒い天候のため供給上の問題に直面しており、競争相手のいないヨーロッパ市場に入荷している品質の良い米国産は大いに有利だ。特にスペインでは収穫量が40～50%増加すると予測されていたが、そのようなことは起こらなかった。需要と消費は全般的に良好であり、多くの国で供給が少ないため、価格が高くなっている。



英国：安定した需要にもかかわらず出荷は遅いスタート

現時点ではスペインが英国市場への主要なブルーベリー供給国であるが、ここ数週間のスペインの寒さのため、出荷シーズンの始まりは遅かった。ある輸入業者によると、スペイン産ブルーベリーの品質は良い。

需要は安定しており、一部の小売業者はプロモーションを行い、様々なサイズのパックを提供している。英国の寒い天候は需要を喚起するのに大いに役立ったが、少し日が差せば状況は変わるだろう。

英国国内のブルーベリーは現在開花しており、ある生産者は、被覆栽培では夜間の霜による被害は見たところほとんどないと報告している。実際の被害があるかどうかは、今後数週間で明らかになる。しかし、収穫までにはまだ長い道のりがあり、夜間の低温も予想される。また、先週は強風があり、生産者はポリトンネルへの影響を心配した。

オランダ：激動のブルーベリー輸入シーズン

オランダのあるベリー類輸入業者は、ブルーベリー市場は大荒れだとして、「例年であれば、スペイン産とモロッコ産の大きな入荷ピークが10日間も続いている時期だが、順調な出荷が始まる様子がなく、生産者と小売業者の対立が見られる。小売業者は、従来の経緯を踏まえてこの時期は価格が低いはずで、したがって少ない費用で大いに販売促進ができると考えており、生産者は様々な流通チャネルに農産物を販売できる強い立場にある。本格的な販売に必要な品物がない。6月初めから7月初めまでの期間は端境期になると見られ、メキシコとカリフォルニアでこの時期に向けたベリー類確保の動きが起きている。そこでは、価格の上昇がかなり期待されている」と言う。

この業者はさらに、「モロッコ産は、来週末以降は急に入荷量が減少するので、誰もがスペイン産を今よりも

多くを調達することになる。関係者はよく知っているが、スペイン産のピークは一層低くなってきているので、急激な価格の下落はない。このため、スペイン産とモロッコ産の出荷シーズンには、高い山や深い谷はなく、価格が比較的安定する。品質的には、モロッコ産は今のところほとんど問題ない。出荷シーズンの最後の数週間、これが変わらないことを願っている。スペインでは園地によって様相が異なる。従来からの古い品種や樹齢の高い園地の果実は難しい状況にある。スペイン産の季節にはよくあることだが、これらの果実は傷つきやすかったり、傷ついていたりする。これはおそらくウエルバ地方の年初の霜の影響だろう」と語った。

ドイツ：5月の販売が困難

ブルーベリーの販売は、5月に入ってから特に難しくなっている。現在の入荷量の大部分はスペイン産であり、晩生品種が入荷してきている。ある業者は、「早生の品種に投資して、4月末から5月上旬までに市場に出荷するのがよい。その後は、需要が減少し、供給が増加する。シーズン前半の販売は特に順調であった。モロッコ産の入荷量はやや期待外れであったが、スペイン産は順当であった。全般的に需要が供給を上回り、良い価格で安定している」と言う。

コロナ禍は生産と物流において、もはや重要な影響を及ぼしていない。国や市場ごとに措置が異なるため、以前の状況と比較して市場は均質ではなく、むしろ不均一である。全般的には、コロナ禍はドイツのブルーベリーの消費に害を及ぼしていない模様だ。5月のわずかな落ち込みを別にすれば、昨年の販売月毎の販売額は前年の同じ月と比較して増加した。ドイツのブルーベリー栽培は、主にニーダーザクセン州北部に集中しており、収穫は通常7月前半に始まり、8月末または9月上旬まで続く。

イタリア：イタリア産のブルーベリーが出始め

イタリアでは、ブルーベリーの消費量が2020年に比べて明らかに増加しているが、この成長傾向は5～6年間安定している。収穫はシチリア島とカラブリア州で進んでおり、カンパニア州では5月の初めに始まった。出荷量は多くないが、イタリア国内からと国外からの両方とも注文は多い。イタリア産ベリー類を最も高く評価しているのは、ドイツ、スイス、オーストリア及び東欧諸国である。イタリア北部では6月上旬頃に収穫と販売が始まる。降霜にもかかわらず、量に関しては問題ないと思われる。

イタリア北部の卸売市場では、現在スペイン産とチリ産のブルーベリーが入荷しており、イタリア中部では4月末にペルー産が入荷した。価格は13.50～15ユーロ/kgが大勢を占める。イタリア産の価格は輸入品の価格と同程度のものである。

イタリアのある小売企業のバイヤーによると、売り場のブルーベリーの大半は、スペイン産等の国外産だが、出始めのイタリア産も売られている。納入業者に支払われる価格は約11～13ユーロ/kgである。販売価格は18～19ユーロ/kgの間で変動する。小売セクターが求める基本的な要素は棚持ちである。棚持ち保証期間が長ければ長いほど、引き合いが多く価格が高くなる。

3月の後半に、北イタリアの有名な協同組合が生産し、認定を受けたイタリア初の残留物ゼロのブルーベリーが市場に登場した。これはイタリアでは目新しい商品だ。それらのブルーベリーは、Ventura品種を主体とする様々なジャイアント・アメリカン・ブルーベリーの品種で、同協同組合の会員がシチリア島とカラブリア州の50ヘクタール以上の園地で限定的に栽培している。パッケージは、新しいプラスチック不使用の125グラムのパック、100グラム入りのカップ、125グラムのバスケットなど様々なものがある。

米国：国内供給が高い需要を満たす

出荷の開始が遅れた。カリフォルニア州に拠点を置くある業者は、「ジョージア州とフロリダ州の出荷は、品種と産地にもよるが10～15日遅れた。さらに2週間前には、悪天候に見舞われた」と言う。

現在、フロリダ州中部では収穫が遅れているが、一方同州北部では収穫が順調に進んでいる。ジョージア州でも収穫に向かっており、あと7～10日で収穫が始まると見られる。上記の業者は、「一つの地域から別の地域へ収穫が続いており、これは良いことだ」と語る。

メキシコからの入荷はまだあるが、メキシコは周年出荷を行っている。「メキシコの出荷量はある週から次の

週にかけて急に増えたり減ったりすることはない。メキシコは過去6週間、西海岸でブルーベリー流通の主役であったが、これは今後1〜2週間続くだろう」と上記の業者は言う。

カリフォルニア州では、ある会社が保有する農場の収穫開始は予想よりも遅かったが、今後は収穫量が着実に増えると見込まれ、果実のサイズと品質の面でも良好である。同社はジャンボブルーベリーの販売の成功を期待している。

これらの状況は、すべてのベリー類について全体的に品薄となっている市場の状況と一致する。上記の業者は、「ある種類のベリーが市場で不足すると、別の種類のベリーが買われるのが常だ」と言う。

この業者はまた、ベリー業界が作り上げた高品質な果実を一年中供給する体制も手伝って、消費者がベリー類を毎週購入するようになったと指摘している。また、ブルーベリーのパッケージサイズが全体的に大きくなる傾向にあるとし、「パッケージが大きければ、市場で同じ数のパッケージを販売したとしても、より多くの量を動かしていることになる」と言う。

価格については、4月の価格は通常の年を大幅に上回った。

ポーランド：冬の被害は少ないが、アウトウショウジョウバエの脅威

これまでのところ、ブルーベリーに冬の寒さによる被害はほとんどない。一部の農場は作物の10%に損害が発生したと言っているが、この場合でも収量が10%少なくなるわけではない。現時点での被害状況を見れば、実際の収穫量になんら影響を与えるようなものではない。新たな課題は、2020年から発生し始めているアウトウショウジョウバエ (spotted wing drosophila) への対応である。ポーランドの生産者は、これがいつか問題になる可能性があることを常に認識していたが、いまや現実の脅威となり、懸念が広がっている。一方、過去数年収穫シーズンの始まりが早かったが、今年は正常に戻ることは良い知らせだ。ここ数年、収穫の開始が7月1日と早かったが、今年は7月10日と見込まれる。

スペイン：大量出荷はなく、今シーズン残りの見通しは良好

ウエルバ県のブルーベリーの出荷シーズンは、日が経つにつれて期待を持たせるものになっており、この好調は今月とさらに来月までも続く見込みである。今年、早生品種の出荷は吹雪を伴う嵐のために1ヶ月以上遅れた。同時に、寒さのため、晩生品種の出荷が早まった。当時は早生が遅れ、晩生が早まって一斉に出荷のピークに突入し、4月にはすべての品種が値崩れするかと思われた。しかし、3月と4月の気温が高かったため、ピークは発生しなかった。

今のところ、早生のSnowchaser品種とWindsord品種はすでに出荷を終えているか、終わりつつある。中生品種のVentura、Emerald、Jewel等は出荷がピークに達しており、これらはあと約2週間で終了する。晩生品種に関しては、早いものはすでに収穫されているが、最も遅い品種の収穫はあと約10日で始まる。このため、最後までかなり均一な出荷量が期待され、残りの出荷期間の見通しは良好である。

園地の樹齢、栽培面積、品種、さらに何よりも過去の数字を考慮して、出荷量が40〜50%増加すると見込まれていた。しかし、このシナリオは実際には起こっておらず、出荷量は出荷期間の80%で不足している。需要は依然として高く、価格は維持されている。実際、ブルーベリーはウエルバ県でもっとも儲かるベリーとなっている。スペインでは春の温暖な天候によって、年の初めに恐れられていた供給過剰を避けることができたが、ヨーロッパ北部の一部の国では天候が改善していない。多くのヨーロッパ諸国では出荷が15〜20日遅れており、このことは5月と6月の全期間を通してスペイン産が市場で有利な立場にあることを保証している。

南アフリカ：豊作の期待

隣国ジンバブエでは今季のブルーベリーの収穫が始まり、南アフリカの高級小売店に輸出されている。

南アフリカ国内では、今季の収穫はまだ始まっていないが、最近数年間の力強い作付け拡大の結果、南アフリカ北部の生産量が非常に多いという複数の報告がある。ブルーベリーの作付面積は、西ケープ州を中心に来年までに3千ヘクタールを超えるものと予測されている。

オーストラリア：ブルーベリー輸出はほぼ倍増

最新の統計によると、オーストラリアのブルーベリー部門は2020年6月までの作物年度に順調で継続的な成長を遂げ、生産量は前年比9%増の20,783トンであった。また、生産額は前年比15%の増の3億8,960万豪ドルであった。消費の面では、オーストラリアの世帯の56%がその期間に生鮮ブルーベリーを購入した。世界的規模から見ればまだ少ないが、輸出も大幅に増加し、輸出量は前年比96%増の393トン、輸出額は同75%増の840万豪ドルとなった。同時にニュージーランド産を主体に輸入も増加し、前年比6%増の1,644トンとなった。ブルーベリーの生産は、ニューサウスウェールズ州北部のコフスハーバー地域が中心である。この地域では夏の間に大半が出荷され、翌春に一旦終了するが、オーストラリア南部の地域では一年中出荷が可能である。(1豪ドル≒85円)

中国：高価格で間もなく収穫終了 無土壌栽培にシフト

遼東半島の今季のブルーベリーの出荷はほぼ終了した。山東半島では出荷が始まったばかりで、鮮度が高く量が少ないために価格は堅調である。現在、普通の果実の価格は50～60元/500g、高品質のものは70～80元/500gである。価格はチリ産の輸入果実よりもはるかに高い。(1元≒17円)

雲南省のブルーベリーの出荷は終わりに近づいている。長江の兩岸とその南の地域では、収穫期間中に雨季に入り、果実の品質は良くない。山東半島産のブルーベリーの価格は、当面高止まりし、南部産のブルーベリーが大量に市場に出回る5月末には下落するものと予想される。

中国の消費者の国内産ブルーベリー需要は約100万トンあるが、実際の結果面積はわずか40万ムー(畝: 15畝=1ヘクタール)であり、生産量は約25万トンなので、市場の潜在的な可能性は大きいと言える。一級都市における品質の高い国内産ブルーベリーの需要が高まる中、上海では過去2年間でブルーベリーを栽培する企業が増えている。

ブルーベリーの無土壌栽培は、2019年から人気を集めている栽培方法でありビジネスモデルである。大きな投資、大きな産出、短いサイクル及び高い効率が特徴で、絶好の投資対象である。北部地域の無土壌栽培施設の投資コストが20万～30万元/ムーであるのに対し、雲南省では10万元/ムーであるため、企業の視点から明らかなコスト優位性がある。ドリスコルズ社は、2014年頃に雲南省で最初に試験を行った。試験栽培が成功した後、ますます多くの資本と大企業が雲南省の無土壌栽培の利点に着目し、同省に施設を設置し始めた。2019年から2020年にかけての期間だけで、25の国際的なブルーベリー大手企業が雲南省に工場を設置し、その栽培面積と生産量が急増した。

26. ニュージーランド ゴールドキウイ面積がグリーンキウイを上回る

FreshPlazaウェブサイト(2021年5月7日)

ニュージーランド統計局は、ゴールドキウイフルーツの総樹冠面積が、グリーンキウイ品種のそれを上回ったことを示すデータの確定値を公表した。ゴールドキウイフルーツの総樹冠面積は、2020年6月には7,800ヘクタールに増加し、グリーンキウイは7,500ヘクタールであった。

農業生産統計課長のアナ・クルポ氏は、「主要な品種がゴールドキウイフルーツへ移行したことは、輸出額にも反映されている。2020年6月までの1年間のゴールドキウイフルーツの輸出額は16億ニュージーランドドル(NZドル)を超え、グリーンキウイフルーツの輸出額約9億NZドルを大きく上回った。(1NZ≒78円)

同じ期間の全園芸作物の総輸出額は42億NZドルであった。キウイフルーツ全般について市場の需要は引き続き堅調に推移しており、樹冠面積の着実な増加を支えている」と語った。

2020年6月時点のキウイフルーツの総樹冠面積は15,500ヘクタールであり、前年に比べて4%増に当たる600ヘクタール増加した。

ちなみに、アボカドの面積も増加を続けている。2020年には、アボカドの樹園地面積は前年比8%に当たる350ヘクタール増加し、4,900ヘクタール以上となった。アボカドの増加は、主にノースランド地方とブレンティ湾地方で見られる。2020年6月までの1年間のアボカド輸出額は1億1,200万NZドルで、オーストラリアが主な輸出先であった。

27. オーストラリア 柑橘類産業を炭疽病から守る

FreshPlazaウェブサイト(2021年5月11日)

オーストラリアは、本土のすべての州でレモン、オレンジ、マンダリンを栽培している主要な柑橘類生産国である。オーストラリアでは約26,000ヘクタールで柑橘類が栽培されている。今、柑橘類の腐敗を引き起こす真菌のオーストラリア特有の株を特定した研究者らが、同国の柑橘類産業を保護するための効果的な対策を求めている。柑橘類の果実の表面の褐色で涙形の痕跡は、しばしば真菌性の病気である炭疽病の徴候だ。この病気は、世界中の22カ国の柑橘類産地で確認されており、柑橘類生産者にとって国際的な大問題である。

この病気は、収穫前の樹木の健康を損ない収量を低下させるとともに、収穫後には果実に褐色の病斑を生じて果実の市場性を低下させる。

オーストラリアの2017/18年度のオレンジ、マンダリン、レモン、ライム、グレープフルーツの生産額は7億8,600万豪ドルで、4億2,800万豪ドルの輸出を生み出した。主な輸出市場は、中国、日本、香港、マレーシア、インドネシア、アラブ首長国連邦、シンガポール、米国、タイである。

メルボルン大学の研究グループは、ビクトリア、クイーンズランド及びニューサウスウェールズの各州が保有する植物病理標本を用いて、ビクトリア州とニューサウスウェールズ州の柑橘類の葉、枝、果実の炭疽病病変のサンプルから採取されたコレトリウム属の真菌を分析した。

その結果、オーストラリアの柑橘類に感染する6種類のコレトリウム属の真菌を同定した。そのうち1つは新種で、最初に同定された国にちなんでコレトリウム オーストラリアヌム(*Colletotrichum australianum*)と名付けられた。

出典: pursuit.unimelb.edu.au

28. 米国西海岸 サクランボの豊作を予測

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年5月10日)

米国西海岸では、カリフォルニア州と北西部地域(ワシントン州及びオレゴン州)の両方がここ数年で最大の収穫量を予測している。

業界団体である北西部サクランボ生産者協会(NWCG)は、2021年の収穫量は史上3番目の豊作になると予測しており、今季最初の推定値は23万7,992トンである。一方、カリフォルニア州は史上最高であった2017年の水準に近い生産量を見込んでいる。

NWCGのBJ トルビー会長は、今後数ヶ月で収穫量は変わるかもしれないとしつつ、現在の兆候は収穫期間が長くなり地域によって特徴が出ることを示していると述べた。また、需要が強いので、供給過剰になる可能性は心配していないと述べた。

ワシントン州果樹委員会の委員長でもある同会長は、「ここ数年のサクランボの需要は際立っている。このため、いつものように、カリフォルニア州と北西部の両方で出荷した果実がダブつくことが無い十分な需要があることを期待している。国内市場と輸出市場の両方で、太平洋岸地域でこれから収穫される果実を吸収するだけの需要があると考えている」と述べた。

カリフォルニア州の最南端の産地では、5月の最初の週に収穫が始まった。

カリフォルニア州サクランボ諮問委員会の役員であるクリス・ザノビーニ氏はキャピタル・プレスに対し、「2021年のカリフォルニア州産サクランボが、質と量の両面で素晴らしいものになることを楽しみにしている」と語った。

ザノビーニ氏は、カリフォルニア州の出荷量予測は、947万箱(1箱18ポンド(≒8.2kg))で、過去最高であった2017年に近いと言う。

太平洋岸北西部の早い地域では、6月の初めまでに収穫が始まるはずである。

トルビー会長は、「6月1日までに始まるはずの収穫開始に向けて現在順調に進んでいるようだ。一部の早い地域では、5月28日に収穫が始まった昨年と比べて遅れは1日か2日だ。6月の前半2週間に収穫が始まる果樹園や地域が多いが、天候の影響を受けた園地があるため、累積収穫量の増加ペースは緩やかになる可能性がある。それでも6月末に近づくにつれて、昨年の出荷量を超えると予想している」と言う。

同会長は、6月下旬と7月4日の独立記念日の販売促進に向けた果実の供給には問題がなく、7月はひと月を通して供給量が多いと見ている。8月には、月末にかけて出荷量が減るものと予想される。

NWCGは、この出荷シーズンを支援するために、これまでにない最大の販売促進キャンペーンを実施することを明らかにした。このキャンペーンは、サクランボ(甘果オウトウ)の健康上の利点に焦点を当てて行う。

トルビー会長は、「北米では、オンラインで買い物する顧客の大幅な増加に対応するために、デジタルでの販売促進活動は依然として重要である。しかし、店舗で購入するかオンラインで購入するかにかかわらず、消費者は皆健康的な食事への関心を高めていると見られ、我々も同様に健康上の利点に焦点を当てた販売促進を行う」と述べている。

29. ニュージーランドの落葉果実事情(リンゴ、ナシ) 概要と図表)

米国農務省GAINレポート(2021年5月12日)

これは米国農務省海外農業局ウェリントン事務所(ニュージーランド)が作成した「生鮮落葉果実半期報告書」のエグゼクティブサマリー及び図表を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

また、同国の販売年度は1月1日から12月31日であり暦年と一致しますが、報告書原文では北半球諸国の報告様式に揃えるため、例えば2020年1月1日から12月31日までを2019/2020年度と表示しています。この翻訳では暦年で表示しました。

概要

ニュージーランドの2021年産リンゴは、当初の予測では史上最高に近い豊作が見込まれていたが、多くの要因が予想を押し下げており、生産量は前年比8%減の54万3千トンに落ち込むと推定される。これらの要因のうちの2つは、主要なリンゴ産地が広範囲にわたり降雪を伴う嵐の被害を被ったことと、夏の低温により全般的に小玉化したことである。

生産量の減少に加えて、収穫時の深刻な人手不足により、輸出への悪影響が増幅した。この人手不足は、ニュージーランド政府のCOVID-19対策によって引き起こされた。これには、入国時の14日間の義務的隔離枠の外国人短期労働者への割り当ての制限や国境の閉鎖などが含まれる。このため、果樹園では、輸出品質の果実の割合を最大化するために必要な、果樹園の区画ごとの適当な収穫回数を確保することができなかった。その結果、最終的にはすべてのリンゴが収穫されると予想されているものの、加工用に仕向けられる量が増えるものと見込まれる。これにより、2021年の輸出量は、2020年から14%減少し、34万5千トンに留まる見込みである。一方、2021年の加工仕向量は7%増加し、12万5千トンに達すると推定される。加工用を含む国内総消費量は、2020年より4%多い19万8,600トンと見込まれる。国内の生鮮消費量は、73,600トンでほぼ横ばいと推定される。

2021年のニュージーランドのリンゴ収穫面積は、2020年の推定10,180ヘクタールから1%強増加して、10,300ヘクタールと推定される。COVID-19に関連する不確実性のため、新規に園地を開拓して行う新植は成長率が鈍化する可能性が高いものの、既存園地の植え替えは引き続き力強いものと予想されるとの複数の報告がある。

2020年産リンゴの推計総生産量は、2019年より5%多い59万1,200トンに修正された。COVID-19による収穫・梱包作業の混乱は、実際に生産量を減らすことはなかった。前年比の増加は、収穫面積の拡大と良好な天候によるものである。2020年のリンゴの輸出量は40万1,200トンで、2019年から3%近く増加した。中国、香港、タイ、米国を除くほぼすべての輸出先国への輸出量が増加した。2020年のリンゴの国内消費量は19万638トンと推定され、2019年から10%増加した。リンゴの生鮮消費量は74,000トンで横ばいと推定される一方、加工仕向量は、生産量の増加と、輸出に適した品質の果実の割合の減少により、17%近く増の11万6,600トンと推定される。

ナシについては、2021年の生産量は11,700トンで、2020年の推定12,700トンから8%減少するものと見込まれる。収穫面積は350ヘクタールで横ばいと予想されるが、面積当たりの収量はリンゴと同じ理由で減少するものと予想される。2021年のナシの輸出量は2020年と同じ2,700トンと見込まれ、輸入量は4,000トンで2020年を9%下回るものの、過去5年間の平均と同程度と予想される。

図表

ニュージーランドの落葉果樹栽培面積(品種別)										単位:ヘクタール
品種名 \ 収穫年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
Braeburn	1,740	1,589	1,504	1,381	1,352	1,303	1,239	1,199	1,111	964
Cox	236	203	178	150	134	121	111	101	81	
Cripps Pink/Pink Lady	434	446	459	443	461	523	562	606	655	717
Dazzle										280
Envy	174	272	285	315	346	416	544	610	733	856
Fuji	970	934	906	832	837	858	831	854	848	822
Granny Smith	256	256	246	240	219	233	231	247	230	250
Honey Crisp							141	152	140	139
Jazz	983	943	905	869	855	825	821	807	844	868
Koru							120	150	160	150
Pacific Beauty	127	120	113	92	84	83	71	56	49	
Pacific Queen	291	351	456	622	730	827	878	880	862	859
Pacific Rose	399	396	390	379	364	365	342	321	260	227
Pacific 系品種小計	817	867	959	1,093	1,178	1,275	1,291	1,257	1,171	1,086
Rockit										272
Royal Gala & sports	2,423	2,369	2,386	2,337	2,410	2,549	2,604	2,708	2,859	2,853
その他の品種	376	385	484	709	790	707	643	759	972	817
リンゴ栽培面積合計	8,409	8,264	8,312	8,369	8,582	8,810	9,138	9,450	9,804	10,074
ナシ栽培面積合計	473	441	448	403	407	403	371	361	375	342
未登録面積				383	320	384	395	409	425	442
合計	8,882	8,705	8,760	9,155	9,309	9,597	9,904	10,220	10,604	10,858
リンゴ栽培面積に占める Braeburn の割合 (%)	20.7%	19.2%	18.1%	16.5%	15.8%	14.8%	13.6%	12.7%	11.3%	9.6%
リンゴ栽培面積に占める Royal Gala の割合 (%)	28.8%	28.7%	28.7%	27.9%	28.1%	28.9%	28.5%	28.7%	29.2%	28.3%

出典: NZAPI 調べ

注: 未登録面積には、現在輸出用の果実を生産していない栽培面積が含まれる。

(リンゴ)

ニュージーランドのリンゴ生産需給統計

(単位: ヘクタール、千本、トン)

リンゴ(生鮮) 販売年度 ニュージーランド	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
	2019 年 1 月～12 月		2020 年 1 月～12 月		2021 年 1 月～12 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	10,315	10,315	10,725	10,725	11,050	11,050
収穫面積	9,905	9,905	10,180	10,180	10,300	10,300
結果樹本数	0	0	0	0	0	0
非結果樹本数	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計	0	0	0	0	0	0
商業的生産量	560,000	560,000	584,000	588,200	580,000	540,000
非商業的生産量	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
生産量合計	563,000	563,000	587,000	591,200	583,000	543,000
輸入量	600	617	600	638	500	600
供給量合計	563,600	563,617	587,600	591,838	583,500	543,600
国内消費量	172,700	172,675	187,600	190,638	193,500	198,600
輸出量	390,900	390,942	400,000	401,200	390,000	345,000
非販売数量	0	0	0	0	0	0
仕向量合計	563,600	563,617	587,600	591,838	583,500	543,600

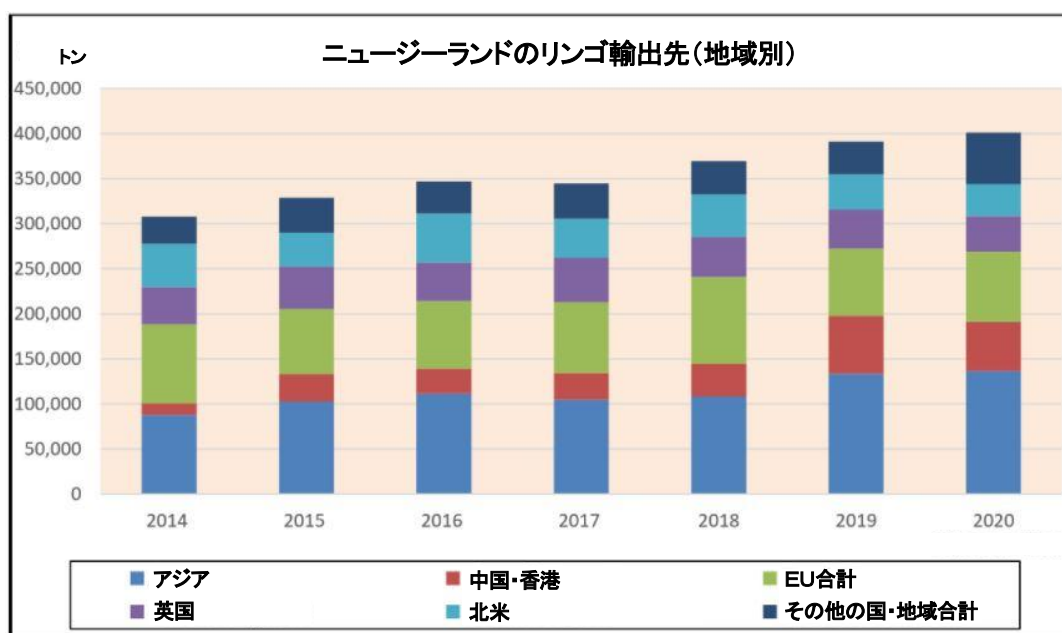
注: 収穫面積には非商業的収穫面積の推計値を含む。

ニュージーランドの生鮮リンゴ輸出価格								
トン当たりの平均 FOB 価格 - 米ドル及び NZドル								
区 分	暦 年					1 月～3 月		
	2016	2017	2018	2019	2020	2020	2021	増加率% 2021/20
平均世界価格 米ドル/トン	\$1,414	\$1,416	\$1,449	\$1,458	\$1,417	\$1,347	\$1,518	12.71
平均世界価格 ニュージーランドドル/MT	\$2,039	\$1,998	\$2,066	\$2,198	\$2,263	\$2,209	\$2,122	-3.94

出典: Trade Data Monitor 2019

ニュージーランドの生鮮リンゴ輸出統計								
輸出先	年間輸出数量(トン) (暦年)					1 月～3 月		
	2016	2017	2018	2019	2020	2020	2021	増加率% 2021/20
EU合計	75,040	78,310	96,280	74,496	77,947	9,570	7,496	-21.67
英国	42,925	49,237	44,665	43,299	39,449	3,242	2,302	-28.99
中国	17,491	16,586	22,171	45,015	38,406	9,604	10,795	12.40
ベトナム	8,316	13,311	18,149	25,874	31,965	4,164	4,496	7.97
米国	48,625	38,220	40,462	33,883	28,494	1,397	1,072	-23.26
台湾	32,183	23,673	22,437	20,858	26,901	2,810	2,696	-4.06
タイ	24,889	23,605	18,654	32,890	23,406	4,545	4,307	-5.24
インド	13,253	9,667	25,787	17,068	22,272	4,754	5,265	10.75
ロシア	5,757	8,168	8,152	8,992	21,443	3,421	4,980	45.57
アラブ首長国連邦	17,785	18,178	15,424	14,198	19,141	6,357	2,863	-54.96
香港	10,183	13,416	14,074	19,010	16,062	3,068	2,755	-10.20
その他の国・地域	50,466	52,559	43,134	55,359	55,702	6,899	6,144	-10.94
世界合計	346,913	344,930	369,389	390,942	401,188	59,831	55,171	-7.79

出典: Trade Data Monitor LLB



出典: Trade Data Monitor LLB

ニュージーランドの生鮮リンゴ輸入統計							
輸入先	年間輸入数量(トン) (暦年)					1月～3月(トン)	
	2016	2017	2018	2019	2020	2020	2021
米国	281	414	152	467	489	183	134
ニュージーランド(再輸入)	42	43	0	150	149	42	0
ポーランド	0	0	12	0	0	0	0
イタリア	0	25	0	0	0	0	0
世界合計	323	482	164	617	638	225	134

出典: Trade Data Monitor LLB

(ナシ)

ニュージーランドのナシ生産需給統計

(単位: ヘクタール、千本、トン)

ナシ(生鮮) 販売年度 ニュージーランド	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
	2019年1月～12月		2020年1月～12月		2021年1月～12月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	農務省公式	今回推計値	農務省公式
栽培面積	402	402	370	375	375	375
収穫面積	385	385	352	350	350	350
結果樹本数	0	0	0	0	0	0
非結果樹本数	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計	0	0	0	0	0	0
商業的生産量	12,385	12,385	12,500	12,500	12,500	11,500
非商業的生産量	200	200	200	200	200	200
生産量合計	12,585	12,585	12,700	12,700	12,700	11,700
輸入量	3,900	3,949	4,500	4,373	4,000	4,000
供給量合計	16,485	16,534	17,200	17,073	16,700	15,700
国内消費量	12,585	12,600	14,500	14,373	13,200	13,000
輸出量	3,900	3,934	2,700	2,700	3,500	2,700
非販売数量	0	0	0	0	0	0
出荷量合計	16,485	16,534	17,200	17,073	16,700	15,700

ニュージーランドの生鮮ナシ輸出統計								
輸出先	年間輸出数量(トン) (暦年)					1月～3月		
	2016	2017	2018	2019	2020	2020	2021	増加率% 2021/20
台湾	1,662	1,226	1,865	1,540	969	869	1,115	28.3
米国	1,121	1,072	1,264	673	503	202	44	-78.2
中国	45	326	497	647	206	111	126	13.5
英国	280	282	236	193	157	120	0	-100.0
EU合計	239	184	231	75	138	138	27	-80.4
トンガ	84	122	106	98	128	14	27	92.9
フィジー	251	101	137	199	126	77	52	-32.5
フランス領ポリネシア	93	83	68	90	97	15	14	-6.7
カナダ	112	105	122	137	97	81	0	-100.0
シンガポール	103	117	50	72	69	48	46	-4.2
その他の国・地域	622	167	236	210	210	103	140	35.9
世界合計	4,612	3,785	4,812	3,934	2,700	1,778	1,591	-10.5

出典: Trade Data Monitor LLB

ニュージーランドの生鮮ナシ輸入統計								
輸入先	年間輸入数量(トン) (暦年)					1月～3月(トン)		
	2016	2017	2018	2019	2020	2020	2021	増加率% 2021/20
オーストラリア	2,108	3,171	2,707	2,822	2,947	142	123	-13%
中国	505	718	500	576	864	125	218	74%
米国	513	572	359	455	464	20	0	-100%
韓国	106	93	84	97	73	0	0	0%
エクアドル	0	0	0	0	24	0	0	0%
イタリア	0	4	0	0	0	0	0	0%
世界合計	3,231	4,559	3,650	3,949	4,373	287	341	19%

出典: Trade Data Monitor LLB

30. オーストラリア 果物と野菜の豊富な食事がストレスを軽減

FreshPlazaウェブサイト(2021年5月14日)

エディスコーワン大学(ECU)(オーストラリア西オーストラリア州)の新しい研究によると、果物と野菜が豊富な食事を摂ることは、ストレスが少ないことと関係する。

この研究では、ベーカー心臓・糖尿病研究所の「オーストラリアにおける糖尿病、肥満とライフスタイルに関する研究」(AusDiab)に参加している25歳から91歳までの8,600人以上のオーストラリア人について、果物と野菜の摂取量とストレスレベルとの関連を調べた。

調査結果は、毎日少なくとも470グラムの果物と野菜を食べた人々は、230グラム未満の人々よりもストレスレベルが10%低いことを明らかにした。世界保健機関(WHO)は、1日に少なくとも400グラムの果物と野菜を食べることを推奨している。

この研究の中心となった同大学栄養研究所の博士課程大学院生シモーネ・ラダヴェッリ=バガティエーニ氏は、この研究は果物と野菜が豊富な食事と精神的な幸福感との関連性を強化するものだとし、「果物と野菜の摂取量が多い人は、摂取量が少ない人よりもストレスが少なく、食事が精神的な幸福感に重要な役割を果たしていることを示唆している」と述べた。(以下、「」内は同氏の発言)

重要性を増す課題

メンタルヘルス(精神面の健康)の状況は、オーストラリアでも世界でもますます問題となっている。オーストラリア人の約2人に1人が生涯にメンタルヘルスの問題を経験する。世界では、約10人に1人が精神衛生的な問題を抱えて生活している。

同氏によると、ある程度のストレスは正常と考えられるが、ストレスが長期間続くと精神的な健康に大きな影響を与える可能性がある。

「長期的で管理されていないストレスは、心臓病、糖尿病、うつ病、不安など様々な健康上の問題を引き起こす可能性があり、将来的にはメンタルヘルスの問題を予防し、できれば軽減する方法を見出す必要がある。」

健康的な食事の利点はよく知られているが、推奨されている1日に2サーブの果物食べているオーストラリア人は2人に1人だけであり、5サーブの野菜食べているのは10人中1人に満たない。

「これまでの研究では、若年成人について果物と野菜の消費量とストレスの関連が示されているが、すべての年齢層の成人で同様の結果が得られたのは初めてだ。この研究の成果は、人々がストレスを最小化する可能性を高めるため、果物と野菜が豊富な食事を摂ることが重要であることを強調している。」

食べ物と気分

果物と野菜の消費がストレスに与える影響の背後にあるメカニズムはまだ不明だが、同氏は、主要な栄養素が要因である可能性があると述べた。

「野菜と果物には、ビタミン、ミネラル、フラボノイド、カロテノイドなどの重要な栄養素が含まれている。これらの栄養素は、ストレスの増加、不安、気分の落ち込みにつながる可能性のある因子と考えられている炎症や酸化ストレスを軽減することができ、それによって精神的な幸福感を改善する。」

これらの研究結果は、食事に関するより多くの研究、特に具体的にどの果物と野菜がメンタルヘルスに最も利益をもたらすかの研究を促すものである。」

31. 世界のマンゴー市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年5月14日)

世界のマンゴー市場は、多くの輸入業者が仕入れ先産地を変える時期にあるため、各地で異なる様相を示している。オランダやベルギーなど市場価格の低迷に苦しんでいる市場もあれば、対照的にドイツでは価格が高騰している。北米市場への供給量は限られているが、アジア市場では供給過剰で価格が低下している。インドでは、驚くまでもないが、現在進行中のコロナ禍の影響で厳しい状況に直面している。



オランダ：スーパー向けの計画的な販売だけは順調

今週、コートジボワール産マンゴーの最後の荷が出荷された。先週初めに降り始めた雨のため、出荷は中途半端に終了した。そのこともあって、熟成の度合いが不揃いで、過熟の果実が市場に流入している。ドイツでは過去2週間、スーパーマーケットの特売は予定されていなかったが、スーパー向けの通常の計画販売は順調に進んでいる。オランダのある輸入業者は、販売契約の無い従来型の輸入業者は、マンゴーの持って行き場がなく困っていると見ており、このため契約の無い販売価格は40%下落した。来週末には販促活動が予定されており、売り上げの増加が期待される。ドミニカ共和国産のキーツ種及びブラジル産のキーツ種とパーマー種も、質の良いものは順調に売れている。

ベルギー：価格は一時期下落の後に横ばい

ペルー産マンゴーの出荷シーズンは終わり、コートジボワール産が最盛期である。ベルギーのある輸入業者は、「コートジボワール産は2週間前に入荷し始めたが、ペルー産の入荷もいつもより長く続いた。両国産はサイズ6と7の大きなものが多かった。しかし、すべての小売業者が大きなサイズを購入するわけではないので、価格はさらに下押し圧力にさらされた。大幅な下落の後、価格は現在再び横ばいだ」と言う。コートジボワール産の出荷シーズンは5月末ないし6月上旬まで続く。品質は良い。出荷シーズンはその後西アフリカ諸国に引き継がれる。前出のベルギーの輸入業者は、マンゴーの需要は一年中良好であり、いまだ成長商品であると言う。

ドイツ：アフリカ産のシーズン

ドイツのマンゴー市場は、ペルー産からコートジボワール産への切り替えで苦労している。ペルー産の取引は4月末に終わったが、コートジボワール産は当初の入荷数量が限られていた。現時点でも、供給がほとんどない卸売市場が多いため、価格は高めになっている。同時に、ケータリング業界の閉鎖のため、卸売販売

における熱帯果実の需要は、ここ数ヶ月間比較的低い水準にある。現在規制が緩和され始めたので、状況は今後短期的に変化する可能性がある。

イタリア：入荷量増加で価格が低下

現在、イタリアではマンゴーの消費が特別に多い。空輸されたマンゴーの市場は通常どおりであるが、海上輸送のマンゴーの市場は崩壊している。イタリア北部のある卸売市場の運営者は、「現在ブラジルから中程度の品質のマンゴーが空輸されている。また、コートジボワールから空輸されたマンゴーもあるが、品質が良く、価格は7ユーロ/kgに達している。南米から船で輸送されたマンゴーの価格は、約1.20～1.50ユーロ/kgと低く、主に価格重視の業者が買っている。最高品質のマンゴーを入手するには、イタリアとスペインの小規模業者が出荷を開始するまで2～3カ月待つ必要がある。これらは、物流の面でもメリットがある」と言う。

このミラノの卸売業者はさらに、「ブラジル産のトミートキンス種とパーマー種は、イタリアでは年中流通している。ペルー産とコートジボワール産については、イタリアで人気があるケント種を主に仕入れている。ここ数週間、昨年の同時期とは異なり、イタリアの市場は海上輸送されたマンゴーで溢れており、全体的に価格が下落した(2020年の10～11ユーロ/箱(4kg)に対し今年は7ユーロ)。空輸マンゴーの卸売価格は、適度な熟度のもので、45ユーロ/箱(5.5～6kg)程度である。価格が高いため、イタリアで最も高級な品物を取り扱う小売業者だけが店頭に置いている」と言う。

北イタリアの別の市場運営者も、空輸と海上輸送でコートジボワールからのケント種マンゴーの輸入が始まったと口を揃える。「コートジボワール産の入荷は、メキシコ産が始まるまであと約一カ月続き、その後、イスラエル産が続く。3週間ほど前には海上輸送のコートジボワール産が6.50～7.50ユーロしていたが、今はコートジボワール産ケント種は5.00ユーロ、トミー種は3.50ユーロである。この価格の低下は、海上輸送されたすべての産地のすべての品種に当てはまる。間もなく入荷が始まるドミニカ共和国産のキーツ種やブラジル産も、市場を一層溢れさせるため、価格は下落する。

すぐに食べられる状態でイタリアに輸入される生鮮カットマンゴーは、次第に重要になってきている。

英国：プレミアムマンゴーの需要が増加

最近、コートジボワール産のケント種が英国市場に入荷し始めた。価格は約1ポンド/kg(1ポンド≒154円)である。同様の価格でブラジル産のパーマー種とトミートキンス種も入荷している。

ペルー産のシーズンは数週間前に概ね終了し、数量、金額とも前年を約10%下回った。

市場の最上級プレミアム商品として、樹上完熟で空輸されたマンゴーの需要が増加している。これらのマンゴーの価格は、典型的には従来の海上輸送のものの4～5倍になることもある。これは、それらの果実が完熟するまで長い期間樹上に残され、収穫後は空輸してわずか2日で市場に送られるためであり、全体の出荷量は少ないものの、最上級のプレミアム商品として需要は伸びていると見られる。

スペイン：低価格の市場は月末まで続く見込み

スペイン産は現在オフシーズンであり、収穫は8月中旬まで始まらない。現時点では、ブラジル産がスペインの市場で太宗を占めており、終了間近のペルー産と競合している。コートジボワール産やメキシコ産の空輸ものなど他の産地のものも入荷している。スペインのある輸入業者によると、市場では現在品物がはけず、3月と4月には高かった価格が現在は最低水準にある。ただし、空輸のマンゴーは安定的に、はるかに良く売れている。業界関係者は、少なくとも5月中はマンゴーの市況は良くないと見ている。

北米：この1ヶ月マンゴーの供給が逼迫

カリフォルニア州のある輸入業者は、産地の気温が低かったため、小玉が多く、大玉は少ないと言う。現在、マンゴーはメキシコ南部のオアハカ、ゲレロ、ミチョアカン、ナヤリットの各州から入荷している。競合産地であるグアテマラとニカラグアからも入荷している。

これまでのところ、出荷は昨年のこの時期よりも進んでいる。上記の輸入業者は「現在はトミートキンス種とアトルフォ種を扱っており、5月にはケント種、8月にはキーツ種を出荷する」と言う。アトルフォ種(ハニーマ

ンゴー)は7月に終了する。

価格はこれまでのところ良好である。この輸入業者は、「去年の今頃は、色の黄色い品種は価格が低かった。しかし、今年はひとつの産地から次の産地へと出荷のタイミングが移っているため、価格は平準化している。今年の需要は、すべての品種、特に色の黄色い品種で非常に良い」と言う。

今後も、ミチョアカン、ハリスコ、ナヤリットの各州、その後にシナロア州南部からの出荷が続く。

インド産マンゴーの手配を専門とする輸入業者は、インド産マンゴーは米国農務省の事前検査をパスしたものだけが輸入できるが、去年はコロナ禍のために、検査官がインドに行って事前検査を行うことができないために輸入ができず、今年もこれまでのところ同じ状況だと言う。しかし、最近、米国農務省とインド政府との間で解決策を探る議論が行われている。この輸入業者は、「彼らは米国での検査が認められるように交渉している。一部の人々は、解決策が来週かそこらで合意されるのではないかと考えている」と言う。

通常、検査官は4月中旬にインドに到着し、出荷シーズンは6月末まで続く。もし、出荷することができたとしても、貨物運賃が通常の2倍から3倍しているために市場は限定される。一方、カナダではインド産マンゴーの輸入に制限がなく、この1ヶ月間、店頭でインド産マンゴーが見られる。

オーストラリア：課題はあるが一部の市場ではポジティブな成長

世界中のほとんどの他の産業と同様に、オーストラリアのマンゴー産業はコロナ禍の課題に直面しているが、それらの課題にもかかわらず、国内及び海外の市場に820万トレイのマンゴーが出荷された。これは業界の努力の証である。一部の市場への出荷量は地政学的な理由やコロナ禍のために減少したが、韓国などの他の市場で増加が見られた。業界は主要市場と緊密に協力して、海外市場へのオーストラリア産マンゴーの供給確保に努めた。

アジア：中国では供給過剰、台湾では悪天候で品不足

中国海南島産のマンゴーは出荷シーズンの終わりに近づいている。今年、海南島産マンゴーは出荷量が多く、市場に流入する果実の供給は需要を超えている。2月には開花時期が長引き、出荷が遅れたため、果実の供給は短期的に不足した。4月には大量のマンゴーが市場に流入し、供給過剰を引き起こした。これは現在も依然として続いている。価格は1～3元/500グラム(1元≒17円)であり、ほとんどの果樹農家が損失を出しており、販売業者は利益を上げていない。

台湾では、産地が過去60年で最悪の干ばつに見舞われたアイウェン(愛文)マンゴーの今季最初の荷が、今週中国市場に出荷される。総出荷量は少なくとも30%減少した。出荷は8月まで続く見込みである。

4月26日、中国税関総局は、カンボジアから中国にマンゴーを輸出することができる37の登録果樹園と5カ所の梱包施設のリストを公表した。カンボジアは5月7日、中国向け生鮮マンゴーの最初の荷を出荷した。

インド：収穫は始まったが、輸出はコロナ禍の問題に直面

収穫は適正な時期に始まった。今年は約6週間の出荷期間が見込まれ、これは昨年よりも良い。現在かなり需要があるので、販売業者は手ごたえを感じているようだ。この記事の北米の項で述べたように、インドから米国へのマンゴーの輸出に当たっては、米国農務省の検査官の立会いの下にマンゴーの放射線処理を行う必要があるが、コロナ禍のため、この立会いを行う検査官がインドに来ることができないという問題に直面している。これはインドのマンゴー輸出を大きく損なっており、両国政府はまだ交渉中であるが、近いうちにこの状況に関する良いニュースがあることが期待される。

南アフリカ：冬の季節で需要が少ない

南アフリカでは、果樹園が剪定されて休眠状態にあり、市場の需要も少ないため、マンゴー市場は現在オフシーズンにある。輸入に関しては、モザンビークからの出荷の終了をもってアフリカ産のシーズンが終わり、一方、エジプト、スペイン、イスラエルなど、(北半球の)夏の初めに南アフリカのマンゴーシーズンを先導する輸出国では、まだ南アフリカへの出荷が始まっていない。

32. エクアドル バナナがフザリウムに襲われるのは時間の問題

FreshPlazaウェブサイト(2021年5月17日)

フザリウム菌とバナナには、数十年に及ぶ歴史がある。フザリウム菌TR4はすでに20数カ国に影響を与えており、現在エクアドルのバナナとプランテイン(料理用バナナ)の産業全体に脅威を与えている。治療法はまだ見つかっていない。GinaFruit社のウゴ・カストロ氏は、「バナナは原油に次いでエクアドル第2の輸出品であり、バナナの輸出が打撃を受けることがあれば、その影響は大きい」と言う。(以下、「」内は同氏の発言)

中南米では、2019年にコロンビアで、またほんの何週間か前にはペルーで、フザリウム菌のTR4変異株が検出された。エクアドル国内の一部のバナナ園は、4月12日にこのカビの仲間の病原体が確認されたペルー北部地域から300キロも離れていない。エルオロ州の州都であり、バナナ主産地の商業的中心地であるマチャラ市は、ペルーとの国境からわずか45分の距離にある。

「エクアドルがTR4の影響を受けるのは、今後数ヶ月か1年の問題だ。ペルーはエクアドルの主要貿易相手国であり、タマネギ、米、ジャガイモなどを積んだトラックが毎日入ってきて、農産物とともに多くの土やほこりを運んでくる。これらの作物はTR4に感染しないが、病気を運んで他の作物に広める可能性がある。」

政府の措置は厳しいが、一致団結した取り組みが欠如

政府は厳しい措置を講じ、すべての国境に検問所を設置している。トラックの積み荷は一つずつチェックされており、トラックやコンテナの殺菌のほか、茎や葉などを含むバナナの輸入にはより厳しい植物衛生規則が適用されている。さらに、フザリウム菌について教育するためのオンライン会議が開催されている。

「弊社ができることは、たくさん消毒し、セキュリティ対策を実施することだ。また、熱帯雨林やグローバルギャップに関連する弊社の規則によって、すでに多くの手順を順守している。例えば、各農場にはそれぞれの道具や資材があり、その農場から持ち出すことはない。また、トラック用の消毒設備や、人用の消毒ゲートも用意している。」

しかし、同社やエクアドルのバナナ農場のほとんどを取り囲む小規模農家では、一般的に情報が不足しており、園地に入ってくるものを把握していない。「情報不足は農民がニュースを読んでいないためかもしれないし、単に適切な手順を実行する経済力がない可能性もある。残念ながら、エクアドルのバナナ産業には、生産者、輸出業者、政府が一堂に会して計画を立てるような一致団結した取り組みが無い。」

フザリウムの脅威に対処し共に生きる

オーストラリアやフィリピンなど一部の国は、すでに20～30年間フザリウムTR4に対処している。「それらの国ではこの病気の扱い方を知っていて、共に生きる術を習得した。解決策の一つは、より多くの知識とベストプラクティスを互いに共有することであり、訓練と教育のためにこちらの人々を向こうに送ることである。もう一つの解決策は、フザリウムに耐性のある新しいバナナ品種を開発することだが、これには何年もかかるかもしれない。」

市場はいたる所に

「コロナ禍とフザリウム関連の不確実性が相まって、取引は以前のように活発でなく停滞している。需要はあるが、人々はリスクを取らず、安易に流れている。「弊社の経営もその日暮らしになっている。」同社の長年の得意先である西ヨーロッパとアジアの要求の厳しい小売業者は、相変わらず健全に営業しているが、発注のペースや数量は落ちている。「これら2つの大陸以外にも市場はあちこちにある。弊社の営業チームは、これまで以上に電話に張り付き、様々なニーズ、仕様、国に対応している。」

訳注: エクアドルは、世界一のバナナ輸出国であり、日本のバナナ輸入先としてはフィリピンに次いで第2位です。

33. 南半球 2021年の柑橘類輸出は増加の見込み

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年5月18日)

最近初めての年次総会をオンラインで開催した世界柑橘類機関(WCO)(2019年10月設立)によると、アルゼンチン、オーストラリア、ボリビア、ブラジル、チリ、ペルー、南アフリカ及びウルグアイの合計では、柑橘類の生産量は前年比3%増の2,270万トンと伸びが小さいが、輸出量は13%増の380万トンと見込まれる。

ソフト柑橘類は生産量が11%増と最も増加し、輸出量は20%以上増加して100万トンに達すると見込まれる。また、オレンジ(+2%)とレモン(+2%)の生産量がおおむね横ばいである一方、グレープフルーツ(+6%)の伸びはこれらよりも大きい。輸出量は、オレンジ(+12%)、レモン(+7%)、グレープフルーツ(+10%)のすべての品目で増加すると予想される。

フィリップ・ビナールWCO事務局長は、「COVID-19パンデミックの発生後、果実と野菜に対する消費者需要は増加傾向が見られ、特に柑橘類の果実については、ビタミンC含有量を始めとするその高い栄養価が広く認識された。出荷量が多いことは、需要に対応する上で良いことだ」と述べた。加工の面では、合計1,340万トンの柑橘類が果汁市場に向かうと予想されており、これは前年比1%の微増である。

WCO技術事務局のエリック・アンベール氏は、「南半球の柑橘類の輸出は、特にレモンとソフト柑橘類で引き続き伸びている。今日、南半球は世界の柑橘類市場の27%を占めている」と述べた。

年次総会では、コロナ禍の影響に焦点を当てて前シーズンの結果を評価するとともに、今シーズンの見通しを分析した。さらに、WCOのナタリア・サントス事務局次長が、「加盟団体は健康と栄養に関する正式なワーキンググループを設立することを決定した。これによって柑橘類の栄養価値に関する加盟団体間の一層の知識交換が可能となり、柑橘類の健康面の特性についての理解の深化に役立つ。WCO健康と栄養フォーカスグループの最初の会合は、2021年の後半に開催される」と発表した。(記事の一部を省略しました。)

34. ブラジル 水不足がオレンジの供給に影響か

FreshPlazaウェブサイト(2021年5月18日)

ブラジルは世界最大のオレンジ果汁輸出国であるが、ほとんど雨が降らないまま雨季が終わった。従来からの主要農業地帯である中南部地域では、地面は干上がり、河川の水位は低くなっている。干ばつが非常に深刻なため、農家は乾季となる今後数ヶ月間のうちに、作物の枯死を防ぐために必要な貯水池の水を使い果たしてしまうのではないかと心配している。

オレンジの木が枯れるかもしれないという見通しは、農作物が数年ぶりの高値に達し、食料インフレの懸念をあおっている最中に示された。食料価格の上昇は、パンデミックによって一層加速化された世界的な問題である飢餓を悪化させる可能性がある。

もし灌漑された地域でさえ十分な水を得ることができなければ、ブラジルのオレンジ生産量は2年連続で減少する可能性がある。ブラジルの今季(6月まで)のオレンジ生産量は、前年に比べて31%減少し、減少幅は過去33年間で最も大きかった。ブラジルのオレンジは、栽培面積の約30%が灌漑されている。

干ばつはブラジルのこの時期にはよく見られるが、今年は通常よりも長く続く予想され、懸念が高まっている。気象予報会社の専門家は、次の雨季の始まりは、通常の9月ではなく、10月から11月になると言う。

出典: bloombergquint.com

訳注: ブラジル産オレンジの輸出は大部分が果汁であるため、上半分の記事にある生鮮輸出量への影響は大きくありません。

35. チリの落葉果実事情(生食用ブドウ)

米国農務省GAINレポート(2021年5月18日)

これは米国農務省海外農業局サンチャゴ事務所(チリ)が作成した「生鮮落葉果実半期報告書」の生食用ブドウの項を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

<生食用ブドウ>

表1 チリの生食用ブドウ生産需給統計

生食用ブドウ(生鮮) 販売年度 チリ	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
	2018年10月～2019年9月		2019年10月～2020年9月		2020年10月～2021年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	47,800	47,800	47,834	47,834	45,489	45,489
収穫面積	45,900	45,900	46,000	46,000	44,000	44,000
商業的生産量	830,000	830,000	780,000	780,000	780,000	615,000
非商業的生産量	4,600	4,600	4,600	4,600	4,500	4,700
生産量合計	834,600	834,600	784,600	784,600	784,500	619,700
輸入量	400	400	300	300	300	300
総供給量	835,000	835,000	784,900	784,900	784,800	620,000
生鮮国内消費量	180,500	180,500	174,900	174,900	164,800	145,000
輸出量	654,500	654,500	610,000	610,000	620,000	475,000
非販売数量	0	0	0	0	0	0
総仕向量	835,000	835,000	784,900	784,900	784,800	620,000

単位: ヘクタール、トン

出典: サンチャゴ事務所推計

生産

2020/21販売年度(以下「年度」)のチリの生食用ブドウ栽培面積は45,489ヘクタールで、2019/20年度から4.9%減少した(図1)。当事務所は、2020/21年度の生産量は合計61万5千トンで、2019/20年度に対して21%減少すると見積もる(表1)。この低下は、主に夏の予期せぬ降雨と生食用ブドウ栽培面積の減少によるものである。2020/21年度の冬から春にかけては天候が良かったが、2021年1月(チリでは夏)の最後の週末に豪雨があり、収穫間近の生食用ブドウが被害を受けた。豪雨によって、裂果が生じたほか、真菌類感染リスクの増大や樹木の倒壊による被害が発生した。

リンゴなど他の果実は、殺菌剤の使用を要するものの降雨の影響に耐えることができるが、それらに比べて生食用ブドウは降雨による損傷を受けやすい。影響を受けた果樹園は、生食用ブドウ栽培面積シェアの大きいバルパライソ州、首都州及びオイギンス州に位置している(表2)。降雨量は、影響の少ない地域で25ミリ、オイギンス州の最も影響を受けた地域では最大70ミリであった。アタカマ州とコキンボ州で生産される早生種の生食用ブドウは影響を受けなかったが、オイギンス州の生産者団体からは、同州内の果樹園で最大80%の損失が生じたとの報告があった。

表2 生食用ブドウ栽培面積(地域別)

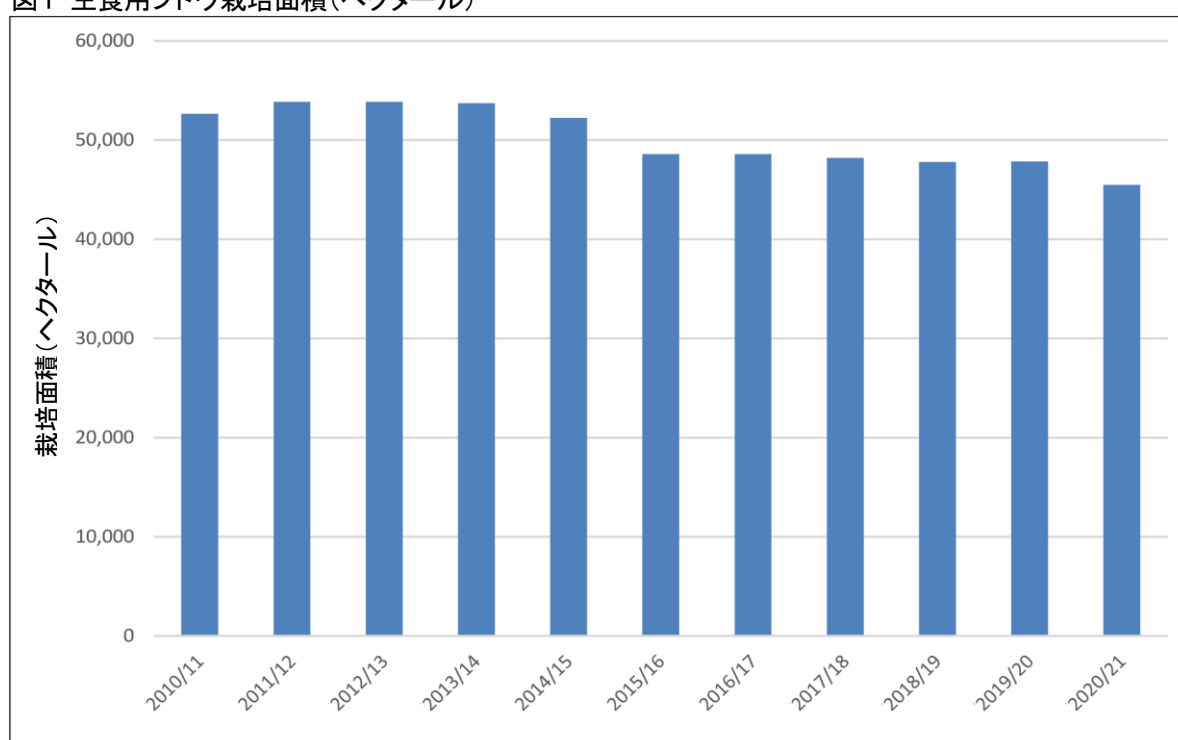
単位: ヘクタール

州	栽培面積 2020/21年度	シェア(%)	増減率* (%)
アタカマ	6,836	15%	-11.8%
コキンボ	8,159	18%	-6.5%
バルパライソ	9,970	22%	-10.9%
首都	6,848	15%	-14.1%
オイギンス	13,435	30%	8.7%
マウレ	241	1%	16.7%
合計	45,489	100%	-4.9%

*増減率は、公式な果樹統計データがある直近3年間の変化率である。

出典: 農業省農業政策研究所(ODEPA)のデータに基づく

図1 生食用ブドウ栽培面積(ヘクタール)



出典: ODEPA, 2021

消費:

当事務所は、2019/20年度の国内消費量を、生産量の24%に当たる14万5,800トン(表1と一致しないが原文のまま)と見積もる。

政策:

チリ農業省農畜産局(SAG)は、ブドウ蛾(学名:*Lobesia botrana* (和名:ホソバヒメハマキ))に対する2020/21年度全国防除計画を実施している。この対策は、チリの生食用ブドウ産地すべてにおいて必須である。

チリのシステムアプローチによる米国向け生食用ブドウ輸出の要求は、米国農務省動植物検疫局の評価待ちとなっている。

貿易:

当事務所は、2020/21年度の生食用ブドウの輸出量について、1月下旬の降雨による被害を考慮し、前年比22%減の47万5千トンと推計する。

2月までのデータでは、2020/21年度のブドウ輸出は、前年度の11万8,089トン、1億9千万ドルに対して、21%減少した(表2及び表3)。

米国は、チリの生食用ブドウ輸出の46%を占め、引き続き主要市場である。2019/20年度の米国への生食用ブドウ輸出は合計27万5,495トンで、前の年度に対して6.7%減少した(表2)。

中国は、チリの生食用ブドウの第2の市場であり、2019/20年度には前年比5.1%増の11万1,819トンを輸出した。2019/20年度には、オランダと英国への輸出はそれぞれ17.9%及び8.0%増加した。

表2 チリの生食用ブドウ輸出品目コード:080610、ブドウ、生鮮

輸出先	品目コード:080610、ブドウ、生鮮					
	暦年(輸出量 トン)			11月~2月(輸出量 トン)		
	2019	2020	増減率(%)	2019年11月 ~2020年2月	2020年11月 ~2021年2月	増減率(%)
世界合計	654,516	604,561	-7.6%	149,552	118,089	-21.0%
米国	295,149	275,495	-6.7%	108,603	84,476	-22.2%
中国	106,391	111,819	5.1%	5,312	4,035	-24.0%
オランダ	29,946	35,308	17.9%	2,157	1,994	-7.6%
英国	24,641	26,606	8.0%	1,765	1,038	-41.2%
韓国	41,129	24,491	-40.5%	8,083	7,815	-3.3%
カナダ	15,659	16,398	4.7%	4,473	3,366	-24.7%
メキシコ	15,839	13,709	-13.4%	4,263	2,220	-47.9%
日本	13,548	12,308	-9.2%	7,069	5,334	-24.5%
ロシア	11,318	11,002	-2.8%	653	789	20.8%
エクアドル	8,212	9,625	17.2%	1,500	1,518	1.2%
スペイン	9,073	7,903	-12.9%	926	1,252	35.2%
サウジアラビア	6,650	7,052	6.0%	222	268	20.7%
台湾	3,790	5,088	34.2%	283	367	29.7%
ブラジル	9,170	4,943	-46.1%	458	277	-39.5%
ドイツ	8,680	4,871	-43.9%	578	375	-35.1%
その他の国	55,321	37,943	-31.4%	3,207	2,965	-7.5%

データの出典: Trade data monitor, LLC

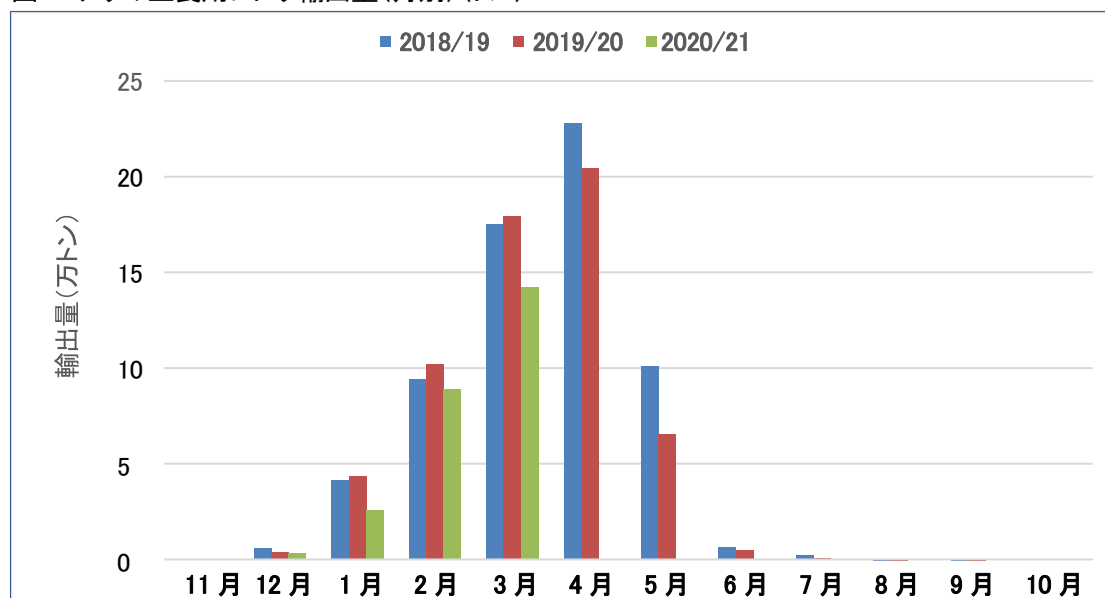
表3 チリの生食用ブドウ輸出額

輸出先	品目コード:080610、ブドウ、生鮮					
	暦年（輸出額 米ドル）			11月～2月（輸出額 米ドル）		
	2019	2020	増減率(%)	2019年11月～ 2020年2月	2020年11月～ 2021年2月	増減率(%)
世界計	952,780,911	926,221,114	-2.8%	238,446,382	189,610,276	-20.5%
米国	393,976,002	382,436,706	-2.9%	157,898,415	118,263,557	-25.1%
中国	154,732,212	186,676,292	20.6%	9,381,078	7,299,822	-22.2%
韓国	84,320,451	56,577,540	-32.9%	20,837,760	20,479,161	-1.7%
オランダ	36,191,878	45,295,153	25.2%	2,896,849	3,093,734	6.8%
英国	40,549,099	44,060,556	8.7%	3,101,876	1,924,247	-38.0%
カナダ	23,179,142	24,915,288	7.5%	7,141,162	7,745,481	8.5%
メキシコ	25,053,079	22,721,460	-9.3%	7,494,601	3,341,429	-55.4%
日本	20,758,452	22,521,017	8.5%	14,863,494	12,305,314	-17.2%
ロシア	16,508,118	16,744,751	1.4%	1,153,976	1,399,432	21.3%
エクアドル	12,679,786	15,163,986	19.6%	3,142,832	2,985,709	-5.0%
スペイン	14,052,125	13,217,362	-5.9%	1,742,146	2,343,746	34.5%
サウジアラビア	10,472,567	11,138,919	6.4%	379,455	498,403	31.3%
台湾	7,452,574	9,883,607	32.6%	849,082	969,006	14.1%
ブラジル	13,495,034	6,792,631	-49.7%	717,366	489,803	-31.7%
ドイツ	12,607,964	6,485,113	-48.6%	577,192	360,828	-37.5%
その他の国	86,752,428	61,590,733	-29.0%	6,269,098	6,110,604	-2.5%

データの出典: Trade data monitor, LLC

チリ農業省農業政策研究所(ODEPA)のデータによると、2021年3月の生食用ブドウ輸出は前年同月比20.42%減の14万2,566トンとなり、チリの生食用ブドウ輸出の減少傾向が確定した(図2)。

図2 チリの生食用ブドウ輸出量(月別)(トン)



出典: ODEPA

36. 台湾 今年のパイナップル輸出は日本が6割

FreshPlazaウェブサイト(2021年5月17日)

台湾は今年これまでに18,222トンのパイナップルを輸出し、そのうち11,286トン(61.9%)が日本に出荷され、過去10年間に同国に輸出された合計を上回った。これは行政院農業委員会(COA)(農業省に相当)が公表したもので、韓国と米国もパイナップルの新しい市場であると付記した。

中国が3月に台湾産パイナップルの輸入を停止した後、同委員会は他の輸出チャネルの拡大に取り組んできた。同委員会のリン・チアチュン(林家榮)国際局長は、今年は3万トンのパイナップルを輸出することを目指していると言う。

出典: taipeitimes.com

37. ジョージア国 キウイフルーツの主な輸出先は日本とドイツ

FreshPlazaウェブサイト(2021年5月20日)

キウイフルーツは、世界的な果物・野菜の貿易で最もトレンドな品目の一つだ。その消費は急速に増えている。過去5年間(2015～2019年)、世界のキウイフルーツ貿易は1年当たり7%、すなわち2億1,790万ドルの成長を遂げた。これは、果物とベリー類の世界の貿易の成長率において、キウイフルーツはブルーベリー、アボカド、サクランボ、ラズベリー、ドリアン、マンゴーに次ぐことを意味する。

ジョージア国(ロシア語名グルジア。以下「ジョージア」)は、その地域(旧ソ連)で唯一キウイフルーツが商業的にある程度大量に生産されている国である。ウズベキスタンや比較的寒いウクライナでも初めてのキウイフルーツ農園が出現している。

ジョージアは最近キウイフルーツを出荷し始めたが、この作物の栽培については10年以上の経験がある。同国統計局のデータによると、ジョージアのキウイフルーツ生産量は過去5年間で50%増加し、1,500トンに達した。

ジョージアのキウイフルーツは、主に小さな産地の、平均耕地面積1ヘクタール未満の小規模農家によって生産されている。キウイフルーツ生産者は、地元の市場で収穫物を販売し、消費者と中間業者がそれを購入している。ジョージアの小規模なキウイフルーツ生産者の主な問題は、生産を拡大したり、冷蔵施設を整備したりするための資金の不足である。実際に、(冷蔵施設が無い)ため収穫期には市場への供給が急激に増大し、価格が下落する。

ネルゲタ社はジョージア最大のキウイフルーツ生産者の一つであり、サメグレロ地方(同国西部)に約30ヘクタールのキウイフルーツ園を所有している。これにより同社は、ドイツのLidl社が系列店にジョージア産キウイフルーツを導入したEUやさらに日本において、輸出市場での量と品質を保証することができる。

east-fruit.com によると、日本はジョージア産キウイフルーツの主な販売先で、2016年以降、同国のキウイフルーツ輸出の約70%が日本市場に出荷されており、これはその特有の品質の証となっている。日本は、その市場に供給される産品に最高の品質と安全性を求める国である。また、日本の消費者は、特有の品質を有する果物については高い価格をこころよく受け入れる。同時に、日本はキウイフルーツの世界第2位の輸入国であり、ジョージアの輸出業者も然るべく輸出の優先順位を設定している。ジョージア産果実の旧来の販売先であるロシアでは、世界的な傾向に反してキウイフルーツの輸入が減少している(原文のまま)。

38. 米国産サクランボ 北西部は下方修正、加州は豊作か

北西部 収穫量の第2回推計は6%低下

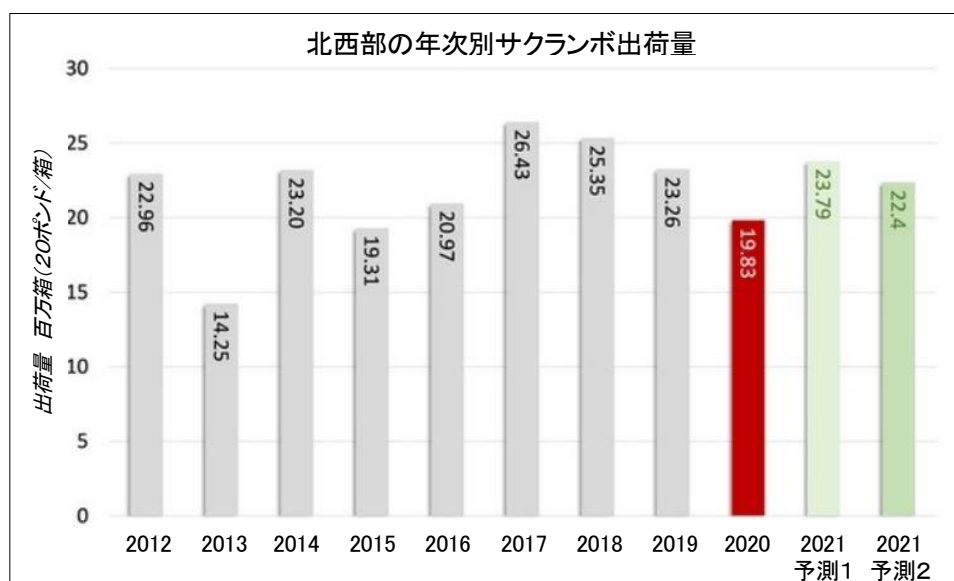
FreshPlazaウェブサイト(2021年5月25日)

米国北西部サクランボ生産者協会のは場調査チームは、北西部の2021年産サクランボの第2回生産量予測をとりまとめた。第1回の推計に引き続き、この22人の調査チームは、彼ら自身の果樹園と周辺の園地の状況を観察し、開花に続く着果期の変化に基づいて地域の概要をまとめた。

各調査員は、受け持ちの地区のデータを提出し、そのデータは北西部のサクランボ産地ごとの推計を行うモデルに組み込まれる。第1回推計と同様に、モデルには過去のデータ、日々の気温の推移、栽培面積の変化、市場動向、加工需要及びほ場内の評価データが含まれ、さらに調査チームの入力データも加えてこれから始まる出荷シーズンの収穫量を予測する。

2021年産の第2回推計は、収穫量を22万3,723トン(ショートトン $\div$ 0.907メートルトン)と算出した。これは、このチームの第1回推計値から6%の減少となる。また、5月19日の北西部5州の生産者会議で示された推計値2,216万5千箱(1箱20ポンド(約9.07kg))に驚くほど近い値となっている。

(以下、月別、品種別等の詳細を省略しました。)



カリフォルニア州 収穫の最盛期で豊作の予想

FreshPlazaウェブサイト(2021年5月26日)

カリフォルニア州のサクランボ出荷のピークシーズンが到来し、生産者は、晴天で乾燥した春の天候のおかげで品質がよく、この数年で最高水準の生産量になるかも知れないと言う。

2021年のカリフォルニア州産サクランボの出荷量は、当初947万箱(1箱18ポンド(約8.2kg))と推定されていたが、過去最高の955万箱を収穫した2017年を上回る可能性が出てきた。しかし専門家らは、シーズンの早い時期にうけた熱波と風による損傷が果実のサイズと出荷量に影響を与える可能性があると言う。

カリフォルニア州サクランボ委員会のクリス・ザノビーニ委員長は、出荷量は少なくとも800万箱を上回ると言う。これは、658万箱を出荷した昨年を含む過去2年を上回る。同氏は Agalert.com に対し、収穫のピークは6月6日まで続くと述べた。

39. ニュージーランド ゼスプリのキウイが記録的な高収益

EUROFRUIT電子版(2021年5月27日)

売上増加とサンゴールドキウイフルーツの生産拡大が、2020/21年度の記録的な成果を生んだ。

ゼスプリはますます力を付けており、2020/21年度にすべての商品で1トレイ当たりの収益が最高となったと報告した。同社によると、この記録的な成果は、売上の増加、サンゴールドキウイフルーツの出荷量の引き続きの拡大、果実の品質の高さによるほか、国際的な需要に支えられて達成された。

5月27日に発表されたゼスプリの2020/21年度決算によると、世界での果実販売による収入は前年比14%増の35億8千万ニュージーランドドル(以下「NZドル」(1NZドル≒80円))に達した。また、世界での総営業収入は16%増の38億9千万NZドル、世界での販売量は前年比10%増の1億8,150万トレイであった。直接の収益は、COVID-19パンデミックによって生じたかなりの不確実性にもかかわらず、15%増加して22億5千万NZドルとなった。

報告書は「プレントゥ湾、ノースランド、ネルソン、ギズボーン、ワイカトの各地方をはじめとする多くの地域で収益を上げており、全国の人々、地域社会、企業の支えとなっている」としている。

同社の報告によれば、1トレイ当たり及び1ヘクタール当たりの平均収益は、「ゼスプリグリーン」で7.51NZドル及び76,722NZドルで、「ゼスプリオーガニックグリーン」では10.53NZドル及び66,453NZドル、「ゼスプリサンゴールドキウイフルーツ」では12.46NZドル及び17万7,846NZドル、「オーガニックサンゴールドキウイフルーツ」では15.36NZドル及び15万8,599NZドルに達した。一方、ゼスプリのニュージーランド産以外の果実の売上高は4億7,280万NZドルに増加し、税引き後の純利益は2億9,050万NZドルで、前年の2億80万NZドルから増加した。

ゼスプリのブルース・キャメロン会長は、この成果は、ゼスプリキウイフルーツに対して世界中で続く強い需要を反映しており、需要と供給を増やすための業界の努力と投資によって後押しされたものだと、 「事業運営に大きな変更を加えることを余儀なくされたシーズンであり、従事者の安全を確保し、世界に果実を供給し、将来に向けて投資を続けることに焦点を当ててきたが、業界にとって励みとなるこのような結果を得られ喜ばしい。『ゼスプリグリーン』と『ゼスプリサンゴールド』の両方の需要が増加しているほか、最新の品種である『ゼスプリレッド』への関心の高まりを嬉しく思う。後者は、技術革新を進め、ニュージーランド内外の生産拠点の価値を向上させる新たな方策を追求するために現在進めている投資の成果である」と述べた。

ゼスプリのダン・マシソン最高経営責任者(CEO)は、2020/21年度の販売シーズンは、価値ある商品を市場に届け、新しい消費者を引き付け、地域社会(産地)を支援する上でのゼスプリブランドの強みをあらためて示したとして、「関係者の団結により、世界中の極めて困難な状況に効果的に対応することができた。この対応は、ゼスプリブランドへの投資、世界中の取引先や消費者との間で築き上げた信頼関係、さらに我々のサプライチェーンと販売・流通チームの苦境からの回復力と適応力に支えられている。すべてのゼスプリ関係者とサプライチェーン関係者の努力は非常に重要であり、我々は、世界中で進行中のCOVID-19の影響に今も対処し続けているチームのメンバーとその対処の仕方を大変誇りに思っている」と強調した。

同CEOは、イタリア、フランス、日本、韓国のパートナー生産者の高い収益性を挙げて、ニュージーランド以外から供給される(ゼスプリブランドの)果実の売上の伸びについて特に言及し、「これらの生産拠点は、ゼスプリの通年供給戦略の要である。通年供給が意味することは、消費者は一年中商品を手にすることができ、店頭の販売スペースと小売業者との関係を維持し、我々が作り出す国際的な需要の増加からゼスプリの生産者が得る利益を最大化することを保証し、マーケティングとプロモーションの支出をより効率的にし、ニュージーランドと世界中の生産者に一層の収益を提供するということだ」と述べた。

40. ベトナムの対日果実輸出

対日輸出には成長の余地

FreshPlazaウェブサイト(2021年5月26日)

ベトナムからの輸出は、日本の輸入需要全体のわずか2.7%を占めているに過ぎない。このため、産業貿易省(MoIT)は、ベトナムは日本市場での成長の余地があるものと見ている。

同省アジア・アフリカ市場局のグエン・ドゥイ・キエン氏によると、ベトナムの対日輸出は近年急速に増加したが、依然として日本の総輸入量に占める割合はごくわずかだ。日本は同国にとって、中国と米国に次ぐ第3位の輸出市場である。

同局によると、バナナは日本向け輸出の余地が大きい。同氏は thestar.com.my に対し「日本は年間10億ドルのバナナを輸入しているが、ベトナムからの輸出は300万ドルに過ぎない。日本が輸入するバナナの90%(原文のまま)はフィリピン産だ。ベトナムから日本への輸出を増やす余地はまだ大きい」と語った。

日本は高所得の先進国であるため、市場では品質に対する要求に加えて、環境への配慮、安全性、豊富で多様なデザインへの関心が高まっている。

日本に20トンのライチを輸出

FreshPlazaウェブサイト(2021年5月27日)

今週、北部のバクザン省で収穫された2021年産最初のライチのうち、20トンが日本に出荷された。ベトナム随一の産地であるバクザン省のライチが日本に輸出されるのは今年が2年目である。

ライチは同省のタンイエン地区で栽培され、2つの食品商社を通じて出荷された。両社は、今年は空路と海上でバクザン省のライチを日本に輸出するとしている。タンイエン地区では1,300ヘクタールでライチを栽培しており、今年は14,000トン収穫の見込みである。早生種の収穫シーズンは6月中旬まで続く。

日本の農林水産省が定める規則により、ベトナムから輸出される農産物の植物検疫証明は日本の専門家が直接監督しなければならない。しかし、パンデミックの間、日本の専門家がベトナムに来ることができないため、日本はベトナムの植物防疫局がそれを行うことを許可した。

e.vnexpress.net によると、ベトナムは今年、中国、日本、オーストラリア、EU、米国に2万トンのライチを輸出することを目指している。

日本がさらに2つのライチ処理施設を認可

FreshPlazaウェブサイト(2021年5月31日)

日本はティエウ品種ライチの産地であるハイズオン省で、さらに2つのライチ処理施設を認可した。これは、日本市場へのライチ輸出を促進するためのものである。農業農村開発省の植物防疫局によると、これらの施設は5月29日に日本向け輸出用ライチの処理を開始した。

これらの2つの処理施設は、アメイ・ベトナム合資会社とロン・ド有限責任会社が所有しており、一度に2.5～3トン処理できる処理室を3つ備えている。

日本は最近までに、日本向け輸出用のライチ処理施設として地域の4団体が運営する4施設(5処理室)を承認しており、総処理能力は昨年よりも何倍も多い1日35～40回に増加した。2020年には、日本向けライチは毎日7.5～8トンしか処理できなかった。

出典: en.nhandan.org.vn

41. 米国 米日貿易協定における果実の取り扱いと展望

米国農務省GAINレポート(2021年6月1日)

これは米国農務省海外農業局東京事務所が作成した報告書を訳したものであり、米国政府の公式見解とは異なる場合があります。

米日貿易協定(USJTA)が発行して16カ月が経過するが、日本の会計年度では2021年4月1日から協定実施の「第3年度」に入った。この報告は、特定の品目ごとの第3年度(2021年度)から第5年度(2023年度)までの関税上の利益に関する一連の報告の一つである。追加情報は www.usdajapan.org/usjta/ を参照

概要: 米国は2020年に3億1,500万ドルの生鮮果実を日本に輸出し、日本は米国産生鮮果実の海外市場として第4位であった。米国は、日本の生鮮果実輸入全体の14%を占めた。

セーフガード: 日本は26,435トンを超える米国産オレンジの輸入に対して、季節的なセーフガードを適用する。この保護措置は、12月1日から3月31日の間に輸入される貨物にのみ適用される。セーフガードの発動基準数量を超えると、セーフガード税率がその年度の残りの期間の米国産オレンジ輸入に対して適用される。セーフガード税率は第1年度から第3年度までが28%、第4年度から第6年度までが20%であり、第7年度(2025年度)に廃止される。

市場に関する考察: 日本は生鮮果実の3分の1を輸入しており、米国は第2の輸入先である(生鮮のオレンジ、レモン、ブドウ、サクランボについては首位)。日本の果樹農業は極めて競争力が高いが、国内の生産量が減少しているため、米国産生鮮果実の日本への輸出機会は増大するものと予想される。日本に輸入されるすべて生鮮果実に植物検疫証明書を添付しなければならない。現状では、一部の生鮮果実は植物防疫上の理由により日本への輸入が認められていない。

品目名 日本の関税HSコード		基本税率	第3年度 (2021)	第4年度 (2022)	第5年度 (2023)	最終税率 (年)	2020年の米国 からの輸入額 (米ドル)
オレンジ(生鮮または 乾燥) 080510000	12月1日～3月31日	32.0%	20.4%	15.3%	10.2%	無税(2025)	71,264,252
	4月1日～5月31日	32.0%	10.6%	5.3%	無税	無税(2023)	
	6月1日～11月30日	16.0%	5.3%	2.6%	無税		
サクランボ(酸果オウトウを除く)(生鮮) 080929000		8.5%	1.7%	0.8%	無税	無税(2023)	40,379,263
キウイフルーツ(生鮮) 081050000		6.4%	無税			無税(2019)	13,714,971
ラズベリー、ブラックベリー、桑の実、ローガンベリー、 カーラント、グーズベリー(生鮮) 081020000, 081030000		6.0%	無税			無税(2019)	7,207,621
クランベリー、ビルベリーその他のヴァキニウム属の 果実(生鮮) 081040000		6.0%	無税			無税(2019)	7,184,811
桃(ネクタリンを含む)(生鮮)080930000		6.0%	無税			無税(2019)	1,521,682
パパイヤ(生鮮) 80720000		2.0%	無税			無税(2019)	1,065,979
リンゴ(生鮮) 80810000		17.0%	8.9%	7.6%	6.3%	無税(2028)	541,223
マンゴー(生鮮) 080450011		3.0%	無税			無税(2019)	110,740
柿(生鮮) 081070000		6.0%	無税			無税(2019)	83,539
イチジク(生鮮) 080420010		6.0%	2.0%	1.0%	無税	無税(2023)	23,899
ランブータン、パッションフルーツ、ライチ、スターフ ルーツ(生鮮) 081090210		5.0%	無税			無税(2019)	19,749
その他の生鮮果実 081090290		6.0%	無税			無税(2019)	2,191,625

42. EUの柑橘類事情

米国農務省GAINレポート(2021年6月2日)

これは米国農務省海外農業局のマドリッド(スペイン)、ブリュッセル(ベルギー)、ローマ(イタリア)の各事務所が共同で作成した「柑橘類半期報告書」のエグゼクティブサマリー及び図表を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要約

EUの柑橘類の生産は地中海地域に集中している。スペインとイタリアが主要生産国であり、ギリシャ、ポルトガル、キプロスがこれに続く。報告者は、2020/21販売年度(10月～9月。以下「年度」)の柑橘類生産量を、好天に恵まれたことと、主にスペインとイタリアで大きく落ち込んだ前年度からの回復が見込まれることから、前年度比10.4%増の1,170万トンと推計する。これはこれまでの推計値よりも2.65%多い。EUの柑橘類の消費は、COVID-19パンデミックによる消費の増加とホテル、レストラン等ホスピタリティ部門の再開により引き続き増加傾向となる可能性がある。2019/20年度のEU産柑橘類の出荷シーズンには、消費者が免疫システムを強化する食品を求めたため、柑橘類の消費量は増加した。同シーズンには、EU産柑橘類の供給の減少と消費の増加により、柑橘類の価格は高騰した。持続可能性に配慮した包装は、EUの柑橘類分野において重要な動きである。さらに、EUの柑橘類の輸出は引き続き活発であり、一方域内の生産量の増加により輸入量は減少する可能性があると予想される。

2020/21年度のEUのオレンジ生産量は前年度より5.2%多い650万トン(これまでの推計値よりも0.4%少ない)と予測される。これに対応して、オレンジ果汁生産量は、前年度比約25%増の89,228トン(これまでの推計値から1.4%増)と予測される。この予測は2020/21年度産オレンジの加工仕向量の推計値と呼応している。他方、2020/21年度のマンダリン生産量は、前年度比21%増の340万トンに急増するものと予測される。この予測はこれまでの推計値を10%上回るが、これは主にスペインでの生産量の増加によるものである。同様に、レモンの生産量は、前年度比約11.7%増の1,654トン(これまでの予測に対し0.8%増)、グレープフルーツの生産量は、前年度比8%増の10万3千トンと推定される。過去10年間で、オレンジとマンダリンの総栽培面積は縮小し、柑橘類の園地は生産性、持続可能性、収益性を向上させた。逆に、レモンとグレープフルーツの栽培面積は、主に世界市場の需要に応じたスペインでの栽培拡大により増加傾向が続いている。

2019/20年度には、EUの航空機補助金に対する世界貿易機関(WTO)提訴に関連する米国の追加関税が、スペイン産マンダリンとレモンをはじめとするEUの柑橘類輸出に影響を与えた。さらに、欧州委員会(EC)は2020年11月9日、米国の航空機補助金に対するWTO提訴に続いて、一連の米国産品に追加関税を課した。EUの課税リストには、グレープフルーツ、柑橘類調製品、冷凍オレンジ果汁、グレープフルーツ果汁が含まれた。しかし、2021年3月、米国とEUは、すべての報復関税を4ヶ月間停止することに合意した。同様に、2018年以降、EU製の鉄鋼及びアルミニウムに対する米国のセーフガード措置への報復として、EUが米国産オレンジ果汁に25%の関税を課したため、EUへの輸入は急激に減少した。EUの自由貿易協定(FTA)、特にEU-メルコスール(アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ)の協定も、EUへの米国産品の輸出に影響を与える可能性があるが、欧州議会と欧州委員会はまだ協定を批准していない。2020/21年度の前半には、スペイン産を主体とする柑橘類のEU27から英国への輸入は、英国のEU離脱の影響を受けなかった。

過去1年間、COVID-19危機、欧州グリーンディール政策、共通農業政策(CAP)改革及び英国のEU離脱が、EUの農業政策立案者の手を煩わせた。特に、パンデミックに対するサプライチェーンの回復力と持続可能性への懸念から、EUとしての政策が策定された。このことは、「農場から食卓まで(F2F)」戦略と生物多様性戦略の下にあるグリーンディール政策の農業・食料ビジョンに影響を与えた。具体的な生産現場レベルの政策としては、欧州委員会は、2030年までに化学農薬の使用とリスクを全体として50%削減する取組を

提案している。農薬使用の減少は、EUの柑橘類生産者が必要とする有効成分の入手可能性に影響を与える恐れがあり、したがって、欧州市場向けの米国の柑橘類貿易に影響を与える可能性がある。

COVID-19パンデミックの間、スペインの柑橘類部門は国内外の需要に対して力強く対応した。その結果、昨シーズンは、EUの柑橘類輸出はCOVID-19危機の悪影響を受けなかった。2020/21年度は、EU産柑橘類の生産量の増加が予想されるため、EUの柑橘類輸出は増加に転じる可能性がある。昨シーズンは、EU産柑橘類の供給不足のため、南アフリカ、エジプト、トルコ、モロッコ等からの輸入が増加した。さらに、ブラジルからの柑橘類の輸入は増加を続けている。逆に、EUによるアルゼンチン産柑橘類の輸入禁止措置を主な要因として、同国からの柑橘類輸入は減少した。2020/21年度は、EU域内の柑橘類の供給量が増加する結果、EUの柑橘類輸入は減少するものと予測される。

品目別図表 ＜オレンジ＞

表1 EUのオレンジ生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度 EU	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
	2018年10月～2019年9月		2019年10月～2020年9月		2020年10月～2021年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	278,449	278,449	278,746	278,746	281,226	278,960
収穫面積	259,797	259,797	260,958	261,958	263,070	261,114
結果樹本数	0	0	0	0	0	0
非結果樹本数	0	0	0	0	0	0
合計果樹本数	0	0	0	0	0	0
生産量	6,796	6,800	6,205	6,205	6,556	6,531
輸入量	1,017	1,017	1,086	1,086	1,000	1,000
総供給量	7,813	7,817	7,291	7,291	7,556	7,531
輸出量	357	357	290	290	300	300
生鮮国内消費量	6,107	6,151	5,949	6,078	6,121	6,080
加工仕向量	1,349	1,309	1,052	923	1,135	1,151
総仕向量	7,813	7,817	7,291	7,291	7,556	7,531

単位：ヘクタール、1000本、1000トン

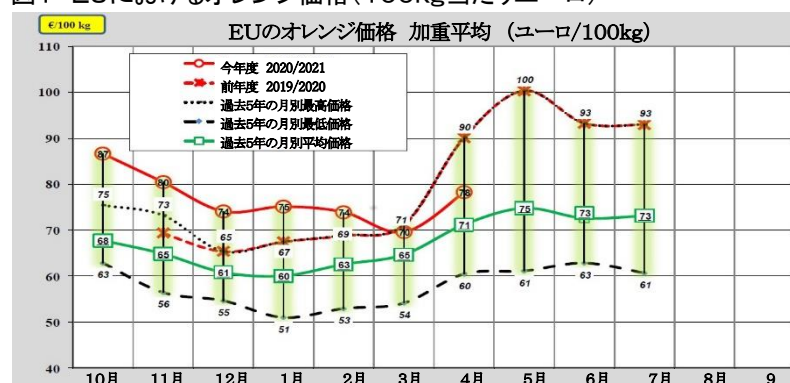
出典：海外農業局各事務所

表2 EUのオレンジ生産量(国別及び年度別) 単位：トン

国	2018/19	2019/20	2020/21
スペイン	3,930,000	3,279,000	3,431,000
イタリア	1,592,000	1,650,000	1,850,000
ギリシャ	914,501	910,186	915,000
ポルトガル	344,000	347,000	315,000
キプロス	20,000	19,000	20,000
合 計	6,800,501	6,205,186	6,531,000

出典：海外農業局各事務所

図1 EUにおけるオレンジ価格(100kg当たりユーロ)



EUの柑橘類統計図表によると、2020/21年度上半期のEUにおけるオレンジの平均価格は76.6ユーロ/100kgで、過去5年間の平均よりも20%高かった。この価格上昇は、主に冬期の気温低下とコロナ禍に関連した免疫力回復食品としての柑橘類のイメージ改善によるオレンジ需要の増加によって促進された。スペインはEUに対する主要なオレンジ供給国であるため、スペイン産オレンジ価格の上昇はEU全体の価格を刺激した。

出典: DG AGRI

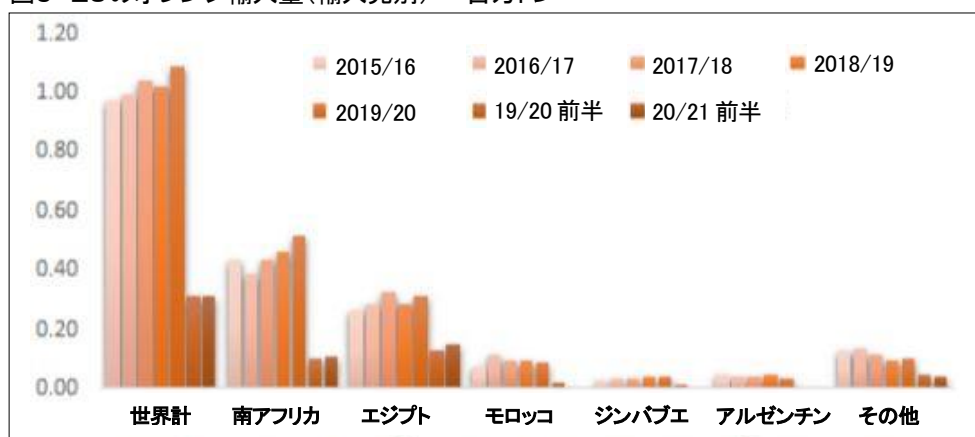
図2 EUのオレンジ生産量及び栽培面積の推移(2011-2020)



*: 推計値

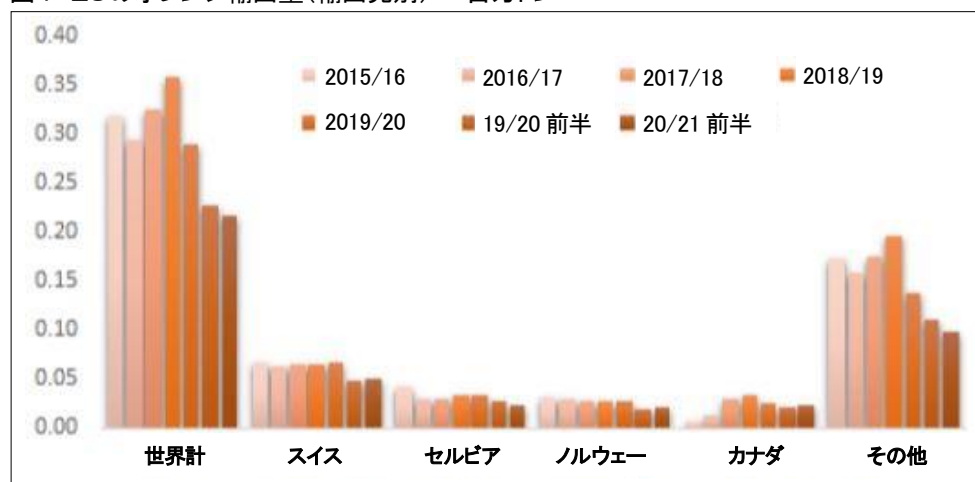
出典: 海外農業局各事務所

図3 EUのオレンジ輸入量(輸入先別) 百万トン



出典: Trade Data Monitor (TDM)

図4 EUのオレンジ輸出量(輸出先別) 百万トン



出典: TDM

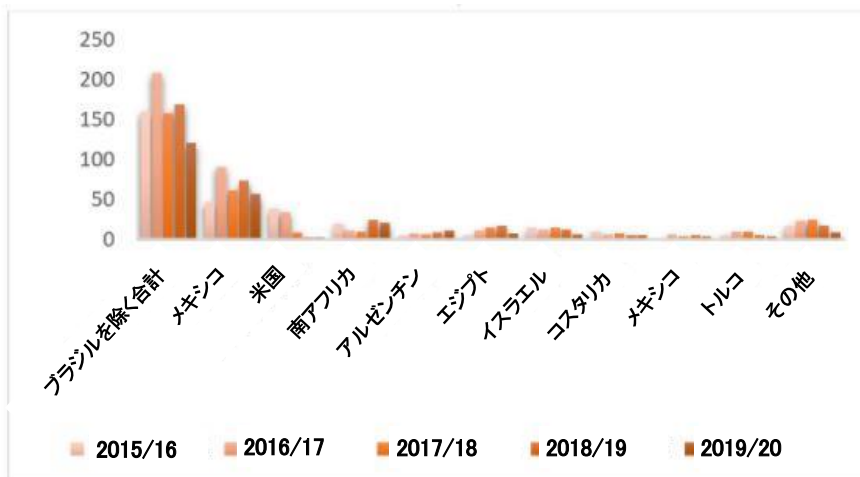
<オレンジ果汁>

表3 EUのオレンジ果汁生産需給統計(Brix 65)

オレンジ果汁 販売年度 EU	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
	2018年10月～2019年9月		2019年10月～2020年9月		2020年10月～2021年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
加工仕向量	1,349,000	1,309,000	1,052,000	923,000	1,135,000	1,151,000
期首在庫量	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
生産量	104,577	101,476	81,553	71,553	87,987	89,228
輸入量	658,056	658,080	686,223	686,195	681,000	670,000
総供給量	777,633	774,556	782,776	772,748	783,987	774,228
輸出量	59,943	59,943	66,805	66,788	67,000	67,000
国内消費量	702,690	699,613	700,971	690,960	701,987	692,228
期末在庫量	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
総仕向量	777,633	774,556	782,776	772,748	783,987	774,228
単位: トン						

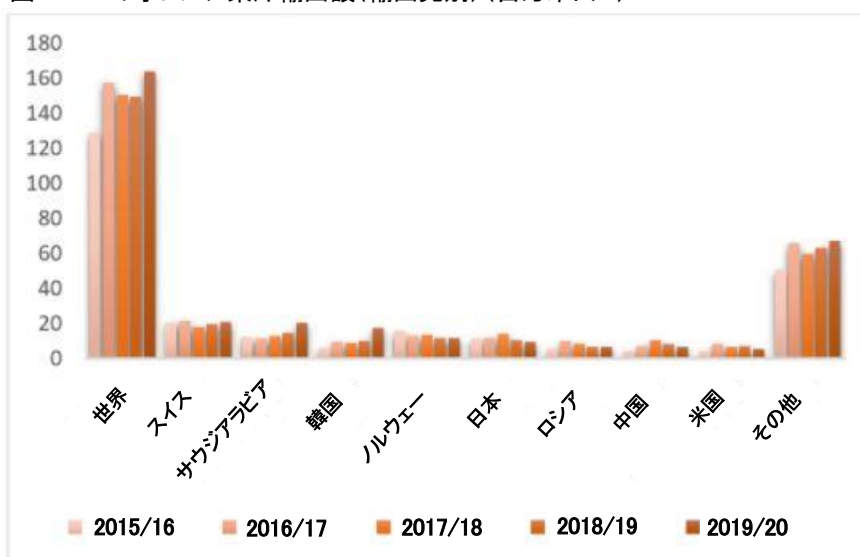
出典: 海外農業局各事務所

図5 EUのオレンジ果汁輸入額(ブラジルを除く輸入先別)(百万米ドル) Brix65



出典: TDM

図6 EUのオレンジ果汁輸出額(輸出先別)(百万米ドル) Brix65



出典: TDM

<タンジェリン/マンダリン>

表4 EUのタンジェリン/マンダリン生産需給統計

タンジェリン/マンダリン (生鮮) 販売年度 EU	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
	2018年10月～2019年9月		2019年10月～2020年9月		2020年10月～2021年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	155,444	155,444	155,304	153,224	153,015	152,781
収穫面積	142,337	142,337	142,632	141,552	142,331	141,207
結果樹本数	0	0	0	0	0	0
非結果樹本数	0	0	0	0	0	0
合計果樹本数	0	0	0	0	0	0
生産量	3,225	3,209	2,834	2,827	3,117	3,424
輸入量	483	483	558	558	480	450
総供給量	3,708	3,692	3,392	3,385	3,597	3,874
輸出量	246	246	172	172	245	250
生鮮国内消費量	3,191	3,175	2,990	2,983	3,097	3,354
加工仕向量	271	271	230	230	255	270
総仕向量	3,708	3,692	3,392	3,385	3,597	3,874

単位: ヘクタール、1000本、1000トン

出典: 海外農業局各事務所

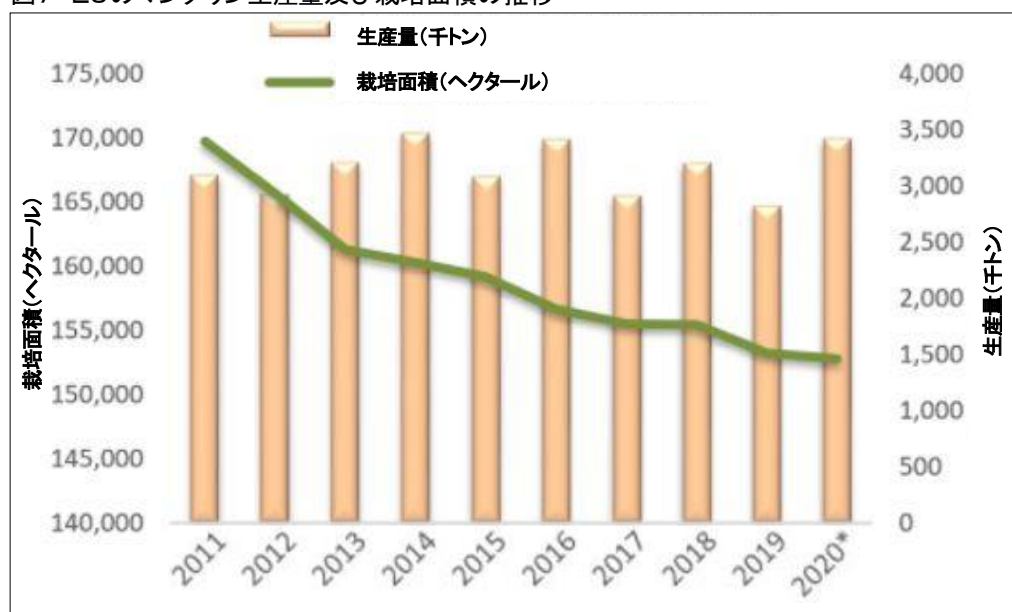
表5 EUのマンダリン生産量(国別及び年度別)

単位: トン

国	2018/19	2019/20	2020/21
スペイン	2,385,000	1,832,000	2,357,000
イタリア	577,000	763,000	825,000
ギリシャ	176,881	174,147	178,000
ポルトガル	37,000	33,000	34,000
キプロス	33,000	25,000	30,000
総生産	3,208,881	2,827,147	3,424,000

出典: 海外農業局各事務所

図7 EUのマンダリン生産量及び栽培面積の推移



*: 推計値

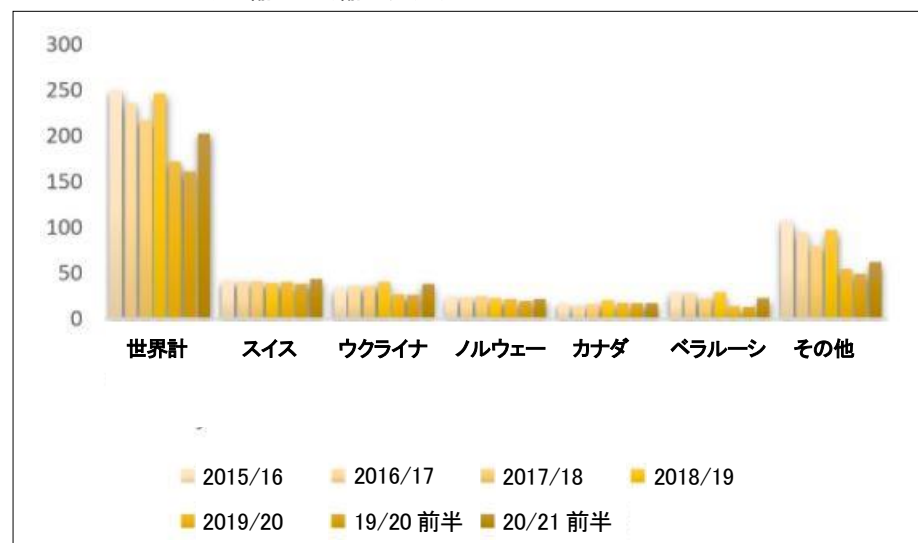
出典: 海外農業局各事務所

図8 EUのマンダリン輸入量(輸入先別) 千トン



出典: TDM

図9 EUのマンダリン輸出量(輸出先別) 千トン



出典: TDM

<レモン>

表6 EUのレモン/ライム生産需給統計

レモン/ライム(生鮮) 販売年度 EU	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
	2018年10月～2019年9月 農務省公式	今回推計値	2019年10月～2020年9月 農務省公式	今回推計値	2020年10月～2021年9月 農務省公式	今回推計値
栽培面積	77,028	78,028	78,229	79,229	79,046	80,420
収穫面積	66,792	66,792	67,933	68,433	69,712	70,020
結果樹本数	0	0	0	0	0	0
非結果樹本数	0	0	0	0	0	0
合計果樹本数	0	0	0	0	0	0
生産量	1,683	1,683	1,480	1,480	1,640	1,654
輸入量	548	548	579	579	550	550
総供給量	2,231	2,231	2,059	2,059	2,190	2,204
輸出量	82	82	81	81	82	85
生鮮国内消費量	1,871	1,773	1,746	1,658	1,818	1,757
加工仕向量	278	376	232	288	290	362
総仕向量	2,231	2,231	2,059	2,059	2,190	2,204

単位: ヘクタール、1000本、1000トン

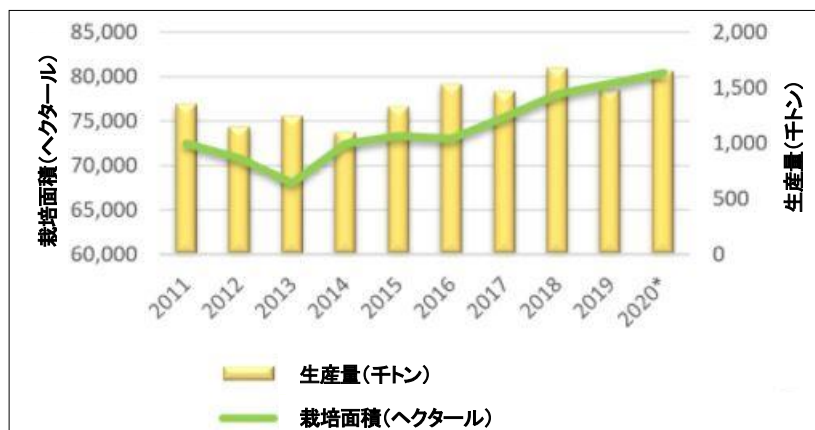
出典: 海外農業局各事務所

表7 EUのレモン生産量(国別及び年度別) 単位: トン

国	2018/19	2019/20	2020/21
スペイン	1,149,000	931,000	1,061,000
イタリア	424,000	445,000	491,000
ギリシャ	88,258	82,255	83,000
ポルトガル	16,000	17,000	13,000
キプロス	6,000	5,000	6,000
総生産	1,683,258	1,480,255	1,640,000

出典: 海外農業局各事務所

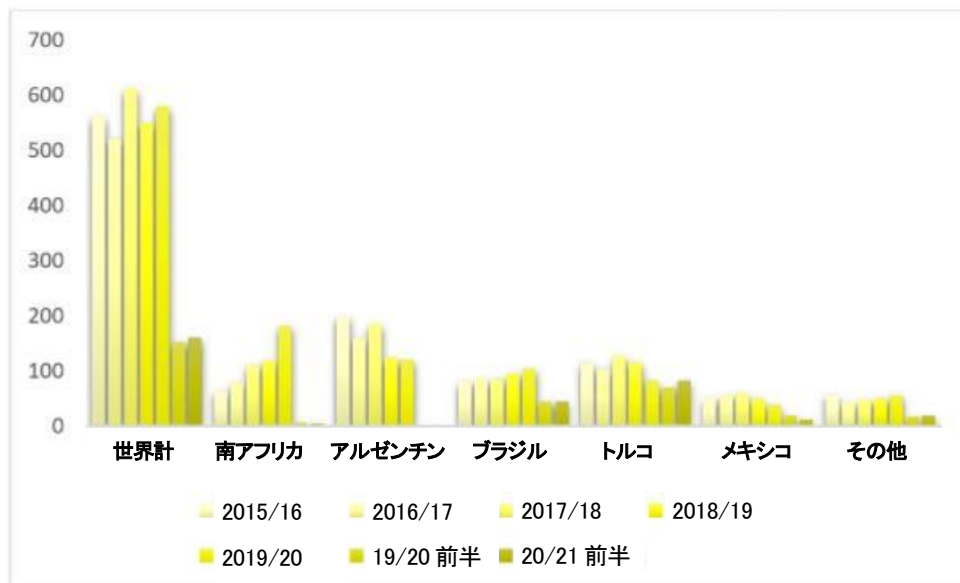
図10 EUのレモン生産量と栽培面積の推移(2011-2020)



*: 推計値

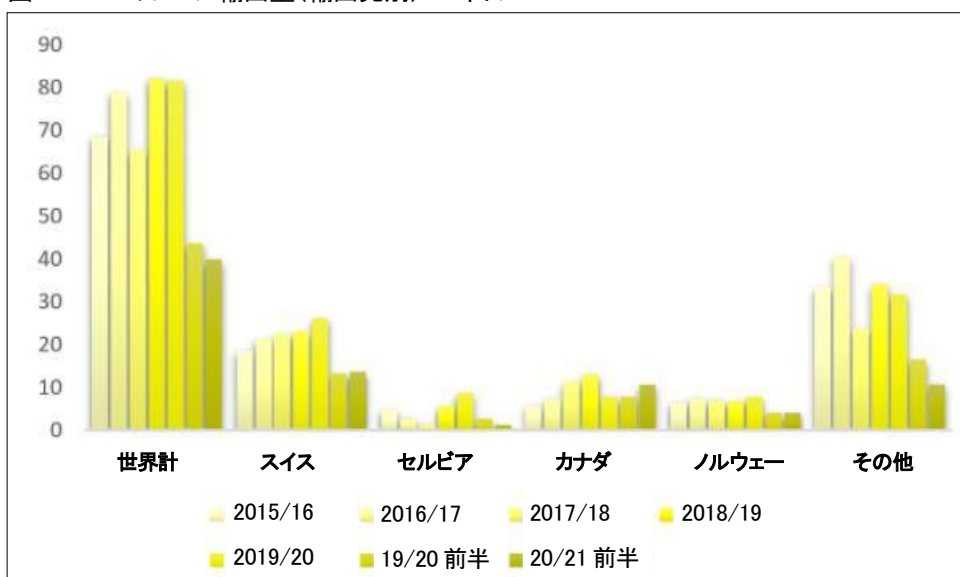
出典: 海外農業局各事務所

図11 EUのレモン輸入量(輸入先別) キトン



出典: TDM

図12 EUのレモン輸出量(輸出先別) キトン



出典: TDM

<グレープフルーツ>

表8 EUのグレープフルーツの生産需給統計

グレープフルーツ(生 鮮) 販売年度 EU	2018/2019		2019/2020		2020/2021	
	2018年10月～2019年9月		2019年10月～2020年9月		2020年10月～2021年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	3,311	3,311	3,292	3,352	3,292	3,405
収穫面積	2,911	2,911	2,884	2,868	2,874	2,827
結果樹本数	0	0	0	0	0	0
非結果樹本数	0	0	0	0	0	0
合計果樹本数	0	0	0	0	0	0
生産量	108	108	95	95	96	103
輸入量	324	324	340	340	350	335
総供給量	432	432	435	435	446	438
輸出量	16	16	17	17	17	17
生鮮国内消費量	395	397	404	404	415	406
加工仕向量	21	19	14	14	14	15
総仕向量	432	432	435	435	446	458

単位：ヘクタール、1000本、1000トン

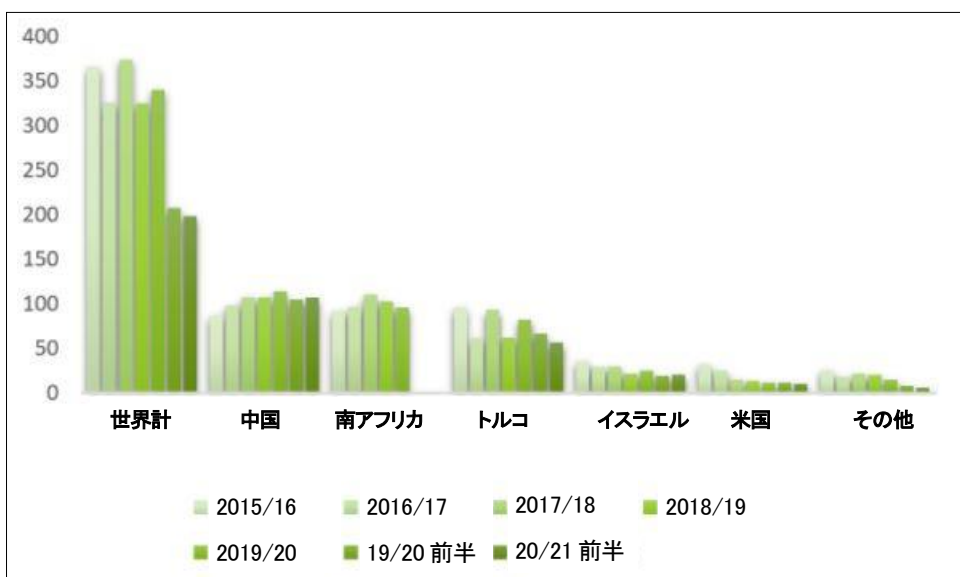
出典：海外農業局各事務所

表9 EUのグレープフルーツ生産量(国別及び年度別) 単位：トン

国	2018/19	2019/20	2020/21
スペイン	80,600	70,600	79,400
キプロス	19,000	16,000	16,000
イタリア	5,160	5,210	5,215
ギリシャ	3,051	3,098	3,000
ポルトガル	210	260	200
総生産	108,421	95,568	96,475

出典：海外農業局各事務所

図13 EUのグレープフルーツ輸入量(輸入先別) 千トン



出典：TDM

43. カンボジア、チリ、パキスタン 日本向け果実輸出

カンボジア 引き続き力強いバナナ輸出

ASIAFRUIT電子版(2021年6月3日)

2021年の最初の5ヶ月間に20万トン以上のバナナが中国、ベトナム、シンガポール、日本に輸出された。

カンボジア農林水産省によると、同国は1月から5月までに20万5,024トンのキャベンディッシュバナナを外国市場に出荷した。

中国はカンボジア産生鮮バナナの最大の市場であり、約18万トンを入力している。カンボジアから中国へのバナナ輸出は、中国がカンボジアからのバナナ輸入を承認してからわずか2年で急増し、カンボジアのゴム部門を次第に凌駕しつつある。2020年10月に両国間のFTAが署名されたことが、バナナ産業に一層の自信を与えたようだ。

残りの輸出はベトナム(25,113トン)、シンガポール(480トン)、日本(333トン)向けであった。

カンボジアは昨年、30万トン以上の生鮮バナナを輸出し、4億5千万ドルを生み出したと推定される。

ベトナムプラス紙によると、バナナ投資会社も最近の輸出の急増に注目しており、バナナの栽培面積は1年前の1万ヘクタールから3万ヘクタールに増加した。

チリ 今季のレモンを日米等に出荷開始

FreshPlazaウェブサイト(2021年6月4日)

チリ果実輸出事業者協会(ASOEX)の柑橘部会は、2021年産レモンの出荷シーズンがすでに始まっていると発表した。第15週(4月上旬)にメッシーナ、ユーレカ、ジェノバの各品種の収穫が始まり、第19週(5月上旬)に出荷が始まった。第21週(5月下旬)時点までに4,029トンが輸出され、約63%が極東向け、37%が米国向けであった。

極東向け輸出のうち、49トンが中国、271トンが韓国に出荷され、2,227トンが日本向けであった。一方、米国向けは1,473トン、中南米諸国向けは9トンであった。第21週までの輸出量は、昨シーズンと比較して16%多い。今シーズン全体のレモンの輸出量は昨シーズンより3%多い9万8千トンと見込まれる。

チリでは第IV州(コキンボ州)から第VI州(オイギンス州)にかけての2万2千ヘクタールで柑橘類が栽培されており、そのうちレモンは7,376ヘクタールで、主な品種はユーレカ、フィーノ49、メッシーナ、ジェノバである。

パキスタン 日本が輸出用マンゴー処理施設を承認

FreshPlazaウェブサイト(2021年6月4日)

アブドゥル・ラザク・ダウッド商務担当首相補佐官は、日本がパキスタンからのマンゴー輸出のための処理施設を承認したと発表した。同補佐官は、「パキスタンからマンゴーを輸出する食品会社の蒸熱処理施設が日本の当局から承認された。これは日本政府の検疫要件に従ってマンゴーを処理できるパキスタンで唯一の施設である。承認が得られたことを祝福し、パキスタンの植物防疫局と在東京貿易事務所の尽力に感謝する」とツイートした。

日本が承認する数日前には、シンド州の民間企業2社の2つの輸出用マンゴー処理施設が、オーストラリアの農業・水・環境省によって承認されたところだった。

出典: breccorder.com

44. 世界の核果類市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年6月4日)

今年は、スペイン、イタリアをはじめ多くの国で気温が低く、核果類(モモ、ネクタリン、アプリコット等)の出荷が遅れた産地が多かった。しかし、この状況は、オランダなどの輸入市場の販売業者や、トルコや南アフリカのようにこうした気象条件の影響を受けなかった地域に利益をもたらしている。中国では生産量の増加により価格が下落して特に困難な状況に直面しており、一方オーストラリアでは、天候ではなく、COVID-19による労働者不足によって出荷が妨げられている。

オランダ：やや少ない供給量は必ずしも悪くない

スペイン産の核果類が入荷し始めている。オランダのある輸入業者は、「ヨーロッパ各地で核果類がかなりの霜害を受けており、弊社のスペインの取引先も例年よりもやや少ない出荷量を見込んでいる。最近の取引では、入荷量がやや少ないことはそれほど悪いことではないことが多い。それによって、需要が維持され、価格は通常よくなる。メロンの場合は、暖かくなるとすぐに市場価格が上昇するが、核果類シーズンの早い段階ではそれほどでもない。多くの人々が今、夏を感じ始め、何か新しいものを探し求めている。夏になると、晴れた日に売れ行きが良いということはよくある」と言う。

この業者はさらに、「モモでは、現在大玉(サイズ26~28)が多い。4キロ当たりの販売価格は、大玉で7.5~8ユーロ、中玉で6.50~7ユーロ、小玉で6ユーロ程度である。ネクタリンの価格は、全体的にちょうど1ユーロ高い。パラグアイ産は15~16ユーロ程度(重量不明)で良い価格が付いている」と言う。

ベルギー：暖かい天候が核果類の需要を刺激

スペイン産核果類の出荷は、今が最盛期である。ベルギーのある取引業者によると、ここ数日の良い天候は多くの需要を生み出した。また、供給量にも満足しているとして、「スペインの特定の地域は霜害のため出荷量が少ないと言われているが、供給量に関する限りそのような兆候は見られない。モモ、ネクタリン、アプリコットの果実の大きさや品種揃えはとても良く、味も大変良い」と言う。果実の質が良いため、価格は妥当な範囲で高めである。

スペイン：初期の霜と涼しい天候が生産と販売を妨げる

スペインの核果類の出荷シーズンは、霜の影響をほとんど受けなかったアンダルシア州とムルシア州で4月中旬に始まった。カタルーニャ州リエイダ県では、最も早生のモモとネクタリンの収穫が現在始まっているが、霜の影響により過去30年間で最も収穫量が少ない年の一つになると予想される。悪天候のために需要は増えていないが、価格は高い。昨年は入荷量が著しく不足したため、価格は良好であった。今年も、今月からスペインや他のヨーロッパの生産国で昨年よりもさらに供給が少なくなるため、業界関係者は高値を予想している。そうは言っても、天候が重要な役割を果たしており、これまでのところ市場に出回るアプリコットの量が約40%少ないにもかかわらず、ヨーロッパ大陸の大部分で天候が悪いため需要が減速しており、高値を維持することが難しくなっている。最も早生の品種は、収穫後の追熟が速いため少し早く収穫する必要があることから、最低限必要な糖度はあるものの、風味は豊かでない。このことはそれらの品種の消費に影響している。言うまでもなく、大規模な小売チェーンはまだ核果類の品ぞろえができていない。夏が来て、売り上げを伸ばすために必要な暑さをもたらす今月から、すべてが変わると予想される。アプリコットの生産量は平年と比較して50%前後減少し、ネクタリンは25~30%減少すると見込まれる。

イタリア：各地で好ましくない気象条件が出荷に影響

シチリア島では、少量の施設ものに引き続き、5月15日頃に露地もののアプリコットの出荷が最盛期に入った。食感と外観に優れた最高品質の品種では、1kgあたりの生産者価格は0.50~0.80ユーロとなっている。アプリコットの出荷は8月中旬まで続く。モモとネクタリンに関しては、すでに5月に少量が収穫されているが、露地の早生品種の収穫は数日前に始まった。今後晩生品種が収穫され、収穫は10月上旬まで続く。

カラブリア州のシバリ平原では、Tsunami種やPricia種などのアプリコットが収穫されている。1週間後には、

Orange Rubis種に切り替わる。早い時期のものは期待外れで、特に香りが良くなかった。現時点では数量は依然として限られているが、6月上旬以降は、量の増加と好調な販売が見込まれる。アプリコットは、主に有機農産物としてドイツとオーストリアに出荷される。

モモとネクタリンの商業的な出荷は5月末に始まり、通常は9月末に終了する。霜による若干の被害にもかかわらず、2021年産は生産量の増加が予想されている。

バジリカータ州では、Ninfa種のプリコットの収穫が完了し、Mogador種とPricia種の収穫が始まった。ここ数ヶ月の好ましくない気象条件は、果実の大きさにわずかに影響を与え、成熟を10～12日遅らせている。Flariba種のネクタリンとPlagold種のモモも収穫されている。平均サイズはともに約17.5mmであるが、品質と風味は保証されており、現在の高温は果物の成熟を促し、収穫量の増加に結び付く。

プッリャ州では、Patagonia種のネクタリンの収穫が始まった。サイズは予想よりも小さいようだが、価格は昨年よりも高い。2週間後にはNectaprima種のネクタリンの出荷が始まり、様々な品種のモモやMogador種のアプリコットがそれに続く。品質とサイズは現在のところ良好である。

カンパニア州では、2年続きて収穫量が減少する。ある協同組合は、モモとネクタリンの収穫量が約30%、アプリコットが50%減少すると見込んでいる。収穫された果実の品質は良く、中玉主体である。生産量不足にもかかわらず、市場はその少ない量を期待通りにさばけておらず、その結果相場はぱっとしない。

イタリア北部では、5月末から6月初めにかけて、アプリコットの市場動向が奇妙な動きを見せた。ある出荷業者は、競り値は高めで始まった後下落し、最も品質の低いものでは約1ユーロ/kg、最高品質と思われるものでも平均1.5ユーロ/kgに低下したと言う。ある競り人は、価格はおそらく数日中に再び上昇すると言う。エミリア・ロマーニャ州の別の果実生産者は、ボローニャ市場では、早生のアプリコットの価格は品質と品種によって1.20～2ユーロ/kgだと言う。モモとネクタリンの出荷は約10日遅れで、収穫は6月中旬に始まる。

トルコ：ギリシャ産の不足のため欧州市場の需要が増加

バントウ（蟠桃）、モモ、アプリコットの出荷シーズンは、約5週間前に施設もので始まり、露地ものの出荷は2～3週間前に始まった。品種は早いペースで切り替わっており、トルコ産早生品種の出荷が間もなく終わり、おそらく来週には中生品種に引き継がれると見られる。現在の出荷価格は、ネクタリンで1.25～1.35ユーロ/kg程度、バントウで1.28～1.38ユーロ/kg程度、アプリコットは品種により1.15～1.58ユーロ/kgである。アプリコットについては、有名なシュガーアプリコット（商標）の出荷が来週始まり、出荷シーズンの中盤にあることを示している。シュガーアプリコットは、ブリックス20以上で、色づきもよい。

核果類の国内の需要は、通常どおりで特に変わったことはないが、ギリシャからの輸出量が少ないため、欧州地域からのトルコ産に対する需要が幾分増加した。トルコ産核果類の生産量は平年並みである。

南アフリカ：スペイン産の供給減少のため価格上昇の見込み

国内の核果類果樹園は冬の休業期間にあり、核果類は現在スペインから輸入されている。ある輸入業者によると、国内の需要は強く、スペイン産の入荷が少ないため、価格は通常よりも高くなると見込まれる。

ある小売業者は、「ネクタリンの輸入シーズンが間もなく始まる。植物検疫、物流及び価格面の理由により、弊社はスペインからのみ輸入している。スペインのサプライヤーと共同で品質と包装の改善に取り組んでおり、需要は良好で毎年増加している」と言う。

国内市場でのモモの平均価格は、現時点では12.51ランド(0.74ユーロ)である。

前回の核果類の出荷シーズンは一筋縄ではいかないものであった。品質、サイズ、生産量は優れており、出荷量も多かったが、ヨーロッパやその他の市場の需要は情けないものであり、ある有力輸出業者によると本当に絶望的であった。卸売市場の閉鎖と供給過剰が市場に影響した。英国では、海上輸送の遅延のために、2月に2隻の船が同時に到着し、プラムの市場価格が暴落した。

中国：出荷価格が生産コストを下回る

今シーズンのネクタリンが市場に入荷したが、価格は良くない。一部の果樹農家は、ネクタリンの生産者価格は0.3～0.4人民元/500グラムに下がり、収穫のための人も雇えないと言う。ネクタリンは通常、他の核果類よりも早く市場に入荷し、生産量が比較的安定しており、これまで価格が好ましい傾向にあったことから、多くの生産者がネクタリンを植え始め、近年生産量が急増した。

5月上旬には一部の早生品種が入荷し良い価格を付けたが、5月半ばに入荷量が増えたことから価格が大幅に下落した。現在入荷している果実の種類が多いため、消費が分散していることも価格低下の一因だ。

北米：北米の核果類の供給は順調

西海岸では、カリフォルニア州産のモモとネクタリンの出荷が増加している。カナダのトロントに拠点を置くある卸売業者は、今年は果実のサイズは良くないと指摘し、「これはおそらく不安定な気温と、場合によっては摘果後の果実数が多いためだと思われる。労働力と水の問題のために、思う通りの摘果ができたとは思えない」と言う。とは言え、生育期の高温によって十分な糖が蓄積されたため、果実の味は良い。

この業者はまた、早生品種の供給は少ないとして、「6月上旬に収穫される早生品種の収量は多くない。生産者は別の品種の出荷に切り替えるのではなく、早生品種の出荷を引き延ばしている」と言う。以前は、早生品種は早く市場に出荷できるので儲かるという考え方もあったが、経済的には証明されていない。

東部では、米国サウスカロライナ州の生産者は、サウスカロライナ州とジョージア州のモモが豊作だと見ており、「ここ数年と違って収穫量が大変多い。生育期の天候が良く、過去2年間被害を被った霜害を今季は免れた」と言う。ニュージャージー州では7月の第2週または第3週にモモの出荷が始まる。

カリフォルニア州に話を戻すと、モモの供給は安定しており、ネクタリンの出荷量も積み上がっている。間もなくZee Fireなどの早生品種からHoney Brazeなどの独占品種に移行するので、大玉が多くなり小玉は少なくなる。サイズの分布も注目に値する。今シーズンは大玉が不足しており、多くの産地で小玉が多すぎる。核果類の需要は良好だが、核果類生産者は昨年は米国政府の「ボックスフード事業」(政府が食品を買い上げて、箱詰めとして貧困層等に提供する事業)に参加した。

サウスカロライナ州のある生産者は、「色付きは良いが、サイズは小さい。再来週以降、今年の残りの期間はサイズが良くなるはずだ」と言う。

また、平均価格で見ると今年のモモの需要は良いと指摘し、「昨年は供給量の40～50%程度しか需要が無かったが、今年は90%程度の需要があるので、需要量と供給量が釣り合っている」と言う。このことは、小売需要が減少している大玉果実の価格を高止まりさせているが、全体的な価格は平均的ないしは平均よりもやや良い程度である。

サウスカロライナ州の生産者らは「小玉の果実、特にモモの価格が下がった。ネクタリンはそれほどでもない。しかし、黄色と白色の小玉のモモーサイズ70及び80、現在では60もーは市場価格に下げ圧力がかかっている」と言う。

オーストラリア：COVID-19のため核果類収穫の労働力が不足

オーストラリアの核果類シーズンは10月から5月までである。今シーズンのオーストラリアの果樹産業には、主にCOVID-19対策の国境閉鎖による労働者不足によって引き起こされたいくつかの課題があった。オーストラリア政府は非居住者に対して国境を閉鎖しているが、オーストラリア全土の多くの農場は季節労働者とバックパッカーに依存している。労働力を確保できないことによる供給量不足と農家の追加コストのために、果物の価格はわずかに上昇しており、すべての作物を収穫しきれない事例も発生している。また、出荷シーズンの終盤には、ミバエの幼虫が果実の中から見つかったため、南オーストラリア州の主要スーパーマーケットから少量ではあるが核果類が撤去された。ネクタリンやモモ等の影響を受けた果実は、ビクトリア州産であった。一般論ではあるが、生産者らは、パンデミックによる混乱と不確実性にもかかわらず、品質は良いと報告していた。

45. 果実・野菜の消費拡大の世界的な取組み

Fresh Produce Journal電子版(2021年6月8日)

国連によると、果物と野菜の消費の促進は、多面的なアプローチを必要とする世界的な取り組みである。

国連食糧農業機関(FAO)のマルセラ・ビジャレアル連携・国連協力部長は、最近開催されたWorld of Fresh Ideaのイベントで講演し、慢性的な飢餓と肥満の両方が見られる時代に、世界的に栄養を増進するために何ができるかについて論じた。2021年は国際果実野菜年に指定されている。

ビジャレアル氏は、今年は世界的な「提唱とコミュニケーションの実践」の年であり、133カ国のFAO事務所は、生鮮果実・野菜を食べることの利点を宣伝し、民間と政府の関係者に対し生産と消費の増進のために集結するよう呼びかけていると述べ、「この活動には消費者、生産者団体、ノーベル賞受賞者らの参加を得ている。消費の問題として見ると、ほとんどの人は一人一日当たり400グラムの果物・野菜を消費していない。世界的に大幅な消費不足であり、これには価格が高いことも一因だ。果物と野菜は健康的な食事の中心を成すものだが、世界で30億人の人々が健康的な食事を摂る余裕がない」と説明した。

同氏は、民間部門と政府部門はそれぞれ果たすべき役割があると述べ、イタリアでは果物と野菜は付加価値税の対象だが、個人的にはそれらは非課税であるべきだと思うと指摘した。食品ロスと廃棄物も大きな問題であり、規範的ではなく役に立つメッセージを見つけることが重要だとして、「それは、情報、コミュニケーションの形態、政府のインセンティブに関する問題であり、また、消費者の意識の問題だ。曲がったバナナやニンジンを食べてはいけなかったのはいつだったか？ 我々はそれらを『醜い果実』と呼んでいるが、醜いかどうかは関係ない。大量の食料が規格に合わないという理由で無駄になっている」と述べた。

同氏はさらに、人間の食用になる植物は約7,000種あるにもかかわらず、約120種だけが大規模に栽培されており、商業的な生産には多様性が欠如していると述べた。

46. メキシコ 米国向けアボカド輸出が百万トン突破

EUROFRUIT電子版(2021年6月9日)

メキシコ・アボカド生産出荷協会(Apeam)が外国貿易を促進した功績により国家輸出賞を受賞した数日後、記録が達成された。メキシコ産アボカドの米国への輸出量が、史上初めて百万トンの大台を超えた。

同協会は、「Avocados From Mexico」ブランドの下での持続的な販売促進活動の成功が、メキシコ産アボカドを世界的な有名商品にし、年々国際市場での地位を高めることを可能にしたと発表した。同協会のガブリエル・ビジャセニョール・ズリタ会長は、「生産者が常にクリーンで高品質なアボカドを生産しようと努力しているおかげで、2021年の出荷シーズン中に米国への輸出量が百万トン越えることができた」と述べた。

過去20年間のメキシコのアボカド輸出の成長は、同国最大の成功事例の一つとなっている。1999年には約41,000トンのアボカドが国外に輸出されたが、2019/20年度には96万2,000トンに増加した。これは、一人当たりの消費量が500gから3.5kgに増加した米国の持続的な需要増加傾向に追従したものだ。

近年、このセクターは市場の多様化に向けて取り組んでおり、現在メキシコ産アボカドはカナダ、日本、ヨーロッパ、中国、韓国を含む世界34カ国に輸出されている。(注：日本が輸入するアボカドの約9割がメキシコ産)

メキシコのアボカド産業は、主に小規模生産者で構成されており、農場の64%が1～10haである。

同会長は、「アボカド輸出産業の成長は、移民の減少に貢献した。約10万家族がアボカド業界で割のいい就業先を見つけ、出身地に留まることを選択したと推定される」と述べた。

47. ベトナム 世界有数のリンゴ輸入国に

EastFruitウェブサイト(2021年6月10日)

EastFruit(東欧、中央アジア向けの青果物情報サイト)のアナリストらが報告しているとおり、ベトナムは2020年のリンゴ輸入量が倍増し、世界有数のリンゴ輸入国となった。過去5年間では、ベトナムのリンゴの輸入量は7倍以上に増加した。

ベトナムは現在、リンゴの輸入量で世界第5位にランクされ、バングラデシュ、インドを上回り、エジプトをほぼ追いついている。したがって、リンゴの輸入量がベトナムを大きく上回るのはロシア、ドイツ、英国だけである。しかし、ベトナムのリンゴ輸入価格が高いため、輸入額ではエジプトと英国を抜き、ドイツとロシアに次いで世界第3位のリンゴ市場である。

リンゴの輸出国は、2020年にベトナムにリンゴを販売することで約5億米ドルを得た。同時に、ベトナムのリンゴの輸入量は約26万5,000トンに達した。ベトナムの果実輸入業者がリンゴを購入した平均価格は1.77米ドル/kgであった。これは、どのサプライヤーにとっても最高品質のリンゴを提供するに値する非常に魅力的な価格である。

国連食糧農業機関(FAO)投資センターのエコノミスト、アンドリー・ヤルマク氏は、「気候条件のためにリンゴの木が育たないベトナムでは、リンゴは流行のエキゾチックな果物である。しかし、急速な経済成長とポジティブな人口構成により、ベトナムの人々は高価な輸入果実を購入することができる。これは、品質が高くなければならないことを意味している。このため、世界の主要な果実輸出業者は、この厳しく保護された市場に参入し、ベトナムでの販売促進に投資する方法を模索している」と説明する。

この点で、ベトナムとの自由貿易協定の締結は、EUの生産者にとって非常に有益であった。これによって、停滞したリンゴ産業は、高価格で巨大な新しい販売市場に参入することができた。

ヤルマク氏は、「EUとベトナムの間で自由貿易協定が締結された後、例えばポーランドは2020年にベトナムへのリンゴの供給を5倍に増やし2,500トンに達した。長年にわたり世界のリンゴ市場で地位を失ってきたフランスでさえ、ベトナムへの生鮮リンゴ輸出を11,400トンと3倍に増やした。ウクライナは、残念ながらエジプト向けリンゴ輸出の場合と同様に対象から外れたが、同国はベトナムだけでなく、非常に有望な多くのリンゴ市場に輸出することができない」と言う。

ベトナムへのリンゴの主な輸出国は、引き続き米国とニュージーランドで、9,600万人以上の人口を有するこの市場に高品質の果実を提供し、流通と販売促進に投資している。2020年のベトナム向けリンゴ輸出量は、米国が54,000トン、ニュージーランドが42,000トンで、両国合わせて倍増した。

出典: Apple business - Vietnam becomes one of the world leaders in apple imports • EastFruit (east-fruit.com)

48. 世界のライム市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年6月11日)

多くのヨーロッパ諸国での晴天続きとホテル、カフェ、レストランの再開は、ライムの需要を大幅に押し上げた。現在、ヨーロッパ向けの供給元は主にブラジルとメキシコであるが、後者の入荷は遅れた。これは、北米市場でメキシコ及びその他の産地からの供給が十分あるにもかかわらず、価格が驚くほど高いためである。南アフリカ市場ではライムは良い価格を付けているが、産地の雨のためカビが発生し、品質が低下している。

オランダ：需要は良好、価格の上昇に驚き

ヨーロッパ全体でのケータリング部門の再開と素晴らしい天候は、ライム市場にとっての黄金の組合せだ。ある輸入業者は、「ライムは主にホテルやケータリング業界向けの商品だが、今は誰もが外出したいと思っているので、需要は非常に良い」と言う。また、この業者は価格水準の上昇に大変驚いており、「価格は8〜10ユーロの水準に上昇した。輸出統計を見ると、ブラジルがヨーロッパにこんなに多くのコンテナを送ったのは久しぶりだ。これだけ送れば、通常は価格が下がるものだが、このコロナ禍の年にはかなり非論理的なことが色々と起こっている。メキシコは2週間前に出荷が始まったが、米国市場の方が高値を狙えるため、暫くの間ヨーロッパ向けの出荷はなかった」と言う。

英国：ケータリング業界の再開に支えられ5月と比較して価格が50%上昇

英国とEUに現在供給されているライムは、主にブラジル産である。先月は価格が毎週上昇し、現在は5月の初めよりも約50%高くなっている。ライムの品質と状態は良好であり、一部の業界が再開されていることから需要も良好である。

メキシコではヨーロッパ向けの今シーズンの輸出が始まっている。英国では、メキシコ産果実が入荷するまでは価格の上昇が予想されるが、今後数週間のうちに入荷量の増加が見込まれ、ブラジル産とメキシコ産を合わせた供給量が増えれば価格も若干緩むものと見込まれる。なお、一部の輸入業者は、小売の計画に即した供給の継続性を確保するために、小量の航空貨物輸送を利用する可能性を視野に入れている。

イタリア：観光客の回復が夏のライム販売を後押しすることを期待

長期間低価格が続いた後、現在のライムの仕入価格は約2.00ユーロ/kgである。現在の入荷先はブラジルとメキシコであり、品質は良いが量が不足している。輸入業者は海上貨物輸送のコストが高いことを心配している。イタリア北部のある卸売業者は、「6月はライムの発射台だ。通常、この期間中に価格は上昇する傾向があり、全般的に気温が高い7月から8月にかけては再び下落する」と言う。

主に観光事業者を対象に夏の間ライムを販売する北イタリアの別の販売業者によると、ライムの需要は高まっているが、市場の出回り量は横ばいまたは減少している。この業者は、「パンデミックが終息するにつれて、より多くの観光客が海や山や芸術都市に来て、バーやレストランで楽しんでもらいたい」と言う。6月8日現在のイタリア北部の卸売価格は、ライム1箱4.5kg当たり約9〜10ユーロであった。この業者によると、イタリアに入荷するライムの90%はロッテルダム港(オランダ)で陸揚げされ、価格は現に入荷している量と今後短期的に予想される入荷量にも依存する。あるスーパーマーケットでは6月6日現在、ブラジル産の品質の良い梱包されたライムが5.30ユーロ/kg、品質の劣るものは2.89ユーロ/kgで販売されていた。

ライムはイタリアでも栽培されており、収穫時期は晩夏から晩秋である。イタリアでは、地域に適したよく知られた作物ではないが、滑らかな果皮、中玉〜大玉のサイズ、高い果汁含有量と優れた香りで、販売に適した果実を生産することが可能である。ライムは、柑橘類の主な真菌性及び細菌性の疾患に非常に罹患しやすいが、販売先からの苦情はないようだ。イタリア産有機ライムの直近の価格は約1.00ユーロ/kgであった。このライムは、主に国内市場向けである。

スペイン：ケータリングの再開と良い天候が販売を促進

スペインは、ほぼ一年中ブラジルからライムを輸入している。通常、ブラジルからの輸入量は夏に減少する

ため、メキシコからの輸入が増える。メキシコ産は5月中旬にヨーロッパに入り1月中旬まで販売されるが、今年は寒さのために入荷が遅れた。この1年は、パンデミックのためにホスピタリティ部門のほとんどが機能しておらず、消費が減少し、スペインのライム市場にとっては困難な年であった。しかし、ここ2、3週間で、レストランや観光が徐々に再開し、良い天候に恵まれ、ワクチンによって人々の自信が高まったことで、市場が再び活性化して価格が上昇した。過去2ヶ月間、ブラジルではコンテナの入手が難しく、物流上の重大な問題となっていた。運賃が増嵩し、積み込みができない場合もあり得る。今年の夏の予想は昨年と比べてはるかに前向きである。消費は通常、夏にかなり増加するが、今シーズンは、困難な1年の後で、外出し、楽しみ、祝いたいという人々の欲求が高まっており、それは間違いなくライムの販売を促進する。

南アフリカ：南アフリカ産ライムの価格は適正

ローベルド地帯（丘陵帯）のサビー渓谷でライムを栽培するある生産者は、「ライムは現在うまくいっており、価格はこの時期に相応しい」と言う。南アフリカでは年の後半はライムのシーズンオフとなる。

南アフリカでは、ライムの出荷最盛期は夏の1月から3月までで、秋には先細りする。市場の価格は、1キログラム当たり20ランド（1.2ユーロ）から25ランド（1.5ユーロ）である。この生産者は、天候は良かったが、例外的にローベルド地帯では降雨のため真菌病が発生したと言う。9月から10月にかけての3週間の降雨は、異常に長い曇天のため、春の開花に影響を与えた。「今シーズンの生産量はあまり多くなかったが、収穫したものは売ることができた」と言う。

南アフリカは、同じ時期に出荷されるエスワティニからライムを輸入している（この3月には121トン以上のライムがエスワティニから輸入された）。11月にブラジルから輸入されたものは損害を被った。貿易統計は、11月に41.3トン、10月に50トンが輸入されたことを示しているが、この時期レストランはまだ閉鎖されており、町の市場に回されたライムは需要がほとんどなく、地元産のライムが出回るにつれて、価格は下落した。これらのブラジル産輸入ライムの一部は破棄せざるを得なかったとされている。

北米：需要が供給の増加を支える可能性

テキサス州の流通業者は、「今年はこれまでライムの供給量がかなり多いが、さらにもう少し増え始めており、25～30%の増加となりそうだ。この時期に供給量が増えることは通常のことだ」と言う。

ライムは品質を維持しているが、業界では一般的に、6月末から7月にかけて、色付きの悪いものや先端に日焼けがあるものの増加など、品質上の問題が発生する可能性があるとされている。「雨が降ると、気温が上昇し、熱によって果物に目立った日焼けを生じる可能性がある」と、この業者は続ける。

「サイズはまだ小玉が大部分だ。今入荷している最も多いサイズは一箱230個入りだ。200個入りと250個入りが同じくらいでこれに次ぎ、これよりも大きなサイズは少ない」と言う。

メキシコがライムの主要な輸入先であるが、この業者はグアテマラ、ドミニカ共和国、コロンビアなどの他国からの入荷もあると指摘する。これらの国からの輸入ライムは一般的に、米国とカナダの東部に出荷される。

しかし、メキシコ産以外の輸入ライムはまもなく供給量が減少しそうだ。前出の業者は、「メキシコ産の価格が、他の輸入果実が競争できないほどに下がっている。メキシコ産の価格が20～30米ドル以上であれば、他の輸入果実は輸送運賃が高くても競争することができる。しかし、市場の価格が下がり続け、いつもの夏の相場である10米ドル前後になれば、他の輸入品は入ってこなくなる」と言う。

この業者は、10米ドル強の現在の価格は供給量の多さを反映していないとし、「供給量を考慮すると、最近の価格は通常よりも高い水準にあった。しかし、強気で反応していた市場が、夏の相場に向かって変化するが見られる」と言う。需要も最近の傾向に比べてやや弱くなっている。市場では最近数カ月の間需要が多かったが、このことが、供給量が多い場合の通常の高価格よりも高い価格を維持できている要因かも知れない。

そうは言っても、全国でフードサービスの再開が続いていることが需要を助けている。上記の業者は、「今後数ヶ月で全体的に良い状況になると思う。価格面がどうなるかはわからないが、新しい道が開けることになる」と言う。

49. 世界の落葉果実市場と貿易動向(リンゴ、ブドウ、ナシ)

米国農務省海外農業局(2020年6月11日)

<リンゴ(生鮮)>

世界の2020/21年の生産量は、中国北西部の省で春の降霜が大きな影響を与えたため、360万トン減の7,590万トンと予測される。貿易については、欧州連合(EU)と米国の輸出可能量の減少のため、世界全体としても減少するものと予測される。

中国の生産量は、北部の複数の省で春の降霜が開花に影響を与えたことから、190万トン減の4,050万トンと推定される。総生産量が減少する中で、品質の低い果実が増えると予想され、価格重視の東南アジア市場への出荷が促進されて輸出量は110万トンに増加する。輸入量は、コロナ禍による物流の混乱で輸入業者がより慎重になったため、3万トン以上減の7万トンと予測される。

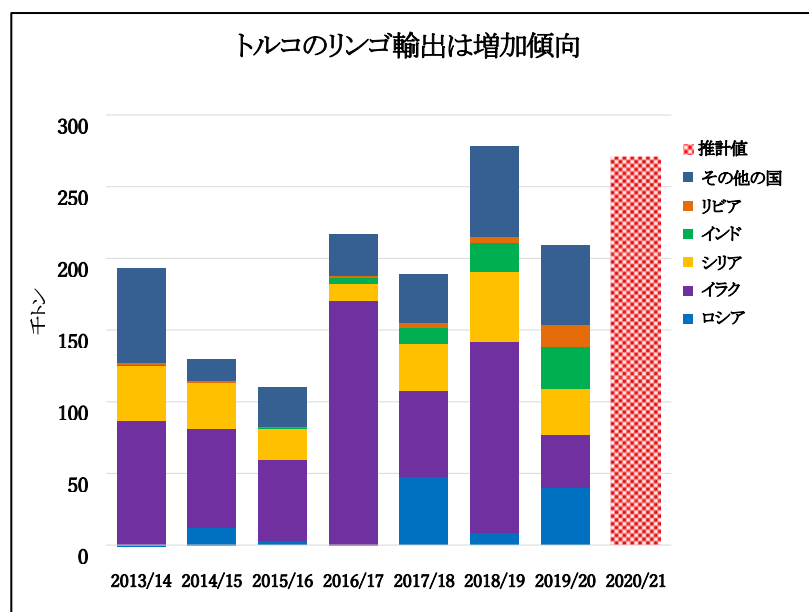
EUの生産量は、天候の影響を受けた商業的果樹園の損失を補う以上に、表年に当たる非商業的果樹園の供給量が増加するため、50万トン以上増の1,220万トンと予想される。輸出量は、商業的生産量の減少により13万5千トン減の88万トンと予測される。輸入量も、南半球からの供給量の増加を相殺する以上に東ヨーロッパからの供給が減少するため、46万トンに減少するものと予想される。

トルコの生産量は、カイセリ県と最大のリンゴ産地であるウスパルタ県での降霜にもかかわらず、70万トン近く急増して430万トンと予測される。全体的に良好な生育条件と新品種に新改植された園地の成園化により、6年連続の増産となる見込みである。供給量の増加により、ロシア向けとインド向けを中心に輸出量は30%近く増加して27万トンと予想される。

米国の生産量は、ワシントン州での収量の低下、山火事、暴風雨及びミシガン州での冷害により36万トン以上減少し、450万トンと予測される。米国農務省(USDA)

の農業統計局(NASS)は調査を行い、2021年5月に刊行した「非柑橘果樹及びナッツ類のサマリーレポート2020年版」で、米国の生産統計を更新した。輸出量は、供給量の減少によりほとんどの輸出市場への出荷が減少するため、10万トン以上減の75万トンと予想される。輸入量は、カナダと中国からの増加が、南半球からの減少を相殺する以上となり、過去最低であった昨年から若干回復して11万5千トンと見込まれる。

インドの生産量は、気温の変動、開花期の水不足、果実肥大期の降霜により、230万トンとわずかに減少すると見込まれる。品質も、生産量第2位のヒマーチャル・プラデーシュ州におけるリンゴ黒星病の流行により影響を受けた。輸入量は、主に価格競争力のあるイラン産の急増により、9万トン増加して28万5千トンと予測される。中国からの果実輸入は2017年5月から禁止されており、米国からのリンゴ輸入量は2019年6月に20%の報復関税が課されたため50%近く減少した。しかし、インドにリンゴを輸出する国の数は2013/14年度の14カ国から2018/19年度の28カ国に倍増し、2019/20年度にトルコとアフガニスタンが加わるなど、その後は20カ国以上を維持している。



ロシアの生産量は、2年連続の力強い増加の後、商業的果樹園が春に降霜と降雹の影響を受けたのに加え、非商業的果樹園が裏年で減収したため、24万トン減の150万トンと予想される。商業的果樹園では、新植により栽培面積が拡大するとともに、古い果樹園は密植栽培に改植されている。生産量が減少しているにもかかわらず、モルドバとセルビアからの出荷量の減少により、輸入量は61万5千トンに減少すると予想される。

チリの生産量は、夏の低温、1月の豪雨、コロナ禍による労働力不足が悪影響を及ぼし、1万9千トン減の110万トンと予想される。そうなれば、3年連続の下落となる。生産量の減少により、輸出量は65万トンに減少するものと見込まれる。

南アフリカの生産量は、良好な天候と十分な水供給による生産量の増加がラングルーフ地域(東ケープ州)の降雹被害を上回るため、3年連続で増加し、96万6千トンに達すると予測される。北ケープ州では、低温要求が少なく暖かい気温に適する新品種の植え付けを含め、栽培面積の拡大が続いている。供給量の増加により、輸出量は史上最高に近い53万トンに増加するものと予想される。

メキシコの生産量は、主にチワワ州における果実肥大期の悪天候により、8万トン減の68万トンと推定される。生産者は栽培面積を拡大し続けており、特にチワワ、ドゥランゴ、サカテカスの各州で新植が行われている。チワワ州の新植には、新しい方式の密植果樹園が含まれる。生産量の減少にもかかわらず、昨シーズンの在庫があるため需要は減少し、輸入量は25万トンとわずかに減少するものと予想される。

ニュージーランドの生産量は、過去最高であった昨年から4万8千トン減の54万3千トンと見込まれる。ネルソン地方とオタゴ地方では深刻な降雹被害を受け、夏の低温は果実の大きさに影響を与え、深刻な労働力不足のため収穫量が減少し、これら全てのことが相まって2016/17年度以来の最低水準となった。この結果、輸出量は2016/17年度の水準まで落ち込み、5万6千トン減の34万5千トンと予想される。

生食用ブドウは、成功のための複数のハードルをクリア

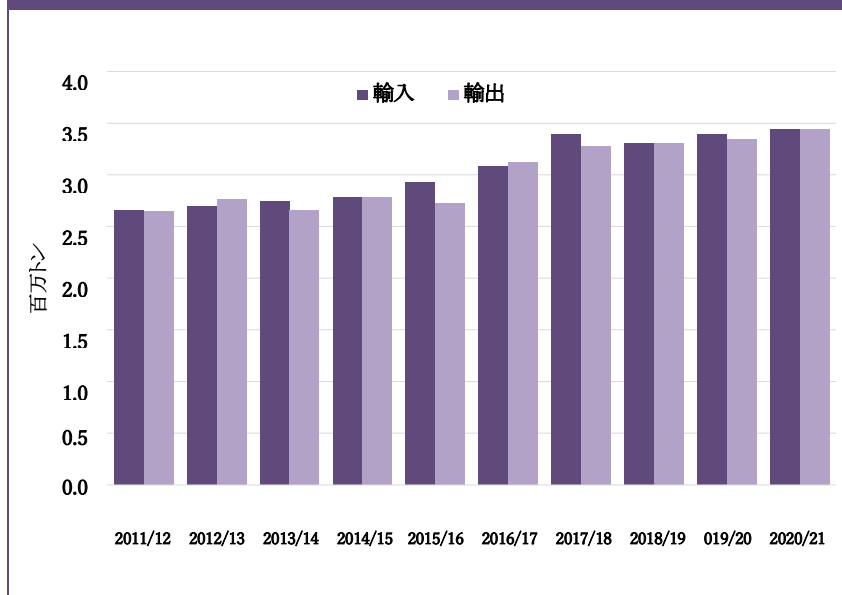
世界の貿易はこの一年、COVID-19とそれがもたらした様々な影響により、多くの課題に直面してきた。農業全体としては、コロナ禍の影響の一つである輸送面の課題に引き続き直面しており、克服しなければならぬ。これには、世界的な輸送の遅れやコンテナの不足が含まれており、その結果、輸送コストが増嵩し、各国はそのコロナ対策によって程度の差こそあれ人手不足に直面している。生食用ブドウは、直近半年の間に更なる障害を経験した。ペルーの最大のブドウ産地であるイカ県では、2番目に輸出量が多い12月に、争議中の労働者が道路を封鎖して出荷を阻止し、生産者に打撃を与えた。チリではブドウの収穫最盛期の1月に、季節外れの激しい降雨があり、主要産地のうち3カ所で深刻な被害を引き起こした。最大の産地であるオイギンズ州の生産者協会は、最大80%の損失を報告した。さらに3月には、貨物船エバーギブン号が座礁してスエズ運河を封鎖し、出荷シーズンのピークにあったインド産ブドウのヨーロッパ向け輸出に影響を与えた。世界全体で見ると、一部の生産国の減収が他の国の増収によって相殺され、2017/18年度に達成された最高記録をわずかに下回る2,470万トンの生産量を維持しているので、COVID-19は生産量に悪影響を与えていないようだ。予測どおりであれば、今年はペルーの生産量が初めてチリを上回る可能性がある。

十分な供給量は、輸出先市場への物流の面で課題を生じることが多いが、ほとんどの主要輸出国は果実を市場に届けることができ、一部の輸出国は出荷先を拡大している。主要生産・輸出国のうち、チリ、米国、メキシコだけは輸出量の減少が予想されるが、これは主に供給量の減少によるものである。繰り返し起こる数多くの課題に対し、生食用ブドウ業界は大きな対応力を示している。輸出入量は着実に増加して、340万トンを超えるものと予測される。

<生食用ブドウ>

世界の2020/21年度の生産量は、欧州連合(EU)、チリ、トルコでの天候不良による減収によって中国の増収がほぼ相殺されるため、2,470万トンでほぼ横ばいと予想される。中国とペルーの生産量の増加により、輸出量は緩やかに増加するものと予想される。

世界的な課題の中で生食用ブドウの貿易は拡大



中国の生産量は、肥培管理の改善により40万トン増の1,100万トンと推定される。また、温室や雨よけ栽培に投資する農家の数が増え、果実の品質向上に向けた取り組みも進められている。生産量の増加と品質の向上により、輸出量は58,000トン増の42万トンとなり、特に主要市場であるタイとベトナムを中心に中国の輸出量の増加傾向が続くものと予想される。

インドの生産量は、2年連続で量と品質に影響を与える雨の被害を受けたため、230万トンでほぼ横ばいと予測される。生産量が変わらないことから、輸出量も18万5千トンで横ばいと予想される。

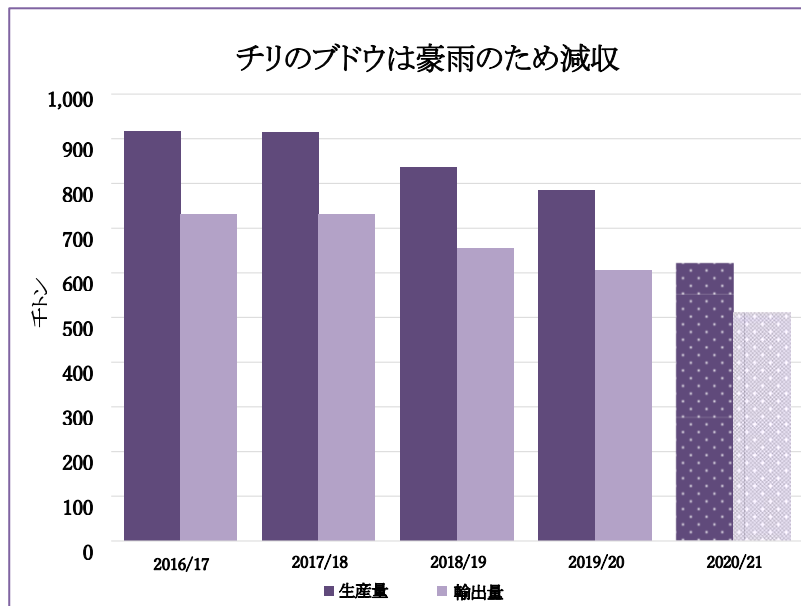
トルコの生産量は、種なしブドウの主産地であるエゲ海地域で夏の雹の被害を受けたため、5万トン減の200万トンと見込まれる。生産量の減少にもかかわらず、輸出量はウクライナ向けと最大市場のロシア向けを中心に緩やかに増加し、1万トン増の21万5千トンと見込まれる。

EUの生産量は、最大生産国のイタリアで春には霜の、秋には雨と雹の被害を受けて減収したことから、17万トン減の140万トンと見込まれる。この生産量の減少にもかかわらず、夏の気温が高かったことから果実の品質は優れており、輸出量は8万トンで横ばいと予想される。輸入量は、南アフリカとペルーからの出荷量の増加により3年ぶりに増加に転じ、史上最高の72万5千と予測される。

米国の生産量は、生産面積の減少と生育条件の不良のため、3万4千トン減の87万1千トンと予測される。米国農務省(USDA)の農業統計局(NASS)は調査を行い、2021年5月に刊行した「非柑橘果樹及びナッツ類のサマリーレポート2020年版」で、米国の生産統計を更新した。貿易統計の確定値によると、輸出量は生産量の減少とほとんどの主要市場への出荷量の減少を反映して、1万1千トン減の31万4千トンで、2009/10年度以来の最低水準となった。輸入量は、ペルーからの出荷の増加が、天候不良によるチリの出荷量の減少と昨年の記録的生産量から一転したメキシコの出荷量の減少によって相殺されたため、67万トンでほぼ横ばいであった。

ペルーの生産量は、良好な生育条件の継続と栽培面積の拡大により、着実な上昇傾向を維持すると予測され、66万5千トンに増加するものと予測される。これが実現すれば、ペルーの生産量は初めてチリを上回るが、これはチリの天候不良による減収のためであり、一時的なものになる可能性が高い。供給量の増加により、特に主要市場である米国と欧州連合(EU)への出荷が増加し、輸出量は47万トンに増加するものと予想される。

チリの生産量は、栽培面積の減少に加え、1月の季節外れの豪雨によってオイギンス州、バルパライソ州及び首都州のブドウ園が深刻な損害を受けたため、20%以上急落し、62万トンと予想される。これらの地域を合わせると、生食用ブドウ栽培面積の70%近くを占めている。果実の品質も影響を受け、湿度が高いため裂果が生じたほか、真菌性の病気が発生し、輸出可能な供給量がさらに減ったため、輸出量は10万トン近く減少して最低水準の51万トンと見込まれる。



ロシアの生産量は、南部の一部で春に干ばつがあったことから、わずかに減少して2万3千トンと見込まれる。また、生食用ブドウよりも、ワイン用ブドウの生産への投資が続いている。輸入量は、トルコ産とウズベキスタン産を中心に3万2千トン増加して、32万トンと予測される。

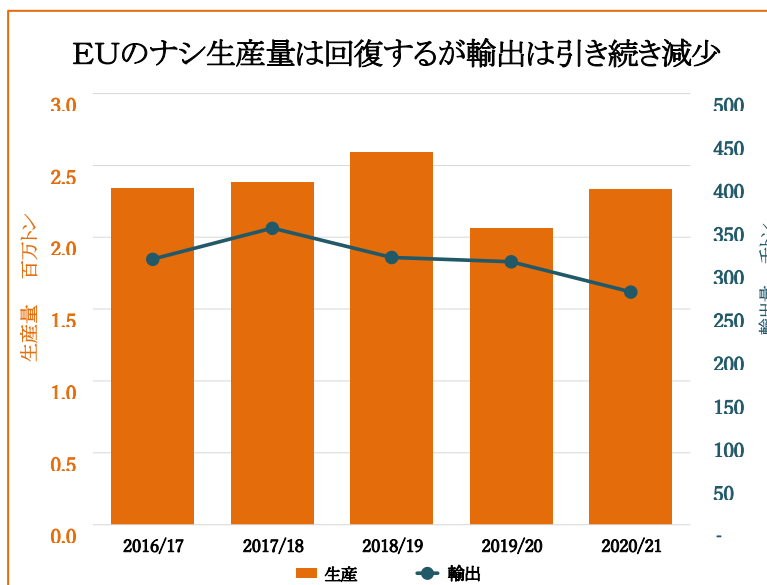
南アフリカの生産量は、良好な天候と灌漑水の確保、さらに多収品種の新しい園地の成園化により緩やかに増加し、33万トンと予想される。北ケープ州で新植園地が拡大しているほか、西ケープ州では一部の生産者がワイン用ブドウから生食用ブドウへの転換を進めている。供給量の増加により、輸出量は2万7千トン増の32万5千トンと予測される。

＜ナシ(生鮮)＞

世界の2020/21年の生産量は、中国の天候不良による減収のため120万トン減の2,210万トンと予想され、貿易量も減少が見込まれる。

中国の生産量は、主産地である河北省で果実肥大期の4月に降霜があり減収したため、130万トン減の1,600万トンと予測される。供給量の減少のため輸出量は25%近く減の47万トンと予想される。また、ここ数年緩やかに増加していた洋梨の需要が減少に転じることから、輸入量は1万トンに縮小する見込みである。

EUの生産量は、昨年度の天候不順と病虫害による減収から回復し、28万トン近く増の230万トンと予測される。生産量が多いにもかかわらず、イベリア半島で開花期から着果期に降霜と豪雨に見舞われたため、ブラジル向け等に輸出できる品質の果実が減少し、輸出量は27万トンに減少するものと予測される。輸入量は緩やかに増加し、19万トンと見込まれる。



米国の生産量は、生産面積の減少と収量の低下により、3万7千トン減の60万8千トンと見込まれる。米国農務省(USDA)の農業統計局(NASS)は調査を行い、2021年5月に刊行した「非柑橘果樹及びナッツ類のサマリーレポート2020年版」で、米国の生産統計を更新した。輸出量は、供給量の減少とメキシコの需要の低迷で11万トンに減少すると予測される。輸入量も、韓国等主要輸入先からの輸入数量の減少により7万1千トンに減少すると予測される。

アルゼンチンの生産量は、栽培面積が引き続き減少することから、近年の増加傾向に歯止めがかかり、微減の62万トンと予想される。小規模生産者が生産コストの上昇と果樹園維持のための資金不足に引き続き悩まされているため耕作放棄が止まらない。生産量の減少により、輸出量は32万トンに減少すると見込まれる。

南アフリカの生産量は、良好な生育条件により41万トンで横ばいと予想される。干ばつ期間中に取り除かれた古い木の改植が進むにつれて、栽培面積は回復している。生産量が横ばいであることに伴い、輸出量は23万トンで堅調に推移すると予想される。

ロシアの生産量は、商業的果樹園が気象被害により減収するのに加え、非商業的果樹園は昨年の大豊作に続く裏年のため、4万3千トン減の24万7千トンと予測される。病気のリスクや冷蔵施設の問題のために商業的生産者の志向はリンゴに傾斜しているが、非商業的生産者は、価格の高さに魅かれて梨に大きな関心を示している。輸入量は最低水準であった昨年から反発し、3万6千トン増の23万トンに達し、世界最大の輸入国の地位を確実にしている。ベラルーシとトルコからの出荷量が増え、南半球の輸出国からの出荷の減少が相殺される見込みである。

チリの生産量は、夏の低温、1月の豪雨、コロナ禍関連の労働力不足により、2万トン減の20万2千トンと見込まれる。輸出量は供給量の減少に伴い2年続けて減少し、10万6千トンと見込まれる。

注記

欧州連合(EU)の定義: オーストリア、ベルギー/ルクセンブルク、ブルガリア、クロアチア、キプロス、チェコ共和国、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイルランド、イタリア、ラトビア、リトアニア、マルタ、オランダ、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン及び英国。

2021年1月1日に英国の欧州連合(EU)からの離脱が完了し、これには両者の間の貿易も含まれる。米国農務省海外農業局は、園芸作物(柑橘類、コーヒー、落葉果実、核果類、木本性のナッツ類)に関し、2020/21年度までの生産需給データについては、「欧州連合」という用語を引き続き以前の関税同盟の参加国、すなわちEU27カ国と英国を意味するものとして使用する。2021/22年度以降は、英国を除く欧州連合を表し、すべての域内貿易を含まない。

販売年度:

リンゴ-米国とメキシコは8月から7月。他のすべての北半球諸国は7月から6月。南半球諸国は第2年の暦年。

生食用ブドウ-米国とメキシコは5月から4月。他のすべての北半球諸国は6月から5月。南半球諸国のうちアルゼンチン、オーストラリア、チリ、ペルー、南アフリカは10月から9月、ブラジルは第2年の暦年。

ナシ-北半球諸国は7月から6月。南半球諸国は第2年の暦年。

リンゴ（生鮮） 主要国の生産需給統計

(1000トン)

	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 12月予測	2020/21 6月予測
生産量						
中国	40,393	41,390	33,000	42,425	40,500	40,500
E U	12,723	10,005	15,029	11,705	12,227	12,227
米国	5,010	5,085	4,479	4,852	4,671	4,490
トルコ	2,926	3,032	3,600	3,620	4,300	4,300
インド	2,258	1,920	2,371	2,370	2,300	2,300
ロシア	1,509	1,360	1,611	1,779	1,540	1,540
ウクライナ	1,076	1,462	1,462	1,462	1,462	1,462
ブラジル	1,308	1,195	1,195	1,195	1,195	1,195
チリ	1,310	1,330	1,210	1,124	1,170	1,105
南アフリカ	902	836	894	942	960	966
その他	7,233	7,945	7,787	8,038	5,805	5,789
合 計	76,647	75,559	72,637	79,511	76,131	75,875
国内消費量						
中国	39,088	40,172	32,275	41,487	39,380	39,515
E U	11,568	9,773	14,347	11,192	11,627	11,807
トルコ	2,712	2,844	3,324	3,412	4,051	4,031
米国	4,314	4,212	3,884	4,098	3,976	3,855
インド	2,283	1,955	2,384	2,250	2,352	2,382
ロシア	2,042	2,156	2,322	2,339	2,273	2,081
ウクライナ	1,105	1,426	1,418	1,462	1,457	1,462
ブラジル	1,331	1,199	1,218	1,237	1,235	1,180
メキシコ	983	1,001	794	1,017	930	924
ベラルーシ	798	864	834	831	830	775
その他	9,485	9,299	9,377	9,775	7,638	7,590
合 計	75,708	74,901	72,176	79,102	75,749	75,603
輸入量						
ロシア	657	859	793	647	810	615
E U	425	531	493	503	515	460
インド	370	249	277	194	240	285
ベトナム	150	160	158	233	250	265
バングラデシュ	245	245	188	271	280	260
エジプト	145	72	271	253	250	255
メキシコ	267	287	247	257	250	250
カナダ	221	222	203	205	205	195
タイ	175	160	126	172	185	185
サウジアラビア	192	181	182	195	200	180
その他	3,408	3,099	2,832	2,915	2,487	2,273
合 計	6,256	6,064	5,770	5,845	5,672	5,223
輸出货量						
中国	1,376	1,281	818	1,042	1,200	1,055
E U	1,486	761	1,175	1,015	1,115	880
米国	868	1,007	741	862	815	750
チリ	716	779	674	660	655	650
南アフリカ	553	449	490	509	510	530
ニュージーランド	345	369	391	401	390	345
トルコ	217	189	278	209	250	270
セルビア	239	156	184	206	190	165
モルドバ	168	264	299	238	230	140
アルゼンチン	78	96	111	109	110	100
その他	628	1,122	762	643	352	373
合 計	6,673	6,473	5,922	5,893	5,817	5,258

注: 販売年度は、米国とメキシコは8月～7月。他の北半球諸国は7月～6月。

南半球諸国は第2年の暦年。

ブドウ（生食用、生鮮） 主要国の生産需給統計

(1000トン)

	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 12月予測	2020/21 6月予測
生産量						
中国	10,100	10,500	9,900	10,600	11,000	11,000
インド	2,784	2,800	2,900	2,280	3,000	2,300
トルコ	1,991	2,109	1,950	2,050	2,000	2,000
ブラジル	1,743	1,592	1,592	1,592	1,592	1,592
ウズベキスタン	1,626	1,590	1,590	1,590	1,590	1,590
エジプト	1,280	1,315	1,350	1,385	1,420	1,420
E U	1,718	1,448	1,589	1,573	1,403	1,403
米国	943	935	997	905	1,020	871
ペルー	611	623	630	653	665	665
チリ	917	915	835	785	785	620
その他	1,069	1,128	1,041	1,210	1,216	1,216
合 計	24,783	24,955	24,374	24,623	25,690	24,676
生鮮国内消費量						
中国	10,081	10,464	9,873	10,477	10,800	10,790
E U	2,280	2,057	2,192	2,172	2,008	2,048
インド	2,358	2,401	2,356	1,803	2,600	1,892
トルコ	1,818	1,830	1,771	1,845	1,800	1,785
ブラジル	1,723	1,572	1,562	1,550	1,554	1,537
ウズベキスタン	1,528	1,463	1,472	1,494	1,485	1,475
エジプト	1,275	1,300	1,325	1,360	1,370	1,370
米国	1,189	1,217	1,199	1,252	1,365	1,227
ロシア	228	412	307	307	329	338
メキシコ	176	224	236	273	279	276
その他	1,836	1,924	1,780	1,832	1,848	1,705
合 計	24,492	24,865	24,073	24,366	25,437	24,444
輸入量						
E U	649	688	682	677	680	725
米国	593	618	571	672	650	670
ロシア	212	387	290	288	310	320
中国	237	242	262	239	220	210
香港	229	250	259	238	235	210
カナダ	176	179	179	189	190	190
ベトナム	74	101	100	112	125	145
タイ	157	143	124	131	140	140
エジプト	85	100	110	125	120	120
インドネシア	68	81	112	94	95	90
その他	598	600	619	623	628	619
合 計	3,078	3,389	3,307	3,386	3,393	3,439
輸出货量						
チリ	731	731	655	605	620	510
ペルー	311	277	388	400	415	470
中国	257	278	289	362	420	420
南アフリカ	304	279	276	298	305	325
米国	347	336	369	325	305	314
トルコ	173	280	179	205	200	215
メキシコ	156	196	147	224	200	205
香港	212	214	226	205	200	195
インド	200	210	250	185	180	185
オーストラリア	107	110	146	153	170	170
その他	326	368	381	379	399	431
合 計	3,123	3,279	3,304	3,340	3,414	3,440

注: 販売年度は、米国とメキシコは5月～4月。他の北半球諸国は6月～5月。

南半球諸国のうちアルゼンチン、オーストラリア、チリ、ペルー、南アフリカは

10月～9月、ブラジルは第2年の暦年。

一部の国のデータは干しブドウを含むことがある。

ナシ（生鮮） 主要国の生産需給統計
(1000トン)

	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 12月予測	2020/21 6月予測
生産量						
中国	15,960	16,410	14,000	17,314	16,000	16,000
E U	2,340	2,384	2,591	2,061	2,337	2,337
アルゼンチン	540	580	600	640	610	620
米国	668	663	726	645	720	608
トルコ	472	503	520	530	550	550
南アフリカ	432	408	413	407	410	410
インド	340	280	3,000	310	300	305
日本	275	259	259	259	259	259
ロシア	236	218	242	290	247	247
チリ	290	262	252	222	213	202
その他	609	665	571	570	512	526
合 計	22,161	22,633	23,174	23,248	22,157	22,063
国内消費量						
中国	15,458	15,875	13,645	16,707	15,461	15,540
E U	2,240	2,240	2,449	1,939	2,202	2,257
米国	615	621	654	586	680	569
トルコ	456	459	478	479	495	480
ロシア	445	470	461	436	401	435
インド	333	267	2,988	327	320	325
アルゼンチン	261	260	291	300	290	300
日本	273	257	257	257	257	258
インドネシア	155	180	145	236	200	185
南アフリカ	166	186	188	181	190	180
その他	1,527	1,612	1,461	1,588	1,553	1,446
合 計	21,930	22,427	23,017	23,038	22,049	21,975
輸入量						
ロシア	252	285	261	194	195	230
E U	208	200	168	183	170	190
インドネシア	155	180	145	236	200	185
ブラジル	156	158	154	136	140	130
ペラルーシ	152	133	118	119	125	110
ベトナム	78	88	63	130	135	105
香港	68	73	85	76	80	80
米国	73	79	73	72	70	71
メキシコ	67	72	92	84	80	70
カナダ	64	64	66	60	65	63
その他	379	386	345	404	414	383
合 計	1,652	1,719	1,568	1,693	1,674	1,617
輸出量						
中国	509	543	366	619	550	470
アルゼンチン	280	320	310	340	320	320
E U	308	344	310	305	305	270
南アフリカ	266	222	226	227	220	230
米国	126	122	144	130	110	110
チリ	152	129	132	114	110	106
トルコ	16	44	42	51	55	70
ペラルーシ	92	83	70	16	25	50
韓国	26	32	27	31	25	20
オーストラリア	9	12	9	9	9	9
その他	18	13	14	15	12	9
合 計	1,800	1,864	1,650	1,856	1,741	1,664

注: 販売年度は、北半球諸国は7月～6月、南半球諸国は第2年の暦年。

50. 英国人の3分の1が果実と野菜の摂取を増やす

EUROFRUIT電子版(2021年6月14日)

英国栄養財団の調査結果は、過去1年間の習慣の変化について心強い姿を描き出した。

英国人のおよそ3分の2は、過去1年間に食事に前向きな変更を加え、中でも3分の1は果実と野菜を増やした。これは、英国栄養財団が委託した新しい調査で分かったもので、英国人の62%が過去1年間に健康増進のために食事を変えたことを示している。約33%が食事の中の果物や野菜を増やし、29%がより健康的な食事を作り始め、32%が水を飲む量を増やしたと回答した。

この調査は、英国栄養財団の「健康的な食事週間2021」の一環として、YouGov社がオンラインで実施したもので、パンデミックに見舞われた過去一年の間に人々が食事と生活習慣に加えた変化を調べた。調査結果はさらに、57%の人が2020年5月以降、より健康的な料理をするようになったことを明らかにしている。約21%がより健康的なレシピを見つけ、20%は可能であれば直火焼き・網焼き(grilling)や油炒め(frying)の代わりにオーブンで焼く(baking)など健康的な調理方法を使った。回答者の半数は、活動的であり続けるための新しい取り組みについて言及し、29%が定期的に歩き始め、12%が定期的に運動を行うようになった。

「健康的な食事週間2021」(6月14～18日)は、誰もが自分の健康と満足感を高めることを奨励し、「より健康な自分を見つける」よう促している。また、エビデンスに基づく様々な無料の資料とツールを提供して参加者をサポートしている。(以下省略)

51. 豪州 果物の摂取量増加は糖尿病のリスクを下げる模様

FreshPlazaウェブサイト(2021年6月15日)

パース医療保健大学の研究によると、果物の摂取量の増加は糖尿病のリスクを下げるようだ。

より多くの果物を食べることが糖尿病発症リスクを減らすことが一般的に認められているが、果物がどのようにしてこの利点を発揮するのかについてはほとんど知られていない。

2型糖尿病は膨大な数の人々に影響を及ぼし、2017年のレビューでは、世界中で最大4億5,100万人の成人がこの状態にあり、この数字は2045年までに6億9,300万人に増加すると推定された。生果実の消費が糖尿病発症リスクを減少させるという証拠がある。

しかし、果物の摂取量とインスリン抵抗性や β 細胞機能障害との関係は、あまり明確ではない。オーストラリアのパース医療保健大学の研究者らは、数年間の追跡調査を行い、様々な果物の摂取量と耐糖能(ブドウ糖を摂取した時に血糖値を一定に保つ調節能力)、インスリン感受性及び糖尿病の発症率との関係を調べた。

研究の対象集団は、平均年齢54歳の7,674人(男性が45%)であった。果物の摂取量の中央値は162g/日で、最も摂取が多い品目はリンゴ(全体の23%)、バナナ(20%)、オレンジなどの柑橘類(18%)だった。他の果物の貢献度は、合計で全体の8%未満だった。5年後のデータが入手できた4,674人について、生果実の摂取量が最も多いグループを最も少ないグループと比較し、人口統計学的要素を調整したところ、糖尿病発症率が36%低かった。果汁や特定の果物の消費量との有意な関係性は見られなかった。

Hospitalhealthcare.comによると、著者らは、果物を多く消費することの潜在的な利点について、腸内微生物叢によって代謝される可溶性繊維の存在と、グルコースの代謝を調節することが知られている短鎖脂肪酸の放出に関連することを示唆している。また、リスクの減少は、抗糖尿病効果を有する果実中のフラボノイドの存在による可能性もある。著者らは、生果実を食べることはインスリン感受性を維持し、2型糖尿病を軽減するようだと結論付けた。

52. 世界のマンダリン市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年6月18日)

訳注: この記事中の「マンダリン」は、狭義のマンダリンのほか、クレメンタイン、ウンシュウミカン等を含むことがあります。

南アフリカなどの生産国でシーズンの早い時期に生育条件が良好であったことから小玉果が増加し、これらは世界の輸出市場でも輸入市場でも価格が上がらない。外的な要因としては、他の果実と同様に、輸送問題や労働力不足が引き続きマンダリンの出荷を妨げており、特にオーストラリアでは、通常果実を収穫する外国人労働者に国境を開いていないため、一部の果実は収穫されないまま樹上に放置されている。



オランダ: 大玉の市場価格は安定、小玉は上値が重い

オランダのある輸入業者は、「海外産マンダリンの市場はペルー産と南アフリカ産のウンシュウミカンで良いスタートを切った。大玉は市場にあまり出していないので、妥当な価格で安定している。しかし、小玉果は上値が重い。クレメンタイン、ヌル(Nules)、ノヴァ(Nova)などの品種も入荷している」と言う。この輸入業者によると、市場のコンテナ不足にもかかわらず、遅延はこれまでのところ妥当な範囲にとどまっている。

新しい市場が欧州市場への圧力となるかどうかについてこの輸入業者は、「誰もが特定の市場に依存せず、常にバランスをとりたいと思っている。晩生のマンダリンやレモンの植栽の増加は、品目の適切な広がりが必要であることを意味している。同時に、ヨーロッパはこれからも南アフリカにとって重要な市場であり続けると期待しているが、南アフリカは今後も他の市場を開拓していくと思う」と述べた。

ベルギー: 苦戦するマンダリン市場

マンダリンが今でも秋を思わせる品目であるため、マンダリン市場は5月から8月まで困難な時期に直面している。人々は今の時期は夏の果実(モモ、サクランボ等)に集中し、マンダリンを食べるのは10月からになる。8月末から9月初めになって、南アフリカ産のナドルコット(Nadorcott)品種のマンダリンが市場に出ると、需要は増えると見られる。

スペイン: 国産マンダリンのシーズンは早く終了

今年のスペイン産マンダリンの出荷シーズンはかなり早く終了した。今年は品質は良かったが、ナドルコット

品種、タンゴ(Tango)品種、及びオリ(Ori)品種の出荷量は予想を下回り、投機により産地の出荷価格が急騰した。これは、需要と価格が平年並みで、今年の掛り増し経費を賄うことができなかった市場の動向とは一致しない。4月末までには、ほぼすべてのマンダリンが収穫された。少量のマンダリンは、南半球からの入荷が始まるまでの、スーパーマーケットの販売計画を満たすための繋ぎとして、もう1ヶ月間冷蔵倉庫に保管された。スペインでは7月からの夏の期間、シーズンの最初のクレメンヴィラ(Clemenillas)品種の入荷と相まって、南アフリカ産とペルー産のマンダリンの需要が伸びている。スペイン産の最初のウンシュウミカン(9月)に入荷し、クレメンティンが続く。スーパーマーケットが南半球産のタンゴとナドルコットを好むため、早生のマンダリンとクレメンティンの栽培は、年々減少していると見られる。

中国：出荷シーズンは早いスタート

他の柑橘類がまだ果実肥大期にある6月半ば、広西チワン族自治区崇左市ではウンシュウミカンの収穫、販売が始まり、柑橘類の販売シーズンの始まりを告げた。

毎年6月中旬から下旬にかけて、少量の早生及び極早生の柑橘類が市場に投入されるが、湖南省、雲南省、その他の産地の早生品種は7月中旬まで入荷しない。今年の収穫シーズンは、業者らが端午節の連休(2021年は6月12日～14日)を活用しようとしたため、昨年より1週間近く早く始まった。当初の計画では、10日遅く収穫を開始することになっていた。この段階では、早生マンダリンの味はまだかなり酸っぱく、サイズが50～55mmの果実が大部分なので、よく熟した果実だけが摘み取られる。

前出の崇左市産のウンシュウミカンの2週間後には、雲南省産のマンダリンが少量入荷する。さらにその2週間後には、湖南省、湖北省及び広西チワン族自治区の他の地域からの早生マンダリンが市場に出始める。今年は、極早生のマンダリンは55mm以上のものが0.5kg当たり3.5元、早生種は60mm以上のものが同3.0円で販売されている。早生マンダリンの価格は7月に上がると予想される。(1元≒17円)

北米：課題の多いシーズン

北米のマンダリンの供給は、米国産から輸入品への切り替わりの時期にある。

カリフォルニア州では、マンダリンの出荷が終わるところだ。カリフォルニア州のある業者は、「おそらくあと2～3週間収穫があり、その後少しの間出荷があるだろう。通常よりも少しだけ遅く終わる」と言う。この業者は、カリフォルニア州の出荷量は2020年よりもわずかに多いと指摘し、「未収穫のものが若干あり、成園化して生産が始まった園地もいくらかあった」と言う。カリフォルニア州産マンダリンの出荷シーズンの早い段階では、サイズが小さいことが懸念された。

今年は、マンダリンの需要が良好だ。価格に関しては、今シーズンはわずかに低くなっている。上記の業者は、「これは栽培面積が少し増えたからだと思う。また同時に、輸入品も入って来ている」と言う。

カリフォルニア州の柑橘類生産者が引き続き取り組んでいるのは、コンテナ確保の困難、輸送コストの上昇、供給量の不足など、サプライチェーンの問題である。同じ業者は、「これらはすべて、出荷コストを押し上げている。サプライチェーンは大混乱しており、小手先の手段を講じることはできるとしても、実際にはサプライチェーン全体がストレスにさらされている」と言う。

一方、輸入マンダリンはすでに1ヶ月半の間、主にペルーから入っている。マイアミに拠点を置き柑橘類、アボカド、ブドウの生産と輸入を行う業者は、「今季のペルー産は品質が良く、量も増える」と言う。ペルーはすでにクレメンティンなどの早生のマンダリンの出荷を完了し、現在はW. マーコット(W. Murcott)品種に切り替わりつつある。この生産・輸入業者は、W. マーコットは7月の初めには入荷が始まると言い、同社のペルーの農場では種子なしのW. マーコットへの切り替えが進んでいると付け加えた。今年のペルー産に関しては、昨年よりも約10%量が多く、サイズは小売用の袋詰めに適しているとし、「成木化して生産が始まる木が増えている。ペルーだけでなく、チリでも同様だ。南アフリカも出荷量が多い」と言う。

量が多い場合、輸入品の荷動きが問題になる可能性がある。しかし、この業者は、価格は消費者の需要を喚起するのに十分な程度に手が届く水準だと予想している。「7月になってペルー産、チリ産、南アフリカ産

が大量に入荷する前の今後数週間、いくらかの価格上昇が期待できる」と言う。

この先を見ると、今後の入荷量を管理することも荷動きの助けになる。チリ産は出荷の開始が遅かったが、現在クレメンタインを出荷しており、今後2〜3週間で大量に入荷してくると予想される。この業者は、チリ産は全般的に小玉が多いと指摘しつつ、「このチリ産と、ペルー産のW. マーコット、さらに南アフリカからの入荷量を合わせると、今年の入荷量をさばくのはなかなか大変になりそうだ」と締めくくった。

南アフリカ：マンダリン市場は飽和状態

クレメンタインとノヴァ品種の季節は終わりつつあるが、小玉果が多く、これは特に西ケープ州と東ケープ州で顕著だ。またこの傾向は、晩生のマンダリンにも当てはまるようだ。西ケープ州のある輸出業者は、これは市場がすでに小玉のソフト柑橘類で満杯で、生産者はサイズ4と5の出荷を停止する必要があるということだと言い、ソフト柑橘類の市場は「極度に飽和しており、ナドルコット品種の受け入れも始まらない」と指摘する。

晩生マンダリンのタンゴ品種の輸出がリンポポ州からすでに始まり、ナドルコット品種も始まるころだ。ダーバン港の第2埠頭では、コンテナ運搬用機材の不足により運用上の問題があったが、状況は改善している。

リンポポ州のあるソフト柑橘類生産者は、「開花時の気象条件が良かったため着果数は多いが、今年の初めに5〜6週間続いた雨と曇天のために生育が遅れ、期待どおりの大きさに肥大しなかった」と言う。その期間のかなりの雨量は、国の北部の柑橘類生産者にとっては水の確保に役立ったが、果実のサイズは小さい。

東ケープ州の一部での干ばつと降水量の不足は、ソフト柑橘類の小玉化を引き起こした。一方、西ケープ州ボーランド地域のあるソフト柑橘類生産者は、今シーズンは小玉化の傾向は見られないと言う。小玉のソフト柑橘類(サイズ4、5または6)を扱う市場は数が限られてきている。ある柑橘類輸出業者は、小玉のマンダリンの1つの選択肢はバングラデシュへの輸出であろうと指摘するが、バングラデシュへの出荷はまだ課題多く、コンテナの積み下ろしが遅れがちだ。フィリピンが今シーズン、南アフリカ産柑橘類に市場を開いたので、ソフト柑橘類に良い市場を提供する可能性がある。

リンポポ州のある柑橘類生産者は「マンダリンの総輸出量は見通しよりも少なくなるが、若い果樹園の成園化により、昨年よりは多くなるだろう」と言う。今のところ、ソフト柑橘類(マンダリン+クレメンタイン+ウンシュウミカン)の輸出見通しは2,950万箱(15kg/箱)で変わらない。昨年は、2,360万箱(同)のソフト柑橘類が南アフリカから輸出された。

ある柑橘類輸出業者は、「今年は2020年と全く違い、簡単な年ではない。価格は低く、ランド(南アフリカの通貨)は強い」と言う。米国、カナダ、EU市場におけるペルー産及びチリ産との競争が指摘されている。

オーストラリア：労働力問題のため収穫が困難

オーストラリアでは、5月から6月にかけて南部の州の産地でマンダリンの出荷が始まり、現在最盛期である。しかし、オーストラリアの柑橘類出荷シーズンの先頭を切るクイーンズランド州の生産者にとっては、労働力不足のために果実が収穫できないことをはじめ、色々と課題がある。労働力不足は、連邦政府によるCOVID-19対策としての国境閉鎖が原因であり、外国人労働者のオーストラリアへの入国を許可していないためである。別の生産者らは、寒い天候のため霜などの問題と闘わなければならないと報告している。卸売段階では、南オーストラリア州のある会社によると、市場に入荷する果実は品質が良い。この会社の関係者は、国内産の果実は需要が高く、しばしば高値が付くのでその入荷を待っていると言う。

オーストラリアのマンダリン生産量は総じて増加しており、統計によると、2020年6月までの1年間に17万2,934トンが出荷された。これは量的に10%の増加であり、金額は3億5,700万ドルに20%急増した。輸出货量も30%増と大幅に増加して77,316トンとなり、輸出額は34%増の1億8,700万ドルに跳ね上がった。中国は、オーストラリア産マンダリンの主要な成長市場であり、輸出货量のほぼ3分の1が中国向けである。

53. 中国沖で南アフリカ産柑橘類を止めているものは何か

FreshPlazaウェブサイト(2021年6月23日)

リーファー船(冷蔵運搬船)バルティックスプリング号は、南アフリカ産グレープフルーツ1,800パレットを積んで4月26日にダーバン港(南アフリカ)を出発した。同船はその荷の一部を日本で下ろし、5月26日に堺港を出発して上海に向かい、5月31日に荷下ろしする予定だった。3週間以上経ち、同船はまだ上海港の外に停泊している。

南アフリカ産柑橘類を乗せ同じ航路をたどるリーファー船があと2隻続いている。6月8日に日本を出発し、2日後に上海に到着するはずだったスターエンデバー I 号はまだ日本の海域にいと報告されている。6月19日に日本を出発したクラウンガーネット号は、上海に向けて進んでいる。

バルティックスプリング号の運行会社でストックホルムに拠点を置くクールキャリアズ社の南アフリカ代表は、今週の初めの時点で同船がまだ上海港の外の同じ位置に3週間以上いることを認め、それ以上のコメントはない、この問題は南アフリカと中国の当局間のハイレベル交渉の対象だとFreshPlazaに語った。

バルティックスプリング号を上海または上海の北の天津に停泊させる手配が進行中であると伝えられているが、これは確認できなかった。

遅延の背後にある理由は依然不透明だ。柑橘類生産者協会は、現時点ではこの問題についてコメントできないとしており、南アフリカ果実協会は、これ以上の情報はないとしている。

品質はまだ心配ない

南アフリカは、この時期、世界で唯一のグレープフルーツ輸出国である。幸いなことに、グレープフルーツは約12週間の賞味期間があるので、果実の品質はこの段階では特に懸念されていない。むしろ、同時に大量のグレープフルーツが到着した場合の中国市場の反応が懸念される。中国のグレープフルーツ市場は、バルティックスプリング号の積み荷の到着が遅れている間にいくらか空いたようである。

中国南部の港湾の荷捌き能力に関する最近の問題は、輸入業者の間でさらなる不安を生み出している。特殊なリーファー船で中国に輸送される柑橘類(大部分の柑橘類はコンテナで輸送される)に関する議定書を結ぶのに数年かかり、2019年に日本向けと中国向けの南アフリカ産グレープフルーツが初めてリーファー船に混載された。業界筋によると、この方式は2年間機能しており、同じ船舶が同じ港を問題なく訪れていた。

柑橘類業界では、この遅れの理由について多くの憶測があり、コロナウイルス関連の規制から国際政治における国益の追求に至るまでの説明が示唆されている。南アフリカにはコロナウイルスのベータ変異株があり、現在感染率が高く、このことが遅延の理由である可能性はある。中国シノヴァック社製ワクチンの承認申請は、南アフリカの保健医薬品規制当局で審査が進んでいる。中国シノファーム社製ワクチンについては、地元の企業が申請する意向を示しているが、正式な申請はまだ行われていない。

今週、南アフリカの農業・土地改革・農村開発大臣は、中国向け輸出用南アフリカ産レモンの新たな低温処理方法(+3℃で18日間)を規定する待望の議定書に署名した。これまでの議定書はレモンを損傷する低い温度での処理を求めており、その結果、危険を冒して中国にレモンを送る南アフリカの輸出業者はほとんどいなかった。

南アフリカは中国との良好な二国間関係を享受しており、在南アフリカ中国大使館が最近主催した中国共産党100周年記念式典には、友好的な雰囲気の中、与党アフリカ民族会議のトップの面々が出席した。

54. 世界のサクランボ市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年6月25日)

多くの国でサクランボの生産が悪天候によって妨げられており、スペインでは豪雨で果実が傷み、北米では受粉が風の影響を受けた。しかし、その他の国々では記録的な出荷が進んでおり、南アフリカでは史上最高のサクランボ出荷を達成した。オーストラリアでは、タスマニア産サクランボの輸出が今シーズン40%増加した。



オランダ：サクランボの出荷シーズンは遅いスタート

オランダでは春の気温が低かったため、今年はサクランボの収穫量に対する期待は高くなかったが、実際は豊作になりそう。しかし、春の寒さのため収穫がかなり遅れている。今は早生のサクランボが収穫されており、主要な品種はまだ収穫を待っている。輸出業者は、オランダ産のサクランボの輸出の可能性が高まっていると見ている。オランダの生産者は自信を持って出荷シーズンを待っている。オランダ中部の一部の生産者らにとっては、出荷シーズンは残念な始まり方をし、サクランボを摘み取る代わりに、先週金曜日の嵐の後の残骸の片づけをすることになった。15ヘクタールが激しい嵐と雹の被害を受けたと推定される。

イタリア：産地によって異なる価格動向

平均以上の収量、低価格、中玉から小玉の果実及び毎日の労働争議によって特徴付けられたプッリャ州の2021年のサクランボ出荷シーズンは、6月末から7月の初めに終了する見込みである。現在収穫中のFerrovia品種の出荷価格は24~26ミリのサイズのもので1.00~1.50ユーロ/kgとなっている。

2021年第24週(6月中旬)にはカンパニア州で収穫が本格化した。この週は気温が高かったため成熟が進み、収穫作業が促進された。市場への入荷量が多い一方、需要は平常どおりで、価格は下落した。

イタリア北部の一部の地域では、春の霜によって大きな影響を受けた。エミリア・ロマーニャ州の低地を中心に生産量は最大50%失われ、そのほかヴェネト州の丘陵地帯でも被害が見られた。大玉のサクランボの価格は非常に興味深い。きちんと調製されサイズの揃ったサクランボは、今後数週間で十分に価格が上昇すると見込まれる。果樹が50センチ間隔で一列に植栽され、梯子を使わずに管理することができる密植栽培が確立されつつある。これは、収穫コストの低減と果実の大玉化を可能にする。

スペイン：豪雨によりサクランボ産地に被害

スペイン最大のサクランボ産地であるエストレマドゥーラ州エルヘルテ地区のサクランボ果樹園は、先週の豪雨の被害を受けた。収穫最盛期の降雨のため、地域と標高により、また果実の成熟度合に応じて、生産量の20~40%に裂果を生じた。ステムレスタイプ(収穫時に果梗が取れる)のピコタ品種は、収穫が始まる直前で

あったため大幅に損傷を受けており、来週市場に出荷される量にも影響が出る。エルヘルテ地区のサクランボ出荷シーズンはあとまだ3週間ある。スペインの他の産地、特にアラゴン州も雨の影響を受けた。卸売市場への販売額はパンデミック以前よりも少ないが、総じて言えばサクランボの需要と価格は良好である。

南アフリカ：これまでで最大の豊作

2020/21年度の総生産量は約900トン、輸出量は約440トンで、南アフリカとしてはこれまでで最大のサクランボ収穫量となった。73%はイギリス、8%はヨーロッパ、8%は中東、5%はアフリカに出荷された。

2019/20年度の総生産量は624トンで、そのうち23%が輸出され（前年度より少ない）、63%が国内市場に、7%が加工用に仕向けられた。輸出のほとんどは英国向けで、ヨーロッパ向けと中東向けがこれに続き、出荷時期は概ね第40週（9月末）から第51週（12月中旬）であった。少量が、アフリカ諸国やインド洋の島嶼国に出荷された。

2020年までの5年間で、南アフリカのサクランボの栽培面積は98%増加した。南アフリカのサクランボ栽培面積は520ヘクタールで、主にセレス県（西ケープ州）とその周辺である。あるサクランボ生産者は、以前よりもゆっくりとだが、国の北部で多くの新しい生産者にライセンスを与えてサクランボ果樹園を拡大している。

中国：過度の降雨が露地のサクランボに深刻な影響

山東省の煙台地域では今、露地のサクランボを収穫している。6月初めの過度の降雨は作物に深刻な影響を与え、その結果Early Beauty品種をはじめ、サクランボの約70%が裂果している。規格に合わないEarly Beautyの品質は非常に悪い。

品質の良いEarly Beautyは量が少ないため高価であり、小売価格は1kgあたり36元（1元≒17円）に達することもある。国内最大の産地の一つである煙台地域では、ガラス温室のサクランボは1%未満であり、ほとんどの果実が気象条件などの制御不能な要因によって容易に影響を受ける可能性がある。

この時期の輸入サクランボは主に米国産である。今年の米国北西部のサクランボ生産量は約20万～30万トンで、6月から8月中旬にかけて中国市場に出荷される。米国産サクランボの品種は主にBingで、中国市場で高い人気を集めている。

9Rサイズの米国産サクランボの現在の卸売価格は、1パック（5kg）約600元、1kgで120元である。電子商取引プラットフォームでは、米国産サクランボの一般的な販売価格は180元/kgを超える。

北米：高品質の北米産出荷シーズンに高い期待

ワシントンに拠点を置くあるサクランボ生産者は、米国北西部のサクランボの栽培期間の状況について「冬の気温は適度に低かったが、4月に一度暖かくなった後で夜間に気温がおよそ華氏60度（摂氏33度）も下がって氷点下になり、被害が出た」と説明している。

風も受粉時の課題であった。この生産者は、「天候がミツバチの活動に適していたとしても、風によって花粉の生存能力は減少する。今年は着果数が少し減ったと思う」と指摘する。

その後5月には、気温が華氏70度（摂氏21度）に下がり、風雨も多かったが、生産者は早生のサクランボはよく守られたと言う。2021年産のサクランボは収量が多く、出荷量は2,240万箱と予想される。涼しい天候のため、北西部のサクランボの収穫は開始が遅く、出足も遅れている。

色の濃い品種は糖度が高く品質が良い。上記の生産者は、早生のChelan品種は初め肥大したが、その後の涼しい天候で肥大が減速したことを踏まえ、「出始めの果実は、期待したように大きくならず、サイズは少し難があった。しかし、早生品種はBingに移行しており、そのサイズはほとんどが通常の範囲である。生産者によってやや分かれており、通常よりも果実が大きい者もいれば小さい者もいる」と述べた。

黄色系の品種についても、風雨で果実が傷み約100万箱減収した2020年産に比べ、2021年産は良いように見える。

価格はこれまでのところ良好で、上記の生産者はこれが続くことを望んでいる。

カナダのブリティッシュコロンビア州では、生育期の気温が適度に暖かく、雨や風が非常に少なく、受粉や細胞分裂のために理想的な状況であったため、前年度以上の収穫が予想されている。着果の状況は良好である。

同州のある生産者は、雨が少なく日射量が多いので、果実の肥大、糖度、色付きがよいと言う。

7月上旬に少量の収穫が始まり、7月中旬には最大量に達する。上記の生産者は、7月1日から3日の間に早生品種のSuite NoteとSantinaの収穫が始まると予想している。このほか、品種に関してはKordiaとReginaの2品種が中国、東南アジア、ヨーロッパで非常に人気があり、Reginaは同社の多くの農場で植えられ、栽培面積が拡大している。この生産者は、現在この品種は自身の栽培面積の17%を占めると述べている。同品種の収穫は7月19日から8月10日までと見込まれる。Staccato、Sovereign、Sentennialといった晩生の品種の出荷は8月以降となる。

ブリティッシュコロンビア州産のサクランボの需要は高いと予想される。

オーストラリア：タスマニア州の輸出は前年度比40%増加し、ベトナムへの輸出は72時間に短縮

オーストラリアのサクランボ出荷シーズンは3月上旬に終わったが、COVID-19パンデミック関連の課題にもかかわらず、2020/21年度のタスマニア州からの輸出は前年度比40%増加し、史上2番目に多かった。タスマニア州はサクランボの輸出をリードしており、全国のサクランボ輸出の51%を占め、他の州の合計よりも多い。タスマニア州産サクランボの香港向けの輸出額は4,360万ドルに上り、輸出量、輸出額ともに最大の市場である。これに、ベトナム、台湾、中国、タイが続く。これらの5つの主要市場は、2020/21年度のタスマニア州のサクランボ輸出の80%を占めている。

一方、オーストラリア産サクランボのベトナム向け輸出業者は、国内の2つの照射施設が利用できるようになり、南部の産地の生産者にとっては市場までの到達速度が速まり、輸送コストが削減される。ベトナムは、メルボルンに新しく設置されたメリフィールド照射処理施設で処理された農産物を受け入れることを暫定的に承認しており、これによってサクランボの貿易量の増大が可能になり、オーストラリア南部の出荷業者の輸送コストを削減することができる。オーストラリアで収穫された果実が、わずか72時間後にベトナムに到着するケースも出現する。

アフガニスタン：サクランボ市場の復活

国内市場と国外の両方で、アフガニスタン産サクランボの需要が高まっている。今シーズンの収穫は有望であり、需要は毎年増加している。サクランボは、小規模な農地を持つ農民と商業的な生産者によって栽培されている。

アフガニスタンではかつて高い需要があったが、1970年代後半に始まった数十年にわたる戦争と干ばつの間に、サクランボはほぼ完全に無くなった。しかし、新しい品種の導入、果樹園管理技術の改善、及びサプライチェーンネットワークの改善によって、甘果オウトウが復活している。

アフガニスタンの農家は、サクランボの需要の高まりに応じて、サクランボ果樹園への植栽を増やしている。人気のある台木はMahalebとGisela 5である。利用可能な甘果オウトウ22品種のうち、Burlat、Santina、Stella、Black star、Grace star及びBingが最も一般的である。

甘果オウトウは生育期の低温を必要とし、パグマン県(カブール州)及びヴァルダク、カブール、パンジシールの各州で栽培されている。5月中旬に成熟し、6月末まで収穫される。

アフガニスタン産サクランボの主要な輸出先はインドである。

55. ゼスプリ 北半球の記録的生産量で収益が急増

FreshPlazaウェブサイト(2021年6月28日)

ゼスプリの北半球でのキウイフルーツ出荷額は、1年間で28%増加した。2020/21年度のイタリア、フランス、ギリシャ、日本、韓国のゼスプリの総売上高は、前年の3億6,900万ニュージーランドドル(NZドル≒78円)から増加して4億7,200万NZドルを突破した。

ゼスプリの国外産地担当責任者のアラスデア・ハルバート氏は、これらの作物はすべて販売済みで、グリーンキウイとゴールドキウイの両方の生産量が大幅に増加したと述べた。ゼスプリサンゴールドキウイの出荷量は約300万トレイ(約27パーセント)増加し、ゼスプリグリーンキウイは約200万トレイ(約23パーセント)増加した。

ゼスプリブランドのすべての果実は、世界中の消費者に一貫したプレミアム品質を提供するため、生産国に関係なく、同じ厳格な品質基準を満たす必要がある。

ハルバート氏は、「北半球産の果実は、ゼスプリの世界的周年供給戦略の鍵だ。ゼスプリキウイフルーツを12ヶ月間市場に出荷し、ブランドの価値を最大化し、消費者の需要に応えることを目指しており、その目標を達成する道を順調に進んでいる」と述べた。

グリーンキウイフルーツの調達量は、2020/21年度には810万トレイから1千万トレイに増加した。ギリシャ産は、ゼスプリとイタリアの生産者との長年にわたる関係を通じた調達量が大幅に増加し、これに大きく貢献した。ゼスプリサンゴールドキウイフルーツの生産量は、新植された園地が成園化するにつれて、ヨーロッパとアジア全体で増加した。

日本では2014年以来初めて生産量が増加した。これは、主要品種としてゼスプリサンゴールドキウイフルーツがHort16aを上回ったことが要因である。Hort16aは、キウイフルーツかいよう病(Psa)に対して脆弱であるため、世界中でこの品種の大部分が順次置き換えられている。

ハルバート氏は、韓国では収量と出荷量の増加が新植と相まって、今後3年間でゼスプリサンゴールドキウイフルーツの販売額が倍増すると述べている。

ギリシャと米国では、これらの地域がゼスプリサンゴールドキウイフルーツの北半球での供給をさらに補完できるかどうか、また病害虫、気象災害などの生産リスクを軽減できるかどうかを判断するために、試験が続いている。

ハルバート氏は、「イタリアでの霜の影響による減収や為替レートに関連する短期的な逆風は承知した上で、ニュージーランド以外でのゼスプリブランドの生産出荷は、それにより需要と供給のギャップが埋まるため、ゼスプリの企業収益への貢献は引き続き拡大するものと期待している」と言う。

ゼスプリは研究と技術革新への継続的な投資を行い、北半球の生産者に栽培上の最新の助言を与えている。また、イタリアの業界と並んでKiwi Vine Decline Syndrome(仮訳: キウイフルーツつる枯病)タスクフォースのリーダー機関の一つであり、クサギカメムシなどの害虫に関する研究にも投資している。このことは、これらの病害虫が発生しているかどうかにかかわらず、すべての国の生産者に利益をもたらすものである。

56. 米国北西部 熱波の影響（サクランボ、ブルーベリー）

私たちは未知の水域にいる：北西部のサクランボ生産者は熱波の影響を懸念

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年6月28日)

米国太平洋岸北西部の果実生産者らは、ヤキマ地域で最高気温45℃を記録すると予想され、さらに少なくとも金曜日(7月2日)まで滞留して42℃の高温をもたらすと予想される熱波の影響を心配している。

このような極端な気温の急上昇は、現在最盛期にあつて既に困難なサクランボの収穫作業を複雑にする。労働者を最悪の暑さから守るため、一部の生産者は夜明け前からの収穫の準備をしており、他の生産者は日の出から収穫させて昼間の早い時間に終わらせる計画だとThe Seattle Timesは報じている。

38℃(華氏100度)以上の高温の長期化はまた、一部の作物を損傷する可能性がある。生産者らはこれまで夏の後半には何日もの厳しい暑さを経験している。しかし、予想される暑さは生育期間の早い時期に到来し、このようなことは初めてであり、何が起るかを予測するのは難しい。

北西部サクランボ生産者協会のB.J.サービー会長は、「我々は来週、全く未知の水域を旅していることになるだろう。何が起るのかわからない」と述べたとされている。熱波は、ワシントン州や北西部の他の州の果樹園で何万人もの労働者が毎日何千トンものサクランボを収穫している最中に到来する。サービー氏によると、果実の品質は良好であり、市場の需要は強い。

熱波の予報は、一部の木の上部にあるサクランボがしなびて、販売できなくなる可能性があるという懸念を引き起こした。また、サクランボがまだ熟していない地域では、高温のため果実が一時的に細胞分裂を停止し、果実の肥大が阻害される可能性がある。

ワシントン州果樹協会のジョン・デバニー会長は、「植物は人のようだ。暖かい天候が好きだが、暑くなりすぎると元気がなくなる」と述べた。同州の稼ぎ頭の作物であるリンゴの収穫が始まるのはまだ数週間先だが、暑さのために一部のリンゴが日焼けを起こし、見苦しいしみになるため市場に出荷できない可能性がある。

ヤキマ渓谷にあるギルバート果樹園のショーン・ギルバート社長は、「出荷が近ければ近いほど、被害は深刻になる。我々はまだ収穫まで時間があるので、それほど大きな懸念はない」と述べたとされている。

北西部の熱波はブルーベリーに被害をもたらす可能性

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年6月30日)

ある業界関係者はFreshFruitPortalに対し、米国のブルーベリー産業は、今週太平洋岸北西部を襲っている猛暑のあおりを受けるかもしれないと語った。この地域では今春の良好な天候により作柄は堅調なので、現在の課題は作物の損傷と損失を防ぐことである。

ナチュライプファームス社のブライアン・ボコック販売担当副社長は、「太平洋岸北西部の猛暑によって、何らかの混乱が生じかねない。良い知らせとしては、これまでのところミシガン州ではまともな収穫量が期待できるようなので、北西部の出来に何かあったとしても、東海岸の市場ではうまく穴埋めできるようだ。

需要は概ね供給と見合っており、過去に見られた傾向と類似している。4月と5月の価格は前年に比べて強含みで、6月にはほんの僅かに下がった。この先、猛暑のために北西部で大きな被害が出る場合は、7月と8月に価格が上がる可能性がある。ブルーベリー市場は産地の移行期にあり、従来から出荷量が少ない時期に差し掛かっている*。すべての産地にとって利幅は薄くなっている」と語った。

*訳注：北西部のワシントン州及びオレゴン州はブルーベリーの新興産地であり、従来からの産地であるニュージャージー州、ミシガン州とともに7月から出荷が始まる。他方、従来産地のノースカロライナ州、ジョージア州は7月で終了する。なお、同じく太平洋岸の新興産地であるカリフォルニア州では、4月から8月まで出荷が継続する。

57. 日本向け果実輸出の動き（ペルー、豪州、チリ、ベトナム）

ペルー産アボカドが日本で販売促進

AMERICA FRUIT 電子版(2021年6月29日)

プロムペルー (PromPeru、ペルー政府輸出観光促進委員会) は、ペルー産アボカドのプロモーションのための新しいキャラクターを発表した。「ペルーアボくん」は、プロムペルーの日本におけるアボカド販売促進の最前線に立つ新しいイメージキャラクターである。ペルーの伝統的なニット帽であるチュロを被ったペルーアボくんは、ペルー産アボカドの輸出量を増やすことを目的に、プロムペルーのインスタグラムでのキャンペーンや店頭でのプロモーションに参加する。

ブランディング活動は、世界第2位のアボカド輸出国であるペルーにとって新しい領域である。プロムペルー東京貿易事務所のフェルナンド・アルバレダ商務参事官は、「ペルー産アボカドは夏場の選択肢として知られており、日本の消費者に紹介できることを誇りに思う。ペルーには、キヌア、マカ、カムカムなど、たくさんのスーパーフードがある。20以上のビタミンとミネラルを含むアボカドもそのひとつである。我々はこれらのスーパーフードを宣伝してきており、日本市場でのアボカドの認知度を高めるために、ペルーを象徴するキャラクターを使用したいと考えている」と述べた。

プロムペルーのプロモーション活動は、ペルーアボくんステッカーの配布、ペルー食と日本食のレシピの紹介、ペルーアボくんの公式インスタグラムでのプレゼントキャンペーンなどを行う。このキャンペーンは8月まで実施し、参加ルールに従って100人のインスタグラムユーザーにペルーのニット帽を提供する。

オーストラリア 日本と米国への航空路線支援を拡大

FreshPlaza ウェブサイト(2021年6月29日)

オーストラリア政府の国際貨物支援メカニズム(IFAM)は7月から、成田行きとロサンゼルス行きの支援対象便数を増やす。国際貨物支援メカニズム(IFAM)は、今も続くCOVID-19パンデミックの影響に対して、世界の航空路線の接続を維持するため、オーストラリア政府が実施する選択的支援措置である。

IFAMは、最も必要とされることに支援対象を絞り、オーストラリアの産業界に新しいサプライチェーンの運用モデルを整える時間を与えつつ、世界的な航空路線の接続を維持し、競争の激しい市場でのシェアを守るものである。2020年4月以降、IFAMはオーストラリアの9つの空港と海外の58の空港の接続を回復し、価値の高いオーストラリア産生鮮食品を海外の顧客のもとに届けることを支援した。このプログラムはまた、国内で必要とされる物資の輸入を可能にし、オーストラリアのパンデミック対応を助けた。

2021年3月11日、オーストラリア政府は、航空輸送に依存するオーストラリアの産業界に新しい国際貿易環境に適応するための一層の時間を与えるため、IFAMを今年9月末まで延長するのに必要な1億1,280万豪ドル(1豪ドル≒84円)の資金を追加すると発表した。

島国であるオーストラリアは、主要市場との航空路線を維持することが不可欠である。IFAMの延長は、コロナワクチンの接種が順調に進むまで、航空セクターが支援されることを保証し、信頼できる貿易相手国としてのオーストラリアの評判を維持するものである。

IFAMは、主要な航空貨物路線を維持することで、COVID-19によって不均等な影響を受けたオーストラリアの産業界に対し、ビジネスモデルを適応させ、新たなより厳しい貿易環境に適応し、雇用を維持するための時間を与える。

出典: ausveg.com.au

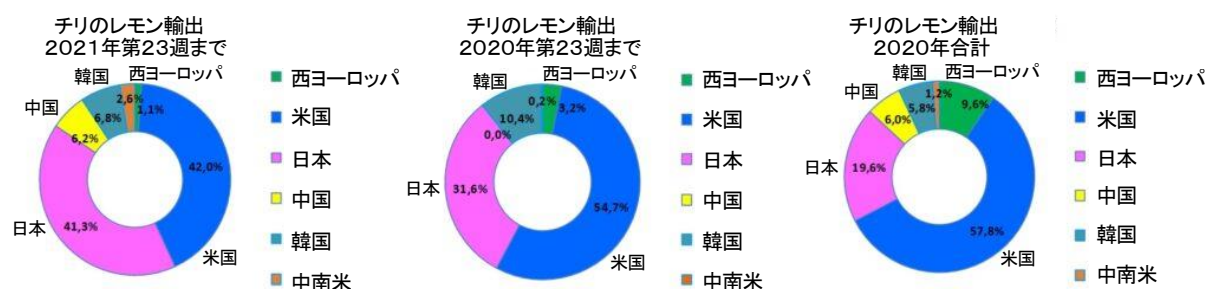
今シーズンの南半球産レモン輸出 最初の評価(抜粋)

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年6月30日)

第23週(7月初頭)までに、合計28万9千トン以上が輸出された。世界合計では前年より37,000トン少なく、11%の減である。しかし、南半球の国々の間でも動向が異なっている。(以下、日本向けが多いチリのみ抜粋)

チリ: 日本向けは増加、韓国向けは減少

チリ産レモンの出荷シーズンは、通常どおり5月の第2週に始まった。出荷のペースは、当初3週間は例年どおりであったが、その後かなり増加した。現時点での出荷量は前年より約4千トン多い。これまでの出荷量は日本向けと中国向けが増加し、米国向けと韓国向けが減少したことは注目に値する。



ベトナムのライチ販売は大成功

FreshPlazaウェブサイト(2021年7月1日)

バクザン省の生産者はこれまでで最高の収穫量を得たが、パンデミックの影響を受けている。

6月中旬、コロナ禍第4波のピーク時に、バクザン省から出荷された10万トンのライチが販売された。バクザン省のライチ生産者はこれまでになく収穫量を得たが、パンデミックに直面したのも初めてであった。

5月上旬にコロナ禍の第4波が発生した時、バクザン省では28,100ヘクタールのライチが収穫目前だった。ライチ農家は、わずか2カ月以内に18万トンのライチを収穫しなければならないという大きなプレッシャーを受けた。

コロナ禍対策として、1. ライチの産地を守る 2. 電子商取引サイトや大規模な近代的小売チャンネルを通じてライチの販売を促進する 3. 最大の市場である中国への輸出と合わせて、要求の厳しい日本、オーストラリア、EUの市場への高品質ライチの輸出を促進する、の3つの柱からなる緊急計画が策定された。

現在までに、中国の業者から約3万トンのライチを受注している。中国市場は8万5千トンのライチを買うことが期待されている。

今年のバクザン省産ライチは、6つの電子商取引プラットフォーム(名称省略)で販売されており、これらのサイトでは最初の数時間で300トン以上が販売された。また、ライブストリーム中の販売も初めて行われた。

出典: vietnamnet.vn

58. 世界のブドウ市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年7月2日)

最近多くのブドウ生産国を襲った熱波は、世界市場への連鎖反応を引き起こしている。暑い天候のためエジプトではブドウの出荷シーズンが早まった一方、イタリアでは出荷の遅れと果実への損傷を引き起こし、通常は出荷が重複する時期に品不足を招いたが、オランダや英国などの輸出国にとっては必ずしも問題ではなく、これらの国は市場の高値の恩恵を享受している。一方、南アフリカでは、降雨のためブドウの出荷が深刻な影響を受け、昨シーズンは過去10年以上で最も困難であったと言う人もいる。現在進行中のパンデミックも引き続き問題を起こしており、その影響はオーストラリアで最も顕著で、生産者は労働力と物流の2つの問題に苦しんでいる。

オランダ：多すぎない供給量で良好な価格

オランダのブドウ販売はここ数週間順調だ。オランダのある輸入業者は、「イタリア産の出荷シーズンは、いつものとおり非常に高い価格で始まったが、現在はやや安定した水準にある。供給過剰ではないので売り上げは引き続き好調だ。比較的涼しい天候が間違いなくこれを後押ししている。イタリア産ブドウの価格は、ビクトリア品種とブラックマジック品種では概ね2.20ユーロであり、種あり赤ブドウ(レッドマジック品種とレッドグローブ品種)も非常に好調で価格は概ね2.60ユーロである。現在シチリア島では気温が35度以上あり、これは確実にブドウの風味と色付きに貢献している。シチリア島からの入荷量はそれほど多くない。来週以降は、自社のLinoブランドを含むプッリア州(イタリア南部)産の初物が入ってくる。また、エジプト産のブドウを数コンテナ輸入した。その価格は、包装されたブドウが約1.20ユーロ、バラのブドウが10ユーロ(4.5kg)で、エジプト産としては大した価格である。一方、市場のあちこちでスペイン産の初物が入荷しているのを見かける。上記の輸入業者によると、オランダの市場では種ありブドウはもうほとんど販売されていないが、一部の顧客はこれを欲しがると語った。

英国：スペイン産ブドウが遅いスタート

今年のスペイン産ブドウのシーズンは、英国では7～10日遅れており、入荷が始まったばかりである。市場には入荷したてのスペイン産ブドウが出ているが、価格が高いため主に小売業者向けである。市場にはまだチリ産とエジプト産のブドウが残っている。価格は5ポンド～12ポンド(1ポンド≒152円)の間で、チリ産が最も安く、入荷したてのスペイン産が最も高い。

エジプト産のプライム、スクラワン(スグラオーネ)、フレーム、クリムゾンの各品種を積んだコンテナがまだ入荷してくる。他の果実と同様に、エジプトはブドウの品質を十分に向上させているが、時としてあまりにも多くの量を出荷して、市場を溢れさせる傾向がある。

この時期には、ブドウのほかにベリー類や他の夏の果実が多く、多少影響を受けるかもしれないが、ブドウは年間を通して安定した消費基盤を持っている。

イタリア：異常に高い気温がブドウの品質に深刻な影響

シチリア島では、気温が数日間連続して最高46℃に達し、日中は40～42℃を下回ることがなく、熱風を伴うフェーン現象が起きている。この状況は、夜間の気温が何日間も28℃よりも下がっていないことによって悪化し、園地の生食用ブドウをかなり劣化させた。シチリアのある生産者は、「若い樹体に成っている果実、特に赤ブドウは70%の損失を被ったが、樹齢の高いブドウ園ではかなりの部分を収穫することができた。一部の品種は完全に成長を停止した。また、気温が高いため10時半または11時以降は現場で働かせることができないので、人件費が増加するという問題もある」と報告する。

プッリャ州の生食用ブドウ出荷シーズンは、従来からの早生の種あり品種(ビクトリア、ブラックマジック)と種無し品種の両方について、来週(6月27日)正式に始まる。良い品質と十分な量が期待されている。最も早い早生地帯では、約10日の遅れにもかかわらず、昨年に比べて約20%の増収が見込まれる。グロッタリーエ

地域やモーラ・ディ・バリー地域など同州の一部の地域では、ブラックマジック品種の最初の一箱が収穫され、評価は全体に肯定的なようだ。官能試験でも、中〜大玉の果実で非常に糖度が高く、並外れて良いとの結果を得た。内陸部の出荷は遅く、8月10日頃に開始される。ここでは当初15日の遅延が予想されていたが、高温のため取り返した。プッリャ州で今シーズン念頭に置くべき要因は、原材料コストの上昇、干ばつと労働力不足である。

一般的に、生食用ブドウ部門は、生産と調製の両面で革新を受け入れる傾向にある。同州のある出荷業者は、「例えば、環境の観点からだけでなく、経済的にも持続可能な包装について注視している。また、これは園地の被覆についても当てはまる。恒常的な労働力不足に対処するための栽培・収穫段階の自動化や新たな灌漑システムを考えている」と言う。

スペイン：ブドウの収穫は遅いスタート

スペイン産生食用ブドウの出荷シーズンは、ムルシア州とアルメリア県(アンダルシア州)の早生地帯で始まったばかりだ。今年の収穫は遅く始まり、スグラオーネ等の早生品種で若干の損失があったことを除いて、高品質が期待される。スペインで出荷が遅れているのと同時に、エジプトでは出荷シーズンが早く終わろうとしている。通常、スペインの最初の生食用ブドウは、エジプト産の出荷シーズンの最後、時にはインド産とも重複する傾向がある。しかし、今年は、物流に対するパンデミックの影響と、スエズ運河でのコンテナ船座礁事故の影響が依然として顕著なことから、エジプト産ブドウの到着が大幅に遅延した。このため、スペイン産のブドウはこれらの産地との競合が少なく、市場は通常よりも空いている。

エジプト：高温のため出荷が早まり、出荷量は増大

エジプト産ブドウの出荷シーズンは、予想よりも少し早く5月頃に始まった。エジプトは45℃の気温にさらされており、早い出荷は主に暑さによるものだ。今シーズンのエジプト産のブドウの生産量は増加するものと見られ、現時点では需要も堅調だ。フレイム、レッドグローブ、クリムゾンなどの赤ブドウ品種は、糖度が高いため人気を得ている。ヨーロッパ諸国では糖度の低いブドウが好まれる一方、アラブ諸国では糖度の高いブドウが好まれる。

南アフリカ：昨シーズンはこの10年以上で最も困難

昨シーズンは、降雨のために収穫作業と品質に影響を受けた地域の生産者にとっては難しい年であり、また出荷の遅れとコンテナ不足が原因で、冷蔵施設の使用に初めて割り当てが課された(これは1月と2月に発生した)。一部のブドウ生産者は、国際的な小売競争が激化した点で、昨シーズンは分水嶺だったと言う。

ヘックスリバー流域のある生産者は、この10年以上で最も困難なシーズンだったと言う。米ドルに対するランド(南アフリカの通貨)の強さ(前年より15%から30%強い)は、輸出収入の助けにならなかった。

ヨーロッパ市場では、南アフリカの早生地帯から雨で損傷した問題のある果実が入荷し、またシーズンの後半には共に雨の後のヘックスリバー流域とチリからの入荷もあり、困難な市場状況が発生した。

南アフリカの昨シーズンの最終数量が確定した。2020/21年産の最終検査数量(輸出手向けに検査したブドウ)は4.5kg入りカートンで7,489万3,384箱であり、実際に輸出されたのは7,218万2,786箱であった。

ボーランド地方のあるワインセラーは、困難な状況のために輸出ブドウの出荷業者が輸出を控えたことから、これまでにない量の廃棄ブドウを受け取ったと報告した。

今週は西ケープ州に3つの寒冷前線が上陸し、雨と涼しい天候をもたらし、ブドウ畑を潤す。次の出荷シーズンの始まりはまだ何ヶ月も先である。

南アフリカへの輸入に関しては、最近、平均市場価格が約30ランド(1ランド≒7.8円)/kgに上昇した。

北米：品質は良いが難しいシーズン

カリフォルニア州のブドウの出荷が始まり、メキシコ産からカリフォルニア州産への難しい切り替えが進んでいる。

カリフォルニア州に拠点を置くある出荷業者は、「今年はおそらくここ数年で最もスムーズにいかない年だろう。メキシコの品質管理担当者からの報告によれば、収穫量に関する連絡がうまくいかなかったことに起因して、冷蔵貯蔵ブドウが予想よりも少ない。従来なら倉庫の天井に届くほどの果実を貯蔵しているところだが、現在は容量の20～30%で稼働しているところもある」と言う。（以下、北米の項で「」はこの出荷業者の発言）

しかし、貯蔵庫が空いている背景には荷動きが関係しているかもしれない。「メキシコにいる米国農務省関係者から聞いた話では、収穫量は当初の予想の2,100万パッケージから外れていないが、彼らの感触では荷動きが良く出荷が続いている。」

「カリフォルニア州の出荷が始まったので、メキシコの生産者には今週収穫を終える予定でまだ残っているジャックスサリュート、クリッシー、スウィートグローブスなどのプレミアム品種を収穫するように圧力がかかるかもしれない。」

カリフォルニア州に関しては、一部の生産者が収穫を開始しているが、今週初めに州内のアービン地区の出荷量が増え始め、前出の出荷業者は初期段階の収穫量予想は2020年と同程度だと指摘している。

「今年のカリフォルニア州産は、これまでのところ品質は良いようだ。関係者は先週の熱波などの問題に取り組んでいる。第一報では、一部に熱波の影響が見られる。まだ予備的な報告であるが、緑系の種なし品種には日焼けや脱水などの損傷が見られる。作柄に大きな影響を与えるものではないが、シーズン初期の出荷量がいくらか減ると予想している。」

この出荷業者はまた、過去10年間の新品種の栽培面積の増加を見ると、生産者らは引き続き、フレイム、クリムソン、スグラオーネ、プリンセスなどの古い品種をジャックスサリュート、アリソン、アイボリーなどの品種（商標）に植え換えていると指摘する。「生産者には、これまでに試した品種の中で、ほかよりも気に入っている特定の品種があるものだ。」

需要に関しては、この出荷業者はブドウの需要は良いと期待しているが、総じて言うと販売先のカテゴリーがやや停滞していると指摘する。「市場シェアは、減少しているわけではないが、あまり増えていない。」しかし、北米全域でフードサービス店の再開が続くので、一部の販売機会が復活すると見られる。「出荷経路が増えるということなので、カリフォルニア州のブドウにとってよいことだ。」

一方、価格に関しては、プレミアム品種をはじめとするメキシコ産が予想以上の高い輸出価格(FOB)でシーズンを終えようとしている。この出荷業者は、このような高値で終わったことに驚き、価格が上昇傾向に転じることを心配しているが、カリフォルニア州産の価格は従来どおりの水準に向かっているようだ。

なお、今年の価格は、すべての品目の生産者が報告している生産コストの大幅増加を組み込む必要がある。

オーストラリア：労働力と輸送の問題に悩まされたブドウ市場

オーストラリアの生食用ブドウの出荷シーズンは11月から5月までで、過去12ヶ月間、コロナ禍による広範な影響は生産者に多くの課題を提起した。オーストラリアの複数の生産者は、パンデミックの間に直面した2つの主な課題は、労働力を確保するための取組みと、輸出国の物流問題を切り抜けることであったと指摘した。しかし、生産面では、ほとんどの人はこのシーズンの作柄は平均的であり、良好な気象条件のおかげで品質は良く、果実のサイズは大きかったと報告している。ビクトリア州西部のある生産者は、COVID-19の影響を受けた期間において果実の品質が良かったことは、アジアでの継続的な売上増加に貢献したと言う。

業界全体の観点から見ると、出荷量は増加し続けている。最新の統計によると、2020年6月までの1年間の出荷量は前年比3%増の21万4,660トンで、出荷額は8%増の7億5千万豪ドルであった。輸出量も増加し、4%増の15万2,180トンで、輸出額は12%増の6億2,290万豪ドルに跳ね上がった。最大の国際市場は中国(62,930トン)で、輸出先トップ3の中で唯一前年よりも輸出量が増加した。品種ではメニンディーとトンブソンが最も多く、合わせて出荷量の38%のシェアを占めた。

59. 海上コンテナ運賃が1年で3倍以上に上昇

FreshPlazaウェブサイト(2021年7月6日)

今も続いている世界のサプライチェーンの混乱により、コンテナ運賃がこれまでにない水準まで上昇している。ドリュエリー社(海運調査会社)の世界コンテナ指数(WCI)は先週に比べ4.2%上昇し、40フィートコンテナ1本当たり平均8,399.09ドルとなった。一方、上海コンテナ貨物指数(SCFI)は先週119.14ポイント上昇し、3905.14となった。

ドリュエリー社WCIの水準は2020年の同じ週より346%高く、今年のWCIの平均は40フィートコンテナ1本当たり5,643ドルで、5年平均の2,015ドルより約3,628ドル高くなっている。



ドリュエリー社世界コンテナ指数(WCI) ドリュエリー社提供

コロナ禍による中国南部のイェンティエン港(塩田港、深圳市)における最近の混乱は、すでに非常に高かったコンテナ運賃を新記録レベルに押し上げる要因となった。イェンティエン国際コンテナターミナル(YICT)の運用は現在正常に戻っているが、コンテナ輸送サプライチェーン全体への影響が解消するには少なくとも数週間かかると思われる。

ドリュエリー社によると、上海ーロッテルダム(オランダ)の運賃は、40フィートコンテナ1本当たり228ドル上昇し、12,203ドルに達した。これは対前年比で567%高くなっている。太平洋を横断するロサンゼルスー上海のバックホール(発地への戻り便)は同243ドル(23%)急騰し、1,284ドルとなった。

出典: searade-maritime.com

60. ニュージーランド 史上最高の園芸作物出荷・輸出額

ASIAFRUIT電子版(2021年7月7日)

報告書は、2020年6月末までの1年間における輸出収益の急増を強調している。また、ニュージーランドの園芸部門の総産出額は2020年に初めて100億ニュージーランドドル(NZドル)を超えた。(1NZドル≒78円)

植物・食料研究所とニュージーランド園芸生産者協会(HortNZ)の「フレッシュ・ファクト」報告書によると、2020年6月末までの1年間におけるニュージーランドの園芸部門の輸出の増加は、生鮮果実が牽引した。

園芸部門の総輸出額は、前年度(2019年6月末までの1年間)の62億NZドルから史上最高の66億NZドル(46億米ドル)に増加した。

生鮮果実の輸出額は前年比8%増の37億NZドルとなった。この部門の筆頭であるキウイフルーツの輸出額は、2019年の23億NZドルから、2020年には25億NZドルに増加した。

リンゴの輸出額は、2019年の8億2,800万NZドルから8億7,600万NZドルに増加し、アボカド(2019年の1億400万NZドルから1億1,200万NZドルに増加)とブルーベリー(2019年の4,000万NZドルから4,400万NZドルに増加)も前年比で増加した。

生産と物流の問題により、ニュージーランドのサクランボ輸出額は2019年の6,900万NZドルから2020年には5,100万NZドルに減少した。

生鮮野菜の輸出額は、2020年6月末までの1年間に3億NZドルで、前年の3億400万NZドルから減少した。加工野菜の輸出額は、前年の3億9,600万NZドルから4億2,400万NZドルに増加した。(野菜の品目別は省略)

アジアの重要性の高まり

ニュージーランド産の園芸作物は、2020年に128カ国に輸出された。上位5つの市場は、大陸ヨーロッパ(11億NZドル)、日本(9億1,700万NZドル)、米国(8億6,400万NZドル)、オーストラリア(8億3,600万NZドル)、中国(7億8,400万NZドル)であった。

これらの5つの輸出市場は、2020年のニュージーランドの園芸作物輸出全体の3分の2以上(68%)にあたる45億NZドルを占めた。

アジア市場全体への輸出は、2010年の12億NZドルから28億NZドルに増加した。この地域に輸出されているニュージーランド産園芸作物の多様性と人気は明らかで、25品目が出荷され、品目ごとの2020年の売上高は500万NZドルから17億NZドルであった。

「フレッシュ・ファクト」報告書によると、ニュージーランドの園芸部門の総産出額は、2020年に初めて100億NZドルを超えた。

植物・食料研究所のデビッド・ヒューズ代表は、COVID-19の影響を乗り越え、史上最高の輸出高を達成した業界の力を称賛し、

「COVID-19パンデミックの影響を受けた年に、ニュージーランドの園芸産業は苦境からの回復力を示し、我が国の農産物はこれまで以上に需要がある。高品質で安全な食品に対する我が国の評判は、優れた栽培システムや新しい製品と相まって、世界市場におけるシェアを維持するために不可欠なものだ」と述べた。

61. チリ 生食用ブドウの輸出が11%減少

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年7月7日)

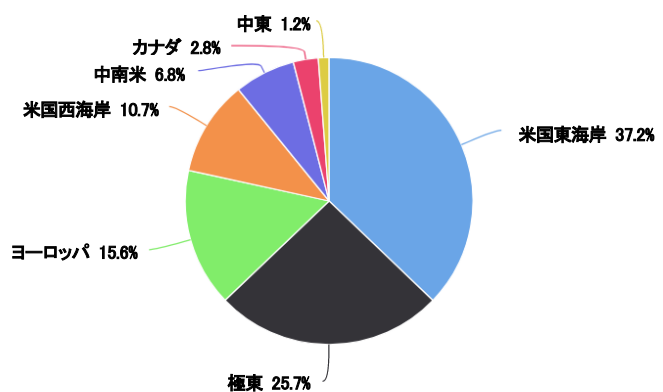
チリ果実輸出協会(ASOEX)のデータによると、今シーズンのチリの生食用ブドウの輸出量は53万6,248トンで、前年比11%減少した。

ASOEXのロナルド・バウン・フェルナンデス会長は、「この減少は、主に1月の降雨のためだと言えよう。その時点で生産量の減少を引き起こしたほか、その後、果実の品質が劣化して通常の販売が困難になった」と述べた。

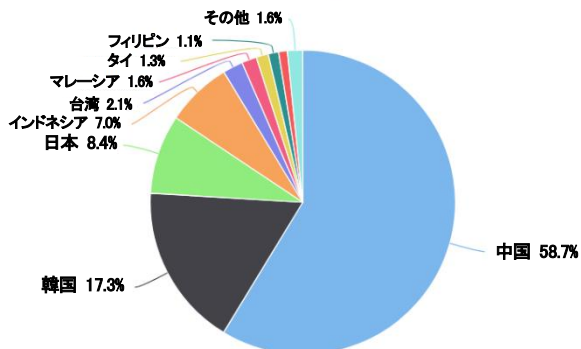
輸出先に関しては、25万7,000トンを入力した米国が第1位にランクされ、次いでアジアが約13万7,800トン、ヨーロッパが約8万3,000トンで、中南米、カナダ、中東がこれに続いた。

アジアでは、中国が約81,000トンで最大の市場であり、次いで韓国が24,000トン、日本が11,500トン、インドネシアが9,600トンであった。

チリ産生食用ブドウの輸出先(世界) 2020~2021年



チリ産生食用ブドウの輸出先(アジア) 2020~2021



中南米では、最大の輸出先はメキシコで9,200トン、次いでエクアドルが9,000トン、ブラジルとコロンビアはそれぞれ4,000トンと2,500トンであった。(グラフ省略)

中東の主要輸出先は、サウジアラビアが4,100トン、アラブ首長国連邦が1,300トンで、オマーンとコートジボワールがこれに続いた。(グラフ省略)

産地と品種

ASOEXによると、国際市場に輸出される最も早生のチリ産ブドウの産地は国の北部であり、この点で第Ⅲ州(アタカマ州)の輸出量が87,600トンと、前年比7%以上の増加を示していることが注目される。

第Ⅳ州(コキンボ州)からは11万7,000トンが輸出されて10%以上の増加を示し、第Ⅴ州(バルパライソ州)は11万1,000トンで5%増加した。

フェルナンデス会長は、「これら北部地域で生産されたブドウには被害が見られないが、中部地域では2021年1月の雨の影響が出始めている。第Ⅵ州(オイギンズ州)では31%、第Ⅶ州(マウレ州)では23%、首都州では24%減少した」と言う。

品種に関しては、輸出量が多いものはレッドグローブ、クリムゾンシードレス、トンプソンシードレス、スウィートセレブレーションであった。

62. メキシコ産アボカド 日欧等米国以外でも需要が増大

FreshPlazaウェブサイト(2021年7月9日)

アボカドの最大の消費地である米国の需要は増加し続けているが、米国以外でも需要が伸びている。

アボカド・アギーレ社は現在、従来のハス・アボカドのほか、メンデス・アボカド - メキシコのハリスコ州で栽培されているハス・アボカドの一種 - を出荷している。メキシコ産のうち、ミチョアカン州で栽培されたアボカドだけが米国に輸出できることから、メキシコのアボカド生産量全体の約85%が米国向けである。ハリスコ州産のアボカドは遠隔地に輸出されており、主にヨーロッパに輸出されるほか、カナダ、南米、日本、香港にも輸出されている。

アボカド・アギーレ社のフアン・エスコルシア氏は、「現在、果実の約60%がまだ残っている。メンデス・アボカドの主な市場は香港、日本、カナダだ。需要は、去年のこの時期に比べて少し多い。人々が自身を管理し健康的な食事をしたいと考えているため、アボカドに対する需要は毎年増えている。特にヨーロッパや日本のように高齢者が自分の健康管理に関心を持っている国で、需要が増えている」と述べた。

オンライン購入の増加

健康的な食事がアボカドの消費を促進するのに役立っているが、流通経路の拡大も需要増加の要因となっている。エスコルシア氏は、「以前は、人々は農産物を買いに店や卸売市場に出かけていたが、今ではオンライン購入も多くなっている」と言う。

もちろん、需要の増加は、メキシコ全体で続いている栽培面積の増加につながる。

これらのことから、また去年のこの時期と比較して市場の確実性が改善したこともあり、メンデス・アボカドの今年の価格設定は強気に見える。エスコルシア氏は、「去年は少し減速し、価格が下った。去年の5月から8月の間、出荷量が変わらない一方、世界中で不確実性が増していたため、価格が下った。例えば、現在は6kg入りのアボカドを一箱18ドルで日本に出荷しているが、去年のこの時期には3〜4ドル安かった」と言う。同氏は、世界がパンデミックを経験してきて、確実性がゆっくりと回復するにつれて、アボカドの売れ行きが早まり、価格が持ち直したと指摘している。

同社は、今後も日本とカナダへのアボカドの周年供給を続ける一方で、8月から1月または2月までのヨーロッパ向けの出荷を始める準備を現在進めている。エスコルシア氏によると、ヨーロッパでアボカド消費が多い国はスペイン、フランス、英国、オランダである。

63. 世界のブルーベリー市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年7月9日)

世界のブルーベリー市場の状況は、全般的にポジティブである。例えば最近の熱波の影響で供給量がわずかに少ない米国のように極端な天候の問題に直面している国や英国など物流に問題のある国もあるが、多くの国では供給量のわずかな減少が価格の上昇につながり好結果となっている。

オランダ：ブルーベリーは豊作だが、国外からも大量の供給

オランダの果実業者は、「スペイン産とポルトガル産のベリー類が長らく入荷していたが、今シーズンは終わりを迎えている。品質に着目すれば、今シーズンは終了した。安い果実はまだ入荷するが、品質の良いものはもう入手できない。この2、3週間、セルビア産とルーマニア産のブルーベリーが大量に入荷した。価格は、ここ数週間高い水準にあったが、今後の数週間はセルビア、ルーマニア、ウクライナ、ポーランド、オランダ、ドイツから一斉に入荷するため、価格圧力は高まるだろう。生産者にとって適切な価格で販売するためには、小売業者と適切な出荷計画を練ることが必要だ。オランダの生産者の園地には今、素晴らしい果実があるので、今年は雨が降って台無しにならないように期待しよう。今後数週間で、国内産ブルーベリーが市場でどうなるか、入荷量が積みあがるか、売れ行きが継続するかどうかかわかる。これには消費の動向とパッケージのサイズが重要になる」と語った。

英国：潜在的に供給不足のタイトな市場

英国ではブルーベリーの収穫が進行中であるが、トンネル栽培の早生のものは昨年よりもわずかに遅れている。トンネル栽培のブルーベリーは気象要因から保護されているが、露地ものは2週間遅れる可能性がある。若干の供給不足を引き起こす可能性がある。

現時点の英国での生育条件は大目に見て平年並みである。激しい雨が降り、日照不足で、気温もわずかに下がっているが、極端なものではない。

市場は今、英国の出荷量が少ないため比較的タイトであるが、これはシーズンの初めには普通のことだ。スペイン産ブルーベリーがいくらか出回っているが、主力である中央ヨーロッパ産のブルーベリーはまだ市場に出ていない。主体である露地ものの出荷に移行する7月の終わりから8月の初めには量が増えてくる。

労働者の確保はほとんどの生産者にとって常に懸案事項であるが、英国にはヨーロッパの労働者がほとんど残っていないため、ヨーロッパ人以外の労働者を供給する季節農業労働者計画(SAWS)が重要である。また、輸送は、生鮮農産物だけでなく、英国のすべての産業で、現在大きな懸案事項になっている。

ある生産者は、労働力の供給や輸送にはもはや柔軟性がなく融通が利かないので、計画どおりに進めることが非常に重要であるが、これは青果物業界では容易なことではないと言う。コストが増加しているため、効率を上げる必要があり、このことがすべての面で圧力を高めている。

スペイン：需要が伸びる中、出荷シーズンは良い結果で終了

スペイン産ブルーベリーの出荷シーズンは終了した。収穫時期は(品種や産地によって)かなりずれており、各時期の生産量は十分で品種間の競合はなかった。ただし、例年どおり5月末には供給過剰となった。天候の影響により、出荷量は当初の予想どおり昨年と同程度である。一方、ブルーベリーの消費量は毎年増加している。出荷シーズンの終わりには価格が少し厳しいが、需要は(供給の増加に)反応しており、継続的な増加が見られる。世界の生産量は非常に大きく、市場は常に様々な産地から供給され、需給ギャップは少なく、年間を通じての一定の消費を促している。この結果、消費者がこの産品に慣れ親しみ、より定期的に消費するようになり、すべての国のすべての出荷業者がその恩恵を受けている。スペインでは、ブルーベリーはすでに年間を通じてどこのスーパーマーケットチェーンの店頭にも出ているが、量に関しては、まだ中欧や北欧の国々には大きく遅れをとっている。

今年1月に嵐がイベリア半島を横断し、気温の低下をもたらしたため、早生品種の出荷が1カ月以上遅れた。

それと同時に、寒い天候は晩生品種の生産を前進させた。当時ブルーベリーの有力農場は皆、すべての品種が4月に出荷され、早生品種と晩生品種の両方が同時に記録的な生産ピークを迎えるように見えたので、リスクの高いシーズンだとの見方で一致した。しかし、3月と4月の気温は非常に穏やかで、予想されていた出荷のピークは起こらなかった。見通しでは、樹齢、栽培面積、品種、また特に過去の数字を考慮に入れて、出荷量の40～50%の増加を予想していたが、そうはならなかった。出荷量は不足し、ゆっくりと安定的に供給されており、ピークは生じなかった。しかし、最も重要なことは、価格が安定していたことだ。春の(穏やかな)天候のおかげで、年初に恐れられていたウエルバ県からの出荷の集中は避けることができ、一方ヨーロッパの他の地域では、低温のため露地とトンネル栽培の両方で出荷が遅れた。このため、スペイン産は良い状況で1カ月以上長く市場に出荷することができた。

イタリア：市場価格が持ちこたえる中で出荷の最盛期

イタリアでは全国でブルーベリーが栽培され、今の時期には国内産が市場に出回っている。ブルーベリーの消費は明らかに増加しており、スペイン産も卸売市場に出ている。イタリア産への特別な需要に応えるため、ロンバルディア州のヴァル・ブレンバナ地域などの高地からのサプライチェーンが構築されつつある。

エミリア・ロマーニャ州のある生産者は、約20日前にデューク品種の収穫が始まり、現在はブルークロップ品種が収穫されていると言う。収穫は7月中旬以降まで続く見込みである。収穫物は、大規模な商業グループが約6ユーロ/kgで購入している。ヴェネト州の卸売業者は、イタリアのすべて、またはほとんどすべての産地が収穫中であるとして、「量的な不足はなく、卸売価格は品質と大きさによって異なる。上級品の最高価格は約10ユーロ/kgである。入荷量が多いが、今のところ市場はそれを吸収している」と言う。

ピエモンテ州産ブルーベリーの販売は、イタリア国内と海外の両方でうまく進んでいる。一定の需要があり、市況は良好で、品質も十分に良い。ブルーベリーの輸出需要は巨大である。例えば、英国では他の果実よりもブルーベリーの人気が高い。先週は、セルビア、クロアチア、ルーマニアから低価格のブルーベリーが入荷したため価格がわずかに低下した。ある出荷業者は、「今のところ、すべてが順調に進んでいるが、春の霜で出荷量がわずかに減少している。労働者の確保状況に多少の変動はあるが、これは毎年のことだ」と言う。

シチリア島産ブルーベリーの出荷は1ヶ月以上続いており、次の昨期に向けた活動が既に進んでいる。ベリー類のマーケティングに特化した有名な協同組合に出荷しているある出荷業者は、今年の平均収量は一株当たり約4キロだったと言う。この業者は6～7ユーロ/kgの平均出荷価格を達成することを目指している。

ポーランド：ブルーベリーは夜間の降霜の影響を免れた

今シーズン初めに発生した夜間の降霜は、今年のポーランド産ブルーベリーの収量に大きな影響を与えなかった。近年、ポーランドのブルーベリー生産量は着実に増加している。現在、この増加はやや減速しているが、その影響が市場に現れるまでには時間がかかる。ポーランドのブルーベリー栽培における直近の課題は、2020年に発生し始めたオウトウショウジョウバエへの対応だ。これは生産者の間で重大な懸案事項となっている。出荷シーズンの開始は通常どおりで、7月10日と見込まれる。

南アフリカ：今シーズンのブルーベリー出荷量は大幅に増加

南アフリカではブルーベリーの収穫が始まったところで、すでに約6トンが輸出された。北半球では晩生品種の出荷時期に入っており、生産者は今年の出来と生産量の増え具合に喜んでいる。出荷量の見積もりは36,000トン、輸出量の見積もりは25,000トンで、多くの若い果樹園が成園化したため、大幅な増加となった。南アフリカはまだ大きなプレーヤーではないが、業界関係者は同国の実績を拡大することに熱心である。

国内のブルーベリー業界は、多くの新しい関係者の参入と、厳しく管理された生産者と輸出業者の取り決めの枠外で利用できる品種の増加によって、過去数年間でかなり変化した。ヨハネスブルグの市営市場によると、価格は現在、92.90ランド(5.5ユーロ)/kgである。

中国：温室ものと露地ものの合間に若干の品不足

現在、中国南部(長江以南)産の温室もののブルーベリーが市場からほとんどなくなった。露地もののブルーベリーは間もなく市場に入荷する。

7月と8月は、東北地方のブルーベリーの出荷最盛期となる。現在は、露地もののブルーベリーの収穫が始まったばかりで、市場はやや品薄となっている。

雲南省では近年、ブルーベリーを生産する温室を建設するために、中国企業との合弁事業を始める外国からの投資が多い。雲南省のブルーベリーの生産量は年々増加し、品質は徐々に改善している。

山東省は、露地もののブルーベリー生産で重要な産地である。栽培条件が、ブルーベリーの栽培に極めて適している。すなわち穏やかな沿岸性の気候がブルーベリーの栽培に最適である。

中国企業は、さらに多くのブルーベリーの新品種を求めている。

北米：熱波による供給減少で価格は安定

北米のブルーベリーの出荷が北の産地に移動するにつれて、供給量が予想よりも少なくなっている。

カリフォルニア州に拠点を置く業者によると、彼らは2週間前にカリフォルニア州産の出荷を終え、6月18日からの出荷に備えてオレゴン州に移動した。その後、6月下旬に、熱波が西海岸の広い地域に影響を与えた。この業者によると、生産者らの報告は整合性が無かった — 問題がないと報告する生産者もいれば、ブルーベリーが全部日焼けしたと報告する者もいた。オレゴン州の出荷は、通常7月末まで続く。

また、今週後半からワシントン州の出荷が始まる。上記の業者は、「これまでに得ている報告は、果実に損傷がないというものであるが、それは何も問題がないという意味ではない」と言う(以下、北米の項で「」内はこの業者の発言)。ブリティッシュコロンビア州(カナダ)でも出荷が始まるが、同じ熱波を経験しながら、同州東部では西部よりも影響を受けているように見える。生産者らは、海岸に近いほど被害が少ないと指摘している。

熱波の影響を見極めるため、太平洋岸北西部のすべての生産物の出来に注意が向けられている。

国の反対側(東海岸)について、上記の業者は、南東部からの出荷量がまだ少なく、基本的に地元の顧客向けになっていると言う。ニュージャージー州は北東部に出荷しているが、当初の予想よりも果実が少ないとの報告がある。ミシガン州でも出荷が始まっている。

需給バランスのもう一方(需要サイド)では、7月4日の週末を過ぎた現在も、需要は通常よりも強くなっている。

しかし、その需要が引き続き堅調であるかどうかはまだ確定できない。「ここ1、2年で、大きいパッケージに関心が集まっている。私に言わせれば、大きなパッケージは家庭での消費を示している。供給がこのままタイトであれば、夏の終わりまでブルーベリーの高い需要が続くと思われる。」

これらすべての結果として、価格は安定している。

この先の輸入については、9月には北米の小売業者がペルー産の輸入果実に切り替えを始める。一方で、ペルーも出荷シーズン初期の輸出先から北米への切り替えを行う。「ペルーはシーズン初期から出荷量を確保できるが、ペルー産の出初めには米国にまだ国内産があるため、最初の数カ月間はアジアに焦点を絞っている。ペルーは年を追うごとに、米国産の出荷が終わるまで待つという傾向を強めて行くと思う。」

オーストラリア及びニュージーランド：ニュージーランドのブルーベリー輸出額が大幅に増加

最新のデータによると、ニュージーランドのブルーベリー輸出額は、毎年増加し続けている。2020年6月までの1年間の輸出額は4,400万NZドルで、2019年の3,890万NZドルから増加した。2000年にはわずか600万NZドル、2015年には2,340万NZドルであったものが、次第に増加してきている。オーストラリアは昨年のブルーベリーの主要輸出先であり、輸出額は3,900万NZドルであった。報告書はまた、全国に80の生産者がいて、3,640トンを生産し、国内販売額は3,530万ドルであることを示している。

オーストラリアでは先月、ニューサウスウェールズ州北部の出荷シーズン(主に7月～2月)が始まった。南部の州の出荷シーズン(12月～4月)が終わって秋のオフシーズン(5月、6月)の間は価格が上がっていたが、小売価格は4.00～4.50豪ドル(1豪ドル≒82円)まで下がっている。

64. 米国の柑橘類最終予測 オレンジは増加、レモンは減少

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年7月13日)

米国農務省が公表した最新かつ今シーズン最後の柑橘類出荷予測では、オレンジがすべての区分で先月の予測をわずかに上回ったのに対し、レモンは下方修正された。

米国計のオレンジ出荷量は現在、6月予測の1億580万箱よりも多い1億840万箱と予測されている。しかし、この出荷量は依然として、2019/20年の1億2,280万箱や2018/19年の1億2,660万箱などこれまでのシーズンと比べて大幅な減少を示している。

予測出荷量の昨シーズンからの減少は、フロリダ州が6,740万箱から5,280万箱に減少したためであり、一方、カリフォルニア州は5,450万箱と昨年から横ばいであった。

レモンは、カリフォルニア州とアリゾナ州の両方で減少し、米国計では6月の予測の2,380万箱から2,300万箱とわずかに減少した。

バレンシア以外のオレンジ、すべてのグレープフルーツ、すべてのタンジェリンとタンジェロの出荷予測は、先月の予測とほぼ変わらなかった。

柑橘類の種類別出荷量 – 州別及び米国計

品目及び州	出荷量 ¹		2020-2021 年予測出荷量 ¹		注:
	2018-2019 (1,000 箱)	2019-2020 (1,000 箱)	6 月予測 (1,000 箱)	7 月予測 (1,000 箱)	
バレンシア以外のオレンジ ²					1 一箱の正味重量 (ポンド)
フロリダ州	30,400	29,650	22,700	22,700	オレンジ
カリフォルニア州	42,000	43,300	42,000	45,000	カリフォルニア-80
テキサス州	2,210	1,150	1,000	1,000	フロリダ-90
米国計	74,610	74,100	65,700	68,700	テキサス-85
バレンシアオレンジ					グレープフルーツ
フロリダ州	41,450	37,750	30,000	30,100	カリフォルニア-80
カリフォルニア州	10,200	10,800	10,000	9,500	テキサス-80
テキサス州	290	190	50	50	フロリダ-85
米国計	51,940	48,740	40,050	39,650	レモン -80
オレンジ合計					タンジェリン・マンダリン
フロリダ州	71,850	67,400	52,700	52,800	カリフォルニア-80
カリフォルニア州	52,200	54,100	52,000	54,500	フロリダ-95
テキサス州	2,500	1,340	1,050	1,050	2 フロリダ州のバレンシ
米国計	126,550	122,840	105,750	108,350	ア以外の早生品種(ネー
グレープフルーツ					ブルを含む)及び中生品
フロリダ州合計	4,510	4,850	4,100	4,100	種、カリフォルニア州の
赤肉系	3,740	4,060	3,480	3,480	ネーブル及びその他の
白肉系	770	790	620	620	品種、テキサス州の早生
カリフォルニア州 ³	4,200	4,700	4,200	4,400	品種、中生品種
テキサス州	6,100	4,400	2,400	2,400	3 ポメロを含む
米国計	14,810	13,950	10,700	10,900	
レモン					訳注:
アリゾナ州	1,350	1,800	1,800	1,500	左の表は、上記の記事
カリフォルニア州	23,700	25,300	22,000	21,500	中の米国農務省の公表
米国計	25,050	27,100	23,800	23,000	データを訳したものであ
タンジェリン及びタンジェロ					り、記事とは出典が異な
フロリダ州	990	1,020	890	890	ります。
カリフォルニア州	26,500	22,400	23,000	24,000	表の出典: 米国農務省
米国計	27,490	23,420	23,890	24,890	農業統計局「柑橘類7月
					予測」

65. 南アフリカ 抗議行動で柑橘類輸出が中断

ASIAFRUIT電子版(2021年7月14日)

南アフリカでは、クワズール・ナタール州とハウテン州で暴動が発生したためダーバン港からの柑橘類輸出が停止している。北部の生産州とダーバン港を結ぶ主要道路は、両州で暴徒が車両を攻撃し、ショッピングセンターを略奪したとの報告を受けて封鎖された。両州のいくつかのショッピングセンターは破壊されたと言われており、事態が収拾される見込みは立っていない。

ジェイコブ・ズマ前大統領の支持者らは、このANC(アフリカ民族会議(与党))の元指導者に15カ月の禁固刑が科されたのを受けて、暴力に訴えたと脅していた。ズマ前大統領は先週の水曜日(7月7日)に収監され、日曜日(7月11日)に暴動が勃発した。ダーバン港と内陸部を結ぶ幹線道路(国道3号線)ではムーイ川料金所でトラック数台が放火され、そこから暴動は急速に拡大し、店主らはその後の略奪を抑えることができなかった。

柑橘類部門にとっては、暴動と混乱は特に悪い時期に起きた。同国の柑橘類輸出の大部分を占めるバレンシアオレンジの収穫は、今月始まったばかりであり、国の北部ではちょうど収穫と出荷の最盛期だ。

柑橘類生産者協会(CGA)のジャスティン・チャドウィック代表は、「数日前に暴動が始まって以来、ダーバン港への主要道路がすべて封鎖されたため、出荷する柑橘類をトラックで港に運ぶことができない。生産者は引き続き収穫・梱包を行っており、現在は内陸部の梱包所や貯蔵施設に積み上がっている」と述べた。

同代表はさらに、「現在の暴動が鎮まれば、果実はダーバン港までトラックで一斉に運ばれるが、その際には道路や港に負担がかり、渋滞が発生する可能性が見込まれる。果実を再びダーバン港に輸送して出荷できるよう、早期に状況が収まることを願っている。市場は、出荷シーズンを通して均等に供給されたときに最高のパフォーマンスを発揮するものなので、断続的な出荷は好ましくない」と述べた。

CGAは声明の中で、現在クワズール・ナタール、ハウテン両州に広がる犯罪の波を非難した。また、チャドウィック代表は、「国道3号線とダーバン港の閉鎖など、現在の暴力が農業部門と食料安全保障にもたらす重大なリスクと、これらに対しどのように緊急に対処できるかについて、Agbiz(農業ビジネス分野の商工会)の会員として、政府と引き続き協力する」と述べた。

小売アウトレットやスーパーマーケットモールの大規模な破壊に伴い、小売業者は現在、店舗を埋めるのに十分な農産物や商品を見つけるのが難しい状況に直面している。一部の食品製造業者は、標的にされるのを避けるために、すでに製造部門を閉鎖している。このことは、数ヶ月後に大きな品不足をもたらす可能性がある。ダーバン市内では、すでに主食が不足しており、一般の人々への販売を行っている数少ない店舗では、販売数量制限を余儀なくされていると報じられている。

南アフリカ政府は、警察が略奪と破壊行為を制止するのを支援するため国防軍を出動させた。この暴動ではすでに数名が死亡している。

同国北部の柑橘類輸出業者が、梱包所や冷蔵倉庫に積み上がった在庫を一掃するために、東ケープ州と西ケープ州の2つの港に果実を転送していることを示唆する未確認の情報がある。これは物流上はるかに長い道のりで、高価な選択肢であるが、生産者らは、できるだけ早く市場に果実を出荷するしかないと言う。

ダーバン港はまた、ジンバブエとスワジランドの生産者にとっても重要な港であり、その閉鎖はこれらの国の生産者にも大きな影響を与える可能性が高い。また、同港は南アフリカで最も活発な輸入港の一つでもあることから、現在の状況は国内市場への供給にも影響を与えている。

南アフリカは、予想される柑橘類輸出货量1億5,600万箱のうち、これまでに5,500万箱を出荷した。すでに7,800万箱が梱包されており、現在の大きな課題は、内陸部に滞っている余剰の貨物をできるだけ早く港に輸送することである。

(訳注) 続報によれば、他の港湾の利用やダーバン港の再開等により、7月19日までに事態は一部改善しています。

66. 世界のアボカド市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年7月16日)

アボカドは全般的に人気上昇しているため、多くの国で国内産と輸入アボカドの両方で良い価格が付いており、この果実の世界市場は総じて良好である。英国ではホスピタリティ部門の営業が再開され、オランダなどの国々では今年海外での休暇を逃した人々が在宅中にアボカドを購入することが期待されているため、残りの出荷シーズンについては予測できない部分がある。一方、南アフリカでは、国内の多くの地域の政情不安と収穫量の減少のため、残念な出荷シーズンとなった。

オランダ：グリーンスキンアボカドの良い市場 大玉のハスアボカドは低価格

ハスアボカドの価格は現時点では高くないが、オランダのある業者は売れ行きに不満はなく、「販売が好調なので、在庫は積み上がっていない。現在、市場には少し変化が見られる。ペルー産は大玉の入荷が多く、最後の入荷も同様に大玉が主体になると見込まれる。したがって、価格は約6ユーロと低い水準にある。一箱玉数22以上の小玉は入手が難しく、値段も4kgで9ユーロ近くと高くなっている」と言う。

グリーンスキンアボカドの市況の良さも目立ち、上記の業者は、「それは実際すべてのサイズに当てはまる。ケニア産は品質が悪いので、ほとんどの生産者は賢明にもオランダに輸出しない選択をしている。このため、供給は南アフリカ産とペルー産に限られている。価格は4キロ当たり概ね9〜10ユーロと良好である。ケニアの第2シーズンは9月まで始まらない。従来から夏の期間は熱帯果実市場は活気がなく、これから休暇シーズンが始まるためますます活気なくなる。海外に行く人が少ないという事実は売り上げを刺激するかもしれないが、今年の夏は消費者の購入がずっと少なくなると見込まれる。幸いなことに、小玉の価格はすでに回復し始めており、ペルーからの入荷が終わると、新しいシーズンが始まる」と語った。

ベルギー：ペルーからの入荷の増加にもかかわらず価格は強気

アボカドは現在ペルーから輸入されている。価格は、この時期としては比較的高めである。ペルーの出荷量は昨年より30%多いが、一方でアジアからの需要が高く、またチリも今年は例外的に多くを輸入しており、ペルーは毎週トラック140台分のアボカドをチリに輸出している。ペルーは、3月末から4月上旬にハスアボカドの輸出を開始したが、現在は供給量が多いため、価格への圧力が若干増している。しかし、価格はかなり長い間安定しており、出荷量の増加分はより多くの市場に分散されているため、昨年のような投げ売りにはなっていない。

小玉の割合が少なく、その価格は通常よりも高くなっている。ペルーでは、天候上の理由からアボカドの乾物量の増加が遅かったため、樹上に留まる期間が長くなり、大玉になった。チリは8月中下旬に出荷を開始すると見られ、十分な量が予想される。チリ産は、昨年は裏年で出荷量が少なかったが、今年は表年で十分な出荷量がある。

英国：良い天候とホスピタリティ部門の再開で、アボカドの需要は予測不可能

今の時期、ヨーロッパと英国へのアボカドの主要輸出国は、ペルーと南アフリカである。また、それらの国からの輸入の最盛期でもある。ペルーはEU市場の64%、南アフリカは14%を占めており、そのほかはコロンビア10%、ケニア7%、その他の輸出国5%となっている。

南アフリカ産の供給は、シーズンの早い段階でコンテナの確保に問題が生じたが、現時点では安定している。現在同国内で起こっている暴動は輸出に影響を与える可能性がある。品質は、海上輸送に時間がかかった昨年よりも優れている。ペルー産の供給は早い段階でストライキの影響を受けたが、現在は収まっている。ペルー産の品質もかなり良い。

英国の小売セクターの需要は非常に良好である。フードサービスとホスピタリティ部門の再開は小売の減速に結び付くものだが、いまのところ小売りの需要は依然として強い。

ホスピタリティ部門がさらに再開するものの、状況はゆっくりと移行すると見られるため、納入業者にとっては、

今後4～6週間で需要がどうなるかを予測することは難しい。今週末に良い天気が予報されているが、人々がサラダを食べたり、屋外で食事をしたりするので、アボカドの売り上げ増加に結び付くと見られる。

イタリア：物流問題と夏の高い需要がアボカド価格を押し上げる

アボカドはイタリアで次第に人気が高まっている。最も消費が多いのは国の北部だが、南部でも特に若者の間で非常に人気がある。アボカドはますます消費者向けの商材になりつつある。実際、ケータリングに加えて、よく熟したすぐに食べられる果実を求める消費者から高く評価されている。

ここ数日、上級品のアボカドの卸売価格は、約4ユーロ/kgと非常に高くなっている。これは、物流上の要因と、夏は需要が多いという事実によるようだ。卸売業者が販売するパッケージは4キロ入りで、現在一箱の価格は15～16ユーロ前後である。価格がもう少し低ければもっとよく売れるが、現在の状況では短期的に価格が下がる余地はない。現在入荷しているアボカドは主に海上輸送されたもので、産地は南米、特にペルーとコロンビアだ。果皮が緑色のものは南アフリカ産である。

ミラノのある卸売業者は、「グリーンスキンの出荷はほとんど終わり、入手できるわずかな品物は、品質の疑わしいもののがかなり高い価格で販売されている。今後9月末までの数ヶ月間は、ペルー産、ブラジル産、南アフリカ産のハスアボカドしかない。現在のここでの価格は低い。9月からは、イスラエル産のアボカドの出荷シーズンが始まる」と言う。

シチリアのある起業家は、「最近終了したシチリア産アボカドの出荷シーズンで、生産性が30%も大幅に向上し、約1,400トン収穫した。2021/22年度出荷シーズンの予測を行うのはまだ早く、予測の結論を出して、品種ごとの計画を策定するのは9月中旬になる。優れた管理技術のおかげで果樹の生育は順調であるが、おそらく昨年のような最上級の年ではないだろう。これは間違いなく優れている品質面の話ではなく、開花の前後に気温が変動するなど、ますます明白で決定的になっている春から夏にかけての天候の不良傾向を考慮しての量についての話である」と語った。

スペイン：価格が良好で出荷量が引き続き増加

スペイン産アボカドの出荷シーズンは9月末に始まる。最も一般的に栽培されているハスアボカドは、生育条件に恵まれて着果の状況が良かったため、今年の収穫量は約20%増加すると予想されている。ベーコン種のような果皮が緑色の品種については、生産量は約10%減少すると予想されている。スペインのアボカドの栽培面積は増加を続けており、栽培面積1万ヘクタールのマラガ県(グラナダ県と合わせて)、すでに約4,200ヘクタールを数えるカディス県、約2,500ヘクタールのウエルバ県(以上アンダルシア州)、約1,500ヘクタールのバレンシア県(バレンシア州)が主要産地である。しかし、水不足のため生産の制約が拡大している。

スペインはこの時期には、主にペルー(欧州市場を支配している)からアボカドを輸入しており、コロンビアからも少量を輸入しているが、2週間以内にメキシコ産のアボカドも市場に入荷する。ある輸出業者によると、ケニア産の入荷により供給量が増え、価格を押し下げたため、6月の市場は活気がなかった。現時点のアボカドの販売は、需要が安定しているため、昨年の同じ時期よりも良好である。上記の輸出業者によると、ペルーは今年、出荷をうまく仕組んだ。韓国や日本などの新しい市場の開放と、チリ向け輸出の20%の増加により、EU向けのコンテナは少なくなった。昨年の夏、ペルーは週に約800個のコンテナをEU市場に送っていたが、今年の夏は、週500～550個のコンテナを送っている。ホスピタリティ部門が徐々に再開するに連れ、売上にもプラスの影響が出ている。ペルー北部の果実の成熟の遅れにより、市場には大きなサイズが多く出ている。今後数週間のうちに販売促進活動が見込まれるので、需要の増加が見られるかもしれない。

南アフリカ：政情不安が出荷に問題を引き起こす残念な出荷シーズン

南アフリカではこれまでのところ、出荷量が予想よりも少なく、残念な出荷シーズンとなっている。収穫は現在、クワズール・ナタール州に移り、箱詰めされたアボカドがパレットに積まれているが、同州の政情不安と道路封鎖のために出荷することができない。

地元の生産者によると、現在の同国内の政情不安にもかかわらず、クワズール・ナタール州のアボカド農場や梱包施設に対する攻撃は見られない。数日以内に輸出できない場合は、次善の策として、果実を国内で

販売することが必要になるかも知れない。

今シーズンの予測輸出数量は4kg箱で1,600万箱であるが、そのほとんどがペルーとの競争が激しいヨーロッパ向けであり、南アフリカのアボカド輸出業者にとっては厳しい季節となっている。

国内市場のアボカドの平均価格は1kg当たり16.66ランド(約125円)である。

北米：メキシコ産への移行に伴い供給が減少

北米へは、現在複数の地域からアボカドが供給されているが、供給量はやや少ない。カリフォルニア州に拠点を置くある出荷業者は、「メキシコ産が最初の開花期(メキシコではアボカドは年に4回開花する)の果実に移行し、カリフォルニア州の出荷シーズンが終わりに近づくにつれて、米国市場への供給量は減少している」と言う。(以下、北米の項で「」はこの業者の発言)

国内では、カリフォルニア州産のアボカドは、予想される2億5千万ポンド(約11万トン)のかんりの部分を収穫し終えた。同州のアボカドは今年の早い時期(2月頃)に収穫を開始し、8月までピークが続くが、果実の大きさは小玉のサイズ60と48が多い。

米国に最も多くのアボカドを出荷するメキシコの2020/21年度の総輸出量は約29億ポンド(約132万トン)である。今後について、予備的な予想としては、2021/22年度は30億ポンド(約136万トン)と見込まれる。「メキシコ産も小玉のサイズ48と60が多い。メキシコ産への移行により、数週間前に比べて価格が高くなっている。移行期間中は次の産地の出荷が本格的になるまで価格が高いのが普通だ。」

一方、ペルー産は収穫が進んでおり、9月まで続く予想される。「ペルーは、予想される10億ポンド(約45万トン)の出荷の最盛期にあり、サイズ60と48の小玉が多くなっている。」この業者はまた、ヨーロッパなどの地域にハスアボカドを周年供給するため、南アフリカなどの産地にも目を向けている。

全体として、今の時点のアボカドの供給は、昨年に似ている。「今後、メキシコの最初の開花期の果実への移行を完了するにつれ、市場の需給バランスがとれてくることを期待している。」一方、アボカドの需要は引き続き堅調で、消費量は年々増加を続けている。最大の課題は、需要と供給のバランスを取ることである。

ニュージーランド：記録的な輸出量と総出荷量

2020/21年度のニュージーランドのアボカド総生産額は、2億2,700万ニュージーランドドル(NZドル(1NZドル≒77円))で、そのうち輸出額が1億6,700万NZドル、国内市場向けが6千万NZドルであった。ニュージーランド・アボカド協会は、2020年のニュージーランドのアボカド出荷シーズンは、史上最高の輸出量と総生産量を記録したと報告した。44,000トンのアボカドが収穫され、510万箱(5.5kg/箱)が11カ国に輸出され、前シーズンに比べて10%増加した。オーストラリアは、420万箱(5.5kg/箱)以上を輸入するニュージーランド産アボカドの最大の輸出市場であった。2020年には、西オーストラリア州の生産量が減少したため、輸入量が増えた。約50万箱のアボカドが、タイを筆頭とするアジアの8つの市場に輸出された。2020年度の出荷シーズンに、ニュージーランド国内で6千万NZドル以上に相当する約250万箱が販売された。

オーストラリア：史上最大級の生産量予想

オーストラリアの主要なアボカド出荷業者の一つは、同国が2021年に史上最大級の生産量を達成し、国内外でのより多くの販売機会につながると期待しており、「過去10年間、新しい顧客を獲得する要因は価格であったので、供給量が豊富であれば、より多くの消費者を取り込むチャンスがある。どこの産地でも驚くほど天候が良い。オーストラリアのこの業界が過去20年間に経験した最大級の収穫量になるので、輸出と国内販売の拡大の面で多くの機会が創出された」と述べた。大手スーパーマーケットはこの数週間、アボカドを1個1豪ドル(約81円)の安さで販売しており、消費者は安い小売価格を享受している。オーストラリアでは、2月から5月まで続いたシェパードアボカドの出荷シーズンに続き、現在クイーンズランド州産のハスアボカドの出荷が最盛期である。

67. フランスの脱プラ法が米国産青果物の輸出を脅かす

The Packer電子版(2021年7月22日)

米国農務省は、2022年1月1日に発効するフランスの法律が、数百万ドルの米国産青果物の輸出を脅かすとの報告書を公表しました。この報告書は、米国農務省海外農業局パリ事務所(フランス)の見解を示したものであり、米国農務省の公式見解とは異なることがあります。以下はThe Packer電子版の記事の抜粋です。

廃棄物防止法

フランス議会は2020年2月、「廃棄物の防止と循環経済に関する法律」を可決した。

報告書によると、立法者の意図は、廃棄物を制限し、天然資源と生物多様性を保全し気候変動から保護するために、フランスにおける生産と消費のあり方を変えることであった。

この法律の大目標は、(1)使い捨てプラスチックを排除する、(2)消費者により良い情報を提供する、(3)廃棄物を削減しリサイクルを増やす、(4)計画的陳腐化として知られる使用期限が埋め込まれた製品を企業が開発することを禁止する、(5)生産方法を改善する、の5つである。

この法律は農業以外の多くの問題を取り扱っているが、報告書によると2つの条文は特に果物・野菜部門を対象としている。

すなわち、第77条は、その重量が1.5キログラムを下回る場合、果物や野菜のプラスチック包装を禁止している。ただし、非プラスチックの資材では包装できない果物や野菜の例外を認めている。また、第80条は、来年1月以降にフランスで販売される果物や野菜について、堆肥化できないステッカーの貼付を禁止している。

果物や野菜のプラスチック包装の禁止は、国会での法案審議中に追加された。複数の情報筋によると、フランスの複数の大手乳業企業が乳製品のプラスチック包装の禁止に反対してロビー活動を行った結果、乳製品を法案から除外することとなり、それとの引き換えであった。

報告書は、「世界的なコロナ禍のために、フランスの青果物業界関係者のほとんどは、この法案とこれらの2つの条文を2020年の後半まで見過ごしていた」としている。

報告書はまた、「フランスではほとんどの果物や野菜がバラ売りされているが、イチゴや他のベリー類、核果類(モモ、アプリコット等)、チェリートマト、サラダやヘタを取ったサヤインゲンなど、傷みやすい果物や野菜の販売では依然としてプラスチック包装が広く使用されている。アボカドやマンゴーもプラスチックで包装されることがある。このような包装の主な目的は、販売時の腐敗と廃棄物を減らすことである」としている。

フランス食品評議会(関係大臣の諮問機関)は2020年9月、免除される品目をリストアップした報告書を発表した。フランス政府はその報告書に基づいて、免除される果物と野菜、及び免除の期間を列挙した政令案を示した。米国の輸出業者が関心を持つクランベリーとリンゴンベリー(コケモモ)は、2024年12月31日までプラスチック包装の禁止から免除される*。

プラスチック包装の制限はフランスと他のEU加盟国の間の自由な貿易の流れを妨げる可能性があるため、フランスは提示した政令案をTRISシステム(技術的規制に関するEUの情報システム)を通じて欧州委員会に通報した。欧州委員会とスペインのほか、多くの機関や米国を含む域外国もコメントを提出した。欧州委員会とスペインのコメントを受けて、コメントの提出期間は今年9月13日まで延長された。

フランスは、EU共通市場の侵害であると訴えられる可能性を承知の上でコメントを無視するか、通報した政令案を懸念に対処するように修正するか、選択することができる。

*訳注: このほかの免除される果実と免除期間(政令案による)

ブドウ、モモ、ネクタリン、アプリコット 2023年6月30日まで; サクランボ 2024年12月31日まで; ラズベリー、イチゴ、ブルーベリー、ブラックベリー、カーラント、未熟なキウイフルーツ、小売り容器にその旨表示された完熟果実 2026年6月30日まで

68. 世界の柑橘類市場と貿易動向

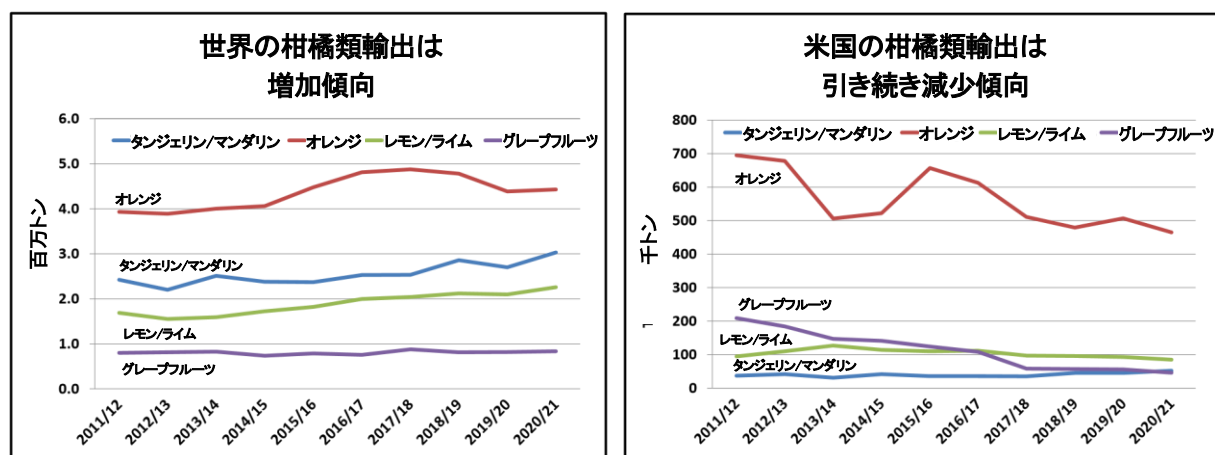
米国農務省海外農業局(2020年7月22日)

この記事は、米国農務省海外農業局が各国の同局海外事務所からの報告及び利用可能な二次情報を元に取りまとめたものです。EUには英国を含みます。

米国の生産量・輸出量見通しは減少 世界的には増大

世界の柑橘類の貿易量は4%増の9,800万トンと推定される。オレンジが生産量の半分を占め、次いでタンジェリン/マンダリン、レモン/ライム、グレープフルーツが続く。中国が最大の生産国であり、ブラジルとEUがこれに次ぐ。米国は世界第5位の生産国であるが、長期的な減少傾向に沿って生産量は13%減少すると推定される。柑橘類グリーンング病がこの現象の主要因であり、柑橘類の生産量は20年前の3分の1以下に減少し、栽培面積は40%近く減少した。

世界の輸出量は1,100万トンと推定され、このうちオレンジが40%以上を、タンジェリン/マンダリンが30%近くを占めている。柑橘類の輸出は、中国、南アフリカ、トルコからのタンジェリン/マンダリンの輸出によって主導され、またそこまで多くはないものの、メキシコ、南アフリカ、トルコからのレモン輸出も増えている。南アフリカが最大の輸出国であり、トルコとエジプトが続く。オレンジ輸出の減少を主要因として米国の柑橘類輸出は減少しており、輸出可能な供給量の減少により、世界的なタンジェリンやレモンの貿易量の増加の流れに乗っていない。米国は世界第7位の輸出国であるが、輸出量はタンジェリン/マンダリンを除くすべての品目で減少している。タンジェリン/マンダリンは、米国で生産量が増えている唯一の品目である。

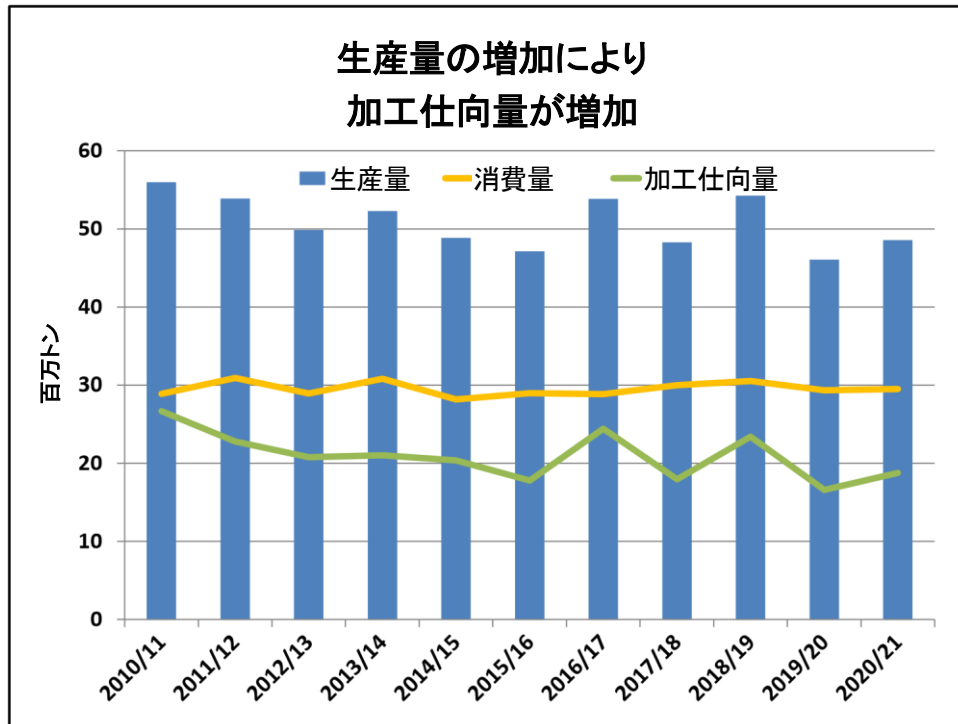


<オレンジ>

世界の2020/21年度のオレンジ生産量は、好天のためブラジル(7%増)とメキシコ(60%近く増)の生産量が増加したため、前年比250万トン増の4,860万トンと推定される。増加分のほとんどは加工用に仕向けられ、消費量と輸出量は横ばいと予想される。

ブラジルの生産量は7%増の1,590万トンと予測される。オレンジの木は隔年結果の表年にあるが、悪天候が今後の生産可能性に大きな影響を与えた。消費量はわずかに減少し、加工仕向量は130万トン増の1,120トンである。

中国の生産量は、好天に恵まれわずかに増加して750万トンと予測される。消費量は横ばいで、輸入量は減少する。しかし、輸出は物流の改善と主要輸出先であるマレーシア、フィリピン、ベトナムなどの需要の回復に伴い、倍増するものと推定される。



米国の生産量は12%減の420万トンと推定される。生産量はカンキツグリーニング病のために何年も減少傾向にあり、20年前の3分の1以下となっている。さらに、栽培面積は40%近く減少している。供給量の減少に伴い、消費量、輸出量、加工仕向量はすべて少なくなっている。

EUの生産量は、好天と収穫面積の増加により、5%増の650万トンと予想される。供給量の増加に伴い、加工仕向量と輸出量はともに増加するが、新鮮消費量は横ばいで、輸入量は減少するものと予測される。

メキシコの生産量は、好天に恵まれ、干ばつであった昨年から反発して400万トンに達する見込みである。供給量の増加に伴い、消費量と加工仕向量は増加するものと予想され、輸出入量は変わらないと予想される。輸出量の95%は米国向けと予測される。輸出されるオレンジのほとんどは、ソノラ州産のネーブルオレンジである。

エジプトの生産量は、強風と高温が開花や着果に影響を与えたため、6%減の340万トンと推定される。供給量の減少に伴い輸出量は減少するものと予想されるが、依然として世界の貿易量の3分の1を占めると見込まれる。主な輸出先は引き続き、EU、ロシア、サウジアラビア、中国等と見られる。

南アフリカの生産量は、良好な天候、水管理の改善、収穫面積の増加、及び晩生の多収性品種の新植により、2%増の170万トンと予想される。輸出は史上最高の130万トンと推定され、EUが引き続き最大の輸出先で、輸出量の約45%を占めると予想される。

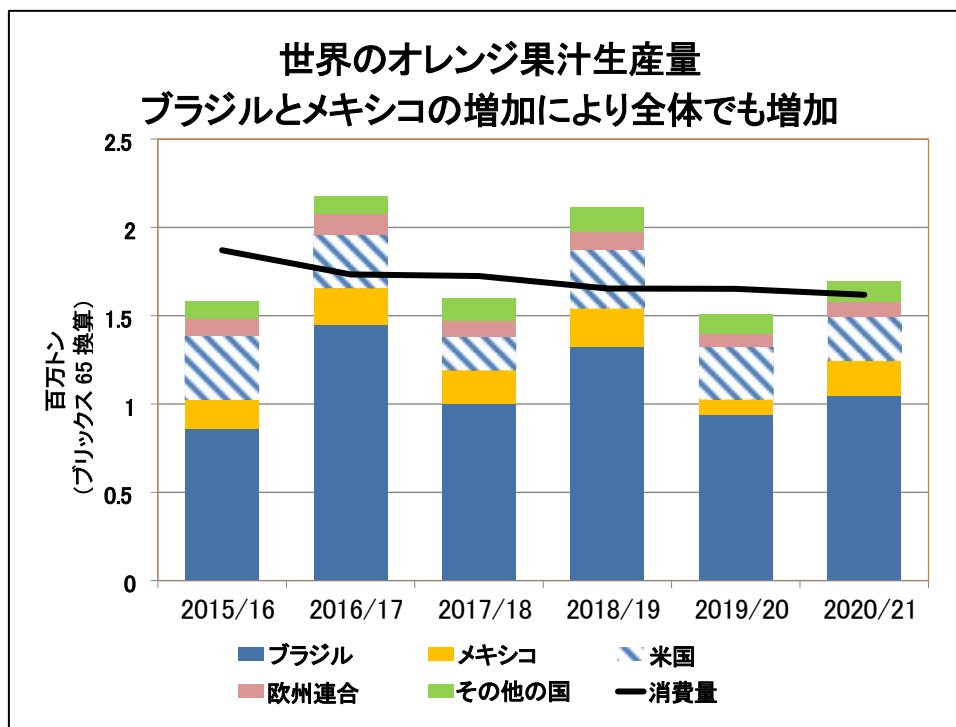
トルコの生産量は、2020年5月の高温が開花に悪影響を及ぼしたため、24%減の130万トンと推定される。供給量の減少に伴い、消費量と輸出量は減少する。

モロッコの生産量は、好天に恵まれ、3割以上増加して110万トンに達するものと推定される。供給量の増加に伴い、消費量と加工仕向量も増加するものと予想される。好調な国内需要と輸出市場における競争を反映して、輸出量の増加はわずかに留まると見込まれる。

アルゼンチンの生産量は、2020年春の干ばつの影響で、3万トン減の67万トンと予測される。供給量の減少に伴い消費量と輸出量も減少するものと推定される。主な輸出先は引き続きEU及びパラグアイと見られる。

<オレンジ果汁>

世界の2020/21年度のオレンジ果汁生産量は、13%増の160万トン(ブリックス65換算)と推定される。加工用に仕向けられるオレンジが増加すると予想されており、ブラジルとメキシコが生産量の増加が米国の減少を上回るものと見込まれる。ブラジルとメキシコからの輸出の伸びに伴い貿易量が増加するが、消費量は長期的な減少傾向が続くものと見込まれる。



ブラジルの生産量は、加工用に仕向けられるオレンジが増加するため、12%増の100万トンと予測される。同様に、消費量と輸出量も増加するものと予想される。ブラジルは依然として世界最大の生産国であり、世界のオレンジ果汁輸出量の4分の3を占めると予測される。ブラジルのオレンジ果汁施設のタンク内の在庫量が減少するため、在庫量全体も減少するものと見込まれる。

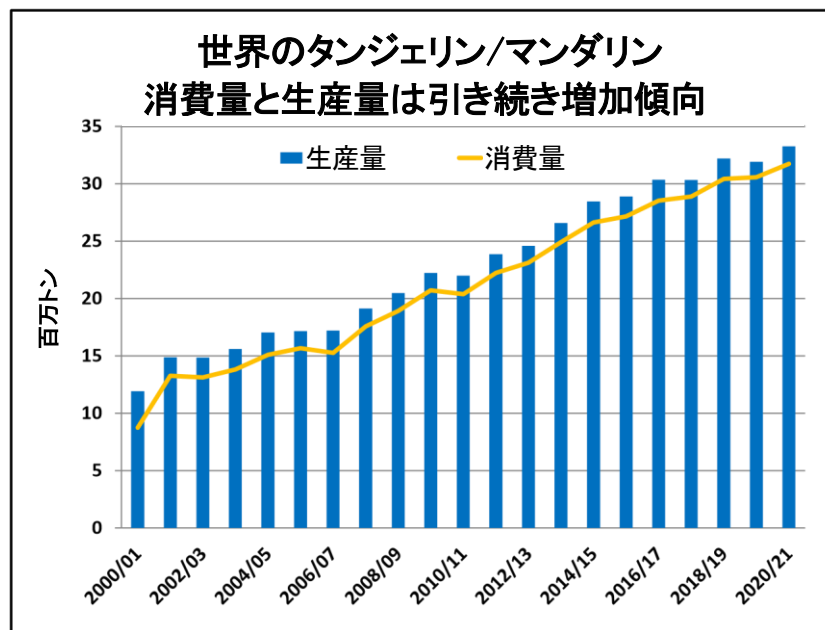
米国の生産量は、オレンジの加工仕向量の減少により18%減の24万5千トンと推定される。生産量の減少により、消費量、輸出量、在庫量は減少するものと予想される。それに伴い、輸入は急激に増加する。

メキシコの生産量は、オレンジ生産量の反発急増により、2倍以上の20万トンに上るものと予測される。供給量の増加に伴い消費量と輸出量は増加し、在庫は横ばいと見込まれる。

EUの生産量は、特にスペインとイタリアでオレンジの加工仕向量が増加し、24%増の89,000トンと推定される。消費量は、国内供給量の増加と消費者のビタミンCを含む製品に対する関心の高まりの結果として、わずかに増加すると見込まれる。ブラジルが引き続きEUのオレンジ果汁主要輸入先と見られるが、輸入量は、域内生産量の増加に見合う分だけ減少するものと予想される。

<タンジェリン/マンダリン>

世界の2020/21年度の生産量は、4%増加して史上最高の3,330万トンと推定され、ほぼすべての市場で増加が見込まれる。供給量の増加に伴い、消費量と輸出量はいずれも増加する。生産量と消費量は、中国、EU、トルコ、米国の増加により、過去20年間増加傾向にある。



中国の生産量は、良好な天候と皮をむきやすい新品種の栽培面積の急速な拡大により、100万トン増加し、史上最高の2,300万トンに達するものと予測される。供給量の増加に伴い、消費量と輸出量も史上最高を記録するものと予想される。主要な輸出市場は、フィリピン、タイ、ベトナムなどを見込まれる。

EUの生産量は、良好な気象条件に恵まれたスペインとイタリアで生産量が増加する結果、59万7千トン増の340万トンと見込まれる。供給量の増加に伴い、消費量は史上最高となり、輸出量が増加し、輸入量は減少するものと予想される。EU市場への主要供給国は、引き続きモロッコと南アフリカであると見られる。主要輸出先は、スイス、ウクライナ、ノルウェーと予想される。

トルコの生産量は、好都合なタイミングの雨と気温により、14%増の160万トンと推定される。生産量の増加に伴い、消費量と輸出量は増加するものと予測され、引き続きロシアが主要輸出先と見られる。

モロッコの生産量は、開花期の良好な天候のため、3割増の120万トンに跳ね上がると予測される。供給量の増加に伴い、消費量と輸出量も増加すると予想される。主要輸出先は、引き続きカナダ、EU、ロシアであると予想される。

米国の生産量は、良好な天候に恵まれ、6%増の90万9千トンと予想される。消費量は横ばいである。供給量の増加により、加工仕向量と輸出量が増加し、輸入量が減少する。

<グレープフルーツ>

世界の2020/21年度の生産量は、米国とトルコの悪天候による減収が、中国、メキシコ、南アフリカの生産量の増加を上回り、1%未満減少して670万トンと推定される。消費量は横ばいと予想されるが、輸出量は中国と南アフリカの増加により、わずかに増加するものと見込まれる。

<レモン/ライム>

世界の2020/21年度の生産量は、メキシコ、EU、トルコの増収が、アルゼンチンと米国の減少をほぼ相殺するため、840万トンで横ばいと見込まれる。消費量と輸出量は増加すると予想されるが、加工仕向量はアルゼンチン、メキシコ、米国で減少し、全体で20%近く減少すると予想される。これは米国にとって3年ぶりの生産量の減少であり、サンホアキンバレー地域における干ばつによる収量低下のためである。アルゼンチンでは、生産量の減少に伴い加工仕向量が減少する。メキシコでは、ビタミンCを含む品目の需要が増加し、国内消費量が増えると予想される。メキシコとトルコの輸出量の増加がアルゼンチンの減少を上回り、世界の貿易量は増加するものと見込まれる。

主要国の生産需給統計

オレンジ（生鮮）

(1000トン)

	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 1月予測	2020/21 7月予測
生産量						
ブラジル	20,890	15,953	19,298	14,870	16,932	15,942
中国	7,000	7,300	7,200	7,400	7,500	7,500
E U	6,739	6,270	6,800	6,205	6,556	6,531
米国	4,616	3,515	4,923	4,766	4,113	4,175
メキシコ	4,630	4,737	4,716	2,530	4,010	4,010
エジプト	3,000	3,120	3,600	3,200	3,400	3,400
南アフリカ	1,363	1,586	1,590	1,620	1,700	1,650
トルコ	1,850	1,905	1,900	1,700	1,360	1,300
モロッコ	1,037	1,021	1,183	806	1,100	1,100
ベトナム	768	855	1,017	1,017	770	1,017
アルゼンチン	700	750	800	700	700	670
オーストラリア	526	528	515	485	535	535
コスタリカ	322	315	295	290	285	285
グアテマラ	177	178	178	180	180	180
イラク	73	75	73	134	75	134
その他	168	166	153	147	145	143
合計	53,859	48,274	54,241	46,050	49,361	48,572
生鮮国内消費量						
中国	6,718	7,058	7,059	7,236	7,355	7,190
E U	5,950	5,834	6,151	6,078	6,121	6,080
ブラジル	4,761	4,982	4,961	4,967	4,749	4,779
メキシコ	2,473	2,785	2,486	1,596	1,975	1,975
エジプト	1,380	1,480	1,540	1,490	1,550	1,550
米国	1,184	1,216	1,259	1,415	1,248	1,315
ベトナム	811	917	1,068	1,062	820	1,092
トルコ	1,402	1,386	1,539	1,339	1,036	1,014
モロッコ	822	826	968	654	900	930
ロシア	425	458	457	414	444	454
サウジアラビア	374	380	402	369	395	430
アルゼンチン	350	320	410	429	390	420
イラク	258	337	266	303	205	309
アラブ首長国連邦	204	181	189	232	190	239
グアテマラ	213	197	212	218	220	235
その他	1,521	1,629	1,547	1,542	1,581	1,508
合計	28,846	29,986	30,514	29,344	29,179	29,520
加工仕向量						
ブラジル	16,116	10,975	14,362	9,915	12,199	11,179
米国	3,001	2,010	3,378	3,044	2,600	2,605
メキシコ	2,100	1,900	2,200	900	2,000	2,000
E U	1,491	1,154	1,309	923	1,135	1,151
中国	580	570	520	400	380	380
エジプト	100	100	360	335	350	350
南アフリカ	123	239	333	282	302	285
コスタリカ	238	232	216	215	210	217
オーストラリア	214	215	210	205	215	215
アルゼンチン	273	375	307	190	230	180
その他	181	179	189	174	184	184
合計	24,417	17,949	23,384	16,583	19,805	18,746

	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 1月予測	2020/21 7月予測
輸出货量						
エジプト	1,520	1,540	1,700	1,375	1,500	1,500
南アフリカ	1,171	1,279	1,186	1,260	1,320	1,285
米国	613	511	479	507	490	465
E U	293	324	357	290	300	300
トルコ	397	454	298	293	263	225
オーストラリア	191	186	198	190	195	195
モロッコ	165	145	155	117	150	120
中国	59	65	55	52	55	110
アルゼンチン	80	60	85	83	80	70
メキシコ	76	72	60	65	65	65
香港	176	189	167	117	125	60
サウジアラビア	15	13	15	12	15	10
ブラジル	33	20	4	8	8	8
ロシア	5	5	5	6	6	6
シンガポール	6	5	6	4	5	4
その他	10	8	9	6	7	7
合計	4,810	4,876	4,779	4,385	4,584	4,430
輸入量						
E U	995	1,042	1,017	1,086	1,000	1,000
ロシア	430	463	462	420	450	460
サウジアラビア	389	393	417	381	410	440
アラブ首長国連邦	204	181	190	233	190	240
バングラデシュ	155	239	172	218	220	230
米国	182	222	193	200	225	210
中国	357	393	434	288	290	180
イラク	185	262	193	169	130	175
カナダ	183	190	186	198	200	170
香港	315	347	332	270	275	170
韓国	143	141	126	116	115	110
マレーシア	98	92	106	87	90	95
ウクライナ	73	88	95	89	90	86
コスタリカ	70	69	66	71	70	80
日本	92	83	85	91	93	80
スイス	68	70	70	73	75	75
ベトナム	43	62	51	45	50	75
グアテマラ	36	19	34	38	40	55
トルコ	49	33	42	42	44	44
シンガポール	42	43	44	42	42	42
ノルウェー	35	32	33	30	32	32
メキシコ	19	20	30	31	30	30
ブラジル	20	24	29	20	24	24
オーストラリア	21	14	16	16	15	15
モザンビーク	5	6	74	5		4
その他	5	9	6	4	2	2
合計	4,214	4,537	4,436	4,262	4,207	4,124

複数年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年の11月から第2年の10月に対応する。

南半球では、収穫は概ねすべて第2年に行われ、収穫販売年度は第2年に始まる。

アルゼンチン 第2年の1月～12月

南アフリカ 第2年の2月～翌年1月

オーストラリア 第2年の4月～翌年3月

ブラジル 第2年の7月～翌年6月

上記の収穫販売年度の違い等により、輸出の合計と輸入の合計は一致しないことがある。

オレンジ果汁
(ブリックス65換算、1000トン)

	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 1月予測	2020/21 7月予測
生産量						
ブラジル	1,447	1,004	1,324	938	1,157	1,048
米国	303	187	329	297	250	245
メキシコ	210	190	220	90	200	200
E U	116	89	101	72	88	89
南アフリカ	19	49	63	49	52	50
中国	45	44	40	31	31	31
オーストラリア	17	17	16	16	17	17
その他	18	17	18	16	17	17
合計	2,174	1,596	2,112	1,508	1,812	1,697
国内消費量						
E U	741	736	700	691	702	692
米国	581	572	530	549	473	497
中国	97	110	108	89	90	90
カナダ	86	85	83	83	83	83
ブラジル	38	40	52	63	75	70
日本	72	73	70	60	68	68
オーストラリア	32	30	32	34	33	33
その他	86	79	80	80	83	84
合計	1,733	1,725	1,655	1,649	1,607	1,617
期末在庫量						
米国	268	261	376	300	285	289
ブラジル	185	160	312	155	136	83
南アフリカ	0	6	36	49	49	50
日本	12	23	26	40	38	38
E U	15	15	15	15	15	15
その他	4	7	25	8	8	8
合計	485	472	791	567	531	482
輸出量						
ブラジル	1,230	989	1,120	1,032	1,080	1,050
メキシコ	204	182	195	105	195	195
E U	63	58	60	67	67	67
南アフリカ	28	39	30	30	40	40
米国	57	35	30	34	34	29
その他	33	37	32	23	25	24
合計	1,614	1,341	1,466	1,290	1,441	1,405
輸入量						
E U	688	704	658	686	681	670
米国	301	413	346	210	245	270
カナダ	90	86	83	83	83	83
日本	71	84	75	76	68	68
中国	55	68	70	60	61	61
ロシア	35	31	33	32	33	32
オーストラリア	17	19	18	20	18	18
その他	47	51	45	40	39	39
合計	1,305	1,456	1,328	1,207	1,228	1,241

複数年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年の10月から第2年の9月に対応する。

南半球では、収穫は概ねすべて第2年に行われ、収穫販売年度は第2年に始まる。

南アフリカ 第2年の2月～翌年1月

オーストラリア 第2年の4月～翌年3月

ブラジル 第2年の7月～翌年6月

上記の収穫販売年度の違い等により、輸出の合計と輸入の合計は一致しないことがある。

タンジェリン/マンダリン（生鮮）
(1000トン)

	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 1月予測	2020/21 7月予測
生産量						
中国	20,600	21,200	22,000	23,000	23,120	23,120
E U	3,421	2,913	3,209	2,827	3,117	3,424
トルコ	1,300	1,550	1,650	1,400	1,750	1,600
モロッコ	1,278	1,185	1,375	926	1,205	1,205
日本	1,070	968	994	960	973	973
米国	933	729	1,004	856	882	909
韓国	600	577	608	631	660	660
南アフリカ	261	356	375	461	515	500
アルゼンチン	320	350	430	330	360	360
オーストラリア	160	157	175	160	175	175
その他	403	340	394	357	307	337
合計	30,346	30,325	32,214	31,908	33,064	33,263
生鮮国内消費量						
中国	19,416	20,058	20,735	21,768	21,860	21,860
E U	3,265	2,953	3,175	2,983	3,097	3,354
米国	862	876	956	1,002	1,012	1,002
日本	991	904	949	899	923	923
ロシア	841	836	903	819	860	915
トルコ	614	836	969	602	788	729
モロッコ	761	646	752	515	705	705
その他	1,785	1,780	2,000	1,975	2,015	2,255
合計	28,535	28,889	30,439	30,563	31,260	31,743
加工仕向量						
中国	650	640	620	620	610	610
E U	372	226	271	230	255	270
米国	309	171	317	200	230	230
韓国	56	72	63	77	90	90
アルゼンチン	110	116	113	76	105	85
日本	98	79	64	80	68	68
南アフリカ	24	75	59	47	68	58
その他	59	36	46	44	34	34
合計	1,678	1,415	1,553	1,374	1,460	1,445
輸出量						
トルコ	710	739	712	827	991	900
中国	584	556	706	657	700	700
モロッコ	517	539	623	411	500	500
南アフリカ	210	261	296	389	420	415
E U	236	217	246	172	245	250
イスラエル	120	88	102	98	90	90
オーストラリア	70	61	87	62	80	80
その他	81	73	85	83	79	95
合計	2,528	2,534	2,857	2,699	3,105	3,030
輸入量						
ロシア	841	836	903	819	860	915
E U	452	483	483	558	480	450
米国	274	353	314	391	400	375
ベトナム	118	143	160	204	210	300
ウクライナ	138	154	171	185	190	195
カナダ	154	154	157	159	170	165
フィリピン	68	87	101	112	115	165
タイ	116	73	85	71	90	130
インドネシア	69	60	73	69	70	100
マレーシア	64	67	69	58	70	55
その他	101	103	119	102	106	105
合計	2,395	2,513	2,635	2,728	2,761	2,955

複数年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年の10月から第2年の9月に対応する。

南半球では、第2年の4月から翌年3月に対応し、収穫は概ねすべて第2年に行われる。

上記の収穫販売年度の違い等により、輸出の合計と輸入の合計は一致しないことがある。

グレープフルーツ（生鮮）

(1000トン)

	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 1月予測	2020/21 7月予測
生産量						
中国	4,600	4,800	4,900	4,930	4,950	4,950
メキシコ	442	418	473	460	495	495
米国	633	462	548	518	512	405
南アフリカ	354	403	372	345	360	373
トルコ	253	260	250	270	290	251
イスラエル	149	144	139	143	130	130
E U	106	107	108	95	96	103
その他	25	26	26	26	26	26
合計	6,562	6,620	6,816	6,787	6,859	6,733
生鮮国内消費量						
中国	4,460	4,670	4,713	4,797	4,808	4,805
E U	398	447	397	404	415	406
メキシコ	335	311	361	343	381	381
米国	282	231	213	247	234	197
ロシア	106	134	158	121	125	125
トルコ	131	71	112	87	91	91
日本	108	96	89	85	89	76
ウクライナ	15	27	29	39	42	43
カナダ	37	35	35	37	37	38
香港	5	5	6	7	7	12
その他	21	22	23	21	23	23
合計	5,898	6,049	6,136	6,188	6,252	6,197
加工仕向量						
米国	268	191	292	230	235	181
南アフリカ	118	111	107	94	92	105
メキシコ	88	90	94	95	94	94
イスラエル	80	68	77	78	60	60
E U	19	17	19	14	14	15
その他	1	2	2	3	3	3
合計	574	479	591	514	498	458
輸出量						
南アフリカ	231	288	258	244	260	260
中国	180	208	248	209	220	250
トルコ	125	189	138	184	200	161
イスラエル	61	68	54	59	63	63
米国	108	58	57	56	56	46
メキシコ	20	18	20	23	21	21
香港	15	32	21	24	24	19
その他	15	17	16	17	17	17
合計	755	878	812	816	861	837
輸入量						
E U	326	374	324	340	350	335
ロシア	106	134	158	121	125	125
中国	40	78	61	76	78	105
日本	84	71	64	61	65	52
ウクライナ	15	27	29	39	42	43
カナダ	37	35	35	37	37	38
香港	20	37	27	31	31	31
米国	25	18	14	15	13	19
スイス	7	7	77	7	7	7
トルコ	3	1	1	2	2	2
その他	2	4	3	2	2	2
合計	665	786	723	731	752	759

複数年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年の10月から第2年の9月に対応する。
南半球では、第2年の4月から翌年3月に対応し、収穫は概ねすべて第2年に行われる。
上記の収穫販売年度の違い等により、輸出の合計と輸入の合計は一致しないことがある。

レモン/ライム（生鮮）

(1000トン)

	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 1月予測	2020/21 7月予測
生産量						
メキシコ	2,513	2,311	2,686	2,717	2,870	2,870
E U	1,535	1,472	1,683	1,480	1,640	1,654
アルゼンチン	1,450	1,770	1,780	1,491	1,030	1,150
トルコ	850	1,000	1,100	950	1,000	1,100
米国	800	806	909	983	940	835
南アフリカ	430	446	492	620	670	625
イスラエル	67	65	68	75	70	70
その他	99	91	92	99	94	94
合計	7,744	7,961	8,810	8,415	8,314	8,398
生鮮国内消費量						
E U	1,692	1,786	1,773	1,658	1,818	1,757
メキシコ	1,397	1,190	1,542	1,412	1,671	1,671
米国	1,222	1,222	1,361	1,403	1,515	1,345
トルコ	319	417	476	522	513	484
ロシア	210	216	229	218	236	236
アルゼンチン	90	151	170	160	110	140
サウジアラビア	128	131	126	131	128	135
カナダ	95	98	102	109	110	110
アラブ首長国連邦	93	84	105	96	85	100
ウクライナ	47	50	55	59	62	65
その他	206	204	207	201	202	200
合計	5,499	5,549	6,146	5,969	6,450	6,243
加工仕向量						
アルゼンチン	1,122	1,348	1,377	1,078	731	831
E U	284	232	376	320	290	362
メキシコ	388	396	397	507	350	350
米国	164	189	240	305	255	240
南アフリカ	115	113	122	138	145	139
トルコ	40	50	50	50	50	50
日本	31	31	32	40	37	30
その他	4	4	6	9	5	5
合計	2,148	2,363	2,600	2,447	1,863	2,007
輸出量						
メキシコ	731	729	751	801	852	852
トルコ	495	536	576	382	439	570
南アフリカ	299	315	350	458	500	461
アルゼンチン	241	272	234	256	190	180
E U	79	65	82	81	82	85
米国	112	97	96	93	80	85
モロッコ	13	9	15	17	18	15
その他	26	17	14	11	12	10
合計	1,996	2,040	2,118	2,099	2,173	2,258
輸入量						
米国	698	702	788	818	910	835
E U	520	611	548	579	550	550
ロシア	213	219	232	222	240	240
サウジアラビア	128	131	126	131	128	135
カナダ	95	98	102	109	110	110
アラブ首長国連邦	87	79	100	91	80	95
ウクライナ	47	50	55	59	62	65
日本	53	53	59	48	52	40
香港	47	39	36	31	32	30
トルコ	4	3	2	4	2	4
その他	7	6	6	8	6	6
合計	1,899	1,991	2,054	2,100	2,172	2,110

複数年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年の10月から第2年の9月に対応する。
南半球では、収穫は第2年の1月から12月に行われる。
上記の収穫販売年度の違い等により、輸出の合計と輸入の合計は一致しないことがある。

69. ニュージーランド産アボカド アジアのプレミアム市場で需要

FreshPlazaウェブサイト(2021年7月23日)

(キウイフルーツ)

ニュージーランドではキウイフルーツの収穫が終わり、生産・販売会社であるシーカ(Seeka)社は現在、独占的輸出事業者であるゼスプリを通じて出荷するプレミアム品質の果実を貯蔵庫で保管している。同社は収穫期間中にOPAC社の合併を完了し、収穫量は合計4,370万トレイとなる。厳しい状況にもかかわらず、既に2,750万トレイを出荷し、1,620万トレイを残している。シーカ社のマイケル・フランクCEOは、「著しい労働力不足と度々の天候不順で厳しいシーズンだったが、現在の状況に満足している」と述べた。

(アボカド)

一方、シーカ社は2週間前にアボカドの収穫を始めたが、これまで見たところ、今までで最も難しいシーズンとなるかも知れない。同CEOは、「アボカドの最大の輸出先はオーストラリアだが、市場には質の高い果実が豊富にあり、これがニュージーランド産の出荷時期と重なるため、価格を押し下げた」と言う。

ニュージーランドは通常、アボカドの約80%をオーストラリアに出荷しているが、今シーズンは韓国、中国、タイ、香港、シンガポール、日本などのアジア市場への輸出を増やすことを検討している。

同CEOは、「ニュージーランド産アボカドは、アジアのプレミアム市場で常に結構な需要がある。しかし、我々は通常、オーストラリアに大量に出荷するため、これに応えることができなかった」と述べた。アジアの顧客を訪問したり、見本市で会ったりすることはできないが、良い関係を保持していると言う。

(以下、同社の事業について省略)

70. フィリピン バナナの苦戦は続く

ASIAFRUIT電子版(2021年7月26日)

2020年の課題は収まらず、業界団体は2021年も同様の結果を予想している。

フィリピン・バナナ生産者輸出事業者協会(PBGEA)は、課題が続く中、2021年のバナナ生産量は昨年と同程度であるとの予想を示した。マニラタイムズの報道によると、同協会のアルベルト・バカニ会長は、業界は今年、全く成長していないと述べた。

バカニ会長はオンラインの記者会見で、「今年は去年と同じになりそうだ。新しい大きな拡大はない。残念なことに、バナナ関係の多国籍大企業の多くは、フィリピンではなく、パナマなどの中南米諸国に投資することを決定した」と述べた。

フィリピンは2020年に16億米ドルを輸出し、2019年の19億ドルから減少した。出荷量も、2018年の2億780万箱(13.5kg/箱)、2019年の1億9,550万箱から、2020年には1億6,220万箱に減少した。パナマ病は引き続きこの業界の大きな障害となっており、また、農園へのアクセスを制限し物流の遅れを引き起こしたコロナ禍は、2020年の間続いた。

バカニ会長は、中国などフィリピンの主要輸出市場で競争が激化しているとして、「カンボジアやベトナムなどの国々が中国へのバナナ輸出を増やしているため、中国では価格低下圧力がかかっている。それらの国々は中国市場に近いので価格はずっと安い。その結果、中国ではバナナの供給過剰が生じている。それは、フィリピンのキャベンディッシュバナナ産業に対するもう一つの脅威だ」と語った。

訳注：日本が輸入するバナナのおよそ8割はフィリピン産です。キャベンディッシュは、日本で目にする通常のバナナです。

71. 南アフリカ サイバー攻撃で輸出が混乱

EUROFRUIT電子版(2021年7月27日)

今週のサイバー攻撃は、南アフリカのすべての港でトランスネット社のシステムを停止させた。

2つの州で起きた暴動が柑橘類の輸出に混乱を引き起こした南アフリカで、果実産業は今週もう一つの大問題に直面している。

この問題は、南アフリカ国営の道路・港湾事業者であるトランスネット社へのサイバー攻撃に関するもので、すべての港での貨物の積み下ろしを手動システムで行うことを余儀なくされている。

果実業界の指導者らは、トランスネット社のシステムが週末までに正常に戻るならば、混乱は深刻ではないと言う。サンデーリバー柑橘会社のハンネス・デワール氏は、「この事態が来週まで続けば、深刻な問題に直面する可能性がある」と述べた。

サイバー攻撃を確認したトランスネット社は、主にダーバン港からのリーファーコンテナの輸出を優先しているとして、「輸出のために出港する2隻の船舶が第2埠頭で積み込み作業を開始した。3隻目の船舶は第1埠頭で輸入貨物を降ろしており、まもなくリーファーコンテナの積み込みを始める」と発表した。

同社によると、4月以降、リーファーコンテナの量は前年同期に比べて12%増加している。

トランスネット社のシステム障害は、柑橘類以外にも、本年産の果実を出荷中のリンゴ、ナシ、アボカドや、出始めのブルーベリーにも影響を与えている。

ある輸出関係者は、「コンテナの船への積み込みが、港での貨物の滞留を緩和するのに十分な速さでできていないことは明らかだ。手動システムは、港からコンテナを効率的に送り出すには遅すぎる。コンテナ船は港の外で 1週間以上待つこともあり、こうした状況は受け入れられない」と述べた。

柑橘生産者協会のコーネル・ファンデルメルウェ会長は、ダーバン港の問題(暴動による閉鎖)から回復し始めたばかりの柑橘類産業にとって、この混乱は悪い時期に起こったとし、「我々は大いに協力してダーバン港の混乱の大部分を最小限に抑えることができたが、問題の第2弾は予想しなかった。現在、状況は進行中だが、週末までの3日間が非常に重要だ」と本誌に語った。

南アフリカのリンゴとナシの出荷はかなり進捗しているが、7月と8月はまだヨーロッパと英国への出荷において重要な月である。一方、ブルーベリーの輸出シーズンはちょうど始まろうとしており、航空貨物の容量は限られるため、輸出業者は海上輸送の出荷を増やすしかない。ベリー類などの傷みやすい品目は、遅延に対して特に脆弱だ。

同国ではアボカドの輸出も10月または11月まで続く予定だが、業界関係者のこの問題に関するコメントは得られていない。

(訳注) 7月30日付けの続報によると、29日現在、港の操業は大部分回復したものの、トランスネット社は遅延等に対し法的責任を免れる「不可抗力」を引き続き宣言しており、数日中に解除する方向とのこと。

72. 米国 ブルーベリー園で自動運転トラクターを試験

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年8月2日)

カリフォルニア州に拠点を置くモナークトラクター社は今年、新しい自動運転電動トラクターのほ場試験をオレゴン州で開始する。

電動トラクターは米国農業の新しい開発分野であるため、農務省の保全型技術開発補助金を活用し、研究者、生産者及びモナークトラクター社の技術者が協力して、カリフォルニア州、ワシントン州及びオレゴン州の各地で新しいトラクターの試験を行うとキャピタルプレスは報じている。

このパイロット事業のオレゴン州の部分は、同州クラツカニー市とインディペンデンス市にあるホップビル農場の園地で行われる。園主のジム・ホフマン氏は、数百エーカー^{*1}のブルーベリー園で電動トラクターのテストを行う予定だ。

ホフマン氏は、ほ場での大気汚染を減らし、騒音を抑え、年間約1,500ガロン^{*2}の軽油を節約し、さらにトラクターには自動運転のオプションがあるため、作業員の労働時間を何千時間も節約できる可能性があると見込んでいる。

ホフマン氏は「他の園主達と同様、私は常に物事をよりうまく行う方法を求めている」と言う。

同氏は、ブルーベリーの樹列の間の下草刈りなど多くの仕事に自動運転電動トラクターを使用することとしている。同氏はまた、このトラクターが複数のセンサーを搭載し、さらに多くのセンサーの装着口を有しているので、病害虫の発生可能性や発生状況、さらに生産性に関するデータを追跡できるのを楽しみにしていると言う。

オレゴン州立大学の独立研究員でコンピューターサイエンスの専門家であるスコット・フェアバンクス氏は、この電動トラクターは、ほ場内を移動しながら、根から果実まで — 地表から樹上まで — のデータを同時に収集できると述べた。

フェアバンクス氏は、今年9月の卒業研究の振り分けで、工学科の教え子の学生数名にこの電動トラクターのデータ収集能力に関連するものを行わせることとしている。

同氏は、「モナーク社の発明は強烈だと思う。州立大学の学生にとって、この仕事に関わり、どのようなデータに価値があるかを見つけ出すことは、まるで(金鉱石を探し求めた)ゴールドラッシュのようなものだ」と言う。

モナークトラクター社の共同創業者でCEOのプラヴィーン・ペンメッサ氏によると、この電動トラクターは、ある特定の園地に合わせて一度プログラムすれば走行ルートを記憶する。また、GPSシステムによる支援を得ながらそれぞれの園地を見分ける人工知能ビジュアル(視覚)システムを搭載している。

この電動トラクターは標準的な220ボルトの電源で充電することができる。

欠点の1つは、普通のディーゼルトラクターが手早く給油できるのに対し、この電動トラクターが一回の充電で駆動できる時間は6～10時間に過ぎないと見込まれることだ。

(訳注1) 1エーカー≒0.4ヘクタール (訳注2) 米国1液量ガロン≒3.8リットル

73. ヨーロッパ 2021年産のリンゴとナシは明暗が分かれる

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年8月5日)

2021年のヨーロッパのリンゴ生産量は10%増加する一方、ナシは28%減少し、明暗が分かれるとの予測が明らかになった。この数字は、8月5日に開催されたプログノスフルーツ(Prognosfruit) 2021オンライン会議で発表された。また、同会議では、出荷時期が例年よりも1週間遅くなるとの見通しも示された。

世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)のフィリップ・ビナール事務総長は、「この報告書にデータを提供したEUの21の主要生産国における2021/22年度のリンゴ生産量は、1,170万トンと推定される。これは昨年よりも10%多いが、過去3カ年平均と比べれば1%増に過ぎない。よって、平均的な年であると見られる」と述べた。

ヨーロッパのリンゴ生産は、消費者が求める品質と品種への適応を続けている。WAPAのドミニク・ウォズニアク会長は、「今年の出荷シーズンは、総じて平均より1週間遅く始まると見込まれる。ヨーロッパ全体の生産量は、平均以上に回復する。市場の見通しは、国内市場での販売機会と戦略的輸出市場での発展のバランスが取れ、さらに加工仕向け量は約4百万トンと推定され、生鮮市場と加工用のバランスが取れている。有機栽培は毎年緩やかに成長を続け、現在EUの総生産量の約6%に達している」と述べた。

ビナール事務総長は、「2021年のEUのリンゴの生産量は増加するが、ナシの生産量は昨年に比べて28%減、過去3年間の平均と比較して27%減の160万トンと推定される。これは、この10年間で最も少ないナシ生産量となる。品種別に見ると、Conference品種が80万5千トンと18%減少した。Abate品種も73%減の66,000トンとなった」と述べた。

74. 米国ワシントン州 リンゴの作柄は熱波に関わらず前年並み

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年8月9日)

ワシントン州果樹協会(WSTFA)は、夏の前半の厳しい熱波にもかかわらず、2021年の同州産生鮮リンゴの作柄を昨年並みと見込んでいる。出荷予測は1億2,500万箱(40ポンド/箱)をわずかに下回るとしており、2020年の1億2,200万箱からは2.3%増加するが、2019年の1億3,450万箱からは7.2%の減少となる。

同協会のジョン・デバニー会長は、「2021年産のワシントン州のリンゴの作柄は、昨年と同程度のようだ。生育条件は昨年と全く異なり、会員の生産者は現在、この夏の変動の大きい悪天候の影響についてまだ評価を行っている最中だ。会員は、これらの悪要因に取り組むために最善を尽くしたが、収穫は始まったばかりであり、今後数ヶ月間の天候がまだわからないため、作柄予想が下方修正される可能性はある。

これらの課題にもかかわらず、当協会の生産者は、十分な量の高品質な収穫物で消費者の強い需要を満たすことを見込んでいる。この生産量は、高水準の品質で国内外の消費者の期待に応え、すべての消費者の嗜好を満足させる新しい品種が引き続き増加していることを反映している」と語った。

品種別では、ガラが総生産量の21%を占めて3年連続で最も多く、レッドデリシャスが16%、ハニークリスポとグラニースミスがそれぞれ14%、ふじが13%と予想される。コズミッククリスポは前年から114%増加して総生産量の3%を占め、クリップスピンは6%を占めると予測される。

有機リンゴの生産量は全体の12.3%に当たる1,536万箱と予測される。これは、2020年の1,560万箱と実質的に変わらない。ただし、通常すべての有機りんごが最終的に有機農産物として出荷・販売されるわけではないことに留意する必要がある。

上記の予測はWSTFA会員の出荷量予測に基づいており、加工仕向け量を含まない。収穫期は通常8月～11月であり、最終の収穫量は今後数カ月の天候等に影響される可能性がある。

75. 台湾の核果類事情(モモ、サクランボ)

米国農務省GAINレポート(2021年8月11日)

これは米国農務省海外農業局台北事務所(台湾)が作成した「核果類年次報告書」を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

概要

台湾の2021/22販売年度(以下「年度」)のモモ生産量は17,000トンに増加すると予測される。モモとネクタリンの輸入量は、出盛りの5月と6月にCOVID-19が蔓延したため需要が減少し、13,500トンに減少すると予測される。2021/22年度のサクランボの消費量は、12,400トンで横ばいと予測される。2020年の米国からの輸入量は、主に供給の減少によりほぼ25%減少し、市場シェアは50%に低下した。コロナ禍による市場や果物店での買い物の制限や物流上の問題により、2021/22年度の台湾の果実需要は減少するものと予想される。

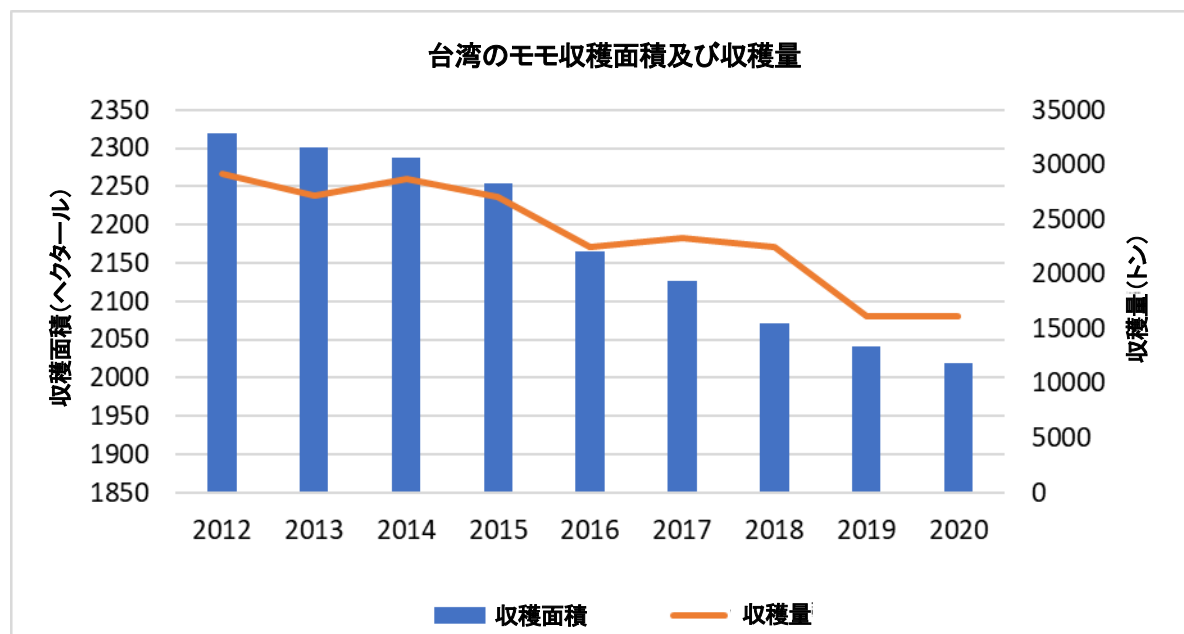
<モモ>

生産:

2021/22年度のモモの生産量は、雨による被害が予想を下回ったため、最大17,000トンと予測される。2021年の春から初夏にかけて、台湾ではモモの成長にとって重要な時期に深刻な干ばつに直面した。今年のモモは、果実のサイズは小さいが甘くなると予想される。

2020/21年度の生産量については、前回の予測では2019/20年度を上回るほどに回復するとしたが、実際には16,000トンで実質的に横ばいであった。

台湾のモモの収穫時期は、品種と標高により3月から8月までの幅がある。台湾のモモの半分が台中市周辺で生産され、これに桃園市、新竹県(ともに台湾北部)及び南投県(台湾中部)が続く。せり売りの市場を通じて販売されるモモは数品種ある。収穫の早い順に、早生の「早桃」が3月から収穫され、これに「甜桃」、「福寿桃」、「鶯歌桃」が続き、7月から8月には「水蜜桃」が収穫される。「甜桃」は、地方のせり売り市場で最も取扱量が多い。



台湾のモモ品種は、低温要求量の多少により分類される。水蜜桃だけが低温要求量が多く、通常は標高の高い山地に植えられている。3月から6月は低温要求量が少ない品種の収穫時期で、7月から8月は低温要求量が多い品種の収穫時期である。3月と4月はチリ産から米国産へ輸入が移行する間の端境期となることから、台湾は地元産の競争力を最大限に引き出すために、低温要求量の少ない品種への志向を次第に強めている。

台湾ではネクタリンを生産していない。

台湾のモモ品種

品 種	収穫期	備考
Sweet peach (甜桃)	4月～6月(最盛期は5月)	低温要求量は少ない
Ying-go peach (鶯歌桃)	5月～6月(最盛期は6月)	低温要求量は少ない
Fu-shou peach (福壽桃)	5月～6月	低温要求量は少ない
Early peach (早桃)	3月～6月(最盛期は4～5月)	低温要求量は少ない
Honey peach (水蜜桃)	7月～8月	低温要求量が多い/標高の高い山地で栽培される

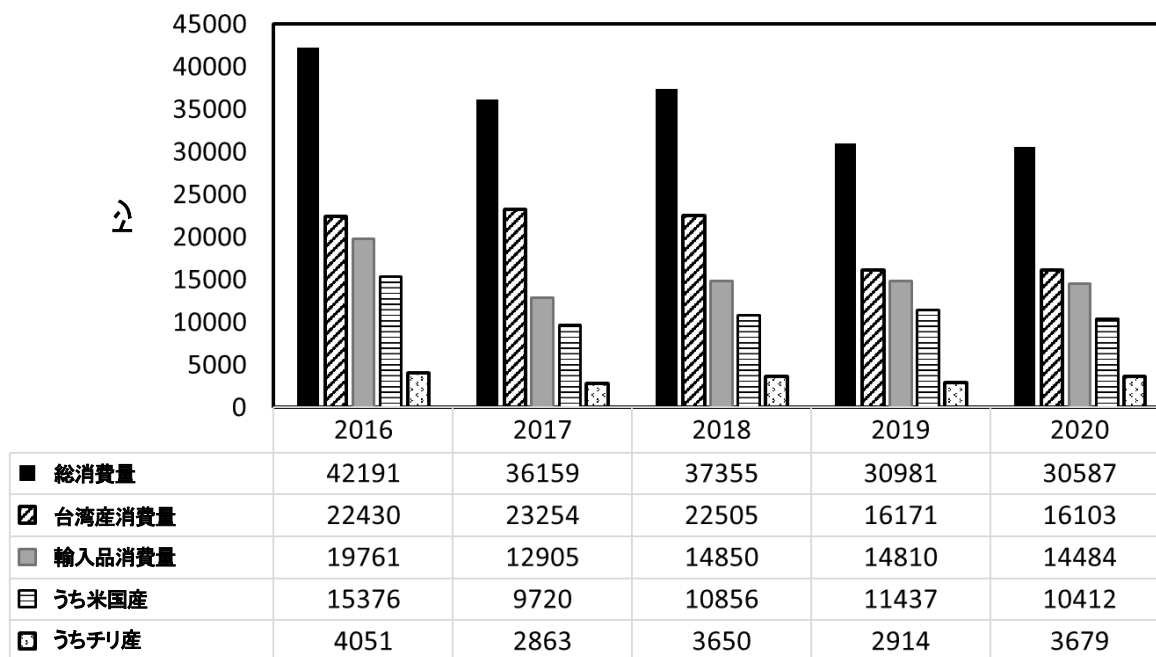
市場価格:

通常、低温要求量が多いモモ品種は、大きく、甘く、高い値段が付く。低温要求量が少ない品種のせり売りでの平均卸売価格は、56～84台湾ドル(2～3米ドル)/kgであり、低温要求量が多い水蜜桃は112～140台湾ドル(4～5米ドル)/kgである。輸入品のネクタリンの平均卸売価格は112台湾ドル(4米ドル)/kg程度であり、輸入品のモモは168台湾ドル(6米ドル)/kg程度である。

収穫面積:

2020年の収穫面積は2千ヘクタール強で横ばいであった。モモの品種改良調査によると、近年、低温要求量が少ない品種の人気の高まっている。低温要求量が少ない品種の生産面積は、モモの総生産面積の最大80%(1,600ヘクタール)である。一方、モモの総収穫面積は10年間で15%減少した。この背景には、台湾のモモ消費量の減少傾向がある。台湾種苗改良繁殖場の苗需要報告書によると、モモの苗の需要はわずかな減少が続いているため、台湾のモモ栽培面積は今後減少するものと予測される。

台湾のモモ消費量



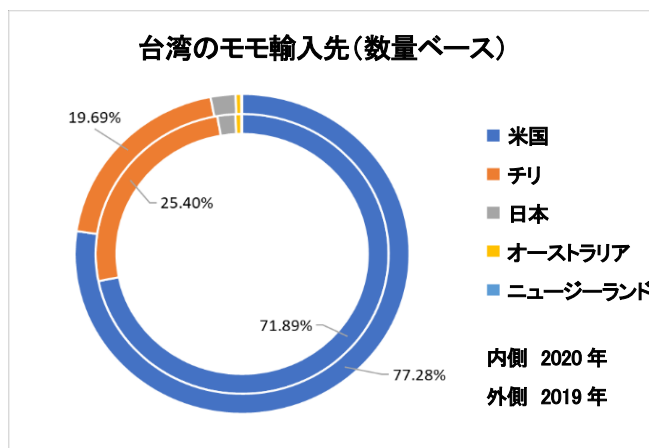
消費:

台湾のモモの消費量は徐々に、しかし着実に減少している。2020/21年度のモモの総消費量は30,587トンであった。2006年にはモモとネクタリンの輸入量は33,344トン、台湾のモモの生産量は28,435トンで、総消費量は61,779トンであった。また、2016年にはモモの総輸入量は22,038トン、台湾の生産量は22,429トンで、総消費量は44,467トンであった。しかし、台湾の一人当たりの果実消費量は、この期間に大きな変化を示していない。したがって、モモの消費量減少の背景にある要因は、他の様々な果実にシェアを奪われたことである。2021/22年度のモモ消費量は、輸入量の減少により30,500トンと予測される。

貿易:

2021/22年度の輸入量は、コロナ禍による景気減速のため13,500トンに減少すると予測される。2021年5月と6月の輸入量は、2020/21年度の同時期と比較して30%近く減少した。この時期は、台湾のコロナウイルス流行の直近のピークと一致している。台湾はコロナ禍の影響をうまく抑制したが、国民の懸念と政府による公衆衛生上の規制から、飲食の売り上げは急激に減少した。

2020/21年度のモモとネクタリンの輸入量は14,484トンで、前年度よりわずかに少なかった。米国のモモとネクタリンは、2020年に輸入市場で72%の数量シェアを占めた。台湾の第2位のモモ輸入先はチリで、市場シェアは約25%である。他の輸入先国の市場シェアはすべて5%未満である。



販売:

台湾は、1年以上にわたってコロナ禍を抑制し、公共の活動及び経済活動をほぼ正常な水準で保ってきたが、2021年4月下旬からは感染者数が増え始めた。政府は、2021年5月末から台湾全体にレベル3の警報を発令した。レベル3の警報では、一般の人々は、不要不急の移動や活動、集会を避けなければならない。会合や行事のキャンセルにより、贈答用高級果実の需要が減少した。市場や地元の果物店での買い物の制限や物流上の問題により、国内の果実需要は減少すると予想される。

低温要求量が少ない品種のモモの品評会が、2021年4月に台中市で初めて行われた。評価や展示は、台湾のモモの生産と消費を促進する。

モモ及びネクタリン(生鮮)の生産需給統計

モモ及びネクタリン(生鮮) 販売年度 台湾	2019/2020		2020/2021		2021/2022	
	2019年1月～12月		2020年1月～12月		2021年1月～12月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	2,060	2,046		2,019	0	2,005
収穫面積	2,060	2,041	0	2,012	0	2,000
結果樹本数	715	715	0	707	0	0
未結果樹本数	5	2	0	3	0	0
果樹本数合計	720	717	0	710	0	0
商業的生産量	16,171	16,171	19,000	16,103	0	17,000
非商業的生産量	0		0	0	0	0
生産量合計	17,000	16,171	0	16,103	0	17,000
輸入量	15,000	14,810	15,000	14,484	0	13,500
総供給量	30,971	30,981	34,000	30,587	0	30,500
生鮮消費量	32,000	30,981	34,000	30,587	0	30,500
輸出量	0	0	0	0	0	
非出荷量	0	0	0	0	0	
総仕向量	30,971	30,981	34,000	30,587	0	30,500
ヘクタール、千本、トン						

＜サクランボ＞

生産量と栽培面積：

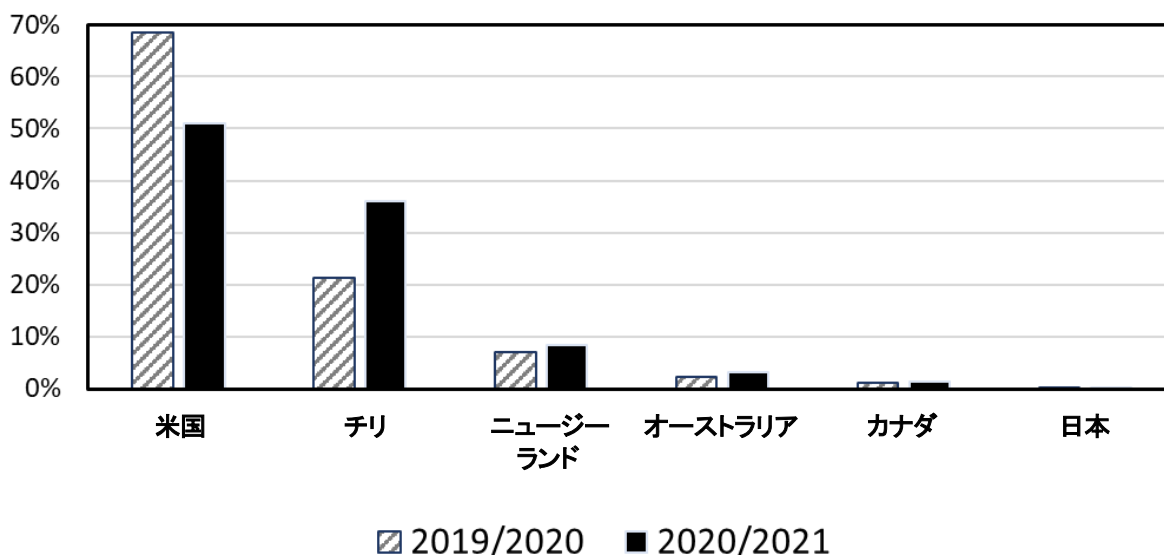
台湾は亜熱帯性気候がサクランボの生産に適さないため、サクランボを生産しておらず、完全に輸入に依存している。

消費：

台湾は甘果オウトウを輸入しており、酸果オウトウは輸入していない。2021/22年度のサクランボの消費量は12,400トンで横ばいと予測される。2020/21年度の消費量データの確定値は、前年から11%の伸びを示した。

台湾では、サクランボ加工品及び冷凍サクランボの需要は極めて少ない。2020年にサクランボ果汁の関税が新たに引き下げられたため、サクランボ加工品の輸入量は2019/20年度の672トンから2020/21年度には487トンに減少した。

台湾の生鮮サクランボ輸入先 数量シェア



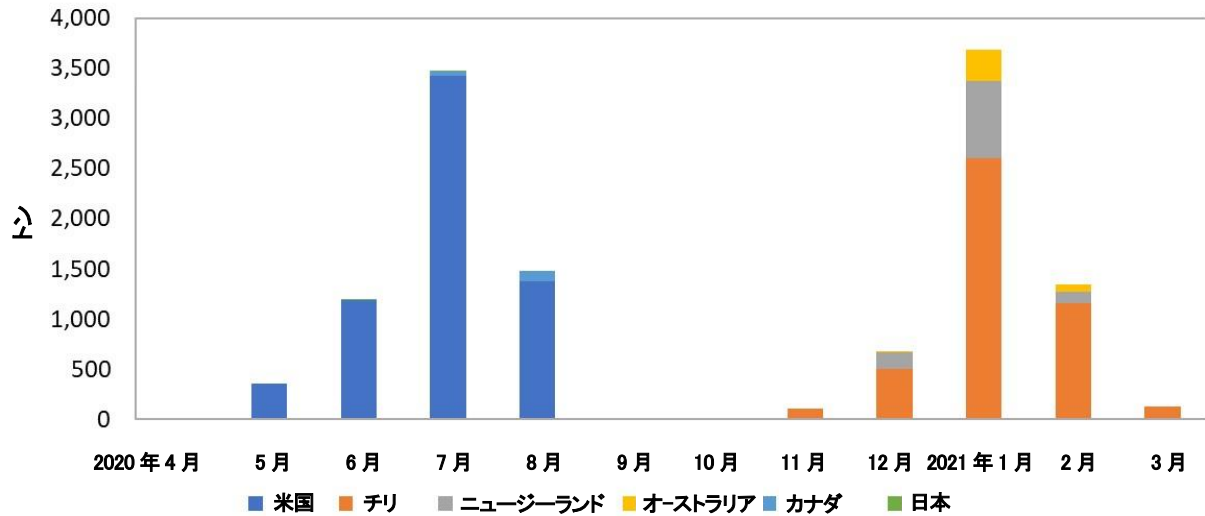
貿易：

米国は依然として台湾の生鮮サクランボの最大の輸入先であり、チリは2番目の輸入先(季節が逆)としてこれを追い上げている。2020年には、主に米国の生産量の減少により、米国からの輸入量が約25%減少し、市場シェアは50%に低下した。台湾のサクランボ需要は、旧正月の贈答用として1月に大幅に増加する。

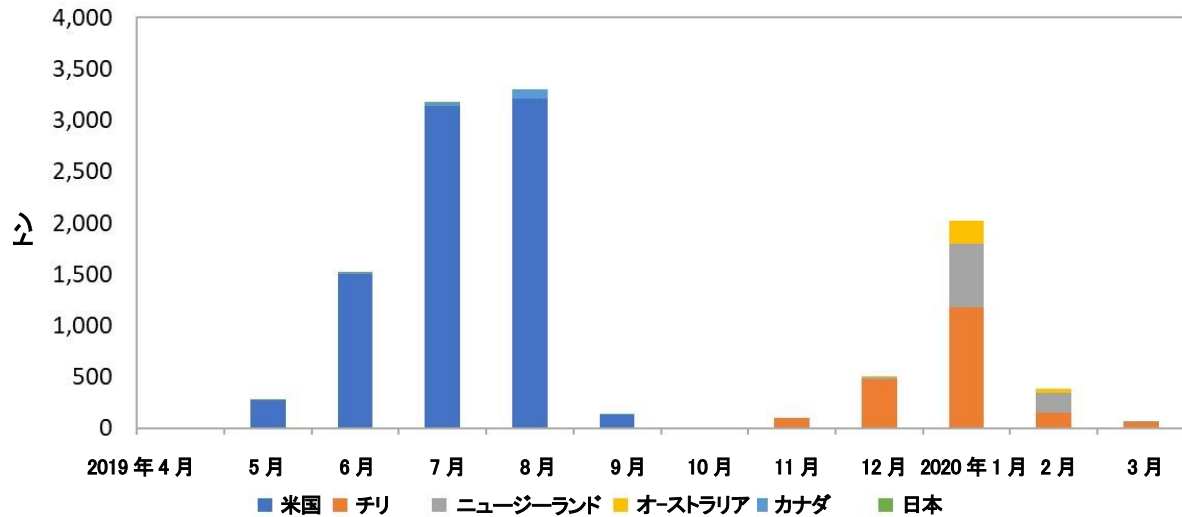
トルコは、2021年6月に台湾への生鮮サクランボの輸出アクセスを取得した。トルコのサクランボの収穫期は米国と同じであり、将来的には強力な競争相手になる可能性がある。しかし、台湾市場におけるトルコ産サクランボの価格は未だ不明である。中国と香港におけるトルコ産サクランボのCIF価格(品物の値段、保険料、運賃を含む着地価格)はそれぞれ3.3米ドル/kgと4.8米ドル/kgであり、台湾における米国産及びチリ産のサクランボのCIF価格はそれぞれ8.2米ドル/kgと6.7米ドル/kgである。トルコ産サクランボは16日間の低温検疫処理を受ける必要があるが、それでも台湾市場で競争力のある価格を提示する可能性がある。

2021年5月以降の台湾でのコロナ禍のため、人々の集会の制限により贈答用果実の需要が減少した。しかし、モモとは異なり、輸入サクランボは2021年5、6月以降、前年と比較して大幅な減少を見せていない。したがって、2021/22年度のサクランボ消費量は、横ばいまたはわずかに減少するものと予測される。

台湾の生鮮サクランボ輸入量 2020/2021年度月別



台湾の生鮮サクランボ輸入量 2019/2020年度月別



台湾のサクランボ輸入と米国の市場シェア(金額ベース)

甘果オウトウ(生鮮)	輸入全体		米国からの輸入		米国の市場シェア (数量ベース)
	トン	百万米ドル	トン	百万米ドル	%
2020/2021 年度	12,464	110	6,346	52	51
2019/2020 年度	11,199	85	7,984	51	71
2018/2019 年度	11,918	96	7,918	55	66
2017/2018 年度	14,864	122	9,153	62	62

販売:

台湾では、生鮮果実は、伝統的な市場、スーパーマーケット及びハイパーマーケットで購入される。今年のコロナ禍により、果実の販売は昨年に比べてますますオンラインに移行している。地方の市場の青果商でさえ、独自のオンラインサービスを構築し始めている。サクランボは鮮度を保つためにコールドチェーンを必要とすることから、輸送コストが価格を引き上げる可能性が高い。

サクランボ(甘果オウトウ及び酸果オウトウ 生鮮)の生産需給統計

サクランボ(甘果・酸果 生鮮) 販売年度 台湾	2019/2020		2020/2021		2021/2022	
	2019年4月～翌年3月		2020年4月～翌年3月		2021年4月～翌年3月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	0	0	0	0	0	0
収穫面積	0	0	0	0	0	0
結果樹本数	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計	0	0	0	0	0	0
商業的生産量	0	0	0	0	0	0
非商業的生産量	0	0	0	0	0	0
生産量合計	0	0	0	0	0	0
輸入量	11,000	11,199	12,000	12,463	0	12,400
総供給量	11,000	11,199	12,000	12,463	0	12,400
生鮮消費量	11,000	11,199	12,000	12,463	0	12,400
輸出量	0	0	0	0	0	0
非出荷量	0	0	0	0	0	0
総仕向量	11,000	11,199	12,000	12,463	0	12,400
ヘクタール、千本、トン						

モモ、ネクタリン、サクランボにかかる政策:

果実の輸入は、厚生省(MOH)傘下の台湾食品薬物管理局(TFDA)と、農業委員会(農業省に相当)傘下の動植物防疫検疫局(BAPHIQ)によって規制されている。前者は食品安全検査に責任を持ち、後者は動植物の健康、病害虫、検疫を所管している。

米国から台湾に輸出される生鮮果実には、APHIS(米国農務省動植物検疫局)発行の植物衛生証明書(PPQ様式577)が添付される必要がある。植物衛生証明書は、APHISの指定された職員及びAPHISが承認した州および郡の協力機関が発行することができる。米国産生鮮果実の輸出に関し、台湾の植物検疫当局は、以前と異なりこれ以外の植物衛生証明書を受け付けない。

TFDAは、国境での食品安全検査を行う権限を有している。TFDAは定期的に港で貨物を検査し、食品に含まれる農薬や重金属の残留物を注意深く監視している。台湾の残留基準(MRL)は、米国や国際規格設定機関の基準と異なることが多い。台湾がまだ基準を設定していない農薬と作物の組み合わせの場合、デフォルトの基準は0.01ppmである。TFDAの規則「食品中の残留農薬基準」は、果実や野菜について許容される残留量を掲載している。「植物性食品中の重金属残留基準」は2019年8月15日に無効となり、「食品中の汚染物質及び毒素の衛生基準」に置き換えられた。この規則には、重金属を含む様々な基準が記載されている。

青果物が検疫検査を受けることとなった場合、輸入業者はTFDAに対し、品物を輸入業者の倉庫に一時的に置いておく特別免除を申請することができる。輸入業者の倉庫で検疫検査を受けることにより、残留物が検出された場合のコストを大幅に削減することができる。貨物は、必要なすべてのテストに合格して検疫をクリアするまで、商流に乗せることができない。台湾の基準に準拠していない場合、その品物は輸入を拒否され、再輸出または破棄を命じられる。

76. 米国の果実生産予測 リンゴは3%増、ナシは減少、その他

The Packer電子版(2021年8月12日)

米国農務省の8月の作物生産予測レポートで、リンゴは増加、ナシは減少を見込むとされた。

米国のリンゴ生産量の今シーズン最初の農務省見積もりは、昨年より3%多い105億ポンド(477万トン)となった。

農務省は、北西部での記録的な高温にもかかわらず、ワシントン州の生産量は昨年より7%増加し、オレゴン州の生産量は同9%増加するとしている。

ミシガン州について農務省は、春の生育が早かった結果4月の霜害に対して芽が脆弱であったことと、さらに5月上旬の寒さによって受粉が妨げられたことから、生産量は7億6千万ポンド(34万トン)で、前年比18%減少すると見込んでいる。

ニューヨーク州のリンゴ生産量は13億5千万ポンド(61万トン)で、2%減少するものと予測されている。

ワシントン州産リンゴについて

ワシントン州果樹協会は、同州の生鮮リンゴ生産量は1億2,500万箱(40ポンド/箱)をわずかに下回り、2020年の1億2,200万箱に比べて2.3%増加すると8月6日に発表した。農務省の予測は、同協会の予測よりも楽観的であった。(40ポンド≒18.1kg)

ベルローズ社(ワシントン州ブルマン市)のエコノミストで最高経営責任者(CEO)のデズモンド・オローク氏は、農務省の予測は、過去数カ月間高値を享受してきた生産者にとって、市場の状況を大きく変えるものではないと述べた。同氏はまた、熱波の影響がさらに現れれば北西部の果実の生産量が減少する可能性もあると述べた。

その他の作物の生産予測

ナシ: 農務省は、2021年の米国のナシ生産量を前年よりわずかに少ない67万トンと予測した。同省は、カリフォルニア州のナシは干ばつによって大きな影響を受けているとしている。オレゴン州では、生産者がカメムシ被害の兆候を報告しており、一部の果樹は2月の寒波の影響を受けた。

モモ: 農務省は、2021年のモモの生産量を2020年に比べて13%増の69万6,500トンと予測している。最大の産地であるカリフォルニア州については、前回の予測から6%増加し、2020年に比べて9%増の51万トンと予測されている。サウスカロライナ州は前年比10%増の84,000トン、ジョージア州は前年比8%増の36,000トンと予測されている。

クランベリー: 米国の2021年のクランベリーの生産量は、2020年に比べて1%増の790万バレル(35万8千トン)と予測されている。ウィスコンシン州の生産量は、前年比1%増の470万バレル(21万3千トン)、マサチューセッツ州の生産量は前年比2%増の210万バレル(9万5千トン)と予測されている。
(本予測ではクランベリー1バレルの重量は100ポンド(≒45.36kg)とされています。)

ブドウ: 2021年の米国のブドウ生産量は、前年比9%増の647万トンと予測されている。カリフォルニア州の生食用ブドウ生産量は、前年比8%増の120万トンと予測されている。

訳注: 次ページ以降に8月12日に公表された米国農務省の生産量予測(果実関係抜粋)を掲載します。

米国農務省農業統計局 作物生産予測(果実関係抜粋)

リンゴ生産量(商業生産) 州別及び米国計 2020年実績及び2021年予測(8月1日現在)

州	生産量(100 万ポンド)		生産量(千トン)*	
	2020	2021	2020	2021
カリフォルニア州	271	185	123	84
ミシガン州	927	760	420	345
ニューヨーク州	1,385	1,350	628	612
オレゴン州	175	190	79	86
ペンシルベニア州	417	460	189	209
バージニア州	163	180	74	82
ワシントン州	6,915	7,400	3,137	3,357
米国計	10,253	10,525	4,651	4,774

*: 中央果実協会試算

クランベリー生産量 州別及び米国計 2020年実績及び2021年予測(8月1日現在)

[1バレルの重量は 100 ポンド]

州	生産量(バレル)		生産量(トン)*	
	2020	2021	2020	2021
マサチューセッツ州	2,055,000	2,100,000	93,213	95,254
ニュージャージー州	531,000	490,000	24,086	22,226
オレゴン州	604,000	610,000	27,397	27,669
ウィスコンシン州	4,640,000	4,700,000	210,467	213,188
米国計	7,830,000	7,900,000	355,163	358,338

*: 中央果実協会試算

ブドウ生産量 州別及び米国計 2020年実績及び2021年予測(8月1日現在)

州	生産量(トン)	
	2020	2021
カリフォルニア州	5,615,000	6,100,000
干しブドウ用*	1,090,000	1,300,000
生食用	1,110,000	1,200,000
醸造用	3,415,000	3,600,000
ワシントン州	325,000	370,000
果汁用	146,500	160,000
醸造用	178,500	210,000
米国計	5,940,000	6,470,000

*: 生果重量

ナシ生産量 州別及び米国計 2020年実績及び2021年予測(8月1日現在)

州	生産量(トン)	
	2020	2021
カリフォルニア州	115,000	160,000
オレゴン州	210,000	230,000
ワシントン州	347,000	280,000
米国計	672,000	670,000

モモ生産量 州別及び米国計 2020年実績及び2021年予測(8月1日現在)

州	生産量(トン)	
	2020	2021
カリフォルニア州	468,000	510,000
フリーストーン*1	220,000	270,000
クリングストーン*2	248,000	240,000
コロラド州	4,280	8,500
ジョージア州	33,400	36,000
ミシガン州	6,000	8,000
ニュージャージー州	7,600	19,000
ペンシルベニア州	13,700	21,000
サウスカロライナ州	76,500	84,000
ワシントン	8,280	10,000
米国計	617,760	696,500

訳注 *1: 果肉が種からはがれやすいタイプ *2: 果肉が種からはがれにくいタイプ

米国の果実生産量 2020年及び2021年予測

[データは、今回の報告書または以前の報告書から利用可能な最新の推計値である。2021年の推計値は、2021作物年度(柑橘類は2020/21作物年度)。空白は、推計を行う時期に至っていないことを示す。]

作物名	生産量(トン)	
	2020	2021
柑橘類		
グレープフルーツ	518,000	404,600
レモン	983,390	834,610
オレンジ	4,766,350	4,174,860
タンジェリン及びマンダリン	856,380	909,000
非柑橘類		
リンゴ(商業生産)	4,650,680	4,774,060
アプrikott	30,300	50,350
アボカド	187,430	
ブルーベリー(栽培)	294,020	
ブルーベリー(野生)(メイン州)	21,500	
甘果オウトウ	294,930	334,750
酸果オウトウ	63,280	64,410
コーヒー(ハワイ州)	10,830	
クランベリー	355,160	358,340
ナツメヤシの実	56,790	
ブドウ	5,388,680	5,869,490
キウイフルーツ(カリフォルニア州)	36,290	
ネクタリン(カリフォルニア州)	111,130	
オリーブ(カリフォルニア州)	61,420	
パパイヤ(ハワイ州)	3,760	
モモ	560,420	631,850
ナシ	609,630	607,810
スモモ(カリフォルニア州)	95,250	
西洋スモモ(カリフォルニア州)	150,480	
ラズベリー	100,700	
イチゴ	1,055,960	

77. 世界のレモン市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年8月13日)

スペイン、南アフリカ、中国では、生育期間中の悪天候のためレモンの出荷量が著しく少なく、中国では霜害により最大40%の減少が見込まれる。一方、トルコのレモンの作柄は天候に恵まれて良好であり、米国ではケータリング部門の再開が全国で売り上げを押し上げている。

オランダ：海外産の季節に向けて好調なスタート

オランダのある輸入者は、「海外産レモンの販売シーズンが高値で始まった。ヴェルナ品種(スペイン産)の出荷が早く終わったので、海外産レモンの需要が高まった。また、アルゼンチンから欧州への出荷量が昨年より少なくなっている。このため、現在の価格は昨年よりもはるかに高い」と言う。

スペイン：悪天候のため出荷量はほぼ4分の3に減少すると予想

スペインは2021/22年度の出荷シーズンも、生鮮レモンの世界一の輸出国であり、レモン果汁、エッセンシャルオイル、乾燥レモンピールの世界第2の生産国であると見られる。しかし、レモンの出荷量は、収穫量が史上最高と見込まれる今年とは対照的に、悪天候のために23%減少すると予想されている。

来シーズンのレモン収穫量は、1回目の予測では合計103万5千トンと推定されている。この数字は史上最高と見られる2020/21年度の暫定値134万トンと比較して大幅な減少となる。

フィノ品種の出荷量は16%減の82万トンと見込まれる。ヴェルナ品種の2022年の出荷量は、今年2021年よりも40%少ない21万5千トンと見込まれる。出荷量の減少は、今年一部の産地で開花や着果に影響を与えた寒さ、風、大雨などの悪天候によるものである。出荷量の減少に伴い出荷価格が回復し、それが生産流通に関わるその他の関係者に分配されて、正しい価格バランスが取られることが求められる。

9月の出荷シーズンの始まりは、南半球産レモンの出荷の終了時期に当たるとともに、収穫量が通常に戻るかもしれないトルコ産の出荷の始まりと一致する可能性がある。

生鮮市場へのレモンの出荷量が増加する一方、レモン果汁とレモンオイルの供給が世界的に活発であり、スペインのレモン産業が競争力を維持するよう努めなければならない状況にある中で、2020/21年度に過去最高の出荷量を記録した加工用の出荷額は、近年の平均値の25%程度に減少するものと見込まれる。

過去6年間で540万本のレモンが植えられ、これらの新植園地が今後数年間で徐々に生産を開始すると見込まれることも考慮する必要がある。

トルコ：好天に恵まれたトルコ産レモン

今年の天候は、突然の降霜や熱波に見舞われることも少なく、昨年よりもはるかに良かった。その結果、トルコでは被害が少なく、昨年よりも生産量が多いことが予想される。トルコ産の最も早生のマイヤー品種は、政府が発表したとおり8月20日に輸出を開始する。今年は、マイヤー品種もインタードナート品種も、収穫量が多く、果実のサイズは中程度と予想されている。トルコ産インタードナート品種の出荷は、9月下旬に始まると予想される。

南アフリカ：予想よりは良好な国内産

南アフリカのレモン出荷量は、本シーズンの当初の予測より10%少ない2,700万箱(15kg/箱)と見込まれる。ほとんどが既に箱詰めされて輸出検査を受けており、第30週末(7月末)までに2,200万箱が輸出された。

現在箱詰め作業中なのは主に東ケープ州産であり、今後西ケープ州産が若干入ることが予想される。南アフリカ産レモンの大部分を生産する東ケープ州では、干ばつのため果実が小玉化し、当初予想された1,639万6千箱(15kg/箱)に達しない。

物流面では、ポートエリザベスやケープタウンのコンテナターミナルの悪天候による操業の中断や、騒乱に

続くサイバー攻撃の余波によるダーバン港の混雑などが、輸出業者の負担となっている。

ヨーロッパのレモン市場では、南アフリカ産の出荷シーズンの初めには、特にスペイン産が市場に多く残っていたため価格が上がらなかったが、ある輸出業者によれば、スペイン産レモンの品質が低いため南半球産への引きが早まり、価格が上昇し始めた。

価格は昨年よりもさえないが、ある取引業者が楽観的に指摘するように、当初予想していたよりはよい。国内市場では、レモンは現時点で4～5ランド(約30～37円)/kgで取引されている。

中国：霜害のため大幅減産の見込み

中国産レモンの今期の出荷は9月に始まる見込みである。産地は今年2月の低温の影響を受け、一部のレモンは霜害を受けた。今年の出荷量は30～40%少なくなる可能性が高い。

現時点では、前年度産のレモンの市場価格は特に悪くはない。しかし、国内の小売業者は、国内市場のみで販売し、いくらかの利益を上げることができている。海外からの注文はほとんどない。これは第一に、中国産レモンの輸出価格が、他の生産国と比較して高いためである。中国産レモンの価格は、トルコ産の2倍も高い。第二に、運賃が非常に高く、下落の兆候が見えない。

中国産レモンの輸出先は、主に東南アジアである。昨年、中東への輸出量が初めて増加したが、今年は南アフリカ産レモンが非常に安く、多くの輸入業者が南アフリカ産に切り替えた。

北米：食品サービス業の回復がレモン価格の上昇を後押し

北米のレモン供給は現在順調であるが、価格と運賃がどこから輸入するかに影響を与えている。

テキサス州サンアントニオ市のある流通業者は、7月上旬までカリフォルニア州からレモンを仕入れていたが、同州の最近の熱波がレモンにも影響を与えており、「供給量が少なくなり、価格が跳ね上がった」と言う。(以下、「」はこの業者の発言)

同社は現在、値打ち感がある輸入物を扱っている。「アルゼンチン産とチリ産のレモンを扱っており、かなり買い得であった。この時期は国内産以外のレモンを利用でき、品質も良い。輸送費の差額を差し引いても価値がある。東海岸の港から運んでも、西海岸(カリフォルニア州)の品物よりもはるかに安い。」今後2～3週間は海外の業者から仕入れる可能性が高いとしている。

一方、2週間後にはメキシコ産レモンの出荷が始まる。「本格的な出荷時期の前のレモンがいくらか出てきていたが、今はサイズ200*が最も多くなっている。産地では、出荷シーズンが進めば出荷量が増え、サイズもよくなると言っている。」(*:一箱38ポンド(17.2kg)当たり200玉)

これは、最近大幅に上昇したライムの市場価格と大きく関連している。「産地が価格の高いライムの収穫に集中している間に、レモンが大きくなるだろう。」

サンアントニオ市に拠点を置くこの会社にとってメキシコは近いので、特に運賃が問題となる場合、メキシコが重要な仕入れ先となる。「運賃が40～55%上昇し、尋常ではない。」

このところレモンの需要は高い。食品サービス業の回復は、特にその業界で需要の高い柑橘類の果実に有利だ。上記の流通業者はまた、食品サービス業の需要は、カリフォルニア州産の供給不足に拍車をかけていると指摘している。

このため、当然のことながら、レモンの価格は現在強含みだ。「食品サービス業界がこのまま牽引すれば、レモンは高値が続くと思う。」

78. 米国環境保護庁 論争の末に農薬クロルピリホスの使用を禁止

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年8月18日)

ニューヨークタイムズは、広く使われつつも、子供の神経系の阻害に関連付けられてきた農薬が禁止されると報じた。環境保護庁(EPA)は水曜日(18日)、クロルピリホスの食品に対する使用を禁止する規則を発出すると発表した。この農薬は、リンゴ、ブロッコリー、アスパラガス、大豆、その他の農産物に広く使用されている。

新しい規則は6カ月後に発効し、安全性を実証できない限りこの薬剤の農業での使用を禁止するよう同庁に指示した4月の大統領令に従うこととなる。報道によると、この規則は、案の提示やパブリックコメント期間なしに確定版が発出される異例の形をとる。

同庁のマイケル・リーガン長官は、「EPAは今日、遅ればせながら国民の健康を守るための一步を踏み出す。クロルピリホスの食品への使用を終わらせることは、子供や農場労働者、さらにすべての人々をこの農薬が潜在的にもたらす危険な結果から確実に保護することに役立つ」と述べたと報じられた。

EPAは、オバマ政権下の2015年に、食品や飲料水中のクロルピリホスへの暴露が有害であるかどうか確信が持てないとして、この化学物質の使用を禁止した。しかし、同庁はトランプ政権下で、クロルピリホスへの暴露と子供の健康問題を結びつける十分な証拠はないとして決定を覆した。研究の結果、この農薬への暴露が出生時の体重の減少、知能の低下、その他小児の発達上の問題に関連することが示されたため、複数のグループがクロルピリホスの使用停止を求めている。また、出生前のこの農薬への暴露による健康への影響について追跡する研究が行われた。

この決定は、化学産業界や農業関係圧力団体による批判を巻き起こすと予想される。業界団体クロップライフ・アメリカのクリス・ノバク代表は、「農家は様々な害虫を防除するために、公衆衛生当局は蚊などの害虫を駆除するために、クロルピリホスなどの農薬に頼っている」と述べた。ゴルフ場、芝生、電柱、柵の支柱、ゴキブリやアリの駆除などの食品以外の用途では、クロルピリホスの使用は引き続き認められる。

79. フィリピンのバナナ輸出 今年上半期は47%減

FreshPlazaウェブサイト(2021年8月18日)

フィリピンの今年上半期のバナナ輸出量は、国内のバナナ産業が引き続き生産と出荷の両面で苦しみ中、47%減の115万4千トンとこの5年間で最も少なくなった。フィリピン統計局(PSA)の暫定データによると、1~6月の6ヶ月間の輸出量は、昨年同期の218万5千トンより103万1千トン少なかった。これは2017年以降の最低であった。輸出額は5億2,143万ドルで、昨年同期の9億2,211万ドルから43.45%減少した。

日本はこの6カ月間の輸出量と輸出額の両方でフィリピン産バナナの最大の輸出先であった。日本向けのバナナ輸出量は42万2,364トンで、前年の81万2,111トンから48%減少し、輸出額は前年比46.4%減の2億1,517万ドルであった。中国向けのバナナ輸出量は1億7,858万ドルで、前年の2億4,997万ドルから28.6%減少し、韓国向けは42.8%減少して7,090万ドルとなった。

今年のフィリピン産バナナの輸出は、パナマ病による国内生産の不安定さとコロナ禍関連の規制による国内物流の困難さのため、さらに世界的な海上輸送問題も事態を悪化させたため、弱々しいものとなった。

これらの問題に加えて、フィリピン・バナナ生産者輸出業者協会(PBGEA)が先に明らかにしたように、フィリピンはアジアの主要なバナナ市場でシェアを失いつつあるとともに、海外からの今後の投資も中南米の生産国に奪われている。同協会は7月、国内のバナナ産業に「新たな大きな拡大」が見られないため、今年のバナナ輸出額は、昨年の16億4,400万ドルと同程度で横ばいとなる可能性があるとしていた。

出典: Business Mirror紙(翻訳は一部省略しました。)

80. 日本がカリフォルニア州産スモモに門戸を開く

FreshPlazaウェブサイト(2021年8月23日)

米国農務省(USDA)は、日本がカリフォルニア州産スモモの市場アクセスを許可したと発表した。カリフォルニア州生鮮果実協会(CFFA)のプレスリリースによると、カリフォルニア州産のスモモを日本市場から排除していた植物衛生上の障壁をなくすため、幾度もの技術的交渉が必要であったが、COVID-19パンデミックのためにいくらか影響を受けた。

CFFAは、農務省動植物検疫局及び農業研究局の交渉官と専門家のほか、フレズノ郡とトゥラレ郡の農業委員会の支援のおかげであるとしている。

今回の決定は依然として、梱包と燻蒸処理にかかる厳格な手順の実施を求めている。

新たな機会

CFFAのイアン・ルメイ会長は、「貿易障壁は業界の健全性と存続可能性を脅かすものだ。今回の決定によって、日本の消費者がカリフォルニア州産プレミアム果実の価値を知り、その優れた品質を認識することになるので、カリフォルニア州産のスモモにとって重要なチャンスとなる。世界経済がCOVID-19のパンデミックから回復する中、市場アクセスの拡大は引き続き業界の成功のために重要だ」と述べた。

カリフォルニア州エクセター市のヴェニーダ・パッキング社のクリス・タンタウ氏は、ネクタリンなどの他の核果類の果実はすでに日本への輸出が許可されており、キウイなどその他の果実も日本に出荷していると指摘する。同氏は、「これはおそらく実利よりも政治的な意味合いが強いのだろう。現在のスモモの市場規模はかなり小さく、手続き上まだ燻蒸処理が必要だが、その手順はネクタリンで不評を買っている」と言う。

まだ燻蒸が必要

タンタウ氏は、今回の決定はパレット数が規程に合わないといけな可能性が高いので、大規模な取り組みにはならないだろうとしつつ、「果実を燻蒸しなければならないので、負担が大きい。しかし、どうなるかは分からない。スモモの市況は良いし、このような取り組みの機会を得るのは良いことだ。ただ、それが一層の市場の動きにつながるかどうかは分からない」と語る。

日本の国内生産も、もう一つの問題である可能性がある。同氏は、「栽培時期が同じで出荷のタイミングも似ていると思うので、日本側の輸入の必要性は大きくないかもしれない」と言う。

とはいえ、アジア諸国では今年、カリフォルニア州産核果類に対する需要が高い。タンタウ氏は、「しかし機材が不足している。例えば香港から注文を受けたが、果実を出荷するコンテナを手配できない」と述べた。

(関連記事)

日本が米国産スモモの市場アクセスを承認

米国農務省海外農業局東京貿易事務所GAINレポート(2021年8月20日)

農林水産省は2001年に米国産スモモの市場アクセスを許可したが、それはセイヨウスモモ(*Prunus domestica*)に限られていた。

2021年8月19日、同省は米国産セイヨウスモモに係る植物防疫法施行規則を改正し、米国産ニホンスモモ(*Prunus salicina*)の日本への輸入を許可した。この改正は直ちに効力を発する。

米国のコドリंगाに対する日本側の懸念から、日本向けの米国産セイヨウスモモとニホンスモモは、必須の臭化メチル燻蒸を含む特定の処理手順に従わなければならない。さらに、米国産スモモの日本向け輸出に当たっては、米国動植物検疫局(APHIS)発行の植物衛生証明書が必要である。ニホンスモモを含む米国産スモモの輸入条件の詳細については、農林水産省のウェブサイトに掲載されている「アメリカ合衆国産せいようすもも及びにほんすももの生果実に関する植物検疫実施細則」(日本語のみ)を参照されたい。

81. VOG(イタリア)のリンゴ 今年はやや減収するもクラブ品種と有機は増加

FreshPlazaウェブサイト(2021年8月26日)

訳注: yello®は長野県で開発されたシナノゴールドの商標で、VOG(南チロル果実生産者協同組合共同事業体)等イタリアの2団体が県と独占的販売契約を結んでいます。

ボルツァーノ県テルラーノ(北イタリア)に拠点を置くVOGは、8月中旬にガラ品種の収穫が始まった2021/22年度産のリンゴについて、生産量はわずかに減少し(-4%)、収穫は7日遅れると予想している。

VOGのクラウス・ヘルツル販売部長は、「(貯蔵リンゴの)出荷がちょうど終わった2020/21年度のヨーロッパ産リンゴは比較的量が少なかったので、我々の生産物を年間を通じて一定の割合で出荷するのに好都合だった」として、「コロナ禍を考慮に入れなければならなかったが、その影響は前の年度に比べれば大きくなかった。一方、EU圏外の市場については、コンテナの手配の難しさ、スエズ運河の閉鎖、さらに英国のEU離脱などの困難を克服しなければならなかった」と述べた。

2021/22販売年度の初めに当たり、VOGは今年の出荷量について、わずかな減少を見込んで約50万トンと予測している。果実のサイズは、平均以上であった昨年度よりも小さくなる。

ヨーロッパ全体の出荷量は、昨年度に比べて10%の増加が予測されている。ヘルツル氏は、「ヨーロッパ全体でも、収穫は平均1週間遅く、果実のサイズは小さくなるだろう。出荷量は増加するが、過去最多であった2018年を大きく下回るだろう。さらに、加工用を差し引くと、生鮮果実市場への出荷可能量はおそらく昨年度と同程度であり、これは需給バランスのよくとれた販売年度になることを示している」と述べた。



品種については、VOGの生産物はロイヤルガラ、ゴールデンデリシャス、ふじが多い。そして何よりもクラブ品種のenvy™、yello®, Kanzi®の伸びが続いている。これらと並んで、今年発売された3つの新しいリンゴ — RedPop®, Giga®, Cosmic Crisp® — が初めて商業規模で出荷されるとともに、すでに市場に出荷されている Joya®ブランドとCrimson Snow®ブランドの出荷量も増加が見込まれる。

今年度の見通しは、有機栽培についてもポジティブである。有機栽培のロイヤルガラは、春の降霜のためにサイズは小さく、出荷量は少なくなるが、品質の高さが確認されている。リンゴ園の栽培面積の増加(+7%)により、VOGの有機リンゴの出荷量は新年度には32,000トンに増加し、年間を通じた出荷が保証される。

最後に、新年度は2020年末に始まった資材価格の上昇の影響を受けると見られる。国際情勢も包装、貨物運賃、物流コストに大きな影響を与えており、リンゴの貿易に影響を及ぼしている。

82. チリ 果実産地4州に農業緊急事態を発令

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年8月27日)

チリのセバスチャン・ピニェラ大統領は木曜日(26日)、干ばつの影響を最も受けた生産者を支援する資金を動員するため、コキンボ、バルパライソ、オイギンス、マウレの各州に干ばつに関する農業緊急事態を発令した。

マリア・ウンドゥラガ農業相は、「この干ばつに対して、我々は1千万米ドル以上の緊急資金を用意した。我々は気候変動に備えなければならない」と述べ、水不足に際し、人々の食料安全保障を確保するため短期的及び長期的な措置を必要とすると付け加えた。農業開発研究所(INDAP)は、作物の灌漑に関し小規模生産者を支援しているが、この組織の予算は、水不足の大問題と戦うためには不十分だ。そこで、ウンドゥラガ農業相は、小規模生産者を支援するため、彼らの灌漑システムに応じた支払いを認めることを提案した。

同大臣は、「所有する土地が80ヘクタール未満の生産者のためにINDAPの予算の96%が使われるよう受益者の再定義を促進すべきだ」と強調し、水管理に責任を持つ公的諸機関は、この点に関するそれらの取り組みをもっとよく調整すべきであると付け加え、さらに「ピニェラ政権は、環境対策のためのより多くのイニシアチブを推進し、これらのプロセスの有効性、機能性及び仕事の質を確保しなければならない」と述べた。

専門家は、前線がチリ南部と中央部に降雨をもたらしたものの、8月の降水量は予想よりも少なかったと述べた。環境NGOグリーンピースによると、チリは西半球で最悪の水問題(水資源と水利用の問題)を抱えている国だ。その国土の76%は水不足の影響を受けているが、これは降水量の不足と、水資源は私有財であって優先度が低いと考える国の水資源管理モデルのためである。

チリ果実生産者連盟(Fedefruta)のホルヘ・バレンズエラ・トレビルコック会長は、「最も重要な時期に干ばつの影響を受け、より困難な状況にあるコキンボ、バルパライソ、オイギンス、マウレの各州の生産者を助けるために資源が割り当てられていることは大変意味のあることだ。農業緊急事態宣言は、生産者にとって必要かつ緊急の支援であり、我々はこれが早期に他の地域に拡大されることを望む。我々は、これらすべての措置について農業省とともに行動する。国内のあらゆるニーズに対応するため、水インフラへの公共政策と投資に関する戦略的水計画を直ちに決定しなければならない」と述べた。

(関連記事) チリ 干ばつの脅威にさらされる果樹農業

EUROFRUIT電子版(2021年8月13日)

チリの果実生産者は、7月に続いた記録的な干ばつによる水不足のため、生産物を失う可能性が高まっており、赤信号が灯っていると報じられている。

チリ果実生産者連盟(Fedefruta)のホルヘ・バレンズエラ会長は、「この大問題に関し、農業と果実の関係者はほとんどショック状態にある。今日、果樹産業は約70万人の雇用を生み出しているが、この状況が続けば、水不足のために果実を生産できなくなるか、少なくとも減収する地域が出てくるだろう。この状況に直面して、農家は何を栽培し、何を放棄するのか決めなければならないだろう」と述べた。

生食用ブドウや梨などの果実の主産地であるコキンボ州の生産者らは、この地域の水位を「危機的」と表現している。地元当局者は、作物の成長に最低限必要な基本的な水需要が満たされていないため、作物が危険にさらされていると言う。

同連盟にとって最大の懸案事項の1つは、果実生産者が、水不足、不安定な気温、さらに生食用ブドウや核果類の収穫に影響を与えた昨夏の雨のような異常気象にどのように適応するかだ。(中略)同連盟とその加盟団体は当面、中小規模農場向けの共同利用の移動式貯水設備の提供や、干ばつの影響を受けた生産者への財政支援など、緊急の措置を求めている。

83. 世界のアボカド市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年8月27日)

常に人気のあるアボカドの需要は、夏の休暇が終了したドイツなどで増加し、全般的に高止まりしている。特に中国では、アボカドが消費者によく知られるにつれて消費の増加傾向が続いている。オーストラリアは、需要拡大の恩恵を受け、シンガポールの果実市場に初めて40フィートコンテナを送り出し、さらに史上最高の豊作が期待されている。一方、イタリアやスペインなどヨーロッパの生産国では、45℃以上の極端な高温がアボカドの生産を妨げている。



オランダ/ベルギー：小玉のアボカドは需要も価格も好調

ケニアからは何コンテナものアボカドの出荷が続いており、これは年末まで続く。ケニア産は現在、小玉のハス種を多く輸出している。タンザニアも輸出用コンテナの積み込みを開始した。ペルーなどの大規模な輸出国が今年は大玉を多く輸出しているため、小玉(サイズ22(日本の30)以下)の需要が高い。その結果、小玉の価格はおそらくいくらか上昇し、大玉は値下がりすると見られる。現在、小玉の価格は7～8ユーロである。チリ、イスラエル、スペインで間もなく出荷シーズンが始まり、それらの国からの輸入品の質と量が9月ないし10月以降の価格に影響を与える。

ドイツ：夏休み終了後の需要の増加

ドイツでは、夏の休暇が終わったこともあり、アボカドの需要が依然として高い。現在、ケニア、ペルー、南アフリカ、コロンビアなど様々な原産国のアボカドがドイツ市場で見られる。ある大手輸入業者の報告によると、ケニア産アボカドは、追熟室での熟成が不十分なことがあり、やや品質が劣る。

夏の間大部分を占めているペルー産は、今後2～3週間で終了する。一方、イスラエル産の入荷は、ピンカートンとエッティンガーの両品種が10月下旬以降、またハス種は11月になると予想される。

様々な販売促進活動の結果、サイズ18(日本の24)の人為的な品不足が起きている可能性がある。しかし、(これより大きい)サイズ14と16は、市場でまだ多く見られる。基本的に、(ペルー産等の)サイズ14と16は7ユーロ弱で購入できる。一方、ケニア産は6.50ユーロだが、サイズ18は7.25ユーロほどである。現在のところ、特に変わったことや短期的な不足は予想されていない。

スペイン：ボトリオスファリア属の真菌と45℃以上の高温がアボカド生産を脅かす

スペインとポルトガルを合わせたイベリア半島では、スペインのマラガ、グラナダ、カディス、ウエルバの各県(以上アンダルシア州)及びバレンシア州、さらにポルトガル南部に2万ヘクタール以上のアボカド産地が分布している。イベリア半島のアボカドの出荷時期は12月から4月までであり、業界は栽培面積の拡大だけでなく、販路の拡大にも取り組んでいる。

しかし、苗木園や若い園地では、樹木の栄養成長に影響を与えるボトリオスファリア属の真菌による問題が

深刻になっている。この真菌は、果梗付近に現れて腐敗させ、落果の原因となる。これは、すべての品種のアボカド生産に厳しい影響を与える要因となっている。もう一つは、時として45℃を超える気温と極端な気象現象であり、毎年繰り返すようになってきている。この異常な高温により果実の成長が止まり、現実起こっているように水不足の場合には、樹勢が弱まり、落果する。今年は落果が広まっており、今のところ昨年より生産量が多いと推定されているものの、今年も期待に応えるような収穫予想ではないと見られる。

イタリア：大量入荷のためアボカド市場は低価格

2021/22年度のスチリア産アボカドの出荷量を見積もるのは時期尚早である。スチリアのある起業家は、「春の平均気温が非常に低かったため、出荷シーズンは昨年より少し遅く始まると予想している。7月末から8月初めにかけて気温が46℃に達し心配したが、現在は気温は安定しているようだ。着果は多いが、1,400トンを出荷した昨年のような最高の年ではない」と言う。

ミラノのある卸売業者は、「ペルー産のハスアボカドは、大量供給のために価格が下落した。4月末から5月の初めに始まったイタリアのアボカド輸入シーズンは、数週間後に終了すると見られる。ハスアボカドの価格は、通常10ユーロ以上だが、現在は5ユーロである。外皮が緑色のグリーンスキンアボカドを扱ったオランダなど他国の市場は運が良かった。とりわけ入荷量が限られていたため、販売は非常にうまくいった。南アフリカ産やペルー産のピンカートン、フェルテ、ライアンなどグリーンスキンの品種を販売した業者は、12～13ユーロの価格を記録した」と言う。

南アフリカ：フェルテの価格はハスのほぼ2倍

ヨーロッパ市場は、南アフリカ産の出荷シーズン初期には良好であったが、その後はペルー産が入荷したため南アフリカの輸出業者にとって難しい状況となった。現在は、ペルー産の量が減少する中、晩生の産地からの輸出が再び伸びている。これらの地域の生産者は、果実を樹上に残したまま、市況が良くなるのを待っている。南アフリカ産アボカドは、長ければ第46週(11月中旬)までヨーロッパに到着する。

出荷量は昨年と同様の約1,600万箱(4kg/箱)で、出荷シーズンが始まった時点での、産地の適度の降雨を考慮した予想よりも少ない。

ある取引業者は国内市場について、フェルテ品種の品質は昨年ほど良くなく、風の被害もあった、エスワティニ(旧スワジランド(南アフリカの隣国))産は非常に品質が良いと指摘している。

国内市場では、アボカドの平均価格は16ランド(0.9ユーロ)/kgである。ヨハネスブルグ市の公設市場の出店業者は、フェルテ品種の価格はこの1カ月ほど4kg箱で110ランド(6.2ユーロ)～130ランド(7.3ユーロ)とこの時期の最高水準に近く、一方ハス種はほぼ半額の60～70ランド(4kg箱)であると言う。

南アフリカの国内市場では世界の大勢と異なり、ハス種はフェルテ品種よりも常に多少安価であるが、今年は価格差が特に大きい。小玉のハス種の多くは、この品種の引きが強い加工部門(例えば、輸出向けガカモレ(調味アボカドペースト)用)に仕向けられている。

従来からハス種の消費が多い国内のホスピタリティ部門とケータリング部門の落ち込みは、まだ深刻である。

中国：消費者のアボカドへの関心の高まりにより輸入が27%増加

アボカドは近年非常に流行しており、中国の多くの消費者の食卓で見かけることができる。アボカドに慣れ親しんだ人が増えており、食事に取り入れ始めている。

ProHass(ペルー・ハスアボカド生産者協会)は最新の統計を発表し、中国は2021年の(ペルーの)出荷シーズンに、前シーズンより27%多い約46万7千トンのアボカドを輸入する見込みであるとしている。ペルーは非常に安定した供給と高品質の果実で、すでに中国市場へのアボカドの最大の輸出国となっている。

北米：小玉が多いが需要は増大

産地はアボカドの出荷の終息に向かっているが、サイズと価格が焦点となっている。

国内では、カリフォルニア州がゆっくりとアボカドの出荷を終わらせている。カリフォルニア州のある輸入業

者は、「産地では95～96%の出荷が完了していると見られ、出荷期間はあと3～4週間くらいだ」と言う。今週の出荷予想量は600万～700万ポンド(3千トン前後)、来週は500万ポンド(2千トン強)で、この後次第に減少していく。

国外では、ペルーが同じ状況にある。上記の輸入業者は、「ペルーからの出荷もあと3～4週間くらいだ。したがって、1カ月以内にメキシコが唯一の輸入先になる」と言う。

そうは言うものの、メキシコでは昨シーズンとは様子が異なる。収穫量が本当に多かった昨年に比べ、今年はいくつかの理由により樹上の果実がずっと少ない。メキシコの天候も大きな要因の一つとなっている。報告によると、雨季ではあるが、果実が成長するための日差しが必要で、また温度も足りない。

一方、メキシコ産アボカドの現在のサイズ分布も、通常と異なるようだ。前出のカリフォルニア州の輸入業者は、「現在、サイズ70と84の小さい果実が50%近くを占めている。業界関係者は小さいサイズへの切り替えを余儀なくされるだろう。普段サイズ48(日本の24)のユーザーはサイズ60(日本の30)に切り替える必要があり、60のユーザーは70に切り替えることになる。そうしなければ選択肢が無くなる」と言う。

この輸入業者は、一般的にサイズ48の需要は業界の約34%を占めるが、現在は出荷量のうち約18%しかないと付け加え、「現在は業界の在庫が枯渇し、あと2週間は打つ手がない。小さい果実を取るか、何も買わないかのどちらかだ」として、業界は小さいサイズを受け入れることを強いられており、これが現在の最大の課題だと指摘している。

一方、アボカドの需要はかなり高く、週5千万ポンド台の下の方(2万トン強)で推移している。上記の輸入業者は、「現在の価格にもかかわらず週6千万ポンド(3万トン弱)近くまで上がった。需要は驚くほど高い」と言う。

確かに、価格は過去3～4カ月かなり変動が大きい。現在、サイズ48が約65ドル、サイズ60が約50ドル、サイズ70は30ドルで大きな価格差があり、人々を小さなサイズに向かわせるかも知れない。

しかし、メキシコが唯一の供給国になると、価格は強含む可能性が高い。この輸入業者はさらに、「数週間のうちにサイズ48で80ドル以上をつけるかも知れず、サイズ60が60～65ドルで、サイズ70が40ドルに近づいても驚かないだろう。出荷業者にとって難しいのは、彼らは生産者に65～70ペソ/kgを支払っており、サイズ48とサイズ60の出荷量がこんなに少ないのであれば、出荷業者は価格を引き上げなければならない。メキシコが価格を主導する3週間後には、生産者価格は80～85ペソ/kgになるかも知れず、そうなれば出荷価格は高止まると予測している」と語った。(1メキシコペソ≒5.5円)

この輸入業者は、サイズは追いついて来ると言うが、それはまだ4～5週間先の可能性が高い。「サイズの問題はこの先1～2カ月かかるかも知れない。サイズが需要に追いつくまでは価格は緩まない」と言う。

オーストラリア：史上最高の出荷量達成へ高い期待

統計によると、7月5日～9日の週に合計42万3,281箱のアボカドが出荷され、これは前週に比べて23%増加し、予想された39万6,431箱よりも7%多かった。クイーンズランド州北部が大半の52%を供給し、次いでクイーンズランド州中部が39%であった。スーパーマーケットや食料品店はハスアボカドの価格を1個1～2豪ドルに下げている、消費者はここ数週間、安い小売価格を享受している。(1豪ドル≒80円)

オーストラリアの主要アボカド出荷業者の一つは、同国の2021年のアボカド出荷量が過去最大級になると期待しており、そうであれば国内外でより多くの機会につながると報告している。

ある業界関係者は、「この2カ月間に、オーストラリア初の40フィート海上コンテナをシンガポール向けに仕立てた。オーストラリアでは20フィートコンテナを数多く扱ってきており、今シーズンも他社のアジア向けの取り組みがあったが、40フィートコンテナでの果実輸送には挑戦してこなかった。過去10年間、新しい顧客を取り込む要因は価格であったので、供給量が十分あれば、アボカドにもより多くの消費者を取り込むチャンスがある。どこの産地でも驚くほど天候が良い。おそらく唯一、ニューサウスウェールズ州中部だけは雨が多かったが、そのほかはどこも天気が良かったので、果実のサイズが大きくなり収穫量が増えている」と言う。

(令和2年度3月分)

177. 台湾 輸入果実が消費者に大人気

FreshPlazaウェブサイト(2021年3月1日)

輸入果実は、台湾カルフルが他の小売チェーンの店舗と差別化を図る主な特色の1つである。台湾カルフル輸入果実部門の責任者であるペニー・チャン氏が、台湾の輸入果実の市場動向と消費者の現在の嗜好をどう捉えているかを語った。



2020年、様々な果実の台湾市場への輸入が認められた。「初めてペルー産ブルーベリーが入荷した。ペルー産の品種は、米国産やチリ産よりサイズが大きく、食味はやや酸味が強い。市場価格は、他国産より安い。お客様から多くの声をいただき、ブルーベリーの売れ行きは好調だ。2020年11月の既存店ベースの月次売上げは22%増加し、翌12月はコロナ禍にもかかわらず120.7%増加した。」

イタリア産リンゴの売上げは、ペルー産ブルーベリーと異なりあまり良くなかった。「イタリア産リンゴは2020年に初めて台湾への輸入が認められた。イタリアから台湾までの輸送には約40日かかる。この長い輸送期間の後では、リンゴの品質はあまり安定しなかった。リンゴの食味は台湾の顧客には少し酸味が強くなりすぎた。そのため、今シーズンの輸入計画を停止した。」

「現時点の最大の課題は、コロナ禍で市場の動きが遅く、果実の品質が低下し、棚持ちが短くなることだ。早く売りさばくために価格を下げる必要があるが、これは悪循環に繋がる。」

チャン氏によれば、台湾の消費者にとって果実の品質が最も重要だ。残留農薬のない果実は最も歓迎される。食味の良さも、消費者が購入を決める際の重要な要素だ。「例えば、程よい糖度の果実、サクサクした食感のリンゴ、種なしのブドウはかなり人気がある。また、消費者はキウイ、ブルーベリー、アボカド、ザクロなど、健康に良いと評判の果実を多く購入するという明白な傾向が見てとれる。」

「台湾は、夏の間、マンゴー、パイナップル、バナナ、スイカなど様々な熱帯果実を生産してきた長い歴史がある。他の果物は輸入に依存しており、台湾の消費者は特に輸入サクランボや輸入モモに目がない。健康への関心が高まり、ブルーベリーとアボカドは過去5年間で大きな人気を得た。台湾の消費者はそれらを『スーパー果実』と見なしている。例えばブルーベリーは10年前、私たちの店舗の需要はわずか週2パレットだったが、今日、ブルーベリーは台湾の旧正月期間中のトップ3の販売品目の1つであり、需要は平均して週20パレットとなった。」

台湾カルフルの目標の一つは、台湾の小売業界のリーダーになることである。同社は、フランスのカルフルグループが進めるfood transformation*計画に注力している。台湾カルフル社のスローガンは「顧客が最も大切」であり、同社は、国内外の産品から、安定的に高品質で、安全な食品を顧客に提供している。台湾カルフルは、顧客の期待に応えるため一連の有機生鮮果実・野菜を提供している。「私の目標は、顧客に健康的で安全な輸入果実を、安定的に高い品質と手頃な価格で提供することだ。」

訳注*: 台湾カルフル社のウェブサイトによれば、「食べ物本来の味を取り戻す」の意味

178. 国連食料システムサミットはボイコットの脅威に直面

EUROFRUIT電子版(2021年3月4日)

国連食料システムサミットは、ハイテクに偏った食料危機の解決策と農業生態系の無視によって農業関係グループの怒りを買った。

ガーディアン紙の伝えるところによれば、2021年9月に開催予定の国連食料システムサミットは、企業的なハイテク集約型農業を指向して偏っていると非難され、大規模なボイコットの脅威に直面している。

サミットの概要書一同紙によれば、食料危機への対応として精密農業、データ収集、遺伝子工学の重要性を強調する一方、生態系を重視した農業や市民社会の関与への言及はない。が明らかになった後、憤りの声が上がった。

食料への権利に関する国連特別報告者であるマイケル・ファクリ氏は、サミットは「食料システムへの単一のアプローチ、すなわち市場ベースの解決を指向しており大きく歪められている」ように見えるとし、「ビジネス部門は食料システムの問題の一部であるのに責任を取っていない」と述べた。

サミットは当初、気候変動に関する議論において農業がほとんど無視されてきたことを認識しているとして歓迎された。その目的は、同紙によれば、異常気象と生物多様性の危機の高まりに直面している中で、飢餓を削減し、世界の食料システムを改善する方策を見出すことであった。

しかし、国連事務総長がアグネス・カリバタ氏をこのイベントの責任者に任命したことが、最初にこの論争を引き起こした。

このルワンダの元農業大臣は、ゲイツ氏が出資したアフリカ緑の革命のための同盟(Agra)総裁であり、この組織は「2006年、アフリカ大陸に遺伝子組み換え作物、高収量商業種子品種、集約型農業を導入するために設立された」とガーディアン紙は報じた。

同紙への声明の中で、カリバタ氏は自身の任命とサミットの目標を擁護し、「私は世界で最も脆弱な人々を知っており、このサミットを彼らが失望しないものにする」と決意した。我々は、全ての声が聞こえるようにサミットを設計した。全員が最初からすべてに同意することは期待していない」と述べた。

総勢3億人以上のメンバーを有する500以上の市民社会グループから成る「市民社会と先住民メカニズム」(食料不安と栄養失調の撲滅を目標とする国際民間組織)は、イベントをボイコットし、代替の会議の場を設定することを明らかにした。

米国に本部を置く農業貿易政策研究所の上席アドバイザーであるティモシー・ワイズ氏は、成功している農民主導のグループの話を聞く機会を逃したことを嘆き、「現在、より多くの農家、研究者、開発専門家が、高投入化学物質依存型農業から低投入で生態系を重視した農業への移行を提唱している。このことは、現在の農業慣行を継続することのリスクと、より持続可能な農業への転換による潜在的な利点の両方について論文化した多くの新しい研究により支持されている」と指摘した。

179. ニュージーランド キウイフルーツの収穫量をこれまで最大と予測

FreshPlazaウェブサイト(2021年3月4日)

今朝最初のキウイフルーツがギズボーンで摘み取られ、ニュージーランドの2021年産キウイフルーツの収穫が始まった。今後、ニュージーランド全土で多くのキウイフルーツが収穫される。

2021年産のキウイフルーツの生産量は、グリーンキウイとゴールドキウイ合わせて1億5,700万箱を輸出して記録を打ち立てた昨年を上回り、記録を更新するものと見込まれる。1箱のキウイフルーツは平均しておよそ30玉である。

通常ゴールドキウイが最初に収穫され、3月下旬のグリーンキウイへと続く。収穫のピークは4月中旬で、6月まで続く。

消費者は、グリーンキウイとゴールドキウイに加え、ゼスプリの甘くてベリー風味のレッドキウイフルーツをニュージーランドのスーパーマーケットの売り場に加え、今年は一部の海外市場でも期待できそうだ。

ニュージーランドでは、約2,800人の生産者が、北は(北島北端の)ケリケリから南は(南島北部の)モトゥエカまでの13,000ヘクタールの果樹園でキウイフルーツを生産している。

ニュージーランドのキウイフルーツ生産者組織(NZKGI)のニッキ・ジョンソン最高経営責任者(CEO)は、収穫までの道のりは生産者にとって様々だったと語る。「今年は、モトゥエカ地域や一部のへき地で降雹被害を被った少数の生産者にとっては壊滅的だった。一方、今シーズンのキウイフルーツは高品質で、消費者はスーパーマーケットの売り場で素晴らしい味のキウイフルーツを期待できる。」

ゼスプリの生産者、業界及び持続可能性の責任者であるキャロル・ウォード氏は、昨シーズンはキウイフルーツ業界の広範な適応力と緊密な協力によって、これまでの記録を更新する量のキウイフルーツを安全に収穫、梱包、出荷できたと語り、2021年シーズンも変わらないと見ている。

「生産者と幅広いキウイフルーツ業界関係者は、ひとたび収穫が始まれば世界中の消費者が新鮮で健康的な私たちのキウイフルーツを楽しめるよう懸命に働いている。私たちのキウイフルーツに対する大きな需要に勇気づけられている。今年のキウイフルーツの出荷が始まるので、コロナ禍の状況とそのニュージーランド国内と海外の両方での影響を引き続き注意深く見守る」とウォード氏は語る。

記録的な生産量が見込まれるということは、収穫と梱包の多くの働き口を意味する。4月のピーク時には、最大23,000人の季節労働者が果樹園と梱包施設で働く見込まれる。国境閉鎖により、バックパッカーとRSE(認定季節雇用主)制度による太平洋諸島からの労働者が減少し、業界は多くのニュージーランド人が働くことを歓迎する。「キウイフルーツ業界は、さまざまな役割の高賃金の働き口を提供する。素晴らしいチーム環境があり、ニュージーランド各地の人々と出会って楽しく働くことができる」とジョンソン氏は語る。

キウイフルーツ業界はニュージーランドの社会全体にとって重要であり、2020年は約20億ニュージーランドドル(約1,600億円)を生み出している。

180. 台湾のパイナップル 過去最高の6千トン以上を日本から受注

FreshPlazaウェブサイト(2021年3月5日)

(訳注: 中国は、2月26日、害虫の検出を理由に3月1日以降台湾産パイナップルの輸入を禁止すると発表した。)

中国が台湾産パイナップルを輸入禁止とした後、台湾はこの熱帯果実の大きな市場を日本で見つけた。既に6千トン以上の予約注文がなされ、これまでの記録を破った。

チェン・チーチュン農業大臣は、3月4日、ラジオ番組で、日本が台湾産パイナップルを5千トン以上予約注文したと語った。また、日本の多国籍販売業者は1千2百トンを予約注文し、合計6千2百トンとなり、これはパイナップルの日本輸出の新記録となった。

ウー・チンルー台湾野菜・果実輸出協会(TVFEA)名誉会長は、日本は現在パイナップル消費量の約15%(原文のまま)、すなわち約15万7千トンを輸入しており、開拓に値する市場だが、日本のパイナップル輸入の大半はフィリピンからのものであり、フィリピン産との競争が課題であると述べたとされる。

果実輸出問題の解決には新しい政策が必要

他方、ニューパワー党(NPP)(台湾名:時代力量、新力党)は、中国がパイナップルの輸入を停止した後、台湾人が国産パイナップルを購入するだけでは農民を助けるためには十分でないと述べた。Taipeitimesウェブサイトは、NPPのチェン・ジアウホア議長が、台湾政府はWTOの仕組みを用いて紛争の解決を図り、台湾の農産物輸出政策を再考すべき、台湾は果実の輸出を中国に依存し過ぎていると述べたと伝えた。

輸入禁止は国際貿易ルールを逸脱

台湾のワン・メイホア経済大臣はCNBC(ニュース専門放送局)に対し、中国の台湾産パイナップルの突然の輸入禁止は、国際貿易ルールの基準を満たしていないと語った。一方、中国の国営メディア新華社は、中国の税関当局が台湾から輸入されたパイナップルから害虫を発見したために輸入を禁止したとしている。中国の行政機関である国務院台湾事務弁公室の広報担当者は、害虫の侵入を防がなければ中国の農業と生態系に深刻な脅威を与えると述べた。

(関連記事)

台湾のパイナップル 中国の輸入禁止で米国、日本、カナダが支援

Taiwan Newsウェブサイト(2021年3月3日)

米国、日本、カナダの台湾における事実上の大使館は、中国の台湾産パイナップル輸入禁止に対応し、台湾産パイナップル販売を支援するため、3月2日(火曜日)に立ち上がった。

中国は2月26日に突然、病虫害の恐れがあるとして3月1日から台湾産パイナップルの輸入を禁止すると発表した。この決定は台湾では政治的動機によると見なされているが、中国政府は否定した。

米国在台湾協会は、協会事務所の内外に置いたパイナップルの写真に「#パイナップルで連帯」等のハッシュタグを付け「パイナップルを買いましたか？私たちは買いました！」とフェイスブックに投稿した。

日本台湾交流協会はフェイスブックに、事務所長とスタッフが台南省から送られたパイナップルを楽しんでいる様子を投稿した。また、パイナップルのレシピに取り組んでいるとして、台湾市民に提案を求めた。

カナダの台北貿易事務所(CTOT)は、スタッフがハワイアンピザ2枚とパイナップル2個を囲んでいる写真を、「ピザに乗ったパイナップル、特に台湾産パイナップルが大好きだ！」とフェイスブックに投稿した。

パイナップルの輸入禁止が発表されて以来、台湾の農家を支援するためにパイナップルを購入して食べるよう呼びかける台湾の政治家や市民による投稿がソーシャルメディアに殺到した。

台湾行政院農業評議会(COA)によると、台湾は平均して毎年約42万トンのパイナップルを生産し、輸出量は2019年が総生産量の約12%、2020年が約10.8%であった。2020年のパイナップルの輸出は、97%が中国、2%が日本、1%が香港向けであった。(記事を一部要約しました。)

181. 米国 デコポンが消費者に人気

FreshPlazaウェブサイト(2021年3月11日)

カリフォルニア州の柑橘のシーズンは、この数ヶ月間、豊富な収穫量と大きな需要により好調だ。カリフォルニア州を拠点とするトリニティ・フルーツ社は、今シーズン、新品種のマンダリンを売り出し、消費者から手応えのある反応を得ている。



デコポンの最初のシーズン

トリニティ・フルーツ社は幅広い種類の柑橘類を販売しており、今シーズン、新しいマンダリン品種を品揃えに追加した。デコポンである。アンジェラ・ヘルナンデス氏は「今年は、我々がデコポン品種を収穫する最初のシーズンだ。我々は、この品種のために新しく立ち上げたビッグハニー®ブランドの下で売り出している」と語る。

デコポンの収穫は2月中旬に始まった。同氏は「デコポンの収穫期間は短く4月に終わるが、一口食べてみる価値が十分ある。今シーズンは今のところ順調に進んでいる。この品種の特性や消費者の需要の大きさがさらに分かるのに合わせて出荷量を増やしていく」と述べる。

デコポンの特徴は何だろうか。同氏は「この品種は、『お団子アタマ』で果実上部に出っ張りがあり、容易に皮をむき始めることができる。デコポンの皮をむくのは容易だ。サイズは大きく、ソフトボールほどあり、食味はとても甘い」と説明する。加えて、この品種はまた、過去1年間消費者の最大の関心事であった健康に関する大きな利点を誇る。同氏は「普通の大きさのデコポンで、消費者はビタミンCの1日の所要量を摂ることができ、これは一つの強みだ」と言う。

182. 世界のオレンジ市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年3月12日)

コロナ禍に煽られてオレンジ需要が大きかった1年が過ぎ、2021年の市場はわずかに低調な状態で始まった。市場の出回り量が多く、価格は圧力を受けている。スペイン産のほか、トルコ産、エジプト産、モロッコ産のオレンジが市場に出回っている。南半球の今シーズン最初のオレンジが収穫され、今後数ヶ月、多くの量の収穫が見込まれる。南アフリカでは天候にいくらか問題があったが、全体としては、品質が良いオレンジの例年どおりの収穫量が見込まれる。



オランダ：厳しいオレンジ市場 生産者は市場の買い手の意向より多くの売り上げを望む

ある輸入業者は「現在のオレンジ販売は簡単ではない。去年はコロナ禍の到来後、皆が柑橘類を購入していたが、その熱気は今でははるかに限定的だ。また、例年多くのオレンジを使用するケータリング業界への売り上げを失っている。簡単に言えば、出荷されるオレンジより少ない量が消費されたり、ジュースとなったりしている。よって、価格に圧力がかかっている。スペインの生産者は、市場の買い手の意向より多くの金額を望んでいる。エジプト産の出荷量はかなり多いようだ。全体として、かなり厳しい市場だ」と語る。

ベルギー：出回り量が多く市場に圧力

ベルギーのオレンジ市場の状況は、今シーズンこれまで前向きである。12月はかなり忙しい月だったが、年が明け、需要は概ね普通の水準に戻った。あるベルギーの取引業者は「売れ行きは順調で、スペイン産柑橘類の品質はかなり良好だった」と語る。スペイン産のほか、現在、トルコ産、モロッコ産、エジプト産が市場に出回っている。これら大量のオレンジの入荷は、市場の圧力となっており、価格形成に好ましくない。

ドイツ：スペイン産とエジプト産が主役

ドイツでは、現在のオレンジの供給は、主にスペインとエジプトからである。スペイン産は生食用の主役であり、品種は晩生のLane Late、Navelate、Salustianaである。エジプトは現在、果汁用オレンジ、特にValencia Late品種の主要な供給者である。トルコ産は、ある程度の量のWashington Navel品種があちこちに出回っている。ブラッドオレンジは、イタリア産のMoro品種だけが市場に出回っている。

ブラッドオレンジの価格は、昨年同時期よりかなり高い。一方、エジプト産の価格は昨年より下がった。今のところ、スペインのシーズンの進み具合は満足できる。シーズン後半、大きなサイズが比較的少なく、需要はやや減少した。長期的には、エジプト産は、特に安売りの目玉等低価格帯で着実に増えつつある。それと同時に、トルコ産とモロッコ産のオレンジは市場で徐々に減少している。目新しい新品種は、特に生食用オレンジの分野でまだ余地がある。中でもCara Cara品種とPowell品種は、ドイツの卸売取引で大きな需要がある。

イタリア：シチリア島とイオニア海沿岸地方でオレンジ危機

シチリア産オレンジが、今シーズンほど物議を醸したことはなかった。価格はかなり激しく変化している。ある日には0.25ユーロであり、翌日には0.30～0.50ユーロとなる。そのため、適切な計画の立案は不可能である。オレンジの生育シーズンは冬の55日間の雨の影響を受け、生産量が30%減少した。それにもかかわら

ず、市場の出回り量はかなり多く、供給過剰だという人もいる。市場の需給バランスが崩れ、多くの果実が加工用に売却された。

オレンジ市場の危機は、シチリアの企業だけでなく、イタリア半島最南端のイオニア海沿岸地方の企業にも影響を及ぼしたようだ。「オレンジ需要は、国内と欧州市場の両方で急激に減少し、ネーブオレンジの価格は最大でも0.15ユーロ/kgとなった。ギリシャ産オレンジのここ数週間の霜による不出来を考慮すると、唯一アルバニアだけは、イタリア産オレンジの需要があるかも知れない」と、プーリア州タラント県のある取引業者は語る。

イタリア北部のある取引業者は、オレンジの価格は平均より低いと報告する。この状況はシーズン初めから続いており、様々な要因がある。第一に、出回っているサイズは小さいものが多い。イタリア北部では、最も大きなサイズの卸売価格は1.20～1.40ユーロ/kgであるが、ほとんどのロットは、これより小さなサイズのオレンジから成っており、この価格に達しない。有機オレンジは例外である。その取引業者によれば、有機オレンジの需要は大きく価格は良好である。

スペイン：エジプト産、トルコ産との厳しい競争

スペインは現在、Lane Late品種を出荷しており、4月にBarfield品種、Powel品種、Chislett Navel品種の出荷を始め、5月末から6月にはバレンシアオレンジが続く。スペイン産オレンジの売れ行きは、産地価格の急騰とエジプト産やトルコ産との厳しい競争のため、現時点では全体的に低調だと言われている。「エジプト産オレンジの市場価格は、スペイン産オレンジの産地価格と同じだ。私たちの取り分は今や極めて厳しく、利益を上げるのがやっとだ」とスペインのある輸出業者は言う。

今年は、霜のためにアンダルシア地方の晩生品種の生産量が減少した。これらの品種の生産量はバレンシア地方でも幅は小さいが減少した。この地方のいくつかの特定の産地では、1月の雨と霜によって生産量がさらにやや減少した。取引企業は十分な供給量が保証されることを望んでおり、産地における投機的な動きは、取引業者にとってストレスである。一部の輸出業者はまた、霜によって品質が影響を受けたオレンジが市場に出荷された可能性があり、売り上げに悪い影響を与えるのではと懸念している。

エジプト産とトルコ産のオレンジの出荷シーズンは5月か6月頃に終わると見込まれ、夏の果実のシーズンの始まりによって柑橘類の消費量は減少する。販売シーズンの第2段階では、エジプト産はスペイン産オレンジのますます激しい競争相手になりつつある。「競争力のある価格に加えて、エジプトは出荷期間の拡大と、栽培方法の改善によるオレンジの品質向上に取り組んでいる。第三国との競争は、毎年危険なほど厳しくなっている。スペイン産オレンジにとって困難な時代となっている」とその輸出業者は語る。

エジプト：バレンシアオレンジの需要が大きく増大

エジプトのバレンシアオレンジのシーズンは順調である。需要は2ヶ月前はかなり低かったが、今は良好な水準まで高まった。供給量が増加しているため、価格は1ヶ月前よりやや下がった。輸出量は、今年の今頃よりも既に30%多い。インドと中国は特に興味深い市場であり、スペイン産のシーズンが終了した今は欧州も需要が増加している。南アフリカ産ネーブルのシーズンが始まるまで少なくとも2ヶ月あることから、エジプト産オレンジは今後数ヶ月、世界市場で最大のシェアを占めるだろう。

米国：オレンジの大きな需要は続く見込み

「コロナ禍のため需要はおそらく例年より大きいだろう」と、カリフォルニア州のある取引業者は語った。ネーブオレンジの供給は順調だ。現在、この取引業者はSpring品種とWashington Navel品種を扱っている。オレンジの価格は堅調で、今後について、その取引業者は温暖な天候のため堅調な需要が続くと見込む。

一方、フロリダ州産オレンジの需要も堅調である。「フロリダ州産オレンジの需要が急増し、小売りはかなり好調で安定しているようだ」とフロリダ州のある取引業者は語った。供給面に関しては、Florida Classicブランドのバレンシアオレンジは5月か6月まで出回るだろう。その取引業者は、販売シーズンは今年2、3週間遅れて始まったが、シーズンの終わりは例年と同じだろうと語る。

南アフリカ：ネーブルの生産量は、昨年並みの見込み

早生のネーブルオレンジの収穫がレツィテレ地域で始まった。国内の平均価格は9.34ランド(≒0.63ドル)/

kgである。ある取引業者によれば、今年は収穫の始まりが遅く、収穫量は昨年水準を下回った。リンポボ州センウェス地域のネーブルオレンジの収穫量は、例年の水準に回復し、良好な収穫が見込まれる。東ケープ州のサンデーリバー流域も、生産は良好で、生産量のわずかな増加が見込まれる。ガムトゥース川流域では乾燥した天候が続いており、生産量と果実の大きさにかなり影響すると見込まれる。西ケープ州でも例年に近い収穫が見込まれるが、収穫量は昨年より10%少ないだろう。全国では、ネーブルオレンジの生産量は概ね昨年と同じと見込まれる(2020年のネーブルの輸出量は2,520万箱(1箱15kg))。早生のネーブルの輸出は4月12日の週又は4月19日の週頃に始まる。(地名の詳細は省略しました。この項で以下同じ)

リンポボ州のレツィテレ地域とホースブルイト地域のバレンシアオレンジは、夏の恵みの雨のおかげで十分回復し、良好な収穫が見込まれる。東ケープ州と西ケープ州ではバレンシアの生産量の減少が見込まれるが、5年平均を上回るだろう。全体では、2020年の4,690万箱(1箱15kg)に対し、概ね7%の増加が見込まれる。サイズのばらつき具合は例年どおりである。

輸出業者は、コロナ禍とビタミンCの特別な需要により、好調なオレンジの販売を見込む。バレンシアオレンジの輸出は5月10日の週頃から始まる。

チリ：シーズン最初のネーブルは6月初めの見込み

ネーブルオレンジのシーズンは、6月初め、6月1日の週に始まり、8月23日の週まで続く。チリの生産量は、例年と同様と見込まれる。チリ産オレンジは主に米国とアジアに出荷される。

アルゼンチン：来シーズンは生産量が多いと見込まれる

アルゼンチンのオレンジの出荷シーズンは、5月10日の週頃に、ネーブルオレンジで始まる。Salustianas品種の出荷は6月21日の週からで、直後の6月28日の週にバレンシアオレンジが続く。これらのオレンジの品質と大きさは良好と見込まれ、今シーズンは生産量も多いと見込まれる。春と夏の乾燥した天候は、今シーズンの良好な品質を保証する。サイズは少し小さい可能性があるが、許容範囲と見込まれる。アルゼンチン産オレンジは主に欧州、中東、ロシア、カナダ向けである。

ウルグアイ：シーズン最初のオレンジは5月の見込み

ウルグアイのオレンジシーズンの見通しはアルゼンチンと同様である。販売シーズンは5月10日の週頃に始まり、乾燥した天候によって良好な品質と大きさが見込まれ、総生産量はわずかに増加した。ウルグアイ産の市場は、欧州、中東、ロシア、カナダである。オレンジの出荷はバレンシアオレンジが終わる11月1日の週まで続く。ネーブルの出荷は8月16日の週には終了する。

中国：スペイン産オレンジに市場が開かれる

昨年の柑橘類シーズンには、中国南部の多くの主要産地が雹と雨の影響を受けた。そのため、柑橘生産の大部分に品質の問題があり、柑橘類市場全体に影響を与えた。昨年11月以来、柑橘市場は予測ができない状態で、生産者と取引業者の大きな問題となった。低品質なロットの一部は市場からなくなり、良品に置き換わりつつある。Wogan(沃柑)品種とWuxianggan(武鮮柑)ブランドは高価格で販売されている。

今年、スペイン産オレンジの輸入が許可されたが、多くの中国の輸入業者は今シーズンは輸入しないだろう。エジプト産と米国産オレンジは現在市場に出回っている。取引できる量が限られており、このことがいくらか価格形成の圧力となっている。一方、需要は良好である。昨年、中国市場はチリ産オレンジに対しても門戸を開いた。様々な輸入業者が、今シーズンの初物のオレンジを輸入したいと表明した。

オーストラリア：ネーブルが全生産の87%を占める

オーストラリアはネーブルオレンジのシーズンに向けて準備を整えつつある。最新のホートイノベーション社の統計によると、2020年6月までの1年間に、前のシーズンより3%少ない51万1,345トンのオレンジが生産された。生産額は4%増加し、4億1,470万ドルとなった。オレンジ総生産量の約38%が、果汁用等の加工に仕向けられた。生鮮オレンジの輸出量は7%増の20万1,268トンで、これは3億1,010万ドルに相当する。

ネーブルオレンジが生鮮市場への出荷量の87%を占め、バレンシアオレンジは13%であった。残りの少量は、ブラッドオレンジ、Cara Cara品種などの他の品種である。オーストラリアの世帯の62%が、1年の間に生鮮オレンジを購入した。

183. 米国 リンゴの樹木が枯れる症状に研究者が取り組む

The Packer電子版(2021年3月12日)

ニューヨーク州の研究者は、北米全土でリンゴの樹木が枯れる未解明の現象に取り組んでいる。

突然発病することから「リンゴ急性衰弱症状(RAD)」と名付けられたこの病気は、2013年以降、北米全土でリンゴの樹木を急速に衰弱させ、枯れさせている。報道発表によると以下のとおり。

コーネル大学の2人の研究者がその原因を究明する任務を負っている。この取り組みは米国農務省・国立食料農業研究所が最近提供した29万9千ドルの資金で支援されている。3年間のプロジェクト「密植果樹園におけるリンゴ樹木の根系の特性と樹木の急性衰弱」は、連邦政府資金による米国で最初のRAD研究プロジェクトの1つである。

ニューヨーク州ジェニーヴァ市にあるコーネル・アグリテック研究所の2人の研究者が2018年に初めてチームを組み、病原体、昆虫、寒さによる損傷、根系の相互作用等がRADの原因となる可能性を探った。その結果、地上部に直接の原因は見つからず、彼らは、根系が弱まるとリンゴの樹木の衰弱に結び付く可能性があることに注目した。

「現在、リンゴの台木の地中の根系についてほとんど知られていない。これらの根系を総合的に解析することで、このプロジェクトがリンゴ業界の求めてきた答えを明らかにすると期待している」と、共同研究者で植物病理学及び植物-微生物学研究室のアワイズ・カーン准教授は語った。

アワイズ・カーン准教授と同研究室のマルク・フックス教授は、リンゴの根系の複雑な動態の解明に取り組み、商業生産を行うリンゴ果樹園のウイルスの動きを探る予定だ。

両氏は、ハドソン・バレー、州都地区、オンタリオ湖地方の商業的生産者と協力して、様々な果樹園の異なる土壌における、衰弱している樹木と健康な樹木の両方のサンプルを比較する。また、ニューヨーク州内外の苗木畑から樹木をサンプリングし、分析する。

アワイズ・カーン准教授は研究の一環として密植果樹園の根系とRADが関連している可能性を探る。マルク・フックス教授は、苗木内のウイルスの存在が衰弱している樹木の根系の働きを弱めているかどうか確認する予定だ。

両氏は、生産者が使用している特定の台木とRADの間に関連があるかどうか調べるために、一般に使用されている多くの種類の商業用リンゴ台木を検査する予定だ。

マルク・フックス教授は「最終的に、我々は、適切な場所で、適切な台木とウイルスに感染していない品種を利用することについて、生産者が正しく判断する手助けをしたい」と述べた。

184. 台湾産バナナから日本で殺菌剤を検出

FreshPlazaウェブサイト(2021年3月15日)

台湾が中国のパイナップル輸入禁止により日本への輸出を増加させている中、日本では、基準を大きく超える殺菌剤が検出されたため、台湾産バナナ750箱が回収された。

一方、中央通訊社(CNA)の報道によると、行政院農業委員会農業食料署(AFA)の姚志旺(ヨウ・シオウ)副署長は、これは散発事例であり、日本への果実輸出全体には影響しないだろうと述べた。

日本企業のウィズメタックフーズ社は、3月10日、殺菌剤ピラクロストロビンが0.12ppm(許容値の6倍)検出されたことから、台湾産バナナを回収していると発表した。

姚副署長は、この種類の殺菌剤の検出は極めてまれであると語った。同社は消費者に対し、3月1日から3月3日の間に購入した台湾産バナナを返品するよう求めた。AFAによれば、同社はバナナを台湾に送り返さず、日本で廃棄した。

台湾の毒物学者はバナナを洗うことを勧める

台湾産バナナの1ロットが水曜日(3月10日)、殺菌剤ピラクロストロビンが許容値を大きく上回ったために日本の会社によって廃棄された後、毒物学者は消費者が食べる前にバナナとオレンジを洗うことを勧めた。

林口(リンコウ)区にある長庚(チャン・グン)記念病院臨床毒物センターの顔宗海(イェン・ツンハイ)所長は土曜日(3月13日)、記者団に対し、ピラクロストロビンは毒性が低く、発がん性はないと語った。

出典: taiwannews.com.tw (原典等から一部補足しました。)

185. 台湾産パイナップルが東京オリンピックの調達基準を満たす

FreshPlazaウェブサイト(2021年3月15日)

台湾当局の担当官は、台湾のパイナップルが、マンゴー、ドラゴンフルーツ、バナナと共に、東京オリンピックの調達基準を満たしたと述べた。

3月11日、行政院農業委員会(COA)の陳吉仲(チェン・チーチュン)主任委員(閣僚級)はフェイスブックで「やった! TGAP PLUS パイナップル、マンゴー、ドラゴンフルーツが東京オリンピックに参加できる!」と発表した。TGAP 2020 PLUSは、パイナップル、マンゴー、ドラゴンフルーツの台湾GAP(TGAP)のアップグレード版である。

陳主任委員によると、COAは東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の持続可能性担当部門から、台湾の果実TGAPが持続可能な農産物の基準を満たしていると通知を受けた。これは、これらの果実が東京オリンピック・パラリンピックで使用できることを意味する。

出典: taiwannews.com.tw

186. ベトナム「ルックガン ライチ」が日本の地理的表示に登録

FreshPlazaウェブサイト(2021年3月17日)

ベトナム北部のバックジャン省ルックガン県で栽培されるティエウ品種のライチは、日本の農林水産省により地理的表示として登録された。

「ルックガン ライチ」は、中国、ラオス、カンボジア、韓国、シンガポール、オーストラリアの6カ国で既に地理的表示として保護されている。また、世界の多くの国に輸出されている。

en.vietnamplus.vnによれば、バックジャン省人民委員会のレ・アン・ドゥオン委員長は、農林水産省が「ルックガン ライチ」を地理的表示に登録したことは、このライチの品質が国際的な基準—特に日本のような“難しい”市場においても—に適合していることを証明していると述べた。

また、この登録はルックガン県産ライチの日本への輸出を促進し、産地が他の市場へ輸出を拡大するのに役立つと見込まれる、と同委員長は付け加えた。

(関連記事)

ベトナム「ルックガン ライチ」が日本で GI に登録

FreshPlazaウェブサイト(2021年3月19日)

ベトナムの3つの地理的表示(ルックガン県のライチ、ビントゥアン省のドラゴンフルーツ、ブオンマトゥオット市のコーヒー)を日本で登録するために申請書を提出してから約2年、「ルックガン ライチ」が先頭を切って2021年3月12日に日本の地理的表示(GI)に登録された。

これは、ベトナム科学技術省国家知的財産局(NOIP)と日本農林水産省食料産業局の間のGIに関する覚書に基づく成果である。

2008年に「ルックガン ライチ」がNOIPによってGIに登録された後、ベトナム産ライチの価値が高まり、ライチの輸出先は日本を含めて拡大した。しかし、ベトナムが日本に輸出するライチは、流通過程で日本側サプライヤーの名前を表示する必要があったため、不利であった。日本でのGI保護を成功裡に獲得したため、これからは、日本に輸出されるルックガン県産のライチに「ルックガン ライチ」の地理的表示を行うことで、付加価値が大きくなり、消費者に信頼され購入される機会が増大するだろう。

187. ニュージーランド ゼスプリ サンゴールドキウイの初荷が日本と韓国に

FreshPlazaウェブサイト(2021年3月17日)

ニュージーランド産ゼスプリ キウイフルーツは、今シーズン記録更新が見込まれているが、現在最初の積荷が東京と釜山に向かっている。

このキウイフルーツは、ニュージーランド産キウイフルーツをゼスプリ社のアジア市場に出荷するために、フレッシュ キャリアーズ社が建造した3隻の新しい冷蔵専用船の2隻目にあたるカカリキ号に積み込まれている。同船は、4月上旬に最初の航海を終える予定だ。

ゼスプリ社の海外販売責任者であるアラスデア・ハルバート氏は、同社は昨シーズン延べ49隻のチャーター船を使用した、今シーズンの出荷はそれより多い57隻のチャーター船を計画しており、カカリキ号は、その最初の船だと語る。今シーズンはヨーロッパ北部へ5回、地中海へ12回、アジア市場へ40回の航海が予定されている。同社は、このほか約1万8千コンテナのキウイフルーツの出荷を見込んでいる。

「今シーズンは約1億7,700万トレイ、すなわち約70万トンのキウイフルーツの出荷を見込んでおり、ニュージーランド産ゼスプリ キウイフルーツのこれまでの記録を更新するだろう。当社の最新の予測では、今シーズン、ゼスプリ サンゴールド キウイフルーツは1億トレイに達する可能性がある。これは業界にとって記念すべきことであり、10年前に商業化して以来、この品種の人気の高まっていることを反映している。また、中国の消費者にゼスプリ レッド キウイフルーツを初めて提供し味わってもらえることをうれしく思っている」とハルバート氏は語る。



レッド キウイフルーツは間もなくニュージーランドの店舗で発売され、海外向けの最初の積荷は4月上旬にシンガポール、日本、中国に到着する予定である。ニュージーランドの全ての産地で今シーズンの収穫が行われており、ハルバート氏は、広い意味でのキウイフルーツ業界がゼスプリ社のもう1種類のおいしいキウイフルーツを安全に収穫し、梱包し、出荷するために懸命に働いていると語る。

「キウイフルーツ業界の全員が、今も続くコロナ禍がもたらす困難に立ち向かうために懸命に努力しており、我々は、食味の優れたもう1種類のキウイフルーツを安全に届けることに引き続き集中している。我々は、サプライチェーン全体で衛生面と安全性を強化した手順を取り入れ、世界の市場の消費者が新鮮で健康的なキウイフルーツを味わえるよう取り組んでいる」とハルバート氏は語る。

同氏はまた、ゼスプリ社は、世界の出荷状況を注意深く監視し、港湾とコンテナの混雑に伴うリスクを軽減していると強調し、「我々は今シーズン、使用するチャーター船の数を増やし、冷蔵輸送能力を47,500パレット追加した。冷蔵専用船と冷蔵コンテナを組み合わせることで、キウイフルーツの出荷に更に柔軟性をもたらしている。ニュージーランド産キウイフルーツの今シーズンの出荷を始めるに当たり、我々は港湾及び輸送関係の長年のパートナーと緊密に協力して、我々のキウイフルーツが最高の状態で消費者に届くよう引き続き取り組んでいく」と語る。

188. ニュージーランド リンゴ輸出量が予測を下回る見込み

EUROFRUIT電子版(2021年3月18日)

リンゴを収穫する労働者の不足とリンゴの平均サイズが小さいことが、2021年の輸出機会を制限している。

ニュージーランドの今シーズンのリンゴ輸出量は、2020年から約14%減少し、その結果、見込んでいた利益を得るのは難しい見込みである。

業界団体のニュージーランド・アップルズ・アンド・ペアーズ協会(NZAPI)は、収穫されたリンゴの輸出仕向量を現時点で34万7,700トン(1,930万カートン)余りと見込むと発表した。この見直された予測輸出量は、2020年の輸出量を3百万カートン、14%下回っている。同協会はまた、この結果、今年のニュージーランド産リンゴの輸出額は、前年より約9千5百万~1億NZドル減少するだろうとしている。

NZAPIは、1月にはニュージーランドの総生産量を昨シーズンより5%少ない55万8,670トンと予測した。その時点では、輸出量は2020年より7%少ない37万4,751トン(2,080万カートン)と予測された。これは、労働力不足とネルソン地方と中央オタゴ地域における深刻な雹の被害によるものであった。

減少幅が大きくなったのは、一つにはリンゴを収穫する労働者の不足のためであり、また収穫中のリンゴの平均サイズが当初予想より小さいためだと考えられている。

NZAPIのアラン・ポラードCEOは「収穫のピークに近づくにつれて、当初の予測に到達しないことが徐々に明白となった。果樹園や収穫後の作業に携わる労働者の人数は、ニュージーランド人を職場に呼び込むために我々が全力を尽くしているにもかかわらず、業界が必要とする人数に遠く及ばない。また、リンゴのサイズは平均して予想より小さくなっている」と語る。

輸出される品種別では、Braeburnが最も大きな影響を受けている。修正された予測輸出量146万8千カートンは、2020年の水準より44%低い。依然としてニュージーランドの主力輸出品種であるRoyal Galaは、2020年より15%(53万9千カートン)減少すると見込まれる。Cripps Pink(Pink Ladyとして流通)は15%、ふじは19%減少すると見込まれる。

しかし、Dazzle、Envy、Honeycrisp、Rockitなど権利が保護されているクラブ品種は、新植園地が生産を始めることから力強い伸びが続くと報告されている。

「リンゴのサイズは予想より小さく、大きなサイズは品薄となるが、品質はかなり良好であり、果実の着色も良い。ニュージーランド産は信頼性、一貫性、品質について世界的な評価を得ており、2021年も例外ではない。主要市場の需要は大きいですが、国際輸送の混乱と港湾の混雑が続くことを依然懸念している」とポラードCEOは語る。

189. 世界のグレープフルーツ市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年3月19日)

グレープフルーツ市場は現在、北半球産から南半球産に移行しつつある。スペイン産のシーズンは終わりに近づいており、トルコ産とイスラエル産の販売シーズンも同様である。欧州諸国では需要が良好な国も多いが、多くは同時にコロナ禍の影響を感じている。南半球では、南アフリカで収穫が始まっている。着果数が多く、収穫量は昨シーズンより多いと見込まれる。



オランダ: 良好なグレープフルーツのシーズン

オランダのある柑橘輸入業者は、「グレープフルーツの需要は、シーズンを通じて特に良好だった。コロナ禍のため、全体として日持ちに対する要求が強く、特に柑橘類の日持ちに対する要求はかなり強い。トルコ産とスペイン産のシーズンはもうすぐ終わるので、これは終盤を迎えているイスラエル産に好都合である。南アフリカ産グレープフルーツの入荷が遅れており、当社が4月末まで供給するイスラエル産にとってはチャンスだ。価格は現在約16.50～17ユーロである」と語る。

ベルギー: 市場は南アフリカ産グレープフルーツの入荷待ち

最近のグレープフルーツの需要は極めて良いわけではない。ベルギーのある輸入業者は、トルコ産とスペイン産の品質がやや低下しており、スペインでの降霜は品質にいい影響を与えなかったと言う。4月26日の週から、南アフリカ産グレープフルーツの到着が見込まれており、その取引業者は昨年同様の良好なシーズンを望んでいる。

ドイツ: ポメロがグレープフルーツに取って代わる

ドイツの取引では、スペイン産Star Ruby品種が市場の大部分を占めている。トルコ産と米国産(フロリダ州産)も少量出回っている。米国産は現在、高関税と高価格のために出回っている量はわずかである。

全体として、ドイツのグレープフルーツ消費量は徐々に減少しているようだ。「グレープフルーツは、柑橘類の取引の中で限られた役割しか果たしておらず、今風で目新しいオレンジ品種やポメロなどの流行の果物に徐々に取って代わられつつある」と、取引業者の一人は言う。

英国: 安定したグレープフルーツのシーズン

英国では、この時期のグレープフルーツは主にイスラエル産、スペイン産、トルコ産である。需要と価格の両面で安定したシーズンだった。欧州で人気があるフロリダ州産グレープフルーツもいくつか出回っているが、英国の全てのスーパーマーケットが扱っているわけではない。フロリダ州産グレープフルーツの価格は、スペイン産やトルコ産より50%程度高いことが多い。

南アフリカ産のシーズンが始まるところだ。この新しい販売シーズンのグレープフルーツは例年4月に到着し、売り場でそれまでの欧州産と入れ替わる。

イタリア: グレープフルーツは小売業者に人気

ケータリング部門への販路が閉ざされ、グレープフルーツは困難な時期にある。ボローニャ市場の卸売価格は、品質と産地によって、1.00～1.30ユーロ/kgで上下している。スペイン産とイスラエル産のグレープフルーツは、キプロス産より価格が高い。概して言えば、(ケータリング部門よりも)小売業者の需要が多い。最近までケータリング部門でも伸びていたが、コロナ禍で注文は急落した。

現在市場に出回っているグレープフルーツは、主にスペイン産、イスラエル産、トルコ産、キプロス産、フロリダ州産である。シチリア島にもいくつか小さな産地がある。近年は、トルコ産とキプロス産のグレープフルーツがイタリアの市場で増えている。夏には、南アフリカ産とフロリダ州産が輸入されるが、フロリダ州産は時々表面に傷がある。近年、赤肉系のグレープフルーツが従来品種に比べてかなり伸びている。

シチリア島では、グレープフルーツの出荷は安定している。出荷期間はかなり長く、シチリア島南東部では、他の産地と比べて早く出荷を始めることができる。ここでは、グレープフルーツは早くも10月中旬には完熟で収穫され、3月又は4月まで出荷される。ある取引業者は、赤肉系のStar Ruby品種の価格は平均1.00ユーロ/kgで、シーズンの初めから終わりまでの間に20～25%上下すると語る。

スペイン: グレープフルーツの収穫は1ヶ月以内に終了

スペインのグレープフルーツの収穫は4月中旬から下旬の間に終了すると見込まれる。他の柑橘類と同様、サービス業に大きく依存しているため需要は小さい。グレープフルーツは、ジュース、学校の食堂、ホテルの朝食で幅広く消費され、コロナ禍の発生以来、消費は大きく減少した。しかし、スーパーマーケットでの販売は順調である。産地価格は比較的満足できるもので、一部例外があるが、平均で0.25～0.28ユーロ/kgであった。今年の収穫量は10～15%少ない。

欧州産グレープフルーツの入荷は減少している。スペイン産はあと約1ヶ月で収穫が終わり、トルコ産とエジプト産はさらに早く終わると見込まれる。輸出業者は、北半球の他の国々の出荷がほぼなくなることから、スペイン産グレープフルーツの残りの出荷期間中は、欧州市場を独占できると考えている。また、春が到来すれば、好天も販売を伸ばすだろう。

フロリダ州産とテキサス州産のグレープフルーツに関しては、米国の大統領交代後、25%の割増関税が撤廃された。しかし、市場の状況を変えるには、この決定は販売シーズンとの関係で遅すぎた。

イスラエル: グレープフルーツの需要が急増

イスラエルのグレープフルーツの輸出は今シーズンかなり好調だった。イスラエルは、赤肉系のSunrise (Star Ruby) 品種と果皮が緑色のSweetie (グレープフルーツとポメロの交雑種のブランド名)を中心に、中国に大量のグレープフルーツを出荷した。イスラエルの出荷期間は終わりに近づいており、中国で好まれる小玉を中心に市場は品不足となっていて引き合いが急増している。出荷量は昨シーズンとほぼ同じだが、販売シーズンの始めはコロナ禍のためにいくらか少なかった。

米国: グレープフルーツの需要は大きい(西海岸)

フロリダ州(大西洋岸)の柑橘類の作付面積は、昨年600ヘクタール増加した。グレープフルーツの生産量は今シーズン倍増し、来年もまた倍増すると見込まれる。一方、グレープフルーツの需要は横ばいである。ある取引業者は「テキサス州で霜が降りたため、(フロリダ州産の)需要が僅かに増加したが、大きな増加は見られ

ない」と語る。生産者が実際に霜の影響を見定めるのは来シーズンとなる。価格は昨年と同様である。

西海岸(太平洋岸)について、ある取引業者は、「カリフォルニア州産グレープフルーツの供給が減っている。テキサス州産が早く終了し、カリフォルニア州産に対する需要が増えたため、一部の産地はそれに対応しつつある」と語る。別の大手出荷業者は、約1ヶ月前から南カリフォルニア地域のグレープフルーツを調達していて、これは8月～9月まで続くだろうとしており、また、今シーズンは注文が多く、価格が上っていると語る。

前出の取引業者は、カリフォルニア州産に対する需要はメキシコにとってもチャンスとなるだろうとして、「メキシコは産地の1つが出荷を終えたばかりだが、おそらく5月に再開するだろう」と語る。

南アフリカ: 昨年より多い生産量を見込む

ある輸出業者は、「収穫が始まり、果実の色はかなり良いようだ。樹上には立派な果実が実っている」と語る。生産量は昨シーズンと比べかなり多いと見込まれる。開花期から着果期までの天候は、温暖で、時々にはわか雨があり理想的だった。

グレープフルーツの主産地の一部では乾燥した天候であったが、昨年の夏の降雨により水供給の問題は改善している。果実の大きさはサイズ40～50の範囲である。

中国: グレープフルーツの供給量はかなり限定的

昨年、輸入グレープフルーツの市況はかなり悪かった。多くの輸入業者が損失を被り、今年は多くの量を輸入していない。その結果、現在出回っている量は極めて少ない。現在、市場に出回っているグレープフルーツは、主にエジプト産とイスラエル産である。スペイン産のシェアはかなり小さい。

グレープフルーツの価格は今年は驚くほど高い。エジプト産Star Ruby品種の価格は約330～370元/5kgである。エジプト産グレープフルーツのシーズンはほぼ終了し、市場にはまだ出回っているものの、品質は少し低下している。

南アフリカ産グレープフルーツはまもなく市場に戻ってくる。通常、南アフリカ産グレープフルーツの品質は、全産地の中で最高であり、価格は少なくとも300元/箱に届く。大量の南アフリカ産グレープフルーツが到着する5月中旬まで、市場価格は高いまま推移すると見込まれる。

190. フィリピン 1月のバナナ輸出が51%減少

FreshPlazaウェブサイト(2021年3月22日)

フィリピン統計局(PSA)の最新貿易データによると、1月のフィリピンのバナナ輸出量は、昨年の38万4,151.173トンから51%減少し、18万6,419.019トンとなった。この数字は、1月のバナナ輸出量としては、2006年以降最も大きな減少幅を示している。また、輸出額は1年前の1億5,945万4千ドルから47%減少し、8,465万9千ドルとなった。(貿易に関する数字はビジネスミラー紙電子版掲載のPSAデータによる。以下同じ。)

日本は輸出額で依然としてフィリピン産バナナの第一位の輸出先であり、中国は輸出量で第一位の輸出先であった。

フィリピンから中国への1月のバナナ輸出量は7万1,386.846トンであり、2020年1月の10万5,514.553トンより32%少なかった。輸出額も昨年に比べて30%近く減少し、3,040万6千ドル(昨年は4,330万7千ドル)であった。

また、1月の日本へのバナナ輸出量は10万6,985.011トンから41%減少して6万3,476.882トンとなり、出荷額は3,237万2千ドルと前年より39.7%減少した。

フィリピン産バナナのもう一つの主要市場である韓国への輸出量は、4万7,393.123トンから2万3,269.464トンと51%減少した。輸出額も、昨年1月の2,420万4千ドルから1,206万5千ドルと50.2%減少した。

191. カリフォルニア州のサクランボ 今シーズンは控えめながら楽観視

FreshPlazaウェブサイト(2021年3月25日)

カリフォルニア州産サクランボの収穫に向けて約1カ月間のカウントダウンが始まった。一部の早生地域や早生品種では花が満開を過ぎたが、予測するにはまだ早い。リバーメイド貿易会社(カリフォルニア州の4大サクランボ取扱業者の一つ)のカイル・パースキー氏は、他の産地ではいくつかの早生品種の収穫がもう少し早く始まるかもしれないが、としつつ「当社の収穫は4月26日頃に始まる見込みだ」と語る。出荷量は5月第2週の母の日ころに増加するはずだ。

大豊作ではないが

今年のサクランボの出来はどうだろうか? パースキー氏は「開花状況が良好だったことから見込みがある地域もあるが、その他の地域の状況は様々だ。豊作は期待できないが、今シーズン、特に5月10日頃に始まるメモリアルデー(戦没将兵追悼記念日 今年は5月31日)に向けた販売セール期間中には、販売促進に値するだけのサクランボの収穫量があるものと控えめながら楽観視している」と述べた。カリフォルニア州ではつい先週雨が降ったが、現時点では雨はまだサクランボの収穫量に影響していない。同氏によると「ミツバチは雨の中で働くのを好まず、雨が連続と受粉の問題を引き起こす可能性がある。しかし、数日間のにわか雨なら悪い影響を与えない。」

昨シーズンを振り返って

パースキー氏は、昨年を振り返り、カリフォルニア州産サクランボの出荷シーズンを前に、コロナ禍がいかにか大きな混乱を引き起こしたかを思い起こし、「一部の小売業者は、消費者がサクランボのような価格が高いものを購入するかどうかかわからず、より慎重だった」と言う。しかし、パンデミックの期間を通して小売販売額が好調な数字を示したため、同氏は国内外の需要について今年は昨年より楽観的である。同社のサクランボの多くは米国とカナダで販売されるが、約30%は東南アジアを中心とした海外に輸出される。

(リバーメイド貿易会社と米国他社との連携の説明は省略しました。)

192. 南半球の果実輸出 2020年は輸出量が減少するも輸出額は増加

FreshPlazaウェブサイト(2021年3月26日)

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年3月26日)

FreshPlaza及びFreshFruitPortalに掲載された同類の記事を、中央果実協会で抜粋編集しました。

昨日(3月25日)、SHAFFE(南半球生鮮果実輸出業協会)が主催する初めての南半球生鮮果実貿易会議が、オンラインで開催された。会議のテーマは「世界に供給し続ける」であった。アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、チリ、ニュージーランド、ペルー、ウルグアイ、南アフリカの代表と業界関係者600名以上が会議に参加した。今年はSHAFFE設立30周年であり、国連が定めた国際果実野菜年でもあることから、第一回の会議を開催するのに正にふさわしい年である。

同協会のハイドゥ事務局長はこの1年を、物流上の問題や見本市で顔を合わせた会合を持てないことなど多くの課題を抱える生鮮果実業界にとっての特別な年であったが、他方、課題と同時にチャンスをもたらした年であり、我々は今まで以上に緊密かつ迅速に連携していると振り返った。

チリ果実輸出協会のカルバハル会長は、SHAFFEは、様々な市場へのアクセスの改善を進め、重要な利益を生み出すことに焦点を当てた加盟団体本位の取組を検討していると語った。

SHAFFEは、また、中国果実輸入業界との新たな協力覚書について発表した。

南半球の生鮮果実の2021年の貿易見通し

カルバハル会長は、貿易障壁が無いことを前提に南半球の貿易見通しについて語った。SHAFFE参加国は、世界の生鮮果実輸出の25%に当たる140億米ドル前後を輸出している。SHAFFE参加国は2020年には980万トンを輸出し、2019年の1,060万トンから減少したが、輸出額は2019年の138億米ドルから146億米ドルに増加した。

SHAFFE参加国が輸出する果実全体の中で、ブドウ、キウイフルーツ、ブルーベリー、リンゴが57%を占めている。過去5年間の輸出量を比較すると、サクランボは110%と最大の増加を示し、ブルーベリーは72%の増加で2番目であった。果実の出荷先では、周知のとおり中国が最も増加しており、過去5年間で90%(250万米ドル)増となった。日本は52%、オランダは28%増加した。香港は輸入シェアが5%減少したが、これは中国への直接の輸出が増えたためと思われる。

2020-2023年の戦略のポイント

同協会は今後引き続き積極的な役割を果たすため、研修の充実、会員が利用できる協会の資源の改善、情報システムの近代化、業界に関する調査、業界の重要な問題に対応するための他の組織との連携強化計画の立案などを目標とした、3年間の戦略を立ち上げた。

課題と強み

カルバハル会長は、水不足と豪雨、季節労働者の確保の難しさ、コロナ禍の影響、物流・輸送に関する制約など、これからのシーズンがもたらす課題とチャンスについて述べた。

各国は、アルゼンチンの有機果実、チリのサクランボ、ペルーの新品種、ブラジルの熱帯果実など、特定の成長分野を有している。SHAFFEが行ったアンケートでは、約70%の参加者は2020-21年シーズンの見通しを「良好」または「かなり良好」と見ており、これらの課題については楽観的な見方が強い。

市場アクセスの課題では、物流の遅れとコロナ禍関連がトップであり、地元産の消費を推奨する輸入国の保護主義がこれに続く。健康志向と電子商取引は主要な成長分野として認識されている一方、フードサービスは将来の成長性が最も低い分野としてランクされており、これはおそらくコロナ禍の影響である。

参加者の80%は、それぞれの国の5年後の果実産業の見通しについて、「良好」または「かなり良好」と前向きに回答した。

193. 世界の生食用ブドウ市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年3月26日)



オランダ: ブドウ市場は短期間の大量供給が圧迫

現在の欧州市場ではブドウが大量に供給され、販売を難しくしている。オランダのある輸入業者は「大量の南アフリカ産種無し白ブドウがかなり遅れて出荷された。RegalやSundanceなどの晩生品種は、例年は2月に入荷するが、今年は3月に入荷した。さらに、南アフリカは、Sweet Globe、Autumn Crispなどの多くの新品種を植え付けているが、これらの入荷も遅れている。また、インドも大量に出荷しているが、欧州への累計出荷量は昨年よりわずかに少ない。留意すべきは、入荷量は数週間後にピークとなり、市場をさらに圧迫するということだ。このため今月と来月は皆がベストを尽くす必要がある」と語る。

その輸入業者は「一カゴ(500グラム×10房)当たりの価格、特に種無し白ブドウの価格が伸び悩んでいる。また、大量の種無し青ブドウが入荷しつつあり、その価格も伸びていない。種無し赤ブドウの入荷は少し落ち着いたので、価格が回復しつつある。Red Globe品種の価格はかなり抑えられていたが、市況は少し回復しているようだ。今のところ、スーパーマーケットでの販売が止まることはないだろうが、青果店での販売には難しい面が多い。卸売市場は休止している訳ではないが、コロナ禍のため、以前のような量を販売する能力がもはやない」と語る。

オーストラリア: 収穫の人手不足と難しい市況

オーストラリアは現在、ブドウの出荷シーズンの後半であり、人手不足は依然として業界の重荷である。しかし、太平洋諸島諸国からの季節労働者を乗せた2回目のフライトが今週タスマニア州に到着したこともあり、ブドウ業界を取りまとめているオーストラリア生食用ブドウ協会は、労働力不足に対応して政府が実施した措置の効果を生産者はすぐに実感できるだろうと引き続き期待している。

一部の大規模生産者は、収穫労働者不足と難しい市況のため、収穫したブドウの一部を出荷できていないようだ。国境は10月に再び自由に通行できるようになる見込みだが、今起こっていることは今後のシーズンに影響を及ぼすと見られる。いずれにしても、オーストラリア産ブドウの品質は依然として高い。

北米: 雨が価格と入荷量に影響

チリ産の出荷のかなりの量が行先を北米から他の市場へ変更したため、北米ではチリ産の入荷量が益々注目されている。チリ産白ブドウの品質と入荷量は、今年初めの降雨によりかなり影響を受けたが、赤ブドウはそこまでの影響を受けなかった。現在の市場では、白ブドウと赤色ブドウでかなりの価格差が生じており、白ブドウは量が少ないため極端に高い価格で取引されている一方、赤ブドウはかなり低い価格で販売されている。

ペルー産の入荷量は全体として急速に減少してきており、他方、南アフリカ産は上記のチリ産の状況もあり増加してきている。メキシコ産は、Cotton Candy品種が少量市場に出回っている。輸出量は4月末または5月上旬まで増加すると見込まれる。

中南米諸国: メキシコ産の出荷シーズンは早く始まる

チリの輸出業者は、供給過剰となっている赤ブドウについて、海外の小売業者による販売促進活動を求めている。メキシコでは、ハリスコ州産ブドウが市場に出回っている。この比較的新しい産地のブドウにより、メキシコ産ブドウの出荷シーズンは従来よりもひと月からひと月半早く始まる。ただし、販売のピークは例年通り5月中旬と見込まれる。

ドイツ: 南アフリカ産が市場の大部分を占める

南アフリカ産の品種、特にCrimson、Flame、Thompson Seedlessを主体に、Ben Hannah、Prime Seedless、Barlinka、La Rochelleが卸売市場への入荷の大部分を占めている。ペルー産の入荷は急激に減少してきており、まもなく終了すると見られる。一方、インド産のThompson SeedlessとSugraoneが増加している。チリ産のFlame SeedlessとSugraoneは、サイズが大きいことから熱心なバイヤーの注目を集めている。価格は全体として安定しているが、今年の今頃より明らかに低い。

イタリア: イタリア産ブドウの出荷にはまだ早い

イタリア北部の卸売市場では、現在、南アフリカ産白ブドウ品種のWaltham CrosとPrime及び黒ブドウ品種のDan Ben HannahとRosataを扱っている。価格は品種により、2.10～3.10ユーロである。ペルー産の黒ブドウやRed Globe品種も出回っており、価格は品種により2.10～2.60ユーロである。ペルー産Red Globe品種の価格は、3月中旬の3.30～2.60ユーロから下落した。ローマ(イタリア中部)の卸売市場では、南アフリカ産白ブドウ品種Thompsonとペルー産Timpsonの価格は2.70ユーロであり、2週間前より高い。ペルー産のRed Globe品種は2.50ユーロで出回っている。

イタリア産ブドウの出荷にはまだ早い。シチリア島のVictoria品種とBlack Magic品種の収穫は、5月下旬に始まる見込みである。一部の産地の収穫は早く、ジェラ湾沿岸地域(シチリア島南部)の種無しブドウは、北半球で20日間競合相手がいないというメリットがある。シチリア島より出荷シーズンが早いのは、5月下旬または6月上旬に種無しブドウの販売シーズンが終了するエジプトだけである。その後、プーリア州(イタリア半島南東部)産のブドウが入荷する。

南アフリカ: 一部の産地の収穫量は記録を更新

ブドウの出荷シーズンは遅れて始まったが、既に遅れを取り戻し、ベルグ地域とヘックス川流域の出荷期間を約3週間残して、収穫予測量の下限(6,700万箱、1箱4.5kg)に達した。ブドウ生産者協会によると、収穫が残っている地域が限られるため、ヘックス川流域での2週間前の雨の影響は最小限であった。

一部の産地では、これまでの生産量の記録を更新した。3月1日の週の終わりまでに、昨年より多い3,200万カートン(1カートン4.5kg)がEUに、約1,300万カートンが英国に、350万カートンがカナダに、270万カートンが中東に、280万カートンが東南アジアに輸出された。米国への輸出は、チリ産の減少を埋め合わせるために増加した。

中東と極東への輸送ルートには多くの困難があり、特定の市場(中国、ベトナム、インド、イスラエル)へのブドウ輸出の障害となっている。また、(輸出の滞りにより)時には冷蔵施設が満杯になることがあり、これまで制限されたことがなかった生産者の出荷量が初めて制限された。

海外果樹農業情報 刊行物一覧

No.	調査報告書名	発行年月
91	ベトナム・韓国・インドネシア・台湾における果実の生産・流通事情調査報告書（補遺版）	06. 10
92	チリにおける落葉果実等の生産・流通事情調査報告書	07. 2
93	台湾における果実の輸入関連制度に係る調査報告書（付 果実の生産・流通状況）	07. 5
94	アラブ首長国連邦・インド・タイにおける果実の生産・流通・消費事情調査報告書	07. 7
95	ニュージーランドにおける果実の生産・流通・消費事情等調査報告書	08. 3
96	台湾における日本産果実の流通・消費実態調査報告書	08. 6
97	韓国における主要果実の生産及び輸出入等に関する実態調査報告書	08. 7
98	ドイツ・オランダにおける果実・果実加工品の生産・流通状況調査報告書	09. 2
99	台湾における日本産果実の生産・流通・消費実態調査報告書	09. 6
100	世界の主要果実の生産・貿易概況 2009 年版	09. 11
101	中国におけるボンカンの生産・流通実態調査報告書ー福建省及び浙江省を中心としてー	09. 11
102	米国におけるリンゴの加工品等実態調査報告書	10. 2
103	ロシアにおける日本産果実の販売可能性及び同国の果樹農業・政策基礎調査報告書	10. 7
104	米国連邦行政組織による果実消費拡大に向けた取組みに係る調査報告書	10. 8
105	台湾における日本産果実の流通・消費実態調査報告書	10. 8
106	グローバリゼーション下の米国の果汁産業及び新たな生産流通システム実態調査報告書	10. 8
107	インドにおける日本産果実の販売可能性及びインド産ブドウの対日輸出可能性調査報告書	10. 10
108	カナダの果樹農業・政策実態調査報告書	11. 3
109	米国カリフォルニア州におけるアウトウの生産・流通事情調査報告書	11. 6
110	台湾における果実の生産・流通・消費等実態調査報告書	11. 6
111	中東における日本産果実の販売可能性調査	11. 8
112	ブラジルにおけるオレンジ及びオレンジ果汁を中心とした生産・流通事情調査報告書	11. 9
113	中国の主要都市における日本産果実の販売可能性及び中国のアウトウ産地調査報告書	11. 10
114	世界の主要果実の生産・貿易概況 2012 年版	12. 3
115	台湾における日本産果実の流通状況等実態調査報告書	12. 6
116	中国におけるブドウの生産・流通・消費調査報告書	12. 10
117	韓国の対米国 FTA 締結による韓国果樹産業への影響等調査報告書	12. 11
118	台湾における東日本大震災後の日本産果実等流通状況実態調査報告書	13. 3
119	中国におけるモモの生産・流通・消費調査報告書	13. 3
120	世界の主要果実の生産概況 2013 年版	13. 10
121	台湾における日本産果実の流通状況及び輸入に関連する規制等に係る調査報告書	14. 3
122	世界の主要果実の貿易概況 2013 年版	14. 3
123	世界の主要果実の生産概況 2014 年版	14. 10
124	世界の主要果実の生産概況 2015 年版	15. 3
125	台湾における日本産果実の流通及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	15. 3
126	ニュージーランドの果樹農業及び香港の日本食品・果実事情調査報告書	15. 8
127	海外の果樹産業ニュース 2015 年度版	16. 3
128	台湾における日本産食品の輸入規制強化にともなう日本産果実の流通への影響に係る調査報告書	16. 3
129	海外の果樹産業ニュース 2016 年度上期版	16. 10
130	世界の主要果実の生産概況 2016 年版	17. 2
131	海外の果樹産業ニュース 2016 年度下期版	17. 3
132	台湾における日本産果実の流通状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	17. 3
133	海外の果樹産業ニュース 2017 年度上期版	17. 9
134	世界の主要果実の生産概況 2017 年版	18. 2
135	世界の果樹産業ニュース 2017 年度下期版	18. 3
136	台湾における日本産果実の流通・消費の状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	18. 3
137	海外の果樹産業ニュース 2018 年度上期版	18. 10
138	世界の主要果実の生産概況 2018 年版	19. 2
139	海外の果樹産業ニュース 2018 年度下期版	19. 3
140	米国ワシントン州のりんご生産の現状と省力・機械化技術に関する調査報告書	19. 3
141	海外の果樹産業ニュース 2019 年度上期版	19. 10
142	欧州及びイタリアの果樹農業の現状とスマート農業に関する調査報告書	20. 3
143	海外の果樹産業ニュース 2019 年度下期版	20. 3
144	世界の主要果実の生産概況 2019 年版	20. 3
145	海外の果樹産業ニュース 2020 年度上期版	20. 9
146	世界の主要果実の生産概況 2020 年版	21. 3
147	海外の果樹産業ニュース 2020 年度下期版	21. 3
148	世界の醸造用ぶどう栽培の動向 気候変動対応と持続可能性の取組	21. 3
149	世界の主要果実の貿易概況 2021 年版	21. 5

